いし　ばたけ

石畑遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第164集

平成19年

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査した石畑遺跡の調査成果をまとめたものです。

石畑遺跡は南陽市北部の金山地区に所在し、吉野川右岸の段丘に立地します。川の両岸には白鷹丘陵が迫り、その地形を利用して中世には砦が築かれました。

この度の調査は、主要地方道山形南陽線改良工事に伴って行ったものです。

遺構としては土坑、溝跡、ピット群、遺物としては、縄文土器、石器を検出しました。出土した土器は、縄文時代中期から晩期にわたるものです。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先の足跡を学び、子孫へとつたえていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及・学術研究・教育活動などの一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成19年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　　山口　常夫

本書は、主要地方道山形南陽線改良工事に係る「石畑遺跡」の発掘調査報告書である。
既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
調査は山形県の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
出土遺物・調査記録は、報告書作成後、山形県教育委員会に移管する。

調 査 要 項

遺　跡　名	石畑（いしばたけ）遺跡
遺 跡 番 号	南陽市Ｍ－１
所　在　地	山形県南陽市金山川西字石畑
事業委託者	山形県
調 査 主 体	財団法人山形県埋蔵文化財センター
	理　事　長　　山口　常夫
受 託 期 間	平成18年４月１日～平成19年３月31日
現 地 調 査	平成18年５月15日～平成18年８月10日
調 査 担 当	調査研究部長　　尾形　與典
	専門調査研究員　　伊藤　邦弘
	主任調査研究員　　渡辺　淳一（調査主任）
	主任調査研究員　　押切　智紀
調 査 指 導	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室
調 査 協 力	山形県置賜総合支庁建設部道路計画課
	山形県置賜教育事務所
	南陽市教育委員会

凡　　例

1　本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第Ⅰ章		渡辺　淳一
第Ⅱ章		渡辺　淳一
第Ⅲ章		押切　智紀
第Ⅳ章		押切　智紀
第Ⅴ章	第１・２・３～６節	押切　智紀
第Ⅴ章	第３節	渡辺　淳一
第Ⅵ章		渡辺　淳一・押切　智紀

2　高さは海抜高で表す。また、方位は座標北を表す。
3　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記の通りである。

ＳＫ…土抗　　ＳＸ…性格不明遺構　　ＳＤ…溝
ＳＰ…柱穴　　ＲＰ…登録土器・土製品　　ＲＱ…登録石器・石製品
Ｆ…覆土　　Ｐ…土器片　　Ｓ…石

4　遺構・遺物の実測などは各図に示した。

5　写真図版は任意の縮尺で採録した。

6　基本層序及び遺構覆土の色調記載については1999年版農林水産技術会事務局監修の「新版基準土色帖」に拠った。

7　発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の方々から御協力、御助言を頂いた。（敬称略）
植松芳平、須藤隆、吉野一郎

8　委託業務は下記の通りである。

基準点測量業務	株式会社　山栄測量
遺構測量業務（俯瞰撮影・遺構実測）	株式会社　成和技術
遺物実測業務（完形土器・石器・石製品）	株式会社　成和技術

目　　次

Ⅰ　調査の経緯 …… 1
　1　調査に至る経過 …… 1
　2　調査の経過 …… 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 3
　1　地理的環境 …… 3
　2　歴史的環境 …… 5
Ⅲ　遺跡の概要 …… 6
　1　基本層序 …… 6
　2　遺構と遺物の分布 …… 7
Ⅳ　検出された遺構 …… 10
Ⅴ　出土した遺物 …… 14
　1　縄文土器・弥生土器 …… 14
　2　土製品 …… 22
　3　石器・石製品 …… 23
　4　須恵器・土師器 …… 26
　5　陶磁器 …… 26
　6　銭貨 …… 26
Ⅵ　まとめ …… 27

報告書抄録 …… 巻末

表

表１　縄文・弥生土器観察表 …… 63
表２　土製品観察表……74
表３　石器・石製品観察表 …… 75
表４　須恵器・土師器・陶磁器観察表……76
表５　銭貨計測表……76

図　版

第 1 図　調査区概要図 …… 2
第 2 図　地形分類図 …… 4
第 3 図　遺跡位置図 …… 5
第 4 図　基本層序 …… 7
第 5 図　遺構配置図 …… 8
第 6 図　Ａ区（北）遺構配置図……29
第 7 図　ＳＫ８・15 …… 30
第 8 図　ＳＫ17・89・ＳＰ257・ＳＸ14他……31
第 9 図　ＳＫ262・ＳＸ18・99・267他 …… 32
第 10 図　Ａ区（中央～南）遺構鉢図……33
第 11 図　ＳＸ29・ＳＫ266・ＳＤ31・ＳＫ269・ＳＸ67他
……34
第 12 図　ＳＸ30・ＳＸ115・116他……35
第 13 図　ＳＸ84・ＳＤ100……36
第 14 図　Ｂ区遺構配置図 ……37
第 15 図　ＳＸ166 …… 38
第 16 図　ＳＤ187・ＳＥ132 …… 39
第 17 図　ＳＤ173 …… 40
第 18 図　ＳＤ236・241 …… 41
第 19 図　ＳＤ235 …… 42
第 20 図　出土遺物（１）……43
第 21 図　出土遺物（２）……44
第 22 図　出土遺物（３）……45
第 23 図　出土遺物（４）……46
第 24 図　出土遺物（５）……47
第 25 図　出土遺物（６）……48
第 26 図　出土遺物（７）……49
第 27 図　出土遺物（８）……50
第 28 図　出土遺物（９）……51
第 29 図　出土遺物(10)……52
第 30 図　出土遺物(11)……53
第 31 図　出土遺物(12)……54
第 32 図　出土遺物(13)……55
第 33 図　出土遺物(14)……56
第 34 図　出土遺物(15)……57
第 35 図　出土遺物(16)……58
第 36 図　出土遺物(17)……59
第 37 図　出土遺物(18)……60
第 38 図　出土遺物(19)……61
第 39 図　出土遺物(20)……62
第 40 図　出土遺物(21)……63
第 41 図　出土遺物(22)……64

写真図版

写真図版１　調査区全景
写真図版２　Ａ区検出状況他
写真図版３　Ａ区北完掘状況他
写真図版４　ＲＰ38出土状況他
写真図版５　大木10式期深鉢形土器
写真図版６　Ｂ区完掘全景他
写真図版７　縄文晩期前葉～中葉の土器
写真図版８　重機稼働状況他
写真図版９　Ａ区北完掘状況他
写真図版10　Ａ区北の遺構検出他
写真図版11　Ａ区北ＳＫ90断面他
写真図版12　Ａ区北ＳＰ249断面他
写真図版13　Ａ区北ＳＰ94断面他
写真図版14　Ａ区北ＳＸ14断面他
写真図版15　Ａ区中央ＳＸ81断面他
写真図版16　Ａ区中央北東壁層序他
写真図版17　Ａ区中央ＳＫ38断面他
写真図版18　Ａ区中央ＳＤ100出土土器他
写真図版19　Ａ区中央13－13Ｇ出土石器他
写真図版20　Ａ区中央ＳＸ72・ＳＰ112・ＳＫ111
完掘他
写真図版21　Ａ区中央ＳＸ115・ＳＫ280他

写真図版22	Ａ中央ＳＸ29断面他
写真図版23	Ａ区中央ＳＫ265断面他
写真図版24	Ａ区中央東17－11Ｇ出土土器他
写真図版25	Ａ区中央ＳＸ67断面他
写真図版26	ＳＸ68・ＳＫ283完掘状況他
写真図版27	Ｂ区排水桝掘り下げ状況他
写真図版28	Ｂ区ＳＫ245掘り下げ他
写真図版29	Ｂ区ＳＫ245検出と西壁層序他
写真図版30	Ｂ区ＳＸ166拡張他
写真図版31	出土遺物（１）
写真図版32	出土遺物（２）
写真図版33	出土遺物（３）
写真図版34	出土遺物（４）
写真図版35	出土遺物（５）
写真図版36	出土遺物（６）
写真図版37	出土遺物（７）
写真図版38	出土遺物（８）
写真図版39	出土遺物（９）
写真図版40	出土遺物(10)
写真図版41	出土遺物(11)
写真図版42	出土遺物(12)
写真図版43	出土遺物(13)
写真図版44	出土遺物(14)
写真図版45	出土遺物(15)
写真図版46	出土遺物(16)
写真図版47	出土遺物(17)
写真図版48	出土遺物(18)
写真図版49	出土遺物(19)
写真図版50	出土遺物(20)
写真図版51	出土遺物(21)
写真図版52	出土遺物(22)
写真図版53	出土遺物(23)
写真図版54	出土遺物(24)
写真図版55	出土遺物(25)
写真図版56	出土遺物(26)
写真図版57	出土遺物(27)
写真図版58	出土遺物(28)
写真図版59	出土遺物(29)
写真図版60	出土遺物(30)
写真図版61	出土遺物(31)
写真図版62	出土遺物(32)
写真図版63	出土遺物(33)
写真図版64	出土遺物(34)
写真図版65	出土遺物(35)
写真図版66	出土遺物(36)
写真図版67	出土遺物(37)
写真図版68	出土遺物(38)
写真図版69	出土遺物(39)
写真図版70	出土遺物(40)
写真図版71	出土遺物(41)

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

石畑遺跡は、昭和30年頃に地区在住の上浦善助氏によって発見された。発見時、縄文土器や石鏃、掻器、凹石、石斧などが出土し、出土土器の様相から中期末（大木９・10式）の集落跡とされた。当時から宅地化が進み、遺跡範囲については不明としている（南陽市史編さん委員会1989）。

調査原因

その後、県道改良工事に伴い、教育庁社会教育課文化財保護室（以下保護室）の遺跡詳細分布調査が行われ、遺跡範囲、検出遺構が明らかになった。同調査は、平成16年12月13日～12月14日まで行われた。隣接する「可能性地１」（現Ｂ区）を含めて７本のトレンチを入れて、遺構の状態が観察された。その結果、同遺跡南側に「可能性地１」を組み入れ、南北160ｍ、東西80ｍの遺跡範囲とし、遺構の検出状況から「保存協議対象面積」を2,000㎡とした。それを受けて、保護室と事業主体である県との協議の結果、県の委託を受けて財団法人山形県埋蔵文化財センターが調査を行うこととなった。現地調査は、平成18年５月15日から８月10日までの約３ケ月間行われた。同県道改良工事に伴う緊急発掘調査は、今回が２回目で、1998年10月に山形県教育委員会が向畑Ｃ遺跡の調査を行っている（山形県1990）。

2　調査の経過

平成18年

第１週

５月15日：器材搬入と事務所環境整備、14時より鍬入式、作業員オリエンテーション、幅杭設定。16日：調査区を北地区のＡ地区と南地区のＢ地区に分ける。17日：重機１台を導入し、Ａ地区より開始。半数は表土除去後ジョレンによる掘り下げ、残りの作業員は手掘りでＢ地区の試掘作業。18日：同作業続行。19日：Ａ区の南半分を面整理。柱穴・土坑・溝跡検出、縄文土器等中箱に１箱分出土。

第２週

５月22日：Ａ区南から中央に移動して面整理。23日も同作業続行。24日：重機バックホーを１台追加、計２台でＢ区表土除去作業。同時にＢ区牛舎の基礎コンクリートをブレーカーで切断し破砕する作業開始。Ａ区全景の検出写真撮影。Ａ区ＳＸ81の遺構精査。基準点測量開始。25日：Ａ区北部の面整理とＡ区南部の遺構精査。グリット杭とＢＭ杭設定。26日：Ａ区の基準点測量業務終了し、Ｂ区の基準点測量を開始。Ｂ区にある牛舎汚泥槽の異臭問題で県と協議し埋め戻す。出土遺物総数９箱。

第３週

５月29日：Ａ区南と中央の遺構精査しＳＸ115・ＳＸ68・ＳＸ84平面図と断面図作成。30

日：検出遺構の写真撮影。31日：Ｂ区北の面整理、Ｂ区中央を表土除去作業。ＳＸ115平面図・断面図の記録と出土状況の写真撮影。６月１日：Ｂ区北から中央にかけて面整理、Ｂ区南は重機による表土除去作業。２日：同作業継続。Ａ区ＳＸ115よりＲＰ17・ＲＰ18番号の土器片出土。土坑・柱穴など105基、出土遺物総数20箱。

第４週

６月５日：重機によるＢ区の深掘り。６日：Ｂ区面整理とＢ区全景写真撮影。７日：大雨のため発掘作業を中止し、排水作業・調査区西壁を矢板で補強。休憩プレハブで遺物洗浄。８日：Ｂ区北面整理とＢ区ＳＸ・ＳＤの遺構精査、Ｂ区北の遺構検出写真撮影。９日：雨のため発掘作業中止。調査員のみ図面整理と帳簿書類の点検と整理。出土遺物総数26箱。

第５週

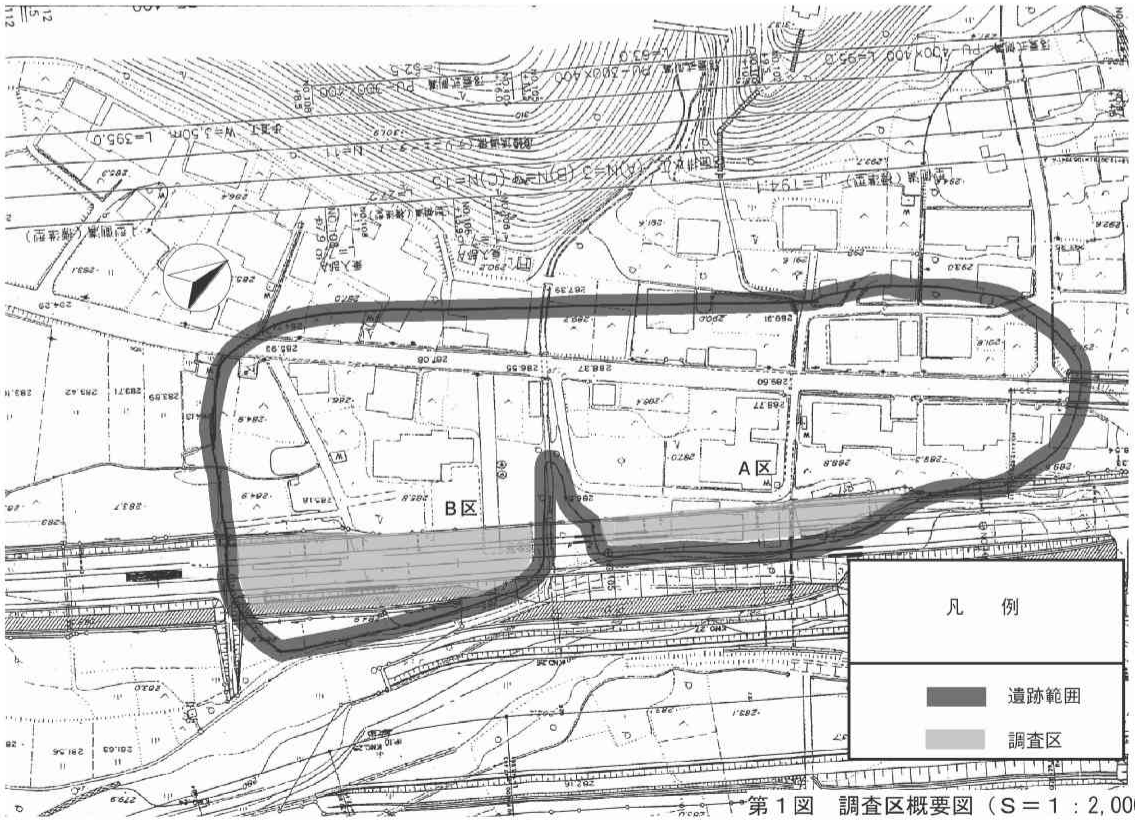
６月12日：Ｂ区北ＳＸ117・ＳＥ132の遺構精査とＢ区南東トレンチ断面等の写真撮影。13日から16日もＢ区の遺構精査。検出遺構総数165基。

第６週

６月19日：Ｂ区ＳＥ132の完掘状況の写真撮影。18日・19日：Ｂ区ＳＤ187ＲＰ29出土遺物レベル等の計測。21日・22日・23日：Ｂ区ＳＸ117に近接する西側の民地の一部を地権者の立ち会いのもと調査し、ＳＸ166検出。出土遺物総数32箱。

第７週

６月26日：ＳＸ166出土遺物写真撮影。Ｂ区基本層序確認と下層より溝跡検出。27日から30日：Ｂ区内の遺構精査を継続。地山の砂利層より貝の化石を数点採取。



第１図　調査区概要図（Ｓ＝１：2,000）

第８週

７月３日：Ｂ区ＳＤ235・ＳＤ241精査。４日から７日までＢ区南の面整理。遺構総数246基、出土遺物総数35箱。

第９週

７月10日：雨のため室内で遺物洗浄。11日：Ｂ区南東の面整理。12日：Ａ区北（Ａ区の最北端地区）の面整理開始。13日：雨のため発掘作業中止、調査員のみ発掘調査現地説明会の準備作業。遺構総数247基、出土遺物総数36箱。

第10週

７月18日：Ａ区北の遺構精査、雨避けテントを設営し作業。19日から21日までＡ区北の精査を続行。ＲＰ38注口土器、石棒検出。遺構総数270基、出土遺物総数44箱。

第11週

７月24日から27日まで、Ａ区北の精査と完掘。Ａ区中央付近のＳＸ115東側を拡張。Ｂ区ＳＸ166の精査。28日：雨のため室内にて遺物洗浄作業。遺構総数285基、出土遺物総数50箱。

第12週

７月31日から８月３日まで、Ａ区中央からＡ区南の遺構精査と完掘。８月４日：発掘調査現地説明会準備と現地説明会の実施。遺構総数286基、出土遺物総数60箱。

第13週

８月７日から９日まで、Ｂ区ＳＸ166、ＳＤ187遺構精査と出土遺物写真撮影。遺構測量委託業務。10日Ａ区拡張部分とＢ区ＳＸ117遺構精査と写真撮影、遺構測量業務。器材整理と搬出作業。遺構総数286基、出土遺物総数60箱。

引用文献

南陽市史編さん委員会　1989　『南陽市史　考古資料編』
山形県教育委員会　1990　『向畑Ｃ遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財調査報告書第156集）

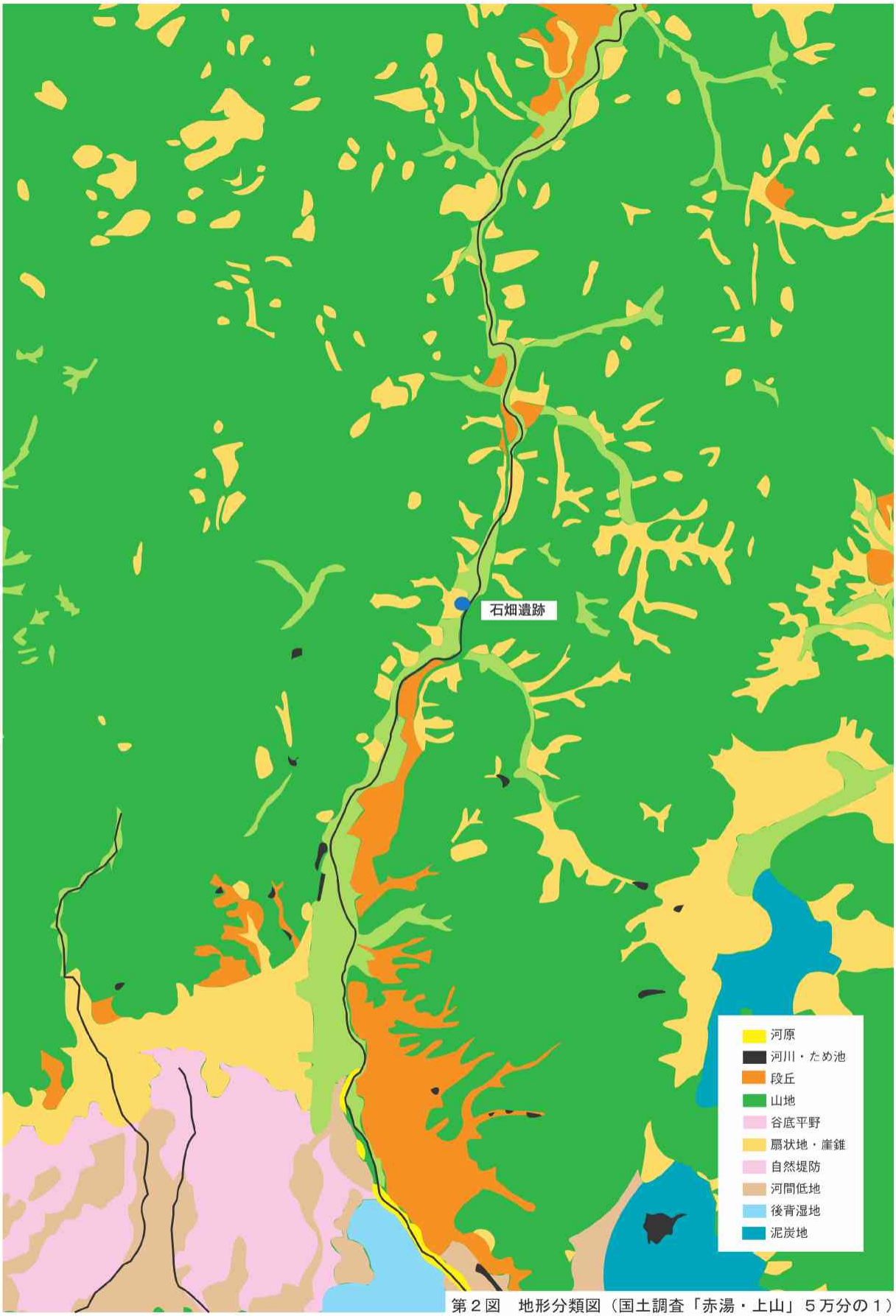
Ⅱ　遺跡の立地と環境

１　地理的環境

南陽市は山形県南部に位置し、米沢盆地の北辺にあたる。同市には、最上川の支流として吉野川・上無川・織機川が南北に蛇行しながら流れる。その河川により扇状地が形成されていった（第２図地形分類図参照）。宮内扇状地は、吉野川と織機川が上流地帯の山地を侵食して運搬し、堆積した扇状地全体を指している。北側に鷹戸屋山地・大平山地がある。東側に大谷地低湿地、南東側に屋代川、南西側に最上川がある。本遺跡の標高は290ｍを測る。

本遺跡は、山形県南陽市金山川西字石畑に位置し、南北に楕円形状に広がっている。遺跡面積は10,000㎡を超えるが、今次の調査区はその内の東端、2,000㎡を対象とした。

遺跡は吉野川右岸の河岸段丘上にあり、絶えず河川の増水による影響を多分に受けていた。　**吉野川段丘**



第２図　地形分類図（国土調査「赤湯・上山」５万分の１）

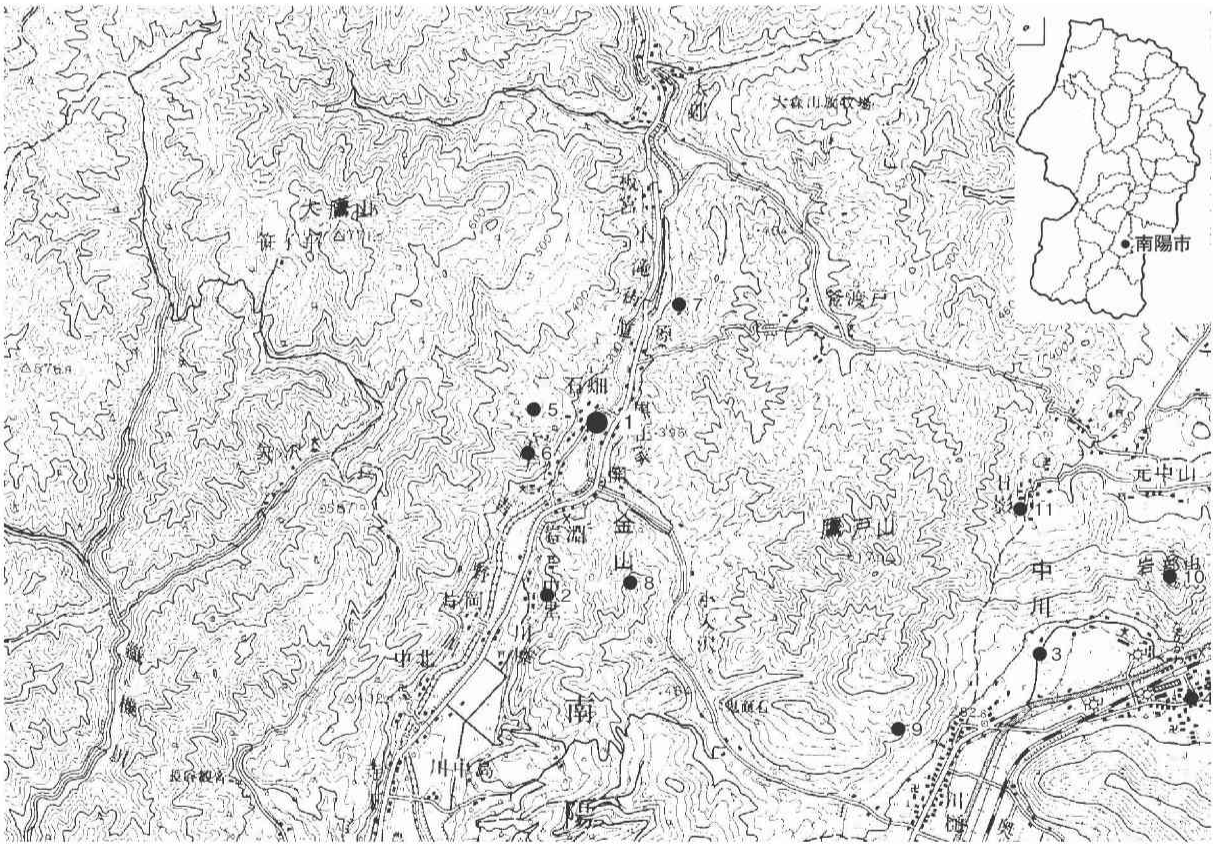
本遺跡東側を南北に貫流している同河川は、白鷹町と南陽市の境にある大窪山を源として、水林地区を通り北側に大きく蛇行しながら南へ流れている（吉野文化史研究会1996）。そして、市内平野部を西に屈曲しながら流れ、小河川を集めながら最上川と合流している。源流である吉野地区には、縄文時代の遺跡が点在している。

2　歴史的環境

南陽市内の遺跡の発見・確認は、昭和50年代の南陽市史編纂事業や県文化財課の試掘作業によるところが大きい。現在その数は200箇所を越えている。また、近年の国道や県道工事に伴う発掘調査によって、平野部の遺跡数が増加している。　**市内遺跡数**

次に周辺の遺跡の概略を述べることとする（第３図遺跡位置図参照）。図中に見るように、縄文時代の集落や中世の館跡が点在していることがわかる。本遺跡の西に近接する山には、金の採掘地であったことに由来する金座館跡がある。砦的な施設があったともいわれている。この金座館跡より1.5キロ北西には大鷹山があり、その西眼下に織機川が流れる。この織機川の段丘上に、笹小平遺跡がある。表採だが、頁岩製の両尖七首が出土している。更に、西の漆山を登

金座館跡
織機川
笹小平遺跡
両尖七首



番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別
1.	石畑遺跡	縄文	集落跡	7.	御獄山物見	中近世	館跡
2.	三入山遺跡	縄文	集落跡	8.	地蔵岩物見	中近世	館跡
3.	岩谷堂遺跡	縄文	集落跡	9.	虚空蔵山館	中近世	館跡
4.	小岩沢遺跡	縄文	集落跡	10.	岩部山館	中近世	館跡
5.	金座館	中近世	館跡	11.	日影館	中近世	館跡
6.	天狗山館	中近世	館跡				

第３図　遺跡位置図（国土地理院発行５万分の１「赤湯」を使用）

り降りると須刈田に出る。この須刈田には、縄文時代早期から中期初めまで生活が営まれた大野平遺跡がある。出土した土器には、「縦や横方向に平行して数条の沈線文が施される尖底深鉢」もある。宮内扇状地の扇頂部にあたる熊野大社周辺には、縄文時代中期後葉の久保遺跡がある。吉野川流域より織機川周辺に人々の生活が営まれた理由の一つには、織機川の勾配が吉野川のそれより緩いこと、吉野川上流には白鷹山丘陵群の主峰白鷹山があり、周囲に降った雨は一気に谷の吉野川に集中し、永らく吉野川流域部が安定しなかったことが考えられる。吉野川流域にしだいに遺跡が増加し始めるのは、縄文時代中期以降、河川沖積作用の進行と安定の結果であろう。本遺跡の他に吉野川流域で確認されている縄文時代の遺跡には、後期から晩期にかけて営まれた南陽市立小滝小学校周辺の河岸段丘上にある向畑Ｃ遺跡と支流沿いにある熊野山遺跡、赤山地区の吉野川支流２キロ上流にある晩期の赤山大醒ケ井遺跡、赤湯三間通の自然堤防上に三脚石器が出土した中期後葉の諏訪前遺跡がある。吉野川を挟んで対岸には三入山遺跡がある。当遺跡は、昭和55年の果樹園造成工事時に、高橋義博氏が遺物を発見したことによる。遺物は、縄文土器や掻器などである。縄文土器は小破片であるが、縄文時代前期に位置付けられるものである。特に平安時代の須恵器・土師器が出土しており、本遺跡より北の遺跡と趣を異にしている。本遺跡から東側の丘陵地を越えると、岩谷堂遺跡や小淵沢遺跡などがある。南陽市東北部には、岩谷堂遺跡などの縄文時代晩期の集落が点在している。弥生時代については、段丘地内からの出土例がなく、市内南側の平野部からの事例がほとんどであった。金山地区に隣接する中川地区では、1988～89年まで月ノ木Ｂ遺跡の発掘調査があり、縄文時代前期の土器の他に弥生時代中期末～後期半ばごろの一群が出土している。少量ではあるが本遺跡に後続する時期のものであり、注目されよう（山形県教育委員会1989）。

大野平遺跡
久保遺跡
吉野川
白鷹山丘陵群
向畑Ｃ遺跡
熊野山遺跡
赤山大醒ケ井遺跡
諏訪前遺跡
三入山遺跡
岩谷堂遺跡
小渕沢遺跡
月ノ木Ｂ遺跡

館跡

中近世では、館跡が挙げられる。金座館の主郭は標高362ｍを測り、縄張りは径170ｍの不整方形を呈する（山形県教育委員会1995年）。他に天狗山館、御嶽山物見などが小滝街道沿いの小高い山々に立地している。各館跡主郭部分からは、周辺の館跡や集落、街道が一望できる。

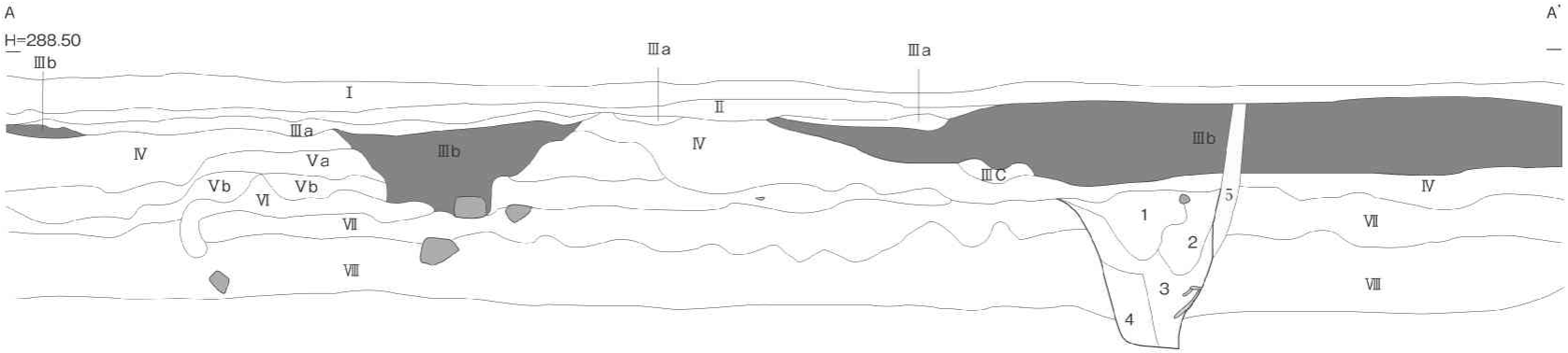
金山みかげ

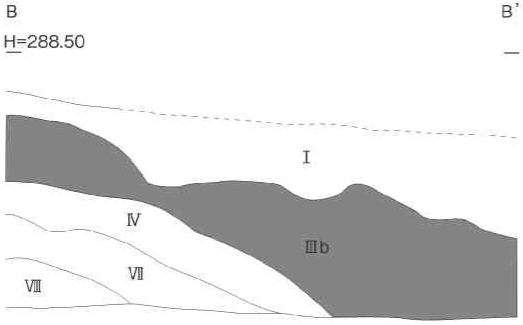
本遺跡の北東1.5㎞にある釜渡戸は、旧山形県庁舎にも用いられた金山みかげ（花崗閃緑岩）の産する地区である。また、北６㎞上流には、現在は閉山したが県内屈指の黒鉱鉱床（黄鉄鋼・黄銅鉱・石英・石膏などの鉱脈）を持った吉野鉱山がある。昔、この鉱山周辺から採掘した金を室町幕府に献上したとも言われている。

吉野鉱山

引用文献

吉野文化史研究会　1996　「吉野川の源流をさぐる」『吉野文化史資料（16）』
山形県教育委員会　1989　『月ノ木Ｂ遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財調査報告書第135集）
山形県教育委員会　1995　『山形県中世城館遺跡調査報告書』（第１集）

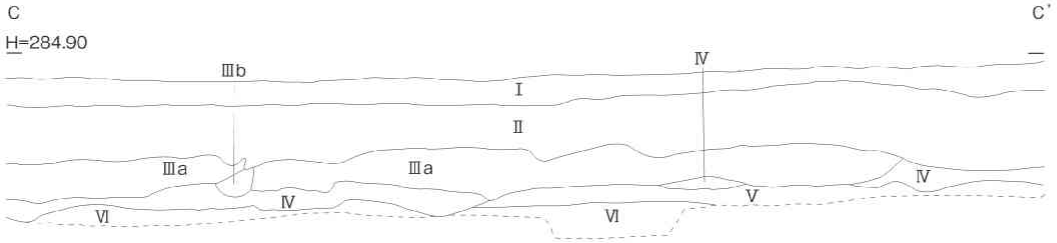




A区基本層序 (a-a'、b-b')

Ⅰ.コンクリート・砕石（撹乱層）
Ⅱ.10YR2/1 黒色シルト　10mm 以下の丸礫を含む
Ⅲ a.7.5YR4/3 褐色粘質シルト　焼土余り含まない
Ⅲ b.7.5YR4/3 褐色粘質シルト　焼土混在
Ⅳ.7.5YR2/1 黒色シルトと砂　5 mm 以下の丸礫を含む
Ⅴ a.10YR3/2 黒褐色シルト　10YR4/3 にぶい黄褐色砂含む
Ⅴ b.7.5YR2/1 黒色シルトと砂　土器片を含む
Ⅵ.10YR4/3 にぶい黄褐色砂　3 mm 前後の丸礫を含む
Ⅶ.10YR2/3 黒褐色砂
Ⅷ.上層（10mm 前後の丸礫を多く含む砂層）
　下層（10 数 cm 大の丸礫を多く含む層）

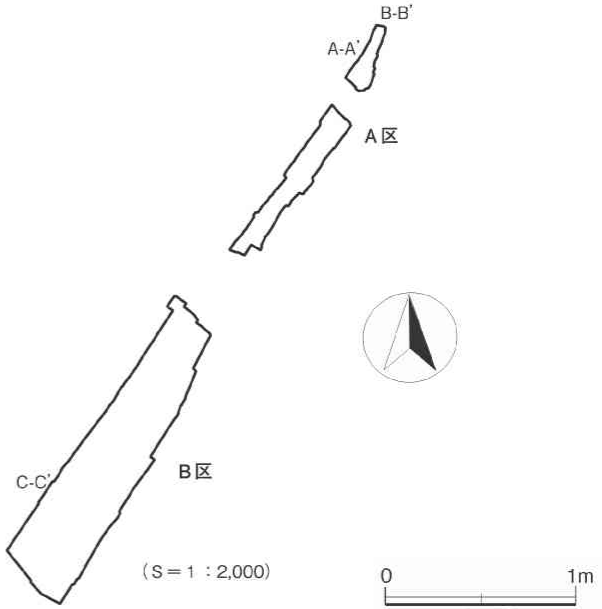
1.10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト　3 mm 大の丸礫を含む（ＳＰ257）
2.10YR3/2 黒褐色砂質シルト　軽石（大）を少量含む（ＳＰ257）
3.10YR3/2 黒褐色砂質シルト　酸化鉄混じる　土器片（大）含む　柱痕？（ＳＰ257）
4.10YR3/3 暗褐色砂質シルト　下層小礫含む（ＳＰ257）
5.10YR2/1 黒色シルト　軟らかい　杭抜き取り痕



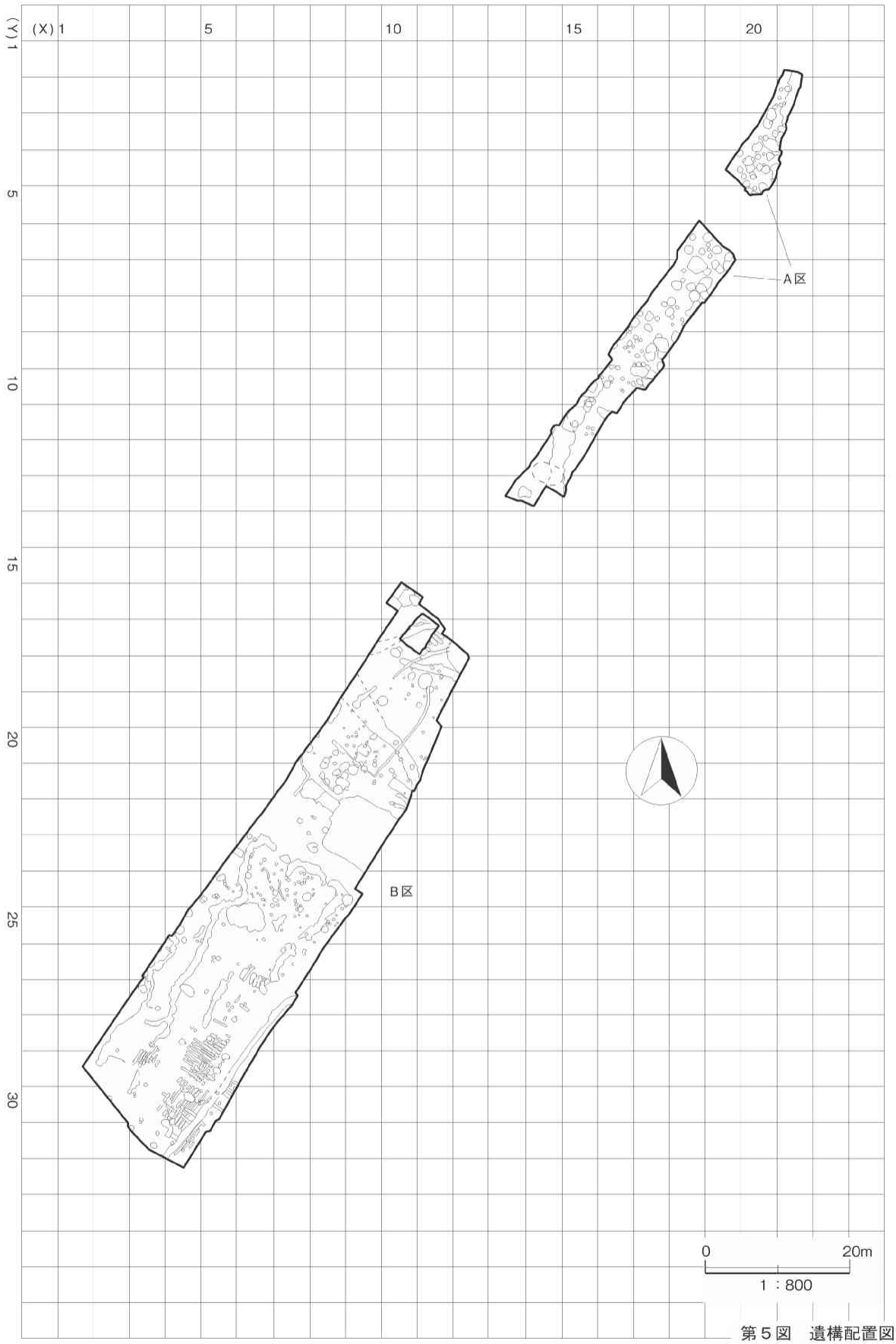
B区基本層序（c-c'）

Ⅰ.10YR2/2 黒褐色シルト（耕作土）
Ⅱ.10YR3/2 黒褐色シルト　3 mm 大の礫と砂を含む
Ⅲ a.10YR2/3 黒褐色シルト　大小の礫を含む
Ⅲ b.10YR2/3 黒褐色シルトと礫混在
Ⅳ.10YR2/1 黒色シルト
Ⅴ.10YR3/3 黒褐色シルト　均質
Ⅵ.10YR2/1 黒色シルト　Ⅳ層より砂少ない

は土器片、は礫、は焼土層



第４図　基本層序



第５図　遺構配置図

Ⅲ　遺跡の概要

1　基本層序

Ａ区の基本層序（ａ －ａ ’　ｂ －ｂ ’）

Ⅰ　層　コンクリート・砕石（移築した家屋の基礎部分）
Ⅱ　層　10ＹＲ2／1黒色シルトに10㎜以下の丸礫を含む家屋整地層
Ⅲａ層　7.5ＹＲ4／3褐色粘質シルトに余り焼土を含まない層
Ⅲｂ層　7.5ＹＲ4／3褐色粘質シルトに焼土・黒ボクをの混合層
Ⅳ　層　7.5ＹＲ2／1黒色シルトに砂、5㎜以下の礫、遺物を含む層
Ｖａ層　10ＹＲ3／2黒褐色シルトに10ＹＲ4／3の黄褐色砂を含む層
Ｖｂ層　7.5Ｙｒ2／1黒色シルトに砂、土器片を含む層
Ⅵ　層　10ＹＲ4／3鈍い黄褐色砂に3㎜ 前後の丸礫を含む層
（Ｖ・Ⅵ層とも不安定堆積で場所によっては観察されない）
Ⅶ　層　10ＹＲ2／3黒褐色砂に大小の礫を多く含む地山層
Ⅷ　層　上層：砂層で10㎜前後の丸礫を多く含む地山層
下層：10数㎝大の丸礫を含む地山層

Ｂ区の基本層序（ｃ －ｃ ’）

Ⅰ　層　10ＹＲ2／2黒褐色シルトの耕作土
Ⅱ　層　10ＹＲ3／2黒褐色シルトに3㎜ 大の礫と砂を含む旧表土層
Ⅲａ層　10ＹＲ2／3黒褐色シルトに大小礫を含む層
（硬くしまる遺構検出面）
Ⅲｂ層　10ＹＲ2／3黒褐色シルトに風化礫の混在層
Ⅳ　層　10ＹＲ2／1黒色シルト（一時的に湿地化した層）
Ⅴ　層　10ＹＲ3／3黒褐色シルトの間層（遺構検出面）
Ⅵ　層　10ＹＲ2／1黒色シルトでⅣ層より砂の少ない層
（一時的に湿地化した層）

2　遺構と遺物の分布

今回の調査において検出された遺構は、286基を数える。その内訳は、土坑72基、柱穴152基、性格不明遺構39基、溝跡21条、河川跡１条、井戸跡１基である。性格不明遺構の中にはＳＸ166のように竪穴住居跡の可能性があるものもある。現時点で判断が困難なものを全て性格不明遺構とした。遺構検出面は、Ａ区においては、Ⅶ層、Ｂ区においては、ⅢもしくはⅤ層である。しかし、一時的に観察される層や場所によっては様相の違う層序もあり一概に言えない部分もある。

Ａ区の遺構

Ａ区北側には、土坑や柱穴、性格不明遺構が検出され、特に明確な柱痕を持つ柱穴が点在しているのが特徴である。恐らく、掘立柱建物や竪穴住居の存在を窺わせる遺構である。残念ながら調査区の幅が狭いため、予測の域を出ない。Ａ区中央～南には、土坑や溝、沢の他、性格不明遺構も検出されている。土坑間の切り合いから新旧関係が明確な遺構が見られる。遺構の変遷を含めて後述しているので、参照されたい（「Ⅳ　検出された遺構」）。

Ｂ区の遺構

Ｂ区北側には、土坑や性格不明遺構、溝（沢とすべきか）などが、南側には溝などが検出されている。北側の溝（沢）は山側の西側から現河川側の東側に急激に傾斜している様子が窺える。また、北側には間層を挟んで２層の文化層が検出されている。中近世の遺構として井戸も存在していた。南側には、南北に流れていた溝が蛇行している様子が見られる。

遺物点数

今回、遺物点数を数えたところ4,456点であった（胎土などから同一個体と思われるものや判別が困難な１～２㎝以下の小破片は省いた）。遺構外のものを除くと、3,792点を数える。大まかな時代毎の集計では、縄文中期（240点）、縄文後期（803点）、縄文晩期（396点）、弥生（42点）である。ただし、時代不詳の粗製土器の破片が3,000点余りあり、実数は各時代増えると思われる。また、遺物量の多い遺構は、ＳＸ276（248点）、ＳＫ280（225点）、ＳＫ17（116点）の順で多い。割合的に粗製土器や精製土器の体部の破片が７割以上を占める。ほとんどの遺構で中期の遺物のみの出土は無く、後期以降の遺物が必ず出土している。遺構の廃絶時期もそう理解できよう。

Ⅳ　検出された遺構

今回、検出された遺構は、286基を数える。ここでは、廃絶時期の推定でき、形状も明確な遺構について述べることとする。なお、便宜上、Ａ区北からＢ区の順で記載している。

ＳＫ８（第７図）

20－２・３グリッド（以下Ｇ）内で検出された。平面プランは不整楕円形で、長径170㎝、短径130㎝、確認面からの深さは40㎝を測る。断面形は、逆台形状で、土層は３層確認された。覆土１・３層から土器片が出土している。南側にある土抗の一部を壊している。遺構は、縄文時代後期後葉～晩期中葉以降の所属と考えられる。

ＳＫ15（第７図）

19・20－３・４Ｇで検出された。遺構の西端は調査区外にのびる。平面プランは、ほぼ円形と思われ、径は100㎝、確認面からの深さは70㎝を測る。断面中位に段を持つ。土層は１層であったが、西側の土層が不明であるため、柱穴の可能性もある。遺構は、出土遺物から縄文時代後期以降の所属と考えられる。

ＳＫ17、ＳＰ249・255、ＳＸ247（第８図）

ＳＫ17は、21－２Ｇで検出された。遺構の東側は調査区外にのびる。平面プランは、東西に長い楕円形である。長径の残存長は120㎝、確認面からの深さは60㎝を測る。ＳＰ255は、ＳＫ17から南側を壊されている。中心部分に柱痕があるのがわかる。柱を固定するために根固石を添えていた。ＳＸ247もＳＫ17から北側を壊されている。ＳＰ249は、21－２Ｇで検出された。平面プランはほぼ円形で、径は90㎝、確認面からの深さは70㎝を測る。覆土は３層で、２層目としたのは柱痕、３層は掘り方と思われる。遺構東側でＳＸ247を壊している。ＳＸ247は、21－２・３Ｇで検出された。遺構の東側は調査区外にのびる。西側でＳＰ249に壊されている。南北径は150㎝、確認面からの深さは34㎝を測る。遺構はそれぞれ切り合い関係があるものの、概ね出土遺物から縄文時代晩期以降の所属と考えられる。

ＳＫ89・274（第８図）

ＳＫ89は20－４Ｇで検出された。平面プランは、不整楕円形である。長径は130㎝、短径は110㎝で、確認面からの深さは65㎝を測る。西側でＳＫ274を壊している。最下層で、大洞Ｃ１式に属する注口土器が出土している。遺構の所属時期もこの頃に求められよう。

ＳＰ257（第８図）

ＳＰ257はＡ区北側の北西端にあたる21－２Ｇで検出された。遺構の西側は調査区外にのびている。径は90㎝、確認面からの深さ88㎝を測る。柱痕から大きめの土器片が出土した。器厚が薄く、晩期のものと推測する。

柱痕から土器片

ＳＫ266、ＳＸ14（第８図）

ＳＫ266は21－３Ｇで検出された。平面プランは、方形に近い。１辺は70㎝、確認面からの深さは30㎝を測る。ＳＸ14の西端を壊す。ＳＸ14は、21・22－３Ｇで検出され、平面プランは、楕円形を呈す。長径は265㎝、短径は150㎝で、確認面からの深さは85㎝を測る。覆土内に多量

の砂礫が混じる。両遺構は切り合い関係があるが、概ね縄文時代晩期以降の廃絶と思われる。

ＳＫ262、ＳＸ18（第９図）

ＳＫ262・ＳＸ18は20－４Ｇで検出された。両者の平面プランは、楕円形を呈する。断面は中位に段を持つ。前者の長径は100㎝、短径は70㎝、確認面からの深さは60㎝を測る。後者の長径は130㎝、短径は125㎝、確認面からの深さは53㎝を測る。遺構は、出土遺物から縄文時代晩期～弥生時代に所属すると考えたい。

ＳＸ99（第９図）

ＳＸ99は、20－４Ｇで検出された。平面プランは不整楕円形を呈する。長径は95㎝、短径は75㎝、確認面からの深さは25㎝を測る。遺構は、縄文時代晩期に所属すると考えたい。

ＳＸ267（第９図）

ＳＸ267は、20－４・５Ｇで検出された。南側の調査区外にのびる。長径の残存値は、110㎝で、確認面からの深さは65㎝を測る。遺構は縄文時代晩期に所属すると考えたい。

ＳＸ16、ＳＫ95（第９図）

ＳＸ16は20－４Ｇで検出された。平面プランは楕円形を呈する。長径は140㎝、短径は130㎝、確認面からの深さは30㎝を測る。南側でＳＫ95を壊している。また、掘り込みの浅い柱穴により東西端を壊されている。覆土は、２層で、拳大の礫と砂が混じる。ＳＫ95は、やや長方形を呈しているが、北側をＳＸ16から壊されているため、平面プランが明確ではない。深さは15㎝と、浅い掘り込みである。ＳＫ95の出土遺物は、時代不明の粗製土器片のみであるが、ＳＸ16の主体的な遺物が縄文時代後期にあたるため、それ以前を所属と考えたい。

ＳＰ28・ＳＸ29（第11図）

ＳＰ28は、19－６Ｇで検出された。平面プランは、不整楕円形を呈する。長径は130㎝、短径は120㎝で、確認面からの深さは60㎝を測る。断面形は先細りになっている。ＳＸ29を壊している。ＳＸ29は、19－６・７Ｇで検出された。東側の調査区外にのびる。径は、200㎝、確認面からの深さは70㎝を測る。最下層から大洞Ｃ１式の浅鉢が出土した。両遺構とも、縄文時代晩期に所属すると考えたい。

ＳＫ265・271（第11図）

ＳＫ265は、19－７Ｇで検出された。平面プランは不整楕円形を呈する。長径は125㎝、短径は97㎝、確認面からの深さは70㎝を測る。断面形は台形状で、覆土中に小礫が混じっている。また、東側でＳＫ271を壊している。遺物は、上層から縄文時代後期前葉の土器片が出土しているが、主体的な遺物は晩期半ばの様相を示す。底面から石棒が出土している。ＳＫ271の平面プランは西側の様子が不明確であるが、楕円形を呈していると思われる。長径の残存値は110㎝、確認面からの深さは50㎝である。また、遺物は、縄文時代後期前葉の様相を示す。ＳＫ265から出土している同時期の土器片は、この遺構から流れ込んだものと思われる。

底面から石棒

ＳＫ270・286、ＳＤ31（第11図）

ＳＫ270は、18・19－７・８Ｇで検出された。平面プランは長方形に近い。長辺は105㎝、短辺は100㎝、確認面からの深さは20㎝と浅い。断面形はレンズ状である。北側でＳＫ286を壊している。ＳＫ286は、18－７Ｇで検出された。平面プランは楕円形と思われる。長径は150㎝、短径は130㎝、確認面からの深さは130㎝を測る。ＳＤ31は蛇行しながら、Ａ区中央部を東西に

流れていたと思われる。残存する部分の深さが浅く、残存状態が悪い。遺物は、縄文時代晩期の土器片のほか、弥生土器も出土しており、所属時期は縄文時代晩期～弥生時代と考えられる。この遺構を壊している２つの遺構は、それ以降ということになろう。

ＳＫ269（第11図）

ＳＫ269は、18－７・８Ｇで検出された。平面プランは円形を呈する。径は150㎝で、確認面からの深さは35㎝を測る。断面形は台形状であるが、底面に凹凸がある。遺物は、縄文時代晩期前葉のものがあるため、所属時期もその頃と考えられる。

ＳＸ67（第11図）

ＳＸ67は、18－９Ｇで検出された。西側の調査区外にのびる。平面プランは不整楕円形と思われる。長径の残存値は165㎝、確認面からの深さは45㎝を測る。最下層に大きな礫が混じる。また、上層から縄文時代晩期の土器片が出土しているが、主体的な土器相は後期前葉のものである。所属時期もその頃に求められる。

ＳＸ30、ＳＫ260（第12図）

ＳＸ30は、18－６・７Ｇで検出された。平面プランは、台形を呈する。長辺は250㎝、短辺は215㎝、確認面からの深さは60㎝を測る。断面形は、Ｕ字状である。また、西側でＳＫ260を壊している。遺物は、縄文時代晩期中葉ごろのものが多く、廃絶時期も同じころに求められる。ＳＫ260は、18－７Ｇで検出された。平面プランは方形を呈していたと思われる。一辺100㎝で、確認面からの深さは25㎝を測る。縄文時代後期の土器片が多く、所属時期もそのころに求められる。

ＳＸ115、ＳＰ284、ＳＫ280（第12図）

ＳＸ115は16・17－９・10Ｇで検出された。北側で大小の土抗・柱穴を壊している。平面プランは不整楕円形を呈する。長径は250㎝、短径は155㎝、確認面からの深さは、40㎝を測る。遺物は、１層目から大木10式期古段階の土器片が出土しているが、覆土内から主に出土したのは縄文時代後期・晩期のものである。ＳＰ284は17－９Ｇで検出された。南側でＳＸ115、ＳＫ280の両遺構を壊している。径は60㎝ほどで、確認面からの深さは65㎝を測る。遺物は縄文時代晩期のものが主体的である。ＳＫ280は17－10Ｇで検出された。ＳＸ115により遺構の半分ほどが壊されている。長径は100㎝以上あると思われ、短径80㎝、確認面からの深さは35㎝を測る。断面中位に段を持つ。遺物は縄文時代晩期前葉のものが主体であることから、所属時期もそのころにあたろう。壊している２つの遺構はそれ以降の所産と考えられる。

ＳＫ68・283（第12図）

ＳＫ283は17－９Ｇで検出された。平面プランは不整楕円形を呈していると思われる。長径の残存値は120㎝、短径は160㎝、確認面からの深さは30㎝を測る。また、北側３分の１はＳＫ68により壊されている。ＳＫ68は17－９Ｇで検出された。平面プランは楕円形を呈する。長径は150㎝、短径は130㎝、確認面からの深さは35㎝を測る。断面形は箱形で、最下層に砂礫が混じる。両遺構とも遺物の主体は縄文時代後期のものであり、所属時期もそのころにあたる。

ＳＫ276、ＳＸ116（第12図）

ＳＸ116は17－９Ｇで検出された。平面プランは不整楕円形を呈する。底面に凹凸がある。長径は250㎝、短径は175㎝、確認面からの深さは80㎝を測る。また南側でＳＫ276を壊している。遺物は、縄文時代後期から晩期のものが主体である。ＳＫ276は17－９Ｇで検出された。南東側

の調査区外にのびる。平面プランは不整楕円形を呈している。長径の残存値は135㎝、短径は130㎝、確認面からの深さは60㎝を測る。遺物は、ＳＸ116と同じ土器様相である。両遺跡の時期差はあまり無いものと思われる。

ＳＫ114・ＳＸ84（第13図）

ＳＫ114は、15－11Ｇで検出された。平面プランは、楕円形を呈する。長径は100㎝、短径は90㎝、確認面からの深さは30㎝を測る。覆土内に大小の丸礫が混じっている。また、ＳＸ84の南側を一部壊している。ＳＸ84は15－11Ｇで検出された。平面プランは長方形を呈する。底面は凹凸があり、硬化面もない。住居跡とは考えにくい。長辺は365㎝、短辺は225㎝、確認面からの深さは15㎝と浅い。また、この遺構はＳＧ287の上層を壊しており、縄文時代後期の遺物も流れ込んでいる。所属時期は、縄文時代晩期以降と考える。

ＳＤ100（第13図）

ＳＤ100は15－10Ｇで検出された。東側の調査区外にのびる。円形に巡る形状を思わせる。南北に高低差があり、住居跡とは考えにくい。幅は65～95㎝、確認面からの深さは25㎝を測る。断面形はU字状を呈する。遺物は、時代不詳の粗製土器のみであり、確実な所属時期は掴めなかった。

ＳＸ117・166（第15図）

ＳＸ166は10－16Ｇで検出された。西側の調査区外にのびる。遺構東側に溝状の張り出しを持つ。遺構の両側が削平されており、東側の一辺のみが明確である。底面が平坦で、一部整地した痕跡もあることから、住居跡の可能性がある。東端の底面直上で、縄文時代後期の土器片と逆位に置かれた石皿が確認された。また、覆土下層に間層を挟んでＳＸ117が検出された。南東側の一辺のみの検出であるため、平面プランは不明である。残存する覆土の堆積も浅く、遺存状態も悪い。遺物も粗製土器の細片が出土するのみである。ＳＸ166の所属時期は縄文時代後期、ＳＸ117はそれ以前と考えられる。

住居の可能性

ＳＤ187（第16図）

ＳＤ187は、11・12－７Ｇで検出された。Ｂ区北端の排水桝の撤去時に発見されたものである。Ｂ区北東壁の土層内にも覆土が観察でき、底面の高低差は５ｍほどの距離で1.5ｍ下降していることになる。性格としては、「沢跡」とするべきだろう。排水桝西側の土層観察では、２つの文化層を確認でき、上層にも溝跡の存在が明確になった。西側の山際から流れていた沢が時代毎に流路を変えたと思われる。幅は90～150㎝、確認面からの深さは25㎝を測る。遺物は、縄文時代晩期末のものが主体であり、所属時期もそのころにあたる。

沢　　跡

ＳＥ132（第16図）

ＳＥ132は12－９Ｇで検出された。平面プランは楕円形を呈する。掘り方の長径は220㎝、短径は180㎝、確認面からの高さは240㎝を測る。構造は川原石を積んで造った石組みの井戸である。覆土最下層に炭化した廃材が多量に埋められていた。近隣の古老の話では、幼少の頃には埋められていたようで、使用していなかったということである。掘り方から近世後半の陶磁器が出土していることから、造られた時期もそのころにあたると言える。

ＳＤ173（第17図）

ＳＤ173は10～12－18～21Ｇで検出された。Ｂ区北側で東西に貫流している。底面は東側が若

干低い。小さい土坑や柱穴、溝によって一部壊されている。幅は160～320㎝、確認面からの深さは45㎝を測る。遺物は縄文時代晩期のものが少量出土しており、廃絶時期もそのころにあたろう。

ＳＤ236（第18図）

ＳＤ236は８・９－23・24Ｇで検出された。隣接するＳＤ241につながる遺構かもしれない。形状はＬ字状で、全体的に遺存状態が悪い。幅は70～130㎝、確認面からの深さは10㎝に満たない。遺物は上記ＳＤ173と同様である。

ＳＤ241（第18図）

ＳＤ241は９・10－24・25Ｇで検出された。北東側をＳＫ240から壊されている。形状はＬ字状で、全体的に遺存状態が悪い。幅は50～100㎝で、確認面からの深さは10㎝に満たない。遺物はＳＤ173と同様である。

ＳＤ235（第19図）

ＳＤ235は４～７－23～28Ｇで検出された。北側でＬ字に屈曲し、南側で二股に分かれる。Ｂ区南側で、蛇行しながら南北に貫流する。幅は65～130㎝、確認面からの深さは23㎝を測る。遺物はＳＤ173と同様である。

Ⅴ　出土した遺物

１　縄文土器・弥生土器

今次の調査により出土した当該期の遺物は1,500点を超える。時代不詳の粗製土器（文様帯のない体部破片もカウントしている）の破片の点数を足すと、4,000点ほどにまでなる。その中で遺構内からの出土は、1,200点ほどである。遺物は、縄文時代中期後葉～弥生時代中期前葉までのものが出土している。ほとんどの弥生土器は遺構外から出土したものが多い。以下簡潔に土器相を分類し、その代表的なものについて述べたい。

土器相の分類

Ⅰ群１類…体部の文様帯に縦方向の隆沈線と連結して渦巻き文が展開する。大木８ｂ式に属する。楕円文と渦巻文の組み合わせのもので次期のものも内包している可能性がある。

Ⅰ群２類…無文地に沈線と磨り消しによる渦巻き文や楕円形を主たる構成要素としているもの。大木９式に属する。

Ⅰ群３類…隆帯文と幅広の無文帯による楕円形、Ｓ字状、Ｓ字を連結したような「波濤」状の文様展開をするもの。口縁部が強く外反するものが多い。大木10式に属する。

Ⅱ群１類…口縁部に山形や環状突起が付くものが多く、穿孔ないし盲孔がなされる。地文の上から多条沈線による文様を展開するものも多い。また、器面の一部ないし全面に連続刺突を施すものもある。また、口縁部に大波状や大突起が付くものが多く帯状の刻目や縄文を巡らす。体部に羽状縄文を施すこともある。口縁部装飾突起

を持ち、円形刺突などを体部施すものもある。ここでは、後期前葉～中葉までを扱う。

Ⅱ群２類…いわゆる後期後葉の「瘤付土器」の段階にあたる。平口縁あるいは波状口縁に貼瘤のある突起を持つものがある。帯状の刻目や縄文に瘤を貼る。瘤に刺突や刻目を付けるものもある。

Ⅲ群１類…縄文時代後期末～晩期初頭の大洞Ｂ式に併行すると考えられるもの。台形状の突起が付いたり、体部文様に入組文が施されることが多い。また、口縁部が緩やかな波状になるものも多く。三叉文や玉抱き状の文様が帯状に巡る。

Ⅲ群２類…縄文時代前葉の大洞ＢＣ式に併行すると考えられるもの。口唇部にＢ突起の付くものが多い。それと繋がるように羊歯状文を巡らす。

Ⅲ群３類…縄文時代中葉の大洞Ｃ式に併行すると考えられるもの。口唇部にＡ突起を付けたり、刻目を施したりするものが多い。平行沈線や沈線間に刻目を入れるものもある。体部に雲形文を施す（Ｃ字状・Ｓ字状も含めた）ものもある。

Ⅲ群４類…縄文時代後葉の大洞Ａ式に併行すると考えられるもの。口縁部は平口縁のものが多く、希に突起のあるものもある。平行沈線が施され、匹字文を主たる構成要素とする。匹字文の変遷により、弥生時代に近い大洞Ａ’式も内包する。

Ⅳ群…弥生時代前期～中期前葉にあたる。器形として鉢類のほか、筒形のものや蓋といったものが加わる。この時期、盛用される変形匹字文のほか、磨消縄文による三角文や波状文、鋸歯文を施すものもある。

Ⅴ群…その他、主に地文のみのもので各時期にわたるものを一括した。

（１）Ⅰ群１類　　**大木８ｂ式**

該期の資料は小破片が少量出土している。246は、口縁部が内弯し、隆起線による渦巻き文と沈線による楕円文が巡る。638は小さめの渦巻き文のみの資料であるが、口縁部に巡るものと思われる。611は地文が２段ＲＬで、その上に縦位の沈線と渦巻き文が施されている。体部の資料である。

（２）Ⅰ群２類　　**大木９式**

該期の資料は口縁部の資料が少量出土している。349・669・702・759・847は、口縁部の資料で、渦巻き文である。大木９式でも古い段階にあたる。700も口縁部の資料で横位の楕円文の両脇に縦位のＳ字状文様帯が巡る。438・701は縦位に渦巻き文が展開する。

（３）Ⅰ群３類　　**大木10式**

該期の資料は、本遺跡縄文時代中期の遺物の中で最も多い。表１の中で「大木10」としたものの殆どは、幅広の無文帯を持つものである。小破片が多く、文様の全容が掴める資料が少ないが、完形に近い資料も１点のみある。口縁部の様子から２つに分類できる。また、破片が小さいため、文様による分類はしていない。なお、小分類は文章中で扱うのみである。

Ａ類…口縁部が内弯するもの（91・108・435・436・437）

Ｂ類…口縁部が直立または外反するもの（70・95・99・107・182・183・184・186・229・329・351・352・559・560・682・761）

次に主な資料について説明したい。

682は体部中位から緩やかに外反している器形である。地文は２段のＲＬで、口縁部～体部上半に幅広の無文帯を巡らし、波濤状の文様を呈する。文様の一部は玉抱き状になる。底部は無文である。95は外反する口縁部を持ち、玉抱き状またはＳ字状の連結文になると思われる。玉抱き状区画内と刺突で充填するものもある（132）。329は２段のＲＬ縄文を施し、沈線によって方形に区画しているものである。436はＳＸ115上層から出土したもので、隆帯状のものがＴ字に貼られている。口縁部に向って内弯する器形である。上記のものよりやや古相である。なお99・107・329・375・762などの深鉢の文様で隆帯による方形区画文が僅かに出土しているが、後期初頭に位置づける見解がある（山形県埋蔵文化財センター2005）。

縄文後期前葉～中葉

（４）Ⅱ群１類

本遺跡で最も多く出土している段階の遺物である。小破片が多く、全容を把握できる資料が少ない。そこで、口縁部、突起の器形や口縁部～体部など文様でのみ分類した。小分類は文章中で扱うのみである。

口縁部・突起器形

Ａ類…平口縁（８・21・42・43・76・189・227・268・314・315・337・361・446・495・504・545・547・562・565・566・831・833）

Ｂ類…山形突起を持つもの（65・94・96・187・188・195・196・266・267・368・369・370・371・390・401・405・407・443・457・458・503・505・520・534・571・598・641・642・714・716・727・818）

Ｃ類…環状突起を持つもの（158・254・256・404・717）

Ｄ類…橋状把手を持つもの（67・93・855）

Ｅ類…波状口縁を持つもので、波頂部に装飾突起を持つものもある（26・39・65・197・259・307・376・462・723・724）

Ｆ類…平口縁で内面に丸い突起をもつもの（730・785）

文様

ａ類…沈線で文様を描くもの

ａ１類…多条沈線（117・125・126・192・198・232・233・250・254・269・311・330・363・379・409・410・445・482・490・562・778～780・786・849～851）

ａ２類…多重円文・蕨状文（119・122・123・190・193・194・235・411・412・563・602・825）

ａ３類…菱形文（314・545）

ｂ類…隆帯または沈線を巡らすもの

ｂ１類…方形・楕円形の沈線または隆帯（34・76・120・256・268・286・309・361・377・481・503・534・536・571・598・643・728・819・820）

ｂ２類…底部直上に隆帯が巡る（310・558・561・821）

ｃ類…連続刺突を施すもの。（74・75・98・135・136・237・238・240・241・332・366・446・447・495・507・564・572・599・600・829～833）

ｄ類…隆帯上に刺突を施すもの、あるいは沈線と刺突が連結するもの

ｄ１類…８の字文などの口縁部文様（10・33・118・133・137・239・267・358・391・427・

444・458・480・520・616・715・773・774）

ｄ２類…頸部の隆帯上に列点状刺突（188・189・364・645）

ｅ類…平行沈線（隆帯）や方形沈線間に刺突を施すもの（42・131・134・152・158・206・854）

ｆ類…沈線、帯状の縄文帯や無文帯で帯状文や入組文など施すもの

ｆ１類…帯状文で入組文・連孤文を描く（202・376・573・607・789）

ｆ２類…帯状文に刺突、Ｓ字状沈線を施す（43・259・449・565・566・729・846）

ｆ３類…帯状文のみ（26・197・315・429・462・491・547）

ｆ４類…クランク状の入組文（16・271・504・730・781・785）

ｇ類…楕円・入組状の区画文を巡らすもの（657・791・838）

ｈ類…円形刺突を巡らすもので、中には不整円形のものもある（56・522・723・724・834・835）

ｉ類…細かい羽状縄文を施すもの（367・861）

以上のように分類したが、破片資料が多いため、複合的な要素を持つものも含まれていると思われる。

次に口縁部の器形から様相を述べたい。

Ａ類には、口唇部に加飾をするものや、肥厚し丸みを帯びたものなどがある。前者には831や833のような深鉢の口唇部に棒状工具で斜状に刻目を入れたり、495のように縦状に刻目を入れるものもある。体部施文はｃ類が多い。後者は、42や152のような浅鉢に多く、口縁部界に沈線間の横長の刺突が入る。体部文様はｅ類が多い。また、43・565のように平口縁直下に刺突を巡らすものもある。これらは、後期中葉に属する。平口縁でも、口縁部界に注口が付くものがある。227は注口浅鉢で、体部に縦・横にスリット状の沈線が施される。長井市空沢遺跡出土のものとは、口縁部や体部の形状に差違がある（山形県埋蔵文化財センター2005）。同遺跡出土品の器形が壷形で、胴部珠状であるのに対し、本遺跡出土品は体部から口縁部にかけ屈曲する器形である。227は宮城県二屋敷遺跡の「注口土器Ｂ類」に似る（宮城県1984）。

注　口　土　器

Ｂ類は、山形突起あるいは小波状になる一類である。該期口縁部資料の中で最も多い器形である。また、突起には円孔や盲孔を施すものと隆帯や沈線を描くもの、無文のみの３つのタイプに分かれる。457・458は口縁部のみの資料であるが、深鉢であろう。458は、突起中央に円孔がなされ、それと繋がるように隆帯が縦・横に配される。457は外面に縦方向にのびる２条の不明曲線と横位の沈線が施されている。同様の資料は六反田遺跡でも出土している。内面には、隆帯と刺突を組み合わせた、８の字状輪形隆文が見られる。196は、浅鉢と思われる器形のもので、突起の内外面とも無文である。188は、口縁部が無文で、小波状気味の突起になると思われる。口縁部直下には隆帯の上に縦位の刻目を付ける。同じ器形であるが、突起頭頂部から垂下する隆帯を持ち、口縁部直下に188のように横位の隆帯を巡らすものもある。

Ｃ類は、環状の突起が付くものである。404は深鉢で、口縁部に環状突起が連続して配されている。直下に２条の沈線（磨り消しを伴う）を施す。同様の形状は254にも見られる。158は突起部で環状に巡った隆帯が垂下している。口縁部には沈線で囲われた刺突文が充填される。前葉でも古手にあたろう。隆帯が垂下するものは他に256などもある。

Ｄ類は、橋状把手を持つものである。67は内外面に円孔、そして周囲に渦巻き文を施している。93もこれに含まれると思われる。リング状の隆帯の交差する部分に刺突を施す。

Ｅ類は、波状口縁を持つものである。197は大振りな波状口縁に帯状文（刻目）が２条巡っている。259・462は鋭角に張り出した口縁部を持つ。39や307、723のように波頂部を摘み出すように作るものや724のように肥厚した波頂部に珠状の突起を付けるものもある。

次に文様について概観する。本来は文様帯ごとに述べるべきだが、小破片のため残片から類推することしかできないため、破片ごとの文様の列挙に止める。

ａ類は沈線を巡らすもので、出土品の中で最も多い。126や311のように多条の沈線を縦位に展開しているものがある。区画内を無文にする117のようなものも見られる。192や412のように体部にジグザク状の沈線を施すものもある。多条になるものより、若干古手と思われる。その他、粗い沈線で菱形文を施すものもある（545など）。

ｂ類は口縁部～体部上半に曲線的に隆帯を貼り付けたり、沈線で文様を描くものと、深鉢で底部直上に横位の隆帯を巡らすものである。前者では534・728など、後者では558などが挙げられる。

ｃ類は、体部の施文で比較的多い方法である。刺突する場合の施文具は細い棒状工具（446・495・599・833など）であったり、指頭（332・830など）であったりと多様である。446のように平口縁の頭頂部から刺突がなされるタイプと495のように頸部まで無文のタイプとに分かれるようである。

ｄ類では、８の字状輪形隆帯（133・458など）、Ｉ字状孔沈隆起線文・沈線文（444・520など）、Ｃ字状（逆Ｃ字）孔沈隆起線文（267・616など）が挙げられる（語句は六反田遺跡の名称を使用）。簡潔に言えば、隆帯（隆起線）上に刺突を縦位にする方法で、８の字状輪形隆帯（８の字文）は堀ノ内式の指標となっている。これらは口縁部界に施されることが多く、体部の多条沈線文やジグザク状文と連結することが多い。また、188や189のように頸部の隆帯上に棒状工具で刺突されているものも含んだ。

ｅ類は、沈線間に刺突を充填するものを挙げる。152のように口縁部界に平行する沈線を巡らし、沈線間に横長の刺突を施すものがある。その他に、131や158のように長方形に沈線で区画した中に刺突を施すものや隆帯で区画された横長のスペースに列点状に施文するものなどがある。

ｆ類は、堀ノ内２式以降に見られる。浅鉢では、376のように口縁部直下に縄文帯が横位の入組状に巡るものがある。口縁部の状態は違うが、戸沢村津谷遺跡でも同様の文様を呈する浅鉢が出土している（山形県埋蔵文化財センター1997）。また、781は深鉢で、体部上半にクランク状の入組文が施されている。789は連孤状に縄文帯が連結する。43は、口縁部内面に刺突を巡らし、体部内面上半～中位に細い入組状の沈線が入っている。

ｇ類は、磨消縄文で楕円形や入組状に区画されるものである。破片のみのため全容は不確実だが、体部中位に曲線状の文様のあるものを入れた。

ｈ類は、円形の沈線に沿って刺突を巡らすもので、加曽利Ｂ２式に併行する。56・723・834・835などがそれにあたる。724は突起直下に半円形の刺突をして、さらに口縁に沿っても刺突を行っている。

ｉ類は、地文のみのものだが、該期の特徴である細かい「羽状縄文」を施しているものを取り上げる。367は、体部中位の資料で、体部外面に羽状縄文を施している。また、861のように底部直上の資料もある

（５）Ⅱ群２類　　縄文後期後葉

ここでは、「瘤付土器」の段階について述べる。今次の調査では、晩期の遺構に流れ込んでいたりと、主体となる遺構は少ないと思われる。そのため、破片資料が多く、判別が付きにくいものばかりであった。ここでは、口縁部～体部文様と突起、貼瘤の形状により分類した。ただし、後期末の瘤付第Ⅳ様式から大洞Ｂ１に入るものは、論議のあるところなので、次のⅢ群の文頭で述べることとする。

口縁部～体部文様（口縁部器形は平口縁である）

Ａ類…縄文・刻目帯の中央に横位の１条沈線（１・19・40・207・208・298・313・452・621・737・784・794・801）

Ｂ類…２条縄文帯間に無文帯（17・465・738・860）

Ｃ類…１条の縄文帯（18・799）

Ｄ類…その他、櫛描状の条線が入る（20・60・82）か無文のもの（472）

突起

ａ類…針先状または小台形の突起のあるもの（１・208・451・467・575・576・605・735・739・794・796・840・841・860）

ｂ類…貼瘤状の突起のあるもの（40・46・47・77・453・743）

貼瘤

ｉ類…棒状の粘土塊を口縁部または体部に貼り付ける（312・313・450・452・737）

ii類…円形の粘土塊を口縁部または体部に貼り付ける（19・40・209・228・279・284・298・316・318・421・451・524・525・568・605・606・619・620・621・734・735・739・740・741・742・744・799・800・801・802・840・843・860）

iii類…棒状工具で刻みや刺突をしているもの（１・46・47・77・294・359・576）

その他体部文様では、帯状文（317・434・466・646・732・733）、入組文（128・421・524・525・567・606・734・802・843）、連孤状（165・260・284・842）、菱形文（201）、格子文（276・291・365）、条線文（210・518・574・596・597）などが見られる。壷の頸部または体部で１～３条の細い起線上に貼瘤がなされるものもある（318・568・800など）が、胎土などを見ると、同一個体のものもあるかもしれない。その他、帯状文の中でも縄文帯のほか刻目状のもの（161）もある。特に注目されるのは、底部に多数の穿孔されている小型の無文鉢も見つかっている（472）。

（６）Ⅲ群１類　　縄文後期末～晩期初頭

縄文後期末～晩期初頭大洞Ｂ式に併行する段階のものを扱う。

ここでは、口縁部・突起の器形、口縁部～体部文様にしぼって述べる。

口縁部・突起器形

Ａ類…波状口縁（78・100・103・147・220・252・397・431・895・896・899）

Ｂ類…台形状あるいは三角状突起が付く（140～143・146・170・174・211・212・

218・529・608）

Ｃ類…珊瑚状突起が付く（41・243）

Ｄ類…平口縁（901）

文様

ａ類…菱形・連孤状（78・394）

ｂ類…三叉文あるいは玉抱三叉文（100・147・174・218・384・570・578・608・609・805・898・900）

ｃ類…入組文（103・170・216・214・219・252・277・304・397・420・530・543・746・803・897・899）

なお、ｃ類の中には瘤付第Ⅳ様式（安孫子編年）の文様のものもある（304など）。

大洞ＢＣ式　（７）Ⅲ群２類

縄文時代晩期前葉大洞ＢＣ式に併行する段階のものを扱う。

ここでは、突起・口縁部の器形、口縁部～体部文様にしぼって述べる

口縁部・突起

Ａ類…平口縁（274・387・400・476・477・510・907・909）

Ｂ類…Ｂ突起が付くもの（57・90・262・280・281・419・302・383・386・538・749・864・906・908）

文様

ａ類…口縁部に羊歯状文または珠状文を施すもの（57・61・90・274・280・281・282　・302・383・419・477・509・510・537・538・615・649・749・863・864・906・907・909・910）

ｂ類…口縁部に入組文を施すもの（615・864・909）

ａ類とｂ類が共に施されている615がある。その他、多くの資料の体部下半は縄文が施されているが、509のように無文のものもある。また、浮き彫り状の文様が体部下半に施されているものもある（90）。403のような無文の口縁部直下に沈線間に入組文が巡るものや、64のような無文の壷（注口？）もこの段階に含まれるかもしれない。386は口唇部にＢ突起付き、体部との間に橋状の把手を持つ。387や400は同じ器形だが平口縁である。

大洞Ｃ式　（８）Ⅲ群３類

縄文時代中葉の大洞Ｃ式に併行すると考えられるものを扱う。縄文時代晩期の遺物の中でも最も数の多いものである。ここでは、口縁部・突起の器形、口縁部～体部文様にしぼって述べる。

口縁部・突起

Ａ類…平口縁（54・87・324・508・630・654）

Ｂ類…口唇部に密な刻目を施すもの（13・81・300・323・346・492・496・539・540・629・867・875・877）

Ｃ類…Ｂ突起が付くもの（51・104・273・653・751・753・845・866）

Ｄ類…小波状口縁で丁寧な作り（752）

Ｅ類…Ａ突起が付くもの（63・86・422・684・913）

Ｆ類…退化した波状口縁が付くもの（883・912）

文様

ａ類…平行沈線間に刻目を施すもの（13・51・54・81・87・273・321・323・324・334・422・433・489・496・526・528・653・752・753・867・875・877）

ｂ類…平行沈線を持つ（63・86・104・301・344・346・527・540・541・581・627・629・630・650・654・662・684・751・845・866・883）

ｃ類…雲形文や入組文などを施すもの（51・104・255・300・395・508・513・912）

この段階の資料は豊富である。掲載資料以外にも小破片が主に遺構外から出土している。

Ｃ１段階では完形の浅鉢（346）や注口土器（51）が特筆される。346は口唇部に丁寧な刻目を施し、細い平行沈線を巡らす。内外面には炭化物が多く付着している。底部は無文である。51は平口縁の随所にＢ突起を持ち、頸部は無文である。口縁部の内傾する浅鉢で丁寧な意匠のものがある（528・752など）。体部上半には平行沈線間＋刻目、その下に雲形文が施される。底部近くは無文である。器面全体に赤彩を施す。104のように大型の皿もある。体部は直線的に立ち上がる。Ｃ２段階では913のように口縁部にＡ突起が巡るものも多い。小波状の口縁部にＡ突起が付くものもある（86）。また、退化した波状口縁を持つものもある（912など）。丸みのある波状口縁に幅広の沈線、体部に雲形文を施す。912には補修孔も見られた。

（９）Ⅲ群４類　　**大洞Ａ式～**

縄文時代晩期後葉を扱う。中には、弥生時代前葉の様相を持つと思われるものも若干見られる。また、数こそ前代の資料には及ばないが、遺構に伴うものが多い。特にＡ区の大型の土坑やＢ区の溝跡では主体的である。ここでは口縁部・突起の器形や文様にしぼって述べたい。

口縁部・突起

Ａ類…平口縁（398・516・552・554）

Ｂ類…突起が付くもの（29・871～873・917）

文様

ａ類…匹字文を施すもの（29・345・494・516・553・554・636・756・871・872・916・918）

ｂ類…斜状沈線により文様展開するもの（295）

ｃ類…連孤文が巡る（398）

ｄ類…鋸歯文が巡る（915）

ｄ類…無文のもの（658・680）

特に注目されるのは、文様帯の内容が多種多様であることである。匹字文を例に見たい。形状は上下対向のもの（553）、上下交互の匹字文（29）、下向きのもの（756・871・872・916・918）、上向きのもの（494・516・917）が挙げられる。中でも29はほぼ完形で出土しており、全容のわかる唯一のものである。口唇部にＢ突起を巡らし、口縁部～体部上半に２段の匹字文を施す。底部に短脚が４つ付く。また補助単位文を思わせる文様を展開しているものもある（554）。破片のため判然とはしないが、「大洞Ａ式」より新相も含んでいる可能性がある。915は高坏もくしは鉢にあたる。外面に丁寧な意匠の鋸歯文を巡らす。大洞Ａ’段階のもので、砂沢に近い（須藤隆氏教示）。無文の浅鉢（658）は「底部で一旦張り出し、その後屈曲しながら外傾」する器

形である（山形県埋蔵文化財センター2003）。断面形は逆台形になろう。天童市砂子田遺跡にて出土した「浅鉢D類」にあたる。また、同様の器形で底部に穿孔のある小型のものも出土している（680）。

弥生時代前期～中期前葉

（10）Ⅳ群

弥生時代前期末～中期前葉にあたるものを扱う。資料のほとんどが遺構外からの出土であり小破片がほとんどであるが、中には665のように２分の１個体を有するものもある。

ここでは、口縁部～体部の文様にしぼって述べる。

A類…変形匹字文を持つもの（544・624・665・814・862・892）

B類…波状文もしくは連孤文（631・659・808・809・810・812・815・816・893）

C類…区画文（30・478・660・661・755・817）

代表的なものを述べる。665は２分の１個体残存している。体部上半が無文で口縁部は外反するものと思われる。体部中位には平行沈線間に刻目を施し、体部下半には三角形状区画文と変形匹字文が巡る。812・815・816は口縁部が内弯する鉢である。口縁部周辺に連孤文を巡らす。また、蓋などの器種も出土している（893）。鋸歯に近い波状文を呈する。同一個体と思われる資料の口唇部には炭化物が多く検出された。30は、口縁部から体部上半のものである。上記812などと同じ器形と思われる。「口縁内弯有文鉢」と思われる（石川2005）。２条の沈線で菱形状の区画を作り出している。これらの中の一部が福島県孫六橋遺跡との共通性が指摘されている（須藤隆氏教示）。

（11）Ⅴ群

主に地文のみのものを扱う。この分類にあたる後期・晩期の地文のみのものは2,000点を数えるが、小破片のため、同一個体の可能性もある。

ここでは紙数の関係から大まかな分類のみ述べることとする。また、主に残りが良く、器形が推定できるものにしぼった。なお、上記Ⅱ群１類の羽状縄文が施されたもの（Ⅱ１ｉ）や、Ⅱ群２類の櫛描状の条線が施されているものや無文のもの（Ⅱ２Ａ４）は除いている。

（深鉢・鉢）

A類…器面に縄文が施されるもの

Ａ１類…平口縁、器厚があり、直線的あるいは多少内弯しながら立ち上がる（85・258・557・670）

Ａ２類…平口縁で、器厚が薄く、口縁部が無文になるもの（677・679）

Ａ３類…平口縁で、器厚が薄く、内弯しながら立ち上がる（23・169・257・297・306・402・678）

Ａ４類…平口縁で、器厚が薄く、直線的に立ち上がる（４・24・59・83・289・666・758）

Ａ５類…平口縁で器厚が薄く、口縁部が屈曲し、外反するもの（14・423・656・888・889）

Ａ６類…大きめの波状口縁で、外傾する（263）

Ａ７類…波状口縁で、直線的に立ち上がる（50・102・548）

Ａ８類…波状口縁で、口縁部が屈曲し、外反する（15・55・493・549・683）

B類…全面が無文のもの

Ｂ１類…器厚のある無文のもので、内弯（173・487・664）直線的なもの（58）

Ｂ２類…器厚のある無文のもので、台付（171）がある

Ｃ類…ハケ目状の調整が入り、直線的に立ち上がるもの（546・582）

（壺）

Ｄ類…器面に縄文が施されるもの

Ｄ１類…平口縁（84・226）

Ｄ２類…波状口縁（22）

Ｅ類…全面が無文のもの（64）

（皿）

Ｆ類…ミニチュア（172）

（底部資料）

Ｇ類…底径が大きく、断面形が逆台形状になるもの（264・663・671・673）

Ｈ類…底部が肥厚し、直線的に立ち上がるもの（101・308・424・672・675・676）

Ｉ類…台付のもので、底部が肥厚するもの（53）、ハの字に開くもの（224）がある

Ｊ類…底径が比較的小さく、断面形が丸みを帯び、上げ底風にあるもの（399・532）

Ｋ類…底径が比較的小さく、断面形が逆台形状になるもの（674）

※第Ⅴ章１の掲載土器の図版番号や写真図版番号は、資料が複数の頁にわたっているため、文章中では遺物番号のみを記すこととした。図版番号等は「表１」を参照されたい。

2　土製品

土製品としては、円板状土製品が出土している（第23図　写真図版40・45）。全てが土器片の周囲を楕円形または、円形に加工したもので、元々の土器の器面をそのまま利用している。表面に編物圧痕のあるもの（919）、地文の縄文が残るもの（920～922）、地文に沈線を付加しているもの（923・924）である。特に穿孔したりなど装飾性はない。

3　石器・石製品

出土した石器は、土坑などの遺構及びその周辺からのものがほとんどである。

石鏃（第22・28・29・32・33・34・37図　写真図版67）

鉄石英
玉髄

出土数は16点で石材は頁岩（８点）、鉄石英（５点）、玉髄（２点）、石英（１点）である。

Ａ類…中央の稜線部分に厚みがあり、先端部から基部側縁にかけて丸くなり、抉入をもたず、先端は括れるように作出している大形のもの（第34図970）

Ｂ類…中央の稜がなく扁平なもの

Ｂ１類 …中央から基部側縁にかけて丸くなり、抉入をもつもの（第28図947）

Ｂ２類

Ⅰ 中央から基部側縁にかけて丸くなり茎に至るもの（第22図929）

Ⅱ 基部の返しが外側に強く張り出し茎に至るもの（第28図946）

Ⅲ 基部の返しが外側にわずかに張り出し茎にいたるもの（第29図955ＲＱ10）

Ｃ類…基部の返しがわずかに張り出し茎にいたるもの（第33図967ＲＱ９・29図949）

Ｄ類…二等辺三角形の形状をなすもので茎の有無で分けた。

Ｄ１類…先端から基部にかけて直線的で、返しは小さいが鋭角的に丁寧に作出し茎にいたるもの（第29図954ＲＱ４）

Ｄ２類…先端から基部にかけて直線的で、抉りがやや深いもの（第37図976）

Ｅ類…基部の抉りが深いもの

Ｅ１類…先端から基部まで直線的に作出しているもの（第32図962）

Ｅ２類…基部側縁が丸みを帯びているもの（第29図953ＲＱ12）

Ｆ類　未製品と基部欠損のもの（第29図956ＲＱ11・950　第37図977～979）

石匙（第21・26・28・33・34図　写真図版67）

頁　　岩　相対する２つのノッチが作り出されたつまみを持つものとした。石材は全て頁岩である。つまみを上方に置いたときに左右対称となる（第34図971）以外は、左右非対称となる。（第21図925ＲＱ40・28図942）は、つまみを上方に置いたとき石器下端の縁辺が刃部となる横型で刃部に両面加工を施す。特に（第21図925）は、つまみ上部が破断しているが、錐に転用している可能性もある。残り（第28図943・33図968ＲＱ13）は縦型で側縁が刃部となり、（第26図940）には側縁刃部にも両面加工を行っている。

石箆（第39図　写真図版67・70）

玉髄の石材で作出された（1000）は、両面加工で、残りのものは頁岩を片面加工している。（1000）と（1001）は、それぞれ上部と下部が欠損するため形は判然としないが、撥形（1002）と形が

短　冊　形　判然としない（1000）の刃部は両刃状となる。短冊形の（999）は刃部が片刃状である。

掻器（第23・25・33・39・40図　写真図版68）

急角度の調整加工によって刃部を作出した石器を掻器とした。全て縦長の剥片が素材として用いられている。石材は（第40図1006）は鉄石英、（第40図1008）は凝灰岩、残りのもの（第23図935・25図938・33図969ＲＱ15・39図1003・40図1004・1005・1007・1009）は頁岩である。円形あるいは楕円形の外形をもち側縁全体が刃部となる（第40図1006・23　図935・25図938・40図1007・1009）があり、特に（第40図1009）は両面に多数の石ハネがある。残りは縦長の両側縁を刃部とする

削器（第28・29・34・38図　写真図版67）

剥片の縁辺に連続調整加工を行って刃部を形成するものを削器とした。石材は、（第28図944）が玉髄で、残りのもの（第28図945・29図957・34図972・37図982・38図981・983～985）は頁岩である。（第38図986・987）は、横形剥片を素材としてしているが、他は縦形である。

石槍（第40図1010　写真図版68）

上浦氏所蔵のもので石材は頁岩である。基部は欠損しているが、両側縁には丁寧な交互剥離調整を施し、小形ながら厚みがある。（上浦氏が以前石畑遺跡周辺で表採したもの）

石錐（第24・37図　写真図版67）

素材となった剥片の縁辺に調整加工を施し、その一端に尖った先端部を作出したもので、（第37図980）はつまみ部を扁平に調整加工し、尖頭部断面は歪な三角形状となる。（第24図937）はつまみ部を調整するにとどめ、尖頭部断面は四角形となる。

加工痕のある剥片（第23・25・38・39　写真図版70）

剥片に二次加工を施しながらも、刃部を形成するような連続加工まで至らなかったもの（第

23図933・934・25図941・38図988～991・39図992～996）

石製装飾品（第40図1012　写真図版68）

石材は堆積岩の一種と考えられる。片端は欠損しているが、両端を円錐状に尖らせて全体形としては三日月状のものである。

石棒（第22・33・34・34図　写真図版68）

全て破損品のため、詳細は不明だが、（第34図973）は、先端下部を全周にわたって細く仕上げ、基部にかけて太くなる。先端に敲き痕のような浅い凹みがあるほか、基部の側面に平滑な面が一カ所ある。完形であれば相当の長さを有したものである。ＳＫ265出土の（第22図930）・ＳＸ2007出土の（第33図964）は、断面が楕円形を呈し、表面が丁寧に磨かれている。（第34図974）は、側面一部の出土のため断面形はわからないが、一条の沈線が一部残存する。磨きは丁寧である。（第40図1011）は、磨きが荒い。

石刀（第21図927　写真図版68）

刀身の一部のみの出土のため、全体形は不明であるが、刀身の棟は鋒の方からわずかに内反りし基部に向かう。断面形は、向かい合う二つの辺が弯曲した二等辺三角形状を呈する。底辺はほぼ平らな面となり、中央に一条の沈線が縦走する。

磨製石斧（第29・32・41図　写真図版68・69）

２点のみの出土である。ＳＫ267出土の（第32図961）は、基部上部が欠損するとともに、刃部と側縁の一部以外、石斧表面の研磨調整部の大半が剥落している。刃部先端に敲打痕が３ケ所見られるほか、両側縁は扁平に面取りされている。（第29図951）は、大半が欠損するが、側縁が扁平に面取り加工してある定角式。（第41図1020）は、発掘調査区西側に近接する上浦氏所蔵の完形品である。刃部底辺から中ほどで膨らみ、基部に向かって絞まっていく長脚二等辺三角形の平面形態である。扁平に面どりされた両側縁以外は、丁寧な研磨調整がなされている。

打製石斧（第21・41図　写真図版68・69）

１点のみの出土である。ＳＫ36出土の（第21図926）は、両側縁から刃部に大きく連続調整を施し、特に側縁片側に左右から抉りを入れる。（第41図1021）は、上浦氏所蔵のものである。右側縁には基部から刃部まで連続打撃を加えるが、左側縁は刃部まで打撃をせず、ほぼ石器の中程で連続調整を終えている。加工は石器腹面全体に集中する撥形の石器であり、刃部も腹面のみからの作出である。

撥　　形

凹石（第22・24・29・32・34・40・41図　写真図版69）

ＳＫ283出土の（第32図963）は、川原石の表裏に１つずつ孔を持ち、側縁に１つ敲打痕があるが、磨痕はない。13-13G出土の（第40図1013）は、片面に孔が１つ、反対面に２つの凹みが交わる孔がある。側縁下部には、かなり使用されたと考えられる敲打痕の凹みが２個以上見られる。ＳＫ276出土の（第24図936）安山岩凹石は、両面に１こずつ孔があり、側縁に敲打痕がある。ＳＧ287出土の（第34図975）は、堆積岩（礫岩）の凹石で、両面に凹みが少しずつ重複して穿たれている。両側縁に２～３カ所敲打痕がある。出土不定の（第40図1014）は、片面にのみ孔が１つあり、反対面は平滑な磨痕を持つ。凝灰岩質の（第41図1015）は、半分の残存であり、１つの孔を持つ。シルト質泥岩のＳＸ115出土の（第29図958）は半面のみの残存で孔は１つ。ＳＸ81出土の（第29図952）は、扁平な堆積岩の両面に孔がある。出土不定の凝灰岩質（第

41図1016）は両面に３ないし４つの孔をもつが、半分の残存である。　その他（第22図932・40図998・41図997）

敲石（第28・30図　写真図版69）

敲打痕　砂岩質の（第30図959）は側縁下部に１つの敲打痕をもち、全体がつるつるとしている。ＳＸ

安山岩　68の（第28図948）は、自然石の安山岩を利用したもので、一方の先端にのみ敲打痕が集中している。

石皿（第31図960　写真図版70）

安山岩製の扁平で大形の石皿で、凹面は平滑でかなり使い込まれている。片方には縁がなく磨ったものを簡単に別の器に移し変えることもできそうである。

磨石（第26・41図　写真図版69）

ＳＰ249出土の安山岩製磨石（第26図928）は、全面にきめ細かな磨痕があり、下部の割れ口もつるつるしている。他の磨石（第41図1017～1019）は、全て欠損品であるが、全面に磨痕がある。

砥石（第22・25・33図　写真図版69）

Ｂ区ＳＰ239（第25図939）は流紋岩製のもので、全面に数条の溝が斜行する。特に上面は使い古されたためか、彎曲の度合いが激しい。ＳＸ2007（第33図965）は、石が磨りきれるまで使用されている。他は（第22図931・33図966）を参照のこと。

4　須恵器・土師器

本遺跡からは、須恵器１点、土師器２点が出土している（写真図版70）。掲載遺物について述べる。須恵器は甕の体部の破片（1022）である。外面タタキ、内面アテ痕が観察できる。胎土中、石英や雲母などが混入する。土師器はＳＫ233から出土した。この土坑からは後述する銭貨も出土しているので、遺構は近世以降の廃絶と言える。土師器は鉢の口縁部～体部の破片（1023）で、内外面ロクロ成形されている。胎土は緻密で焼成は良好である。口縁部外面に突帯状のものが巡る。

5　陶磁器

本遺跡からは、陶器・磁器ともに27点ずつの出土があった。近世の井戸跡であるＳＥ132からは掘り方にて磁器３点、陶器１点が確認されている。以下掲載した遺物について述べる。

古瀬戸　陶器（写真図版70・71）では、中近世のものが見られる。1024は古瀬戸の皿である。口縁部内面に突帯状のものが巡る。口縁部～体部上半に灰釉を施している。古瀬戸でも後期の所産で

唐津　ある。1025は唐津産の皿である。口縁部に向かって折縁状になる。内外面に灰釉が施される。近世初頭の所産である。1028は擂鉢の口縁部～体部の資料である。内外鉄釉が掛けられ、卸目の条は疎らである。口縁部は会津本郷産と似ているが、卸目の意匠に相違点がある。在地産のもので近世初頭のものであろう。1029は会津産の擂鉢と思われる。内外に鉄釉が掛けられ、口縁部に飴釉を特に掛ける。卸目の条も細かい。胎土も白くざらついている。1030も同じく擂鉢である。底部の資料で、底部に「テロ…」と墨書されている。

磁器（写真図版70・71）では、近世のものが見られる。肥前産あるいは肥前系の窯場のもの

と思われる。底部が砂底である1034・1035は17世紀にあたり、他のものより古手である。井戸跡から出土した1032は、口縁部～体部上半に「矢羽文」、体部下半に「氷裂文」を巡らす。18世紀の所産である。他に1033のように「くらわんか手」のものも見られる。

6　銭貨

近世の銭貨は３枚であった（写真図版71）。内訳は２枚が寛永通宝、１枚が文久永宝である。前者は、1668年以降流通した「新寛永」である。後者は、1863年が初鋳年にあたる。

引用文献

仙台市教育委員会　1981　六反田遺跡発掘調査報告書（仙台市文化財調査報告書第34集）
宮城県教育委員会　1984　東北自動車道遺跡調査報告書Ⅸ（宮城県文化財調査報告書第99集）
山形県埋蔵文化財センター　1997　『津谷遺跡発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第46集）
山形県埋蔵文化財センター　2003　『砂子田遺跡第２・３次発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第113集）
山形県埋蔵文化財センター　2005　『高瀬山遺跡（ＨＯ地区）発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財センター第145集）
山形県埋蔵文化財センター　2005　空沢遺跡発掘調査報告書（山形県埋蔵文化財センター調査報告書第144集
石川日出志ほか　2005　『関東・東北弥生土器と北海道続縄文土器の広域編年』明治大学文学部考古学研究室

Ⅵ　ま　と　め

石畑遺跡の発掘調査は、主要地方道山形南陽線改良工事に伴い、平成18年度に実施された。山形県南陽市金山川西字石畑に所在する。吉野川右岸の河岸段丘上に立地し、現在は「石畑」の集落となっている。遺跡面積は12,800㎡で、今回の調査は2,000㎡を対象とした。

その結果、検出された遺構は、286基を数える。その内訳は、土抗72基、柱穴152基、性格不明遺構39基、溝跡21条、河川跡１条、井戸跡１基である。Ａ区では、縄文時代後晩期を中心とした、土坑、柱穴が検出された。特に長径２ｍを超える土坑が多く、深さも50㎝以上のものもある。Ｂ区では、縄文時代晩期の溝跡などが検出された。特に検出面の高低差があるため「沢跡」とした遺構もあった。その他、近世の井戸跡も見つかっている。また、地山内を掘削中に「二枚貝の化石」も採取された。昔から金山地区は化石採取場所として有名で、遠方からも採取に来訪するという。

Ａ区で検出された土坑は、１ｍ強のものが殆どだが、中にはＳＸ14やＳＸ30のように長径が250㎝を超える楕円形のものもある。深さも60㎝以上と、比較的深い。また、周辺に柱穴や大小の土坑があり、竪穴住居跡の掘り方を想起させる。今回、堆積の状況から自然堆積を伴う土坑と判断したものが多いが、性格不明遺構にしたものの中には多様な可能性を含んでいると思われる（佐藤正一氏はＳＸ14を含めた土坑・柱穴群から竪穴住居跡の存在を指摘された）。また小さめの土坑や90㎝ほどの径の柱穴がA 区北側で比較的密集していることから掘立柱建物跡の可能性がある。しかし、調査区の幅の問題で、未検出の部分が多く、確証は未だ持てない。遺構の多くは縄文時代後・晩期に廃絶したものと思われる。遺構外から弥生土器が僅かに出土することから、弥生時代に廃絶した遺構は、攪乱により削平を余儀なくされたと思われる。

今回発掘調査した場所によっては、人が住めなかったことが考えられるＢ区がある。調査区の南「Ｂ区」では、現地表面より２ｍほど下に砂岩と礫岩の互層と、その層を壊して幾筋かの

沢跡が検出された。攪乱や用水路の土手で壊されているものが大半だが、遺存のよい一つの沢跡は、吉野川向かってに急激に落ち込んでいく。調査区の北「Ａ区」に近接する「Ｂ区」の層序は砂礫層と泥層の互層となり「Ａ区」とはかなり様相が異なること、この「Ｂ区」の比較的浅い砂礫層上層から貝の化石（二枚貝）が数点見つかっていること、Ｂ区では縄文時代の遺構がないことなどを考えあわせると、当時は吉野川が流れており当時の「Ｂ区」下位段丘には人が住むことができなかったのではないか。しかし、「Ｂ区」拡張部（調査区外）に一部検出した性格不明遺構ＳＸ166（図版15）は、遺構外縁に壁のような立ち上がり部があることや遺構底面に土器片が集中していることなどから、竪穴住居跡の可能性も考えられる。当時人たちは、調査区外で検出したＳＸ166より西の山手に近い段丘上か、山の周辺に暮らしたことが考えられる。

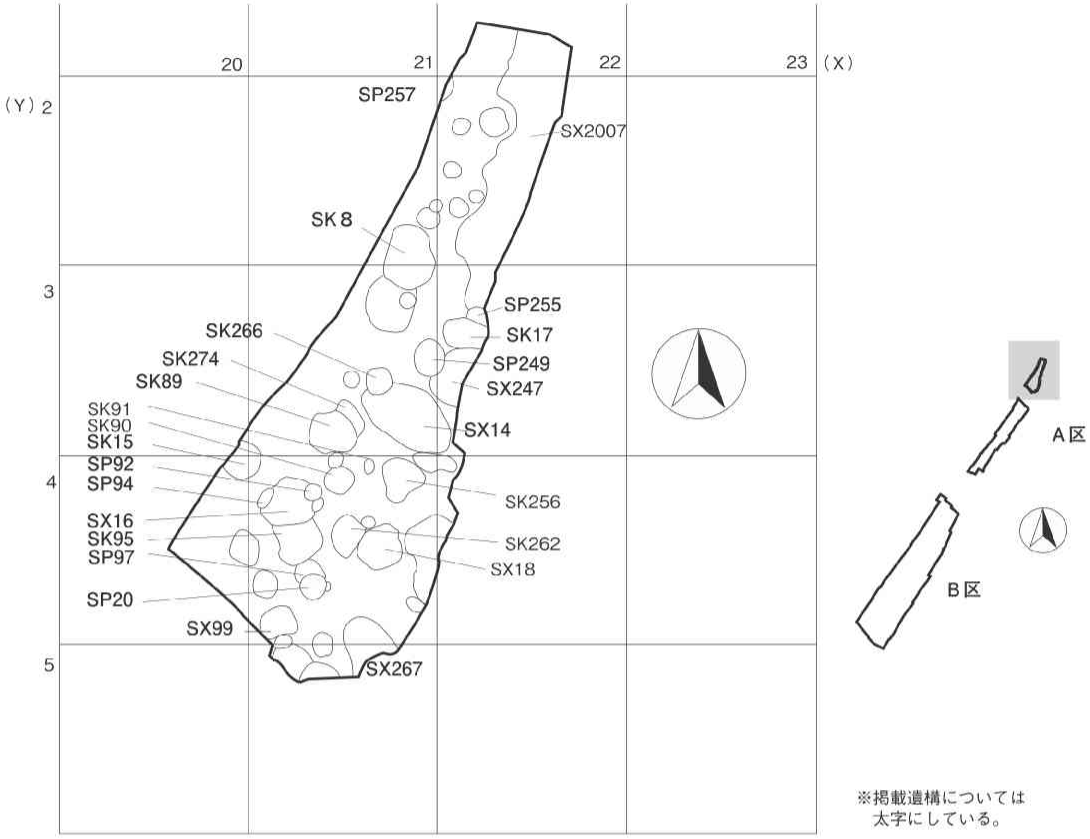
土器は、縄文時代中期後半～弥生時代中葉に比定できるものが出土している。編年では、縄文時代中期は後半の大木８ｂ～大木10新相、縄文時代後期は初頭から中葉、所謂「瘤付土器」などの後葉、縄文時代晩期は初頭の大洞Ｂ～末期の大洞Ａ（大洞Ａ2・Ａ’を内包）。弥生時代は、前葉のものを若干含みながら、主体は中期前葉に求めることができる。恐らく、孫六橋遺跡などと併行関係にあることから、石川編年の原式段階前後といえる（石川2005年）。

石器・石製品については、石鏃、石皿、凹石、磨石、石斧、敲石、砥石などの実用品の他に、祭祀的な石棒、石刀が出土した。石棒、石刀には粘板岩が、石皿、凹石、磨石、石斧、敲石、砥石などには花崗閃緑岩・安山岩・石英安山岩・流紋岩・砂岩・凝灰岩などの石材が、また、石鏃、石箆、掻器、削器、石錐などには、頁岩・石英が使われていた。特に石英は、赤い鉄石英、鉄分の少ない黄色味の強い石英、玉髄などが使われていた。植松芳平氏の教示では、安山岩と鉄石英は密接な関わりがあり、鉄石英は安山岩の空隙に形成される性質を持つとのこと。出土した様々の石器・石製品は、古生代から中生代、新生代に生成された岩石と鉱物を利用し巧みに加工したものであろう。第29図（図版67）953の石鏃（石英「鉄石英」）は、石材表面の色の濃淡で硬度が違うことを知った上で石器を製作している。つまり、色が濃い強度の強い部分を先端に、淡い部分を基部にし石鏃の威力を高めている。同様の意図で製作したと思われるのは、第34図（図版67）971の石匙である。つまみ部としているは、先端より明らかに強度の弱い色の薄い方である。その他、第37図（図版67）976の石鏃の場合は、右側縁の間隙に成長しかかっている微細水晶を製作途上で確認したのか、この部分を先端に用いてはいない。色の濃淡や結晶の度合いなど、様々の視点から製作を進めている当時の縄文人たちの知恵を垣間見ることができる。

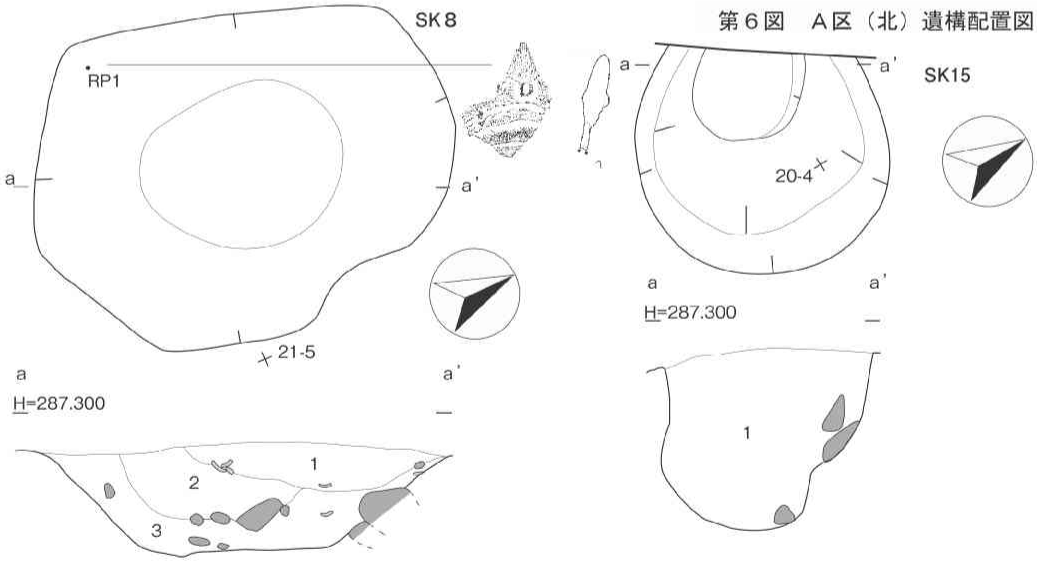
古代以降では、僅かだが須恵器・土師器が出土している。その他、陶磁器も54点出土している。中には中世まで遡るものもある。遺跡周辺は、交通の要所であり、要害の地でもあったので、遺跡と隣接する館跡も多い。

引用文献・参考文献

吉田三郎ほか　1984　『日曜の地学（15）　山形の地質をめぐって』築地書院
木下亀城ほか　1987　『標準原色図鑑岩６　岩石鉱物』保育社
南陽市史編さん委員会　1990　『南陽市史　上巻』
山形応用地質研究会　1990　『山形の大地』
石川日出志ほか　2005　『関東・東北弥生土器と北海道続縄文土器の広域編年』明治大学文学部考古学研究室



第６図　Ａ区（北）遺構配置図（Ｓ＝１：200）



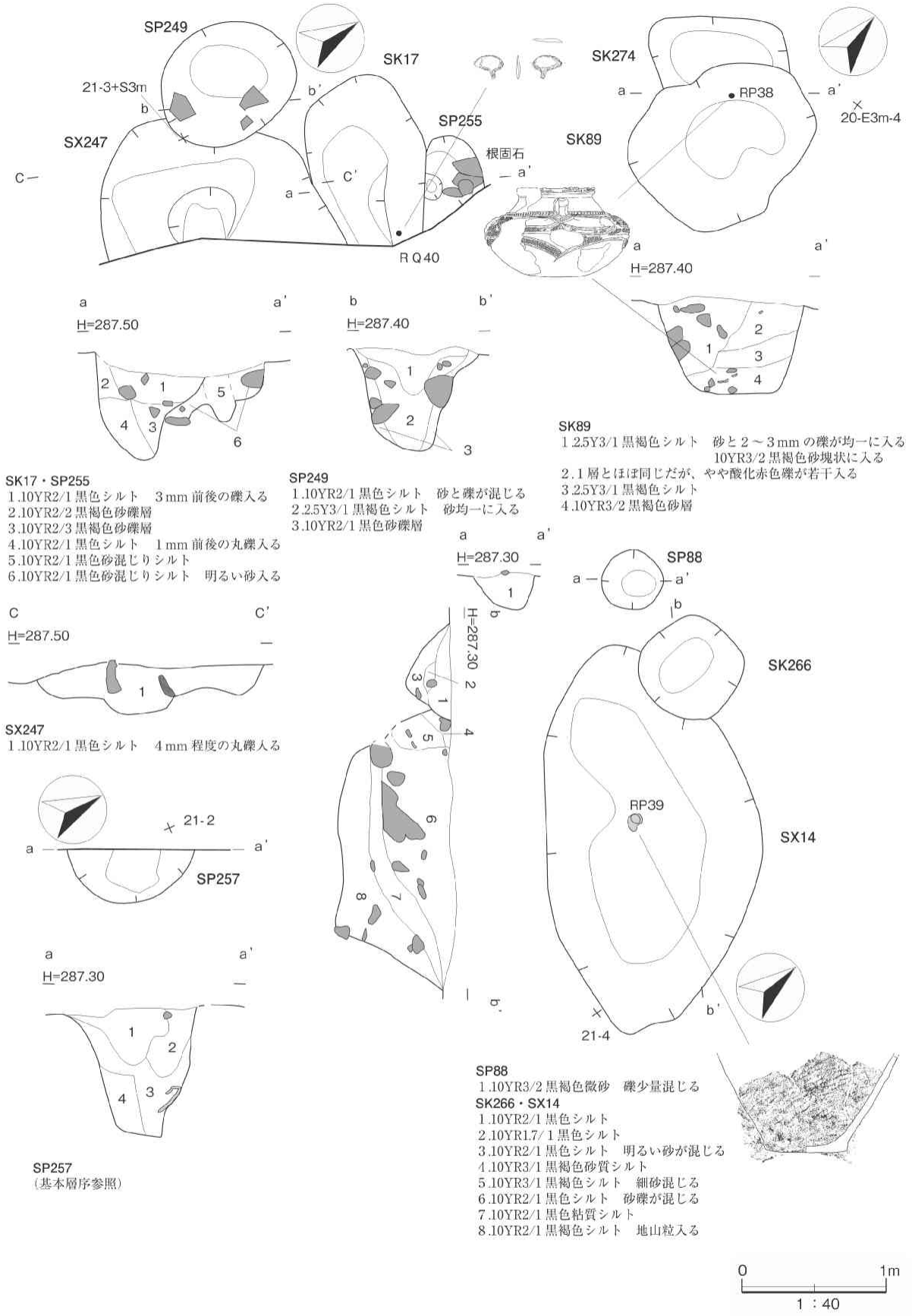
SK8
1.10YR3/2 黒褐色シルト　砂が均一に入る、数 mm 礫が幾分混じる
2.10YR3/2 黒褐色砂礫層　礫は数 cm 大がまばらに入る
3.2.5Y2/1 黒色シルト　砂が均一に入る

SK15
1.10YR3/2 黒褐色シルト質微砂　未分解有機物混じる

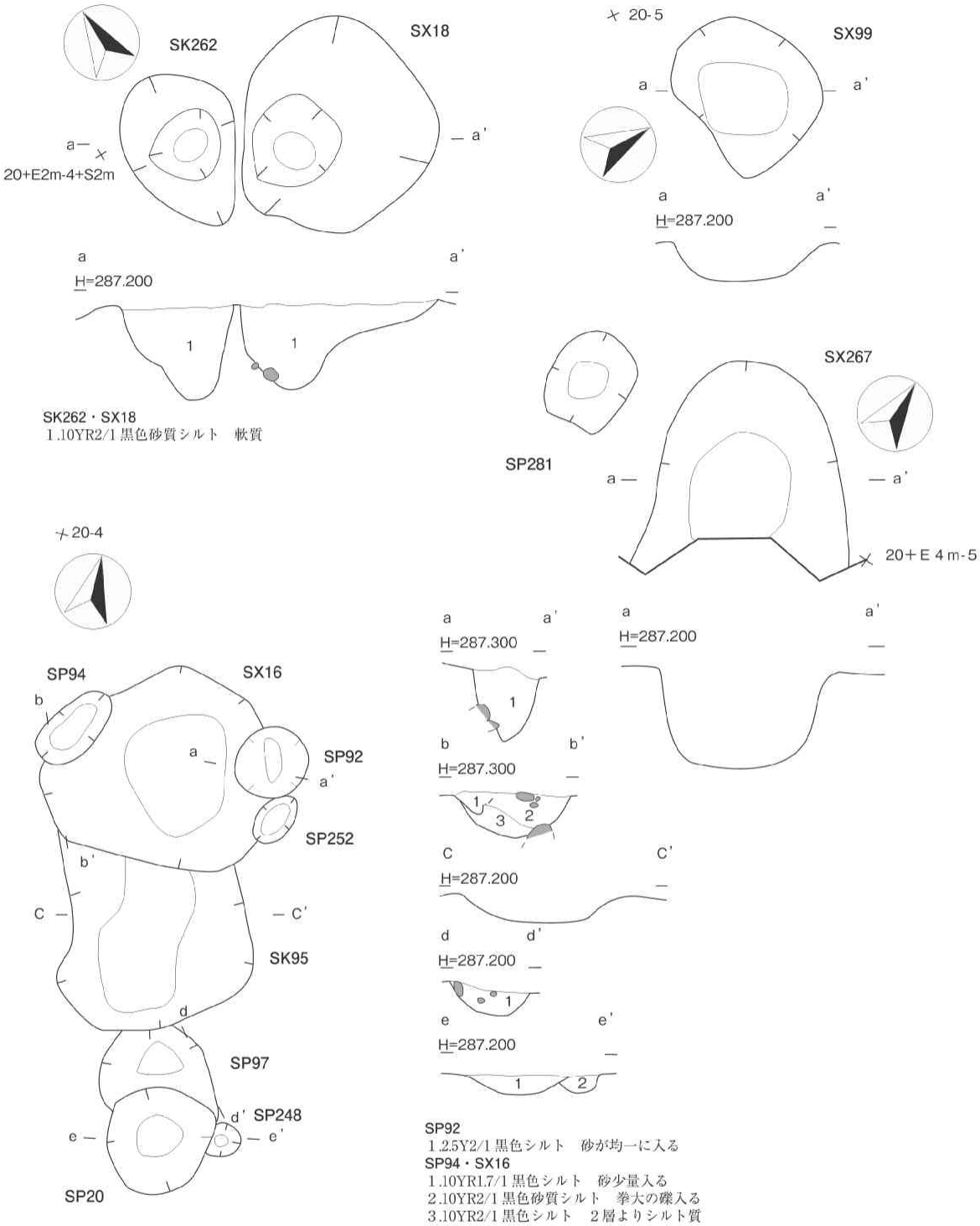
0　50cm
1：30

■は礫、■は土器

第７図　ＳＫ８・15

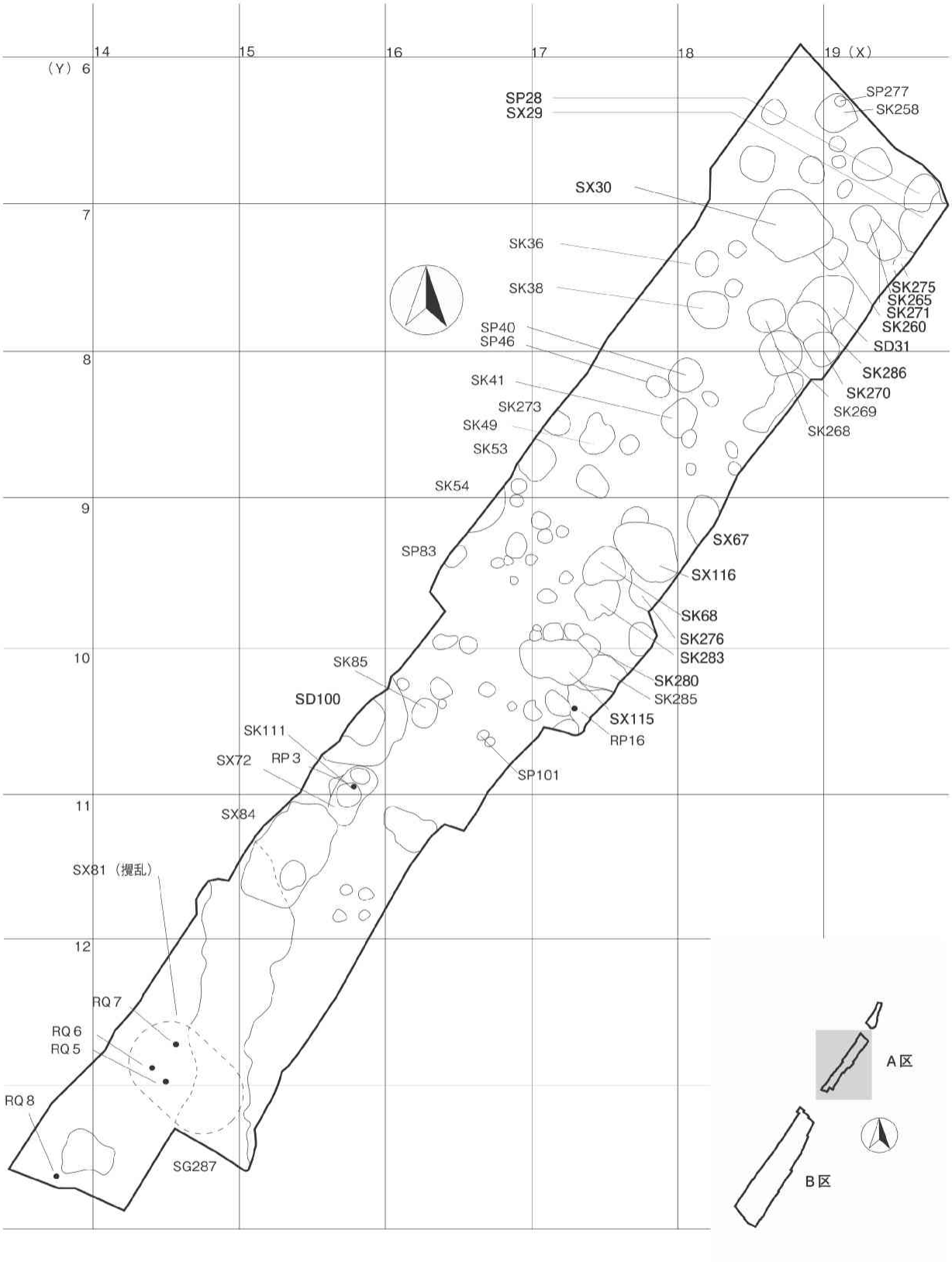


第８図　ＳＫ17・89・ＳＰ257・ＳＸ14他



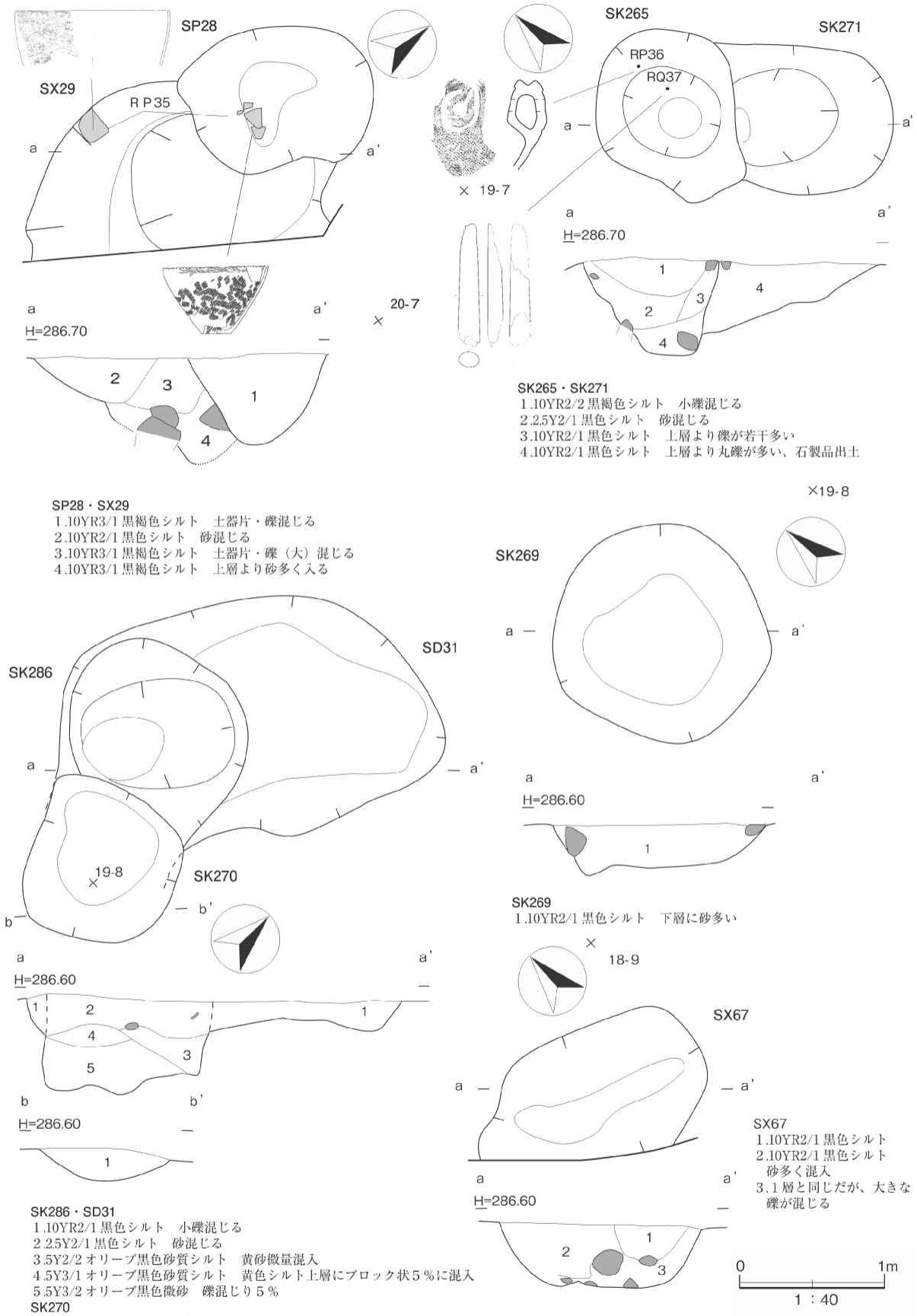
■は礫、■は土器

第９図　ＳＫ262・ＳＸ18・99・267他

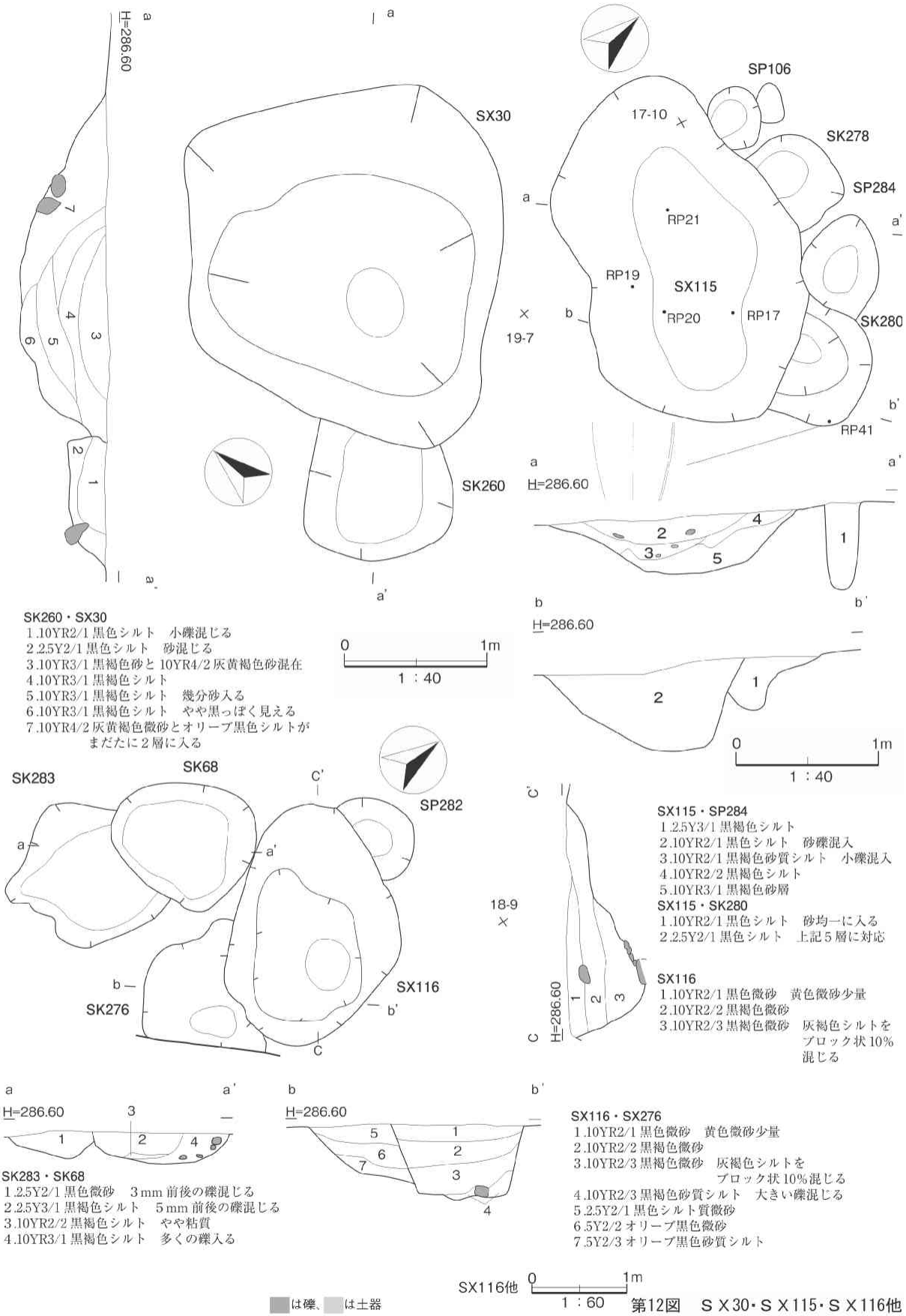


※掲載遺構については
太字にしている。

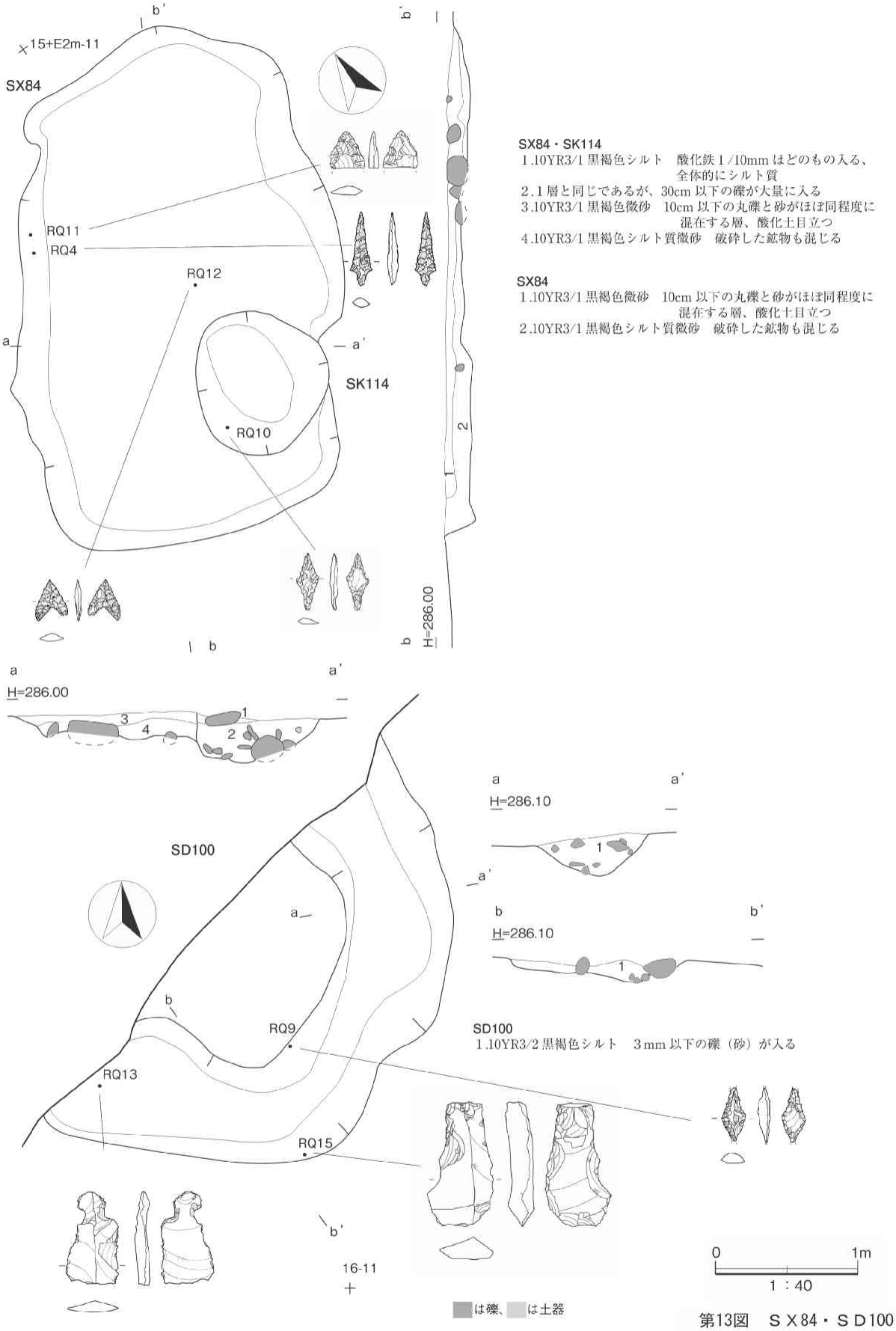
第10図　A区（中央～南）遺構配置図（S＝1：200）



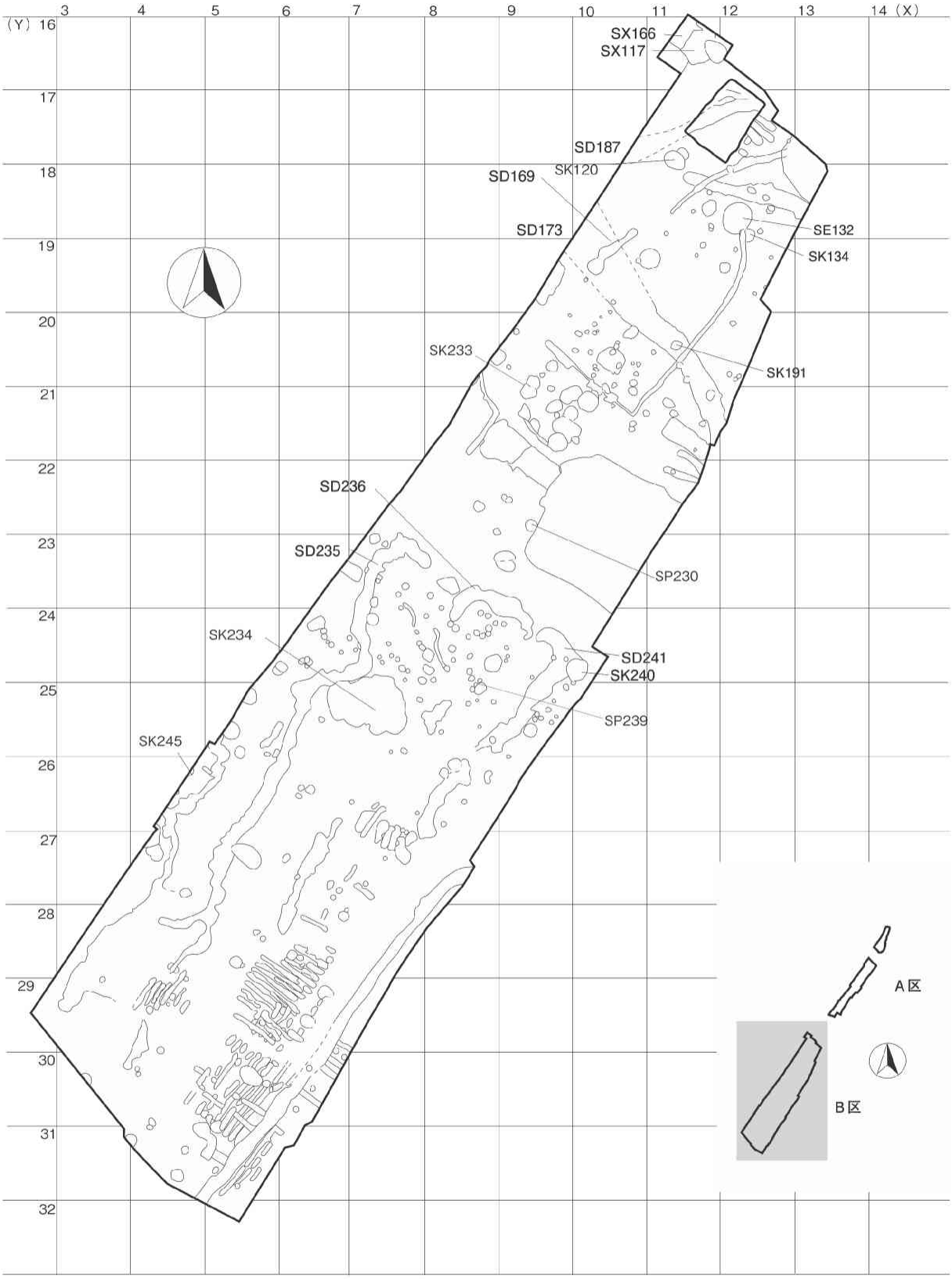
第11図　ＳＸ29・ＳＫ266・ＳＤ31・ＳＫ269・ＳＸ67他



第12図　ＳＸ30・ＳＸ115・ＳＸ116他

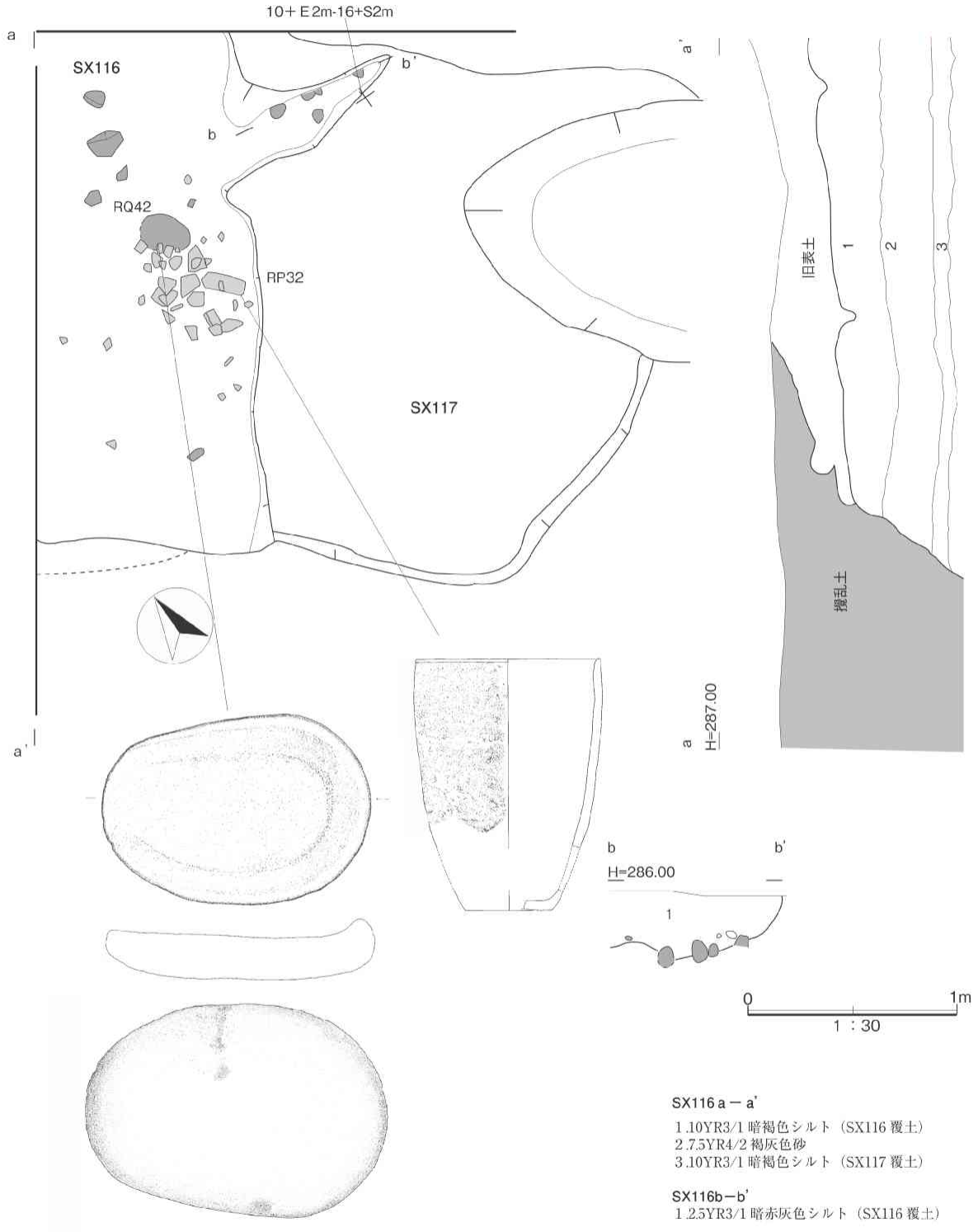


第13図　ＳＸ84・ＳＤ100

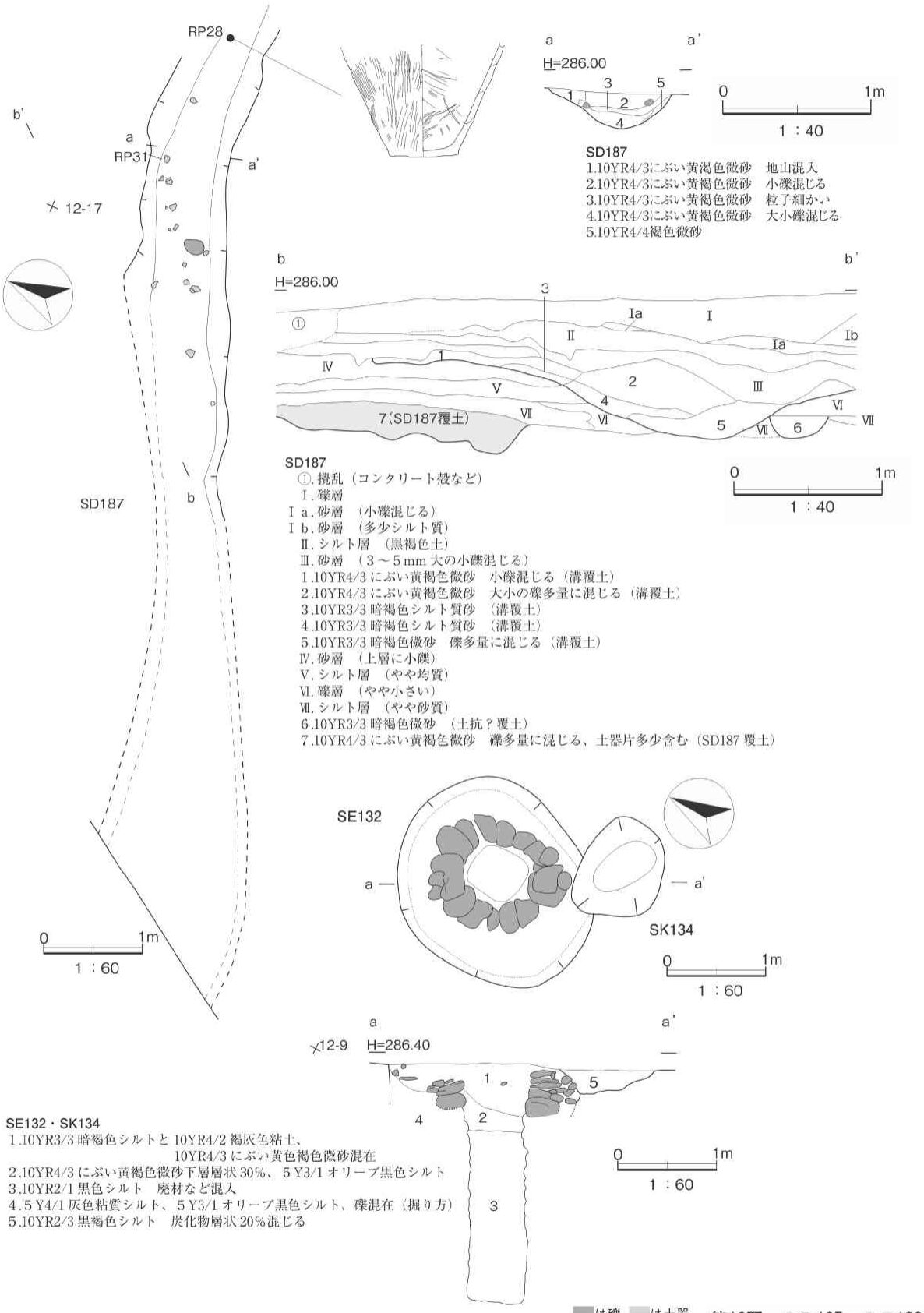


※掲載遺構については
太字にしている。

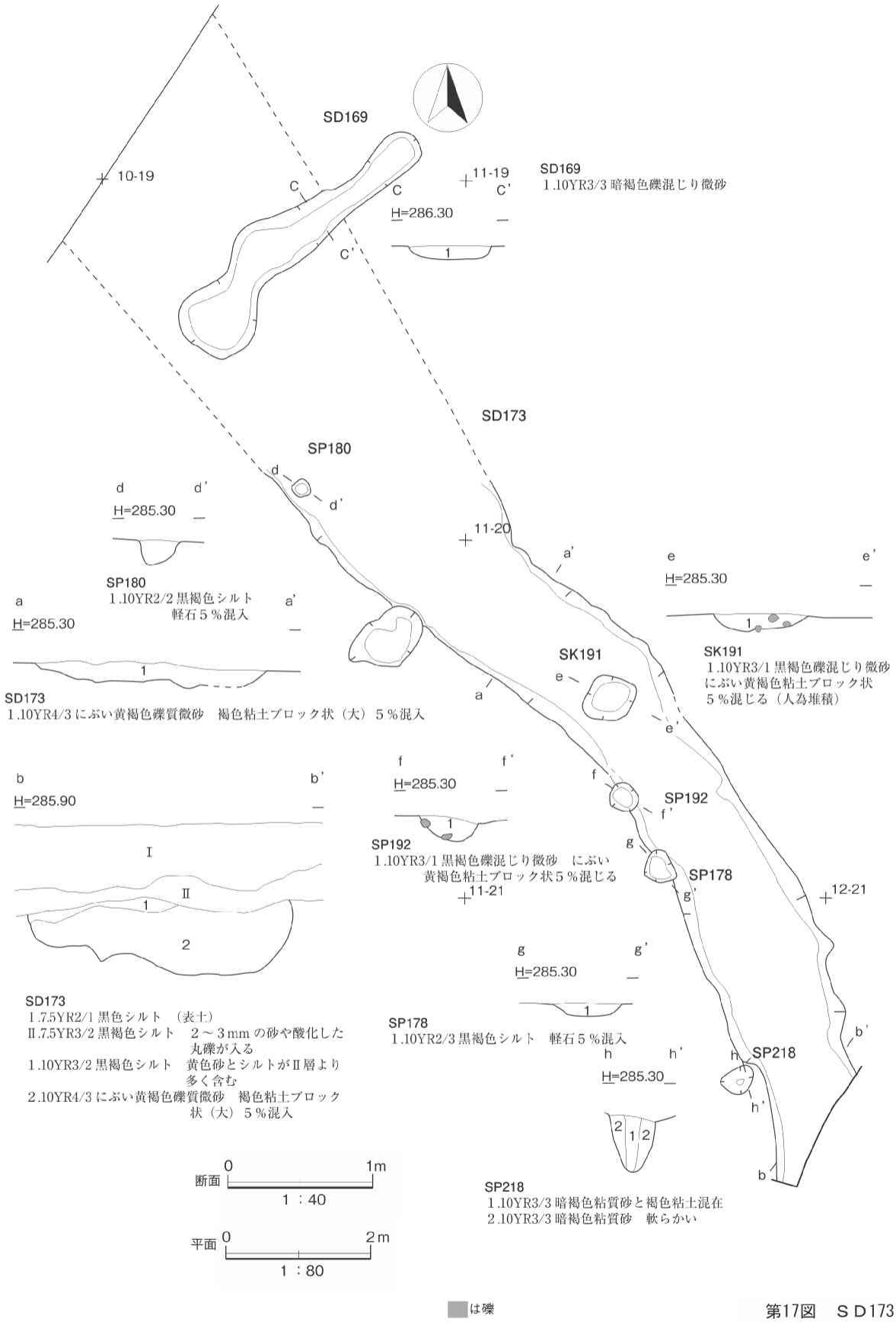
第14図　B区遺構配置図（S＝1：400）


10＋E2m-16+S2m
a
a'
SX116
b
b'
RQ42
RP32
SX117
旧表土
1
2
3
撹乱土
H=287.00
H=286.00
0
1m
1：30
SX116 a－a'
1.10YR3/1 暗褐色シルト（SX116 覆土）
2.7.5YR4/2 褐灰色砂
3.10YR3/1 暗褐色シルト（SX117 覆土）
SX116b－b'
1.2.5YR3/1 暗赤灰色シルト（SX116 覆土）

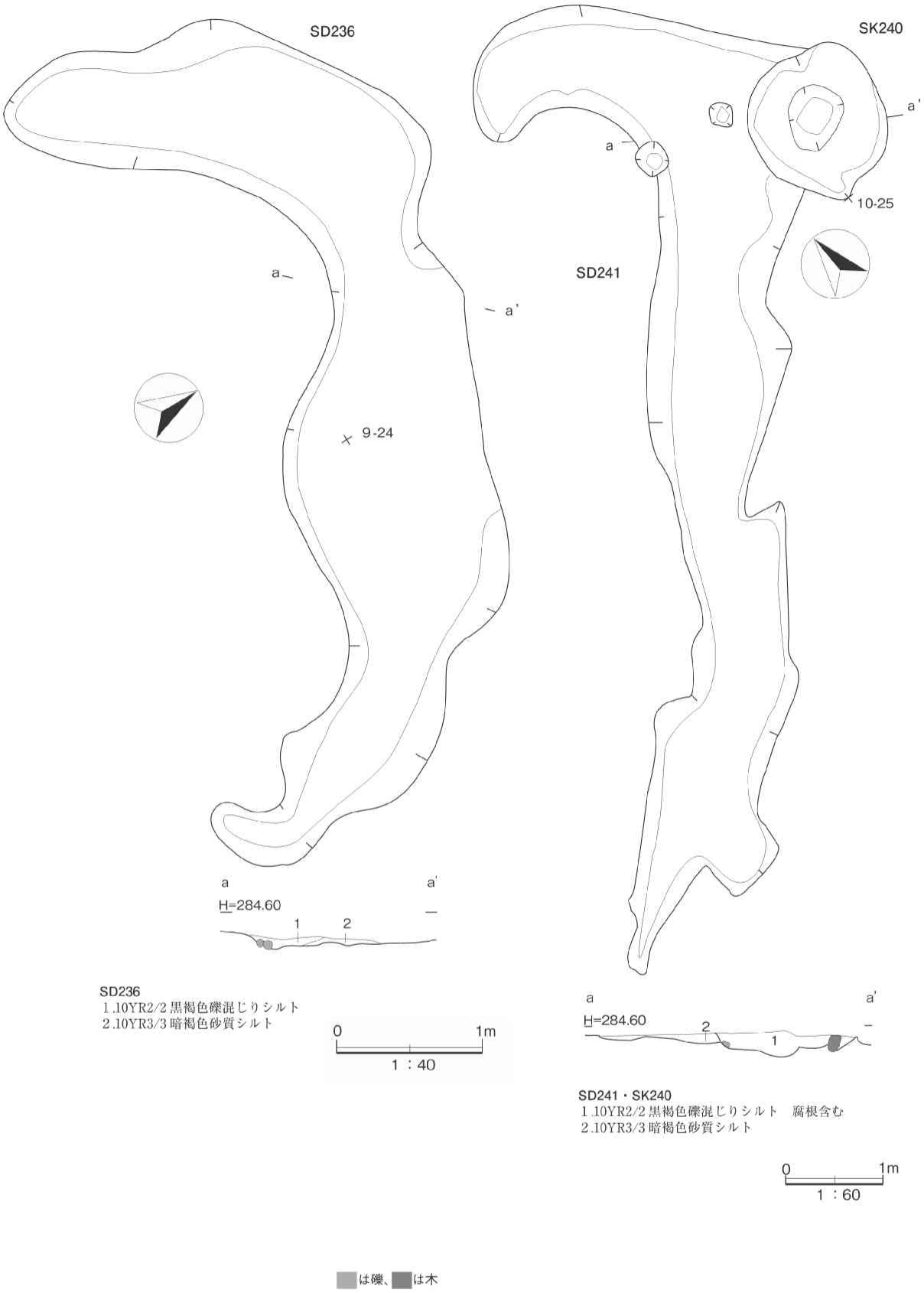
第15図　ＳＸ166



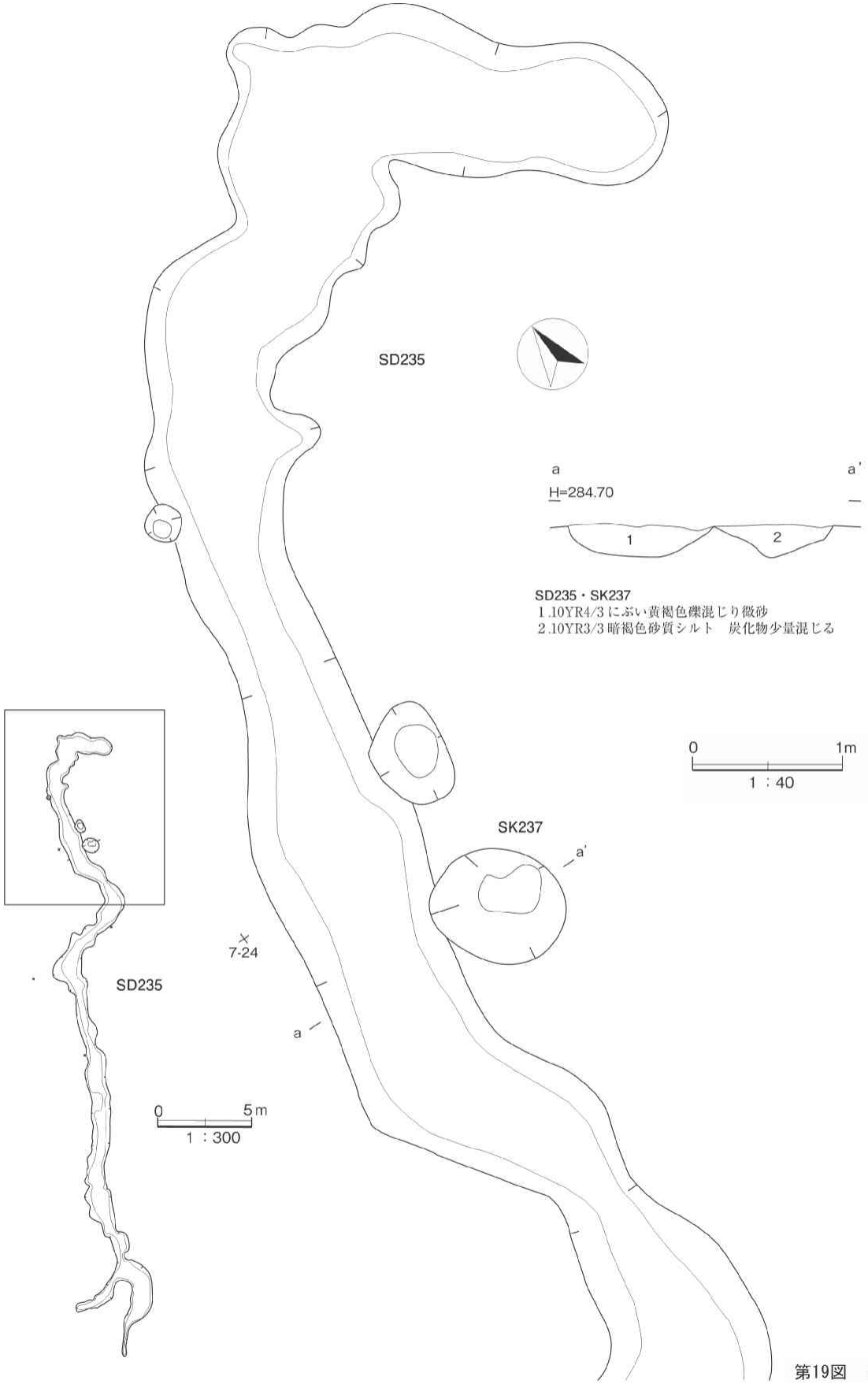
第16図　ＳＤ187・ＳＥ132


SD169
10-19
11-19
C
C'
H=286.30
1
SD169
1.10YR3/3 暗褐色礫混じり微砂
SD173
SP180
d
d'
H=285.30
SP180
1.10YR2/2 黒褐色シルト
軽石５％混入
a
a'
H=285.30
1
SD173
1.10YR4/3 にぶい黄褐色礫質微砂　褐色粘土ブロック状（大）５％混入
11-20
e
e'
H=285.30
1
SK191
1.10YR3/1 黒褐色礫混じり微砂
にぶい黄褐色粘土ブロック状
５％混じる（人為堆積）
SK191
b
b'
H=285.90
Ⅰ
Ⅱ
1
2
SD173
1.7.5YR2/1 黒色シルト　（表土）
Ⅱ.7.5YR3/2 黒褐色シルト　２～３mm の砂や酸化した丸礫が入る
1.10YR3/2 黒褐色シルト　黄色砂とシルトがⅡ層より多く含む
2.10YR4/3 にぶい黄褐色礫質微砂　褐色粘土ブロック状（大）５％混入
f
f'
H=285.30
1
SP192
1.10YR3/1 黒褐色礫混じり微砂　にぶい黄褐色粘土ブロック状５％混じる
SP192
11-21
g
g'
H=285.30
1
SP178
1.10YR2/3 黒褐色シルト　軽石５％混入
SP178
12-21
h
h'
H=285.30
2
1
2
SP218
1.10YR3/3 暗褐色粘質砂と褐色粘土混在
2.10YR3/3 暗褐色粘質砂　軟らかい
SP218
断面
0
1m
1：40
平面
0
2m
1：80
は礫

第17図　ＳＤ173

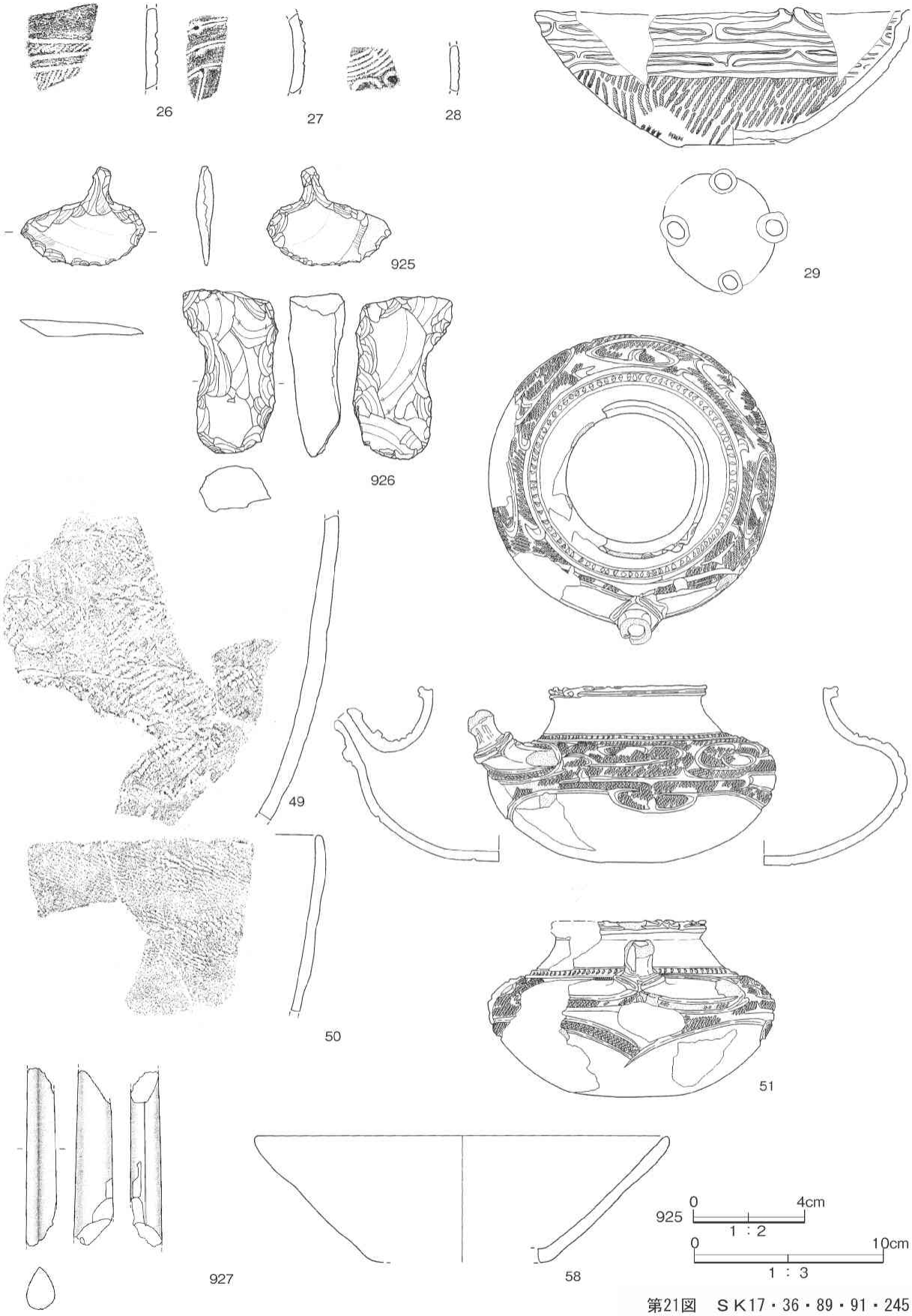


第18図　ＳＤ236・241

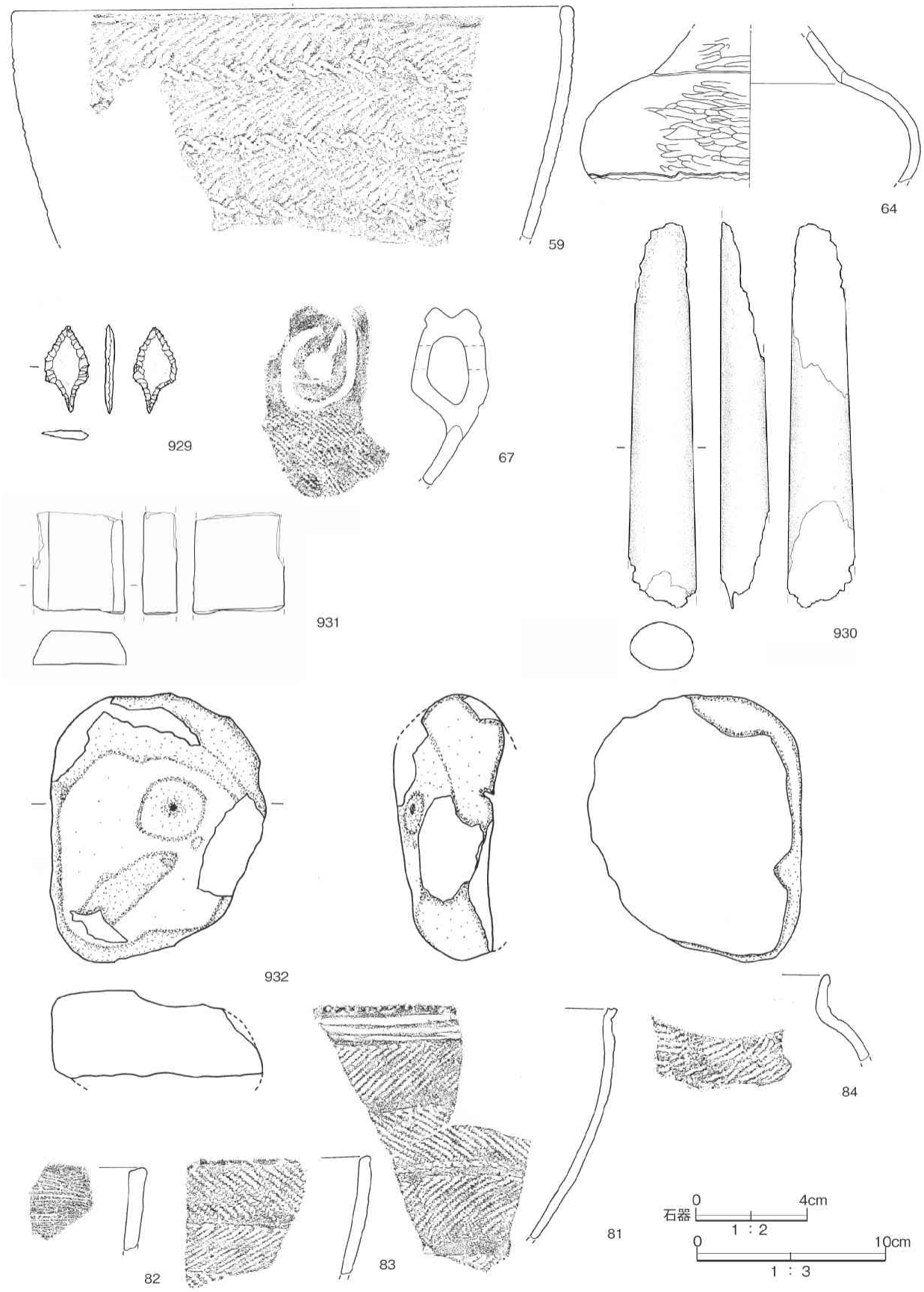

SD235
a
a'
H=284.70
1
2
SD235・SK237
1.10YR4/3にぶい黄褐色礫混じり微砂
2.10YR3/3暗褐色砂質シルト　炭化物少量混じる
0
1m
1：40
SK237
a'
7-24
SD235
a
0
5m
1：300

第19図　ＳＤ235

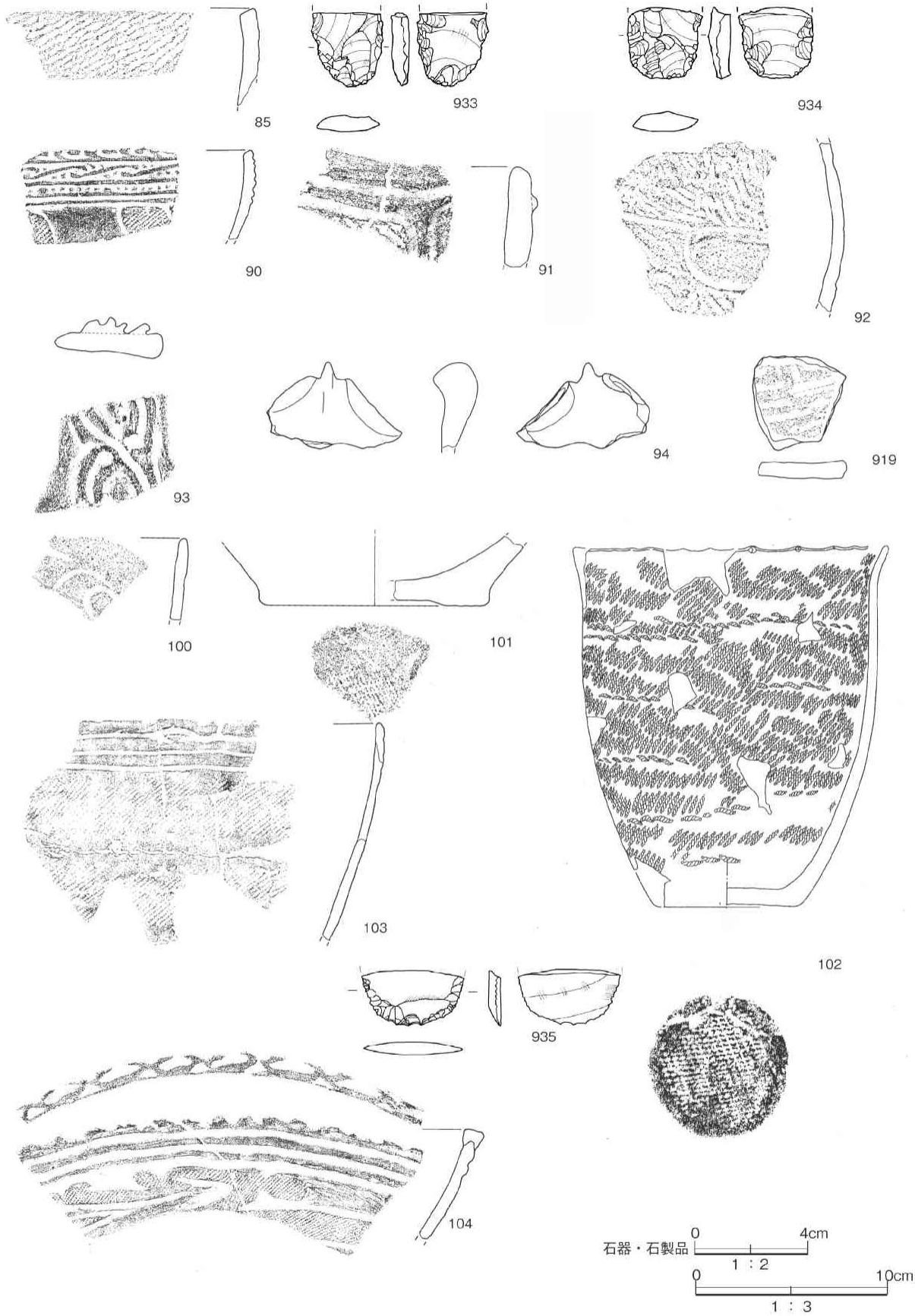
第20図　ＳＫ８・15・17



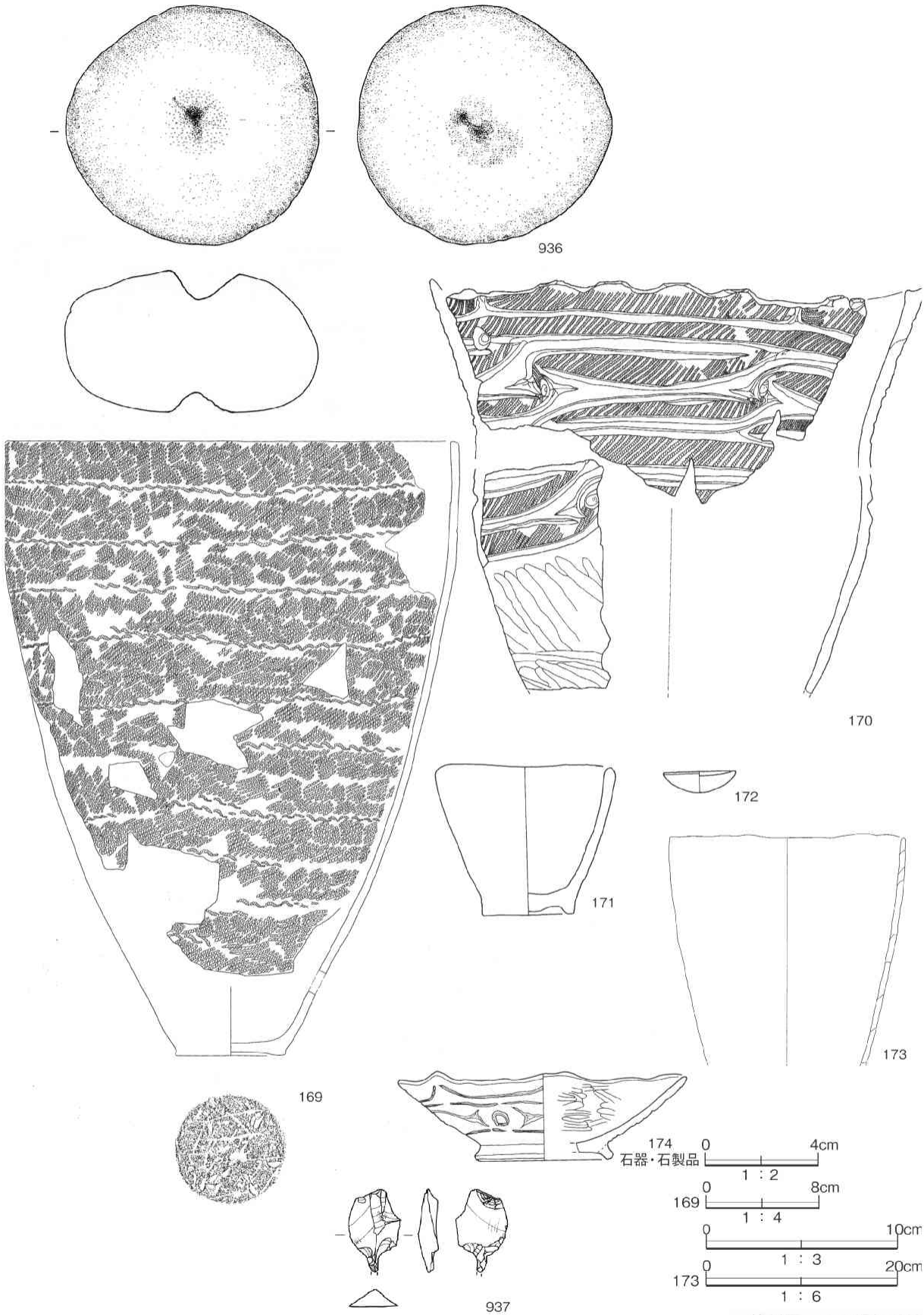
第21図　ＳＫ17・36・89・91・245



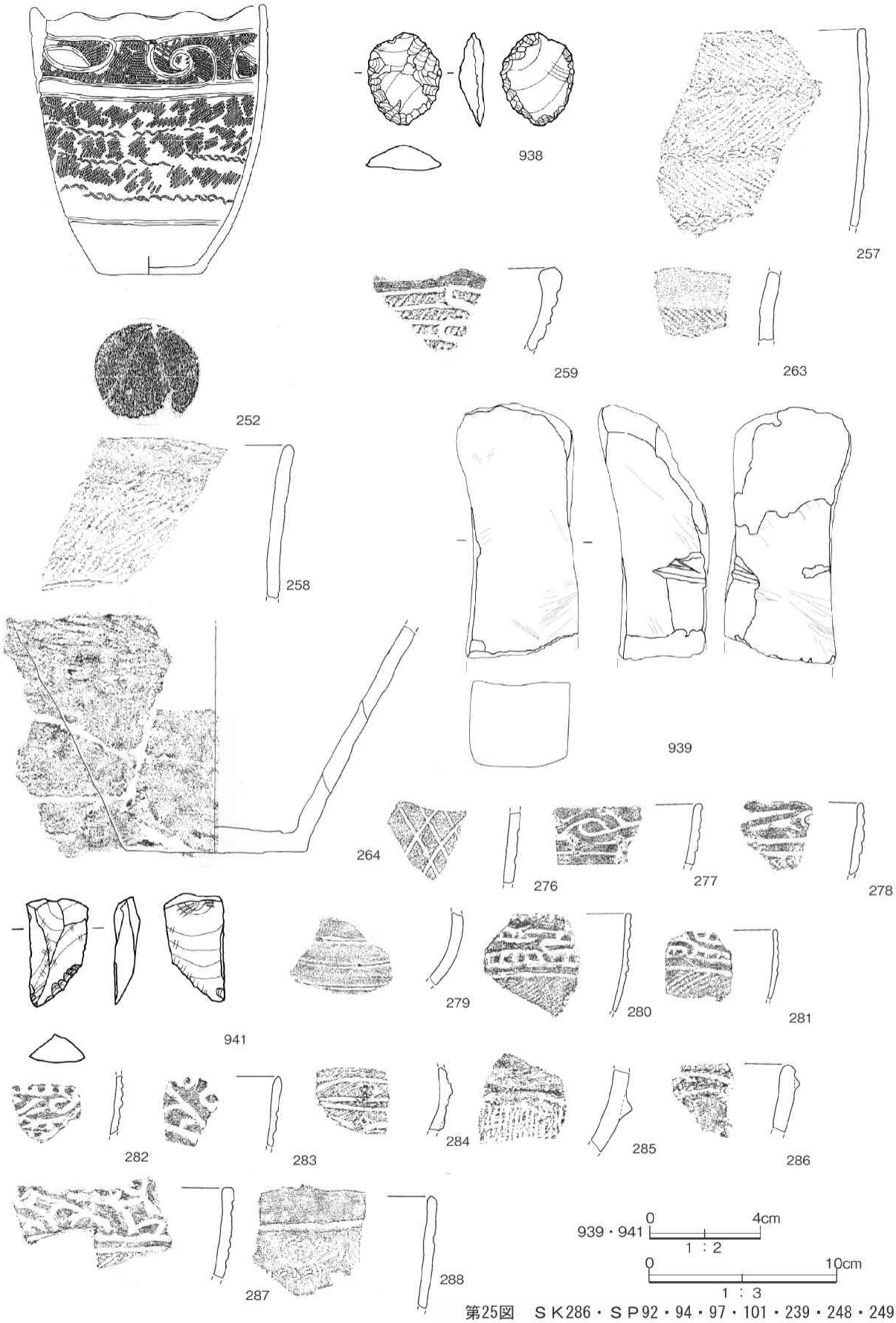
第22図　ＳＫ260・265・266



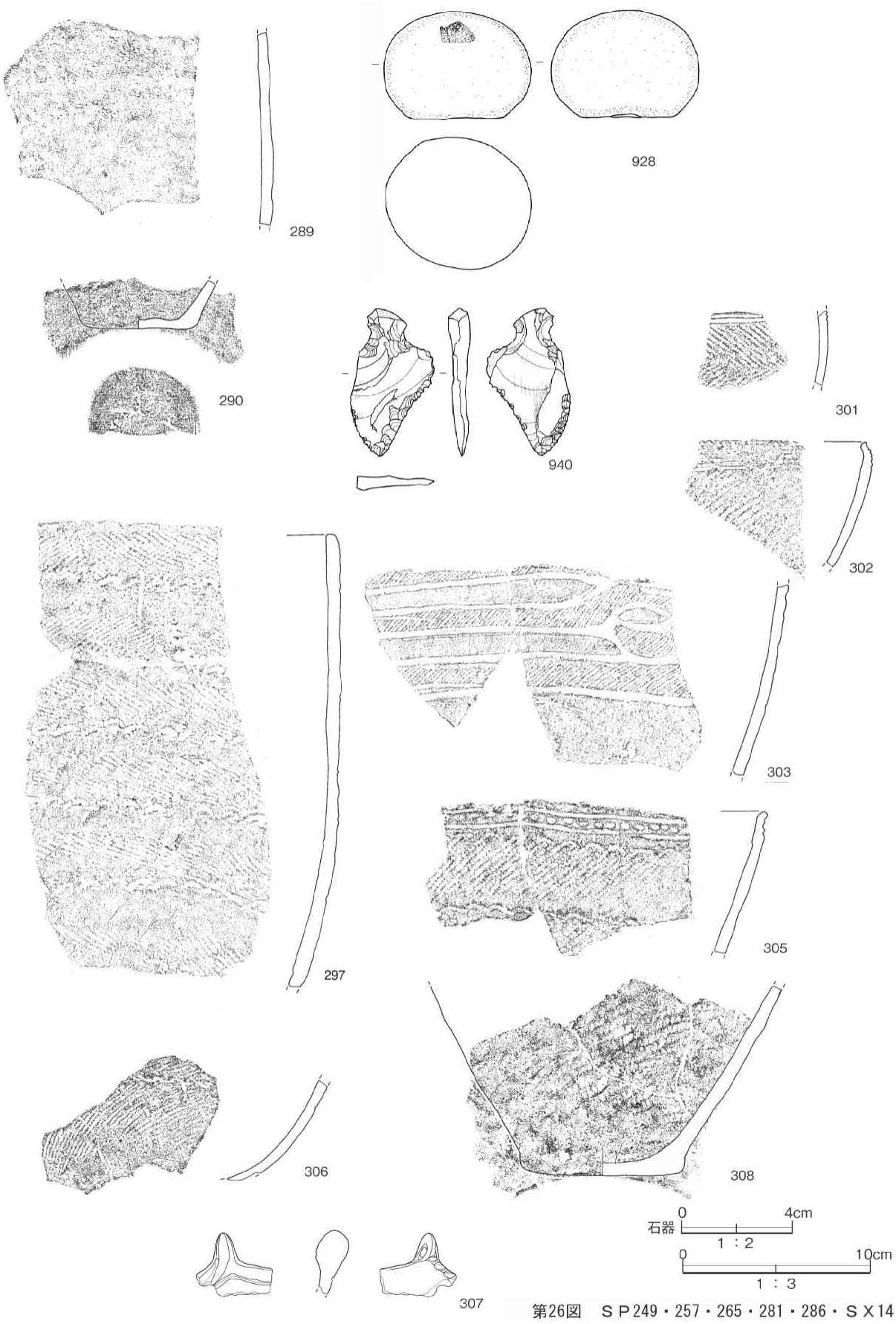
第23図　ＳＫ266・269・270・271・274・275



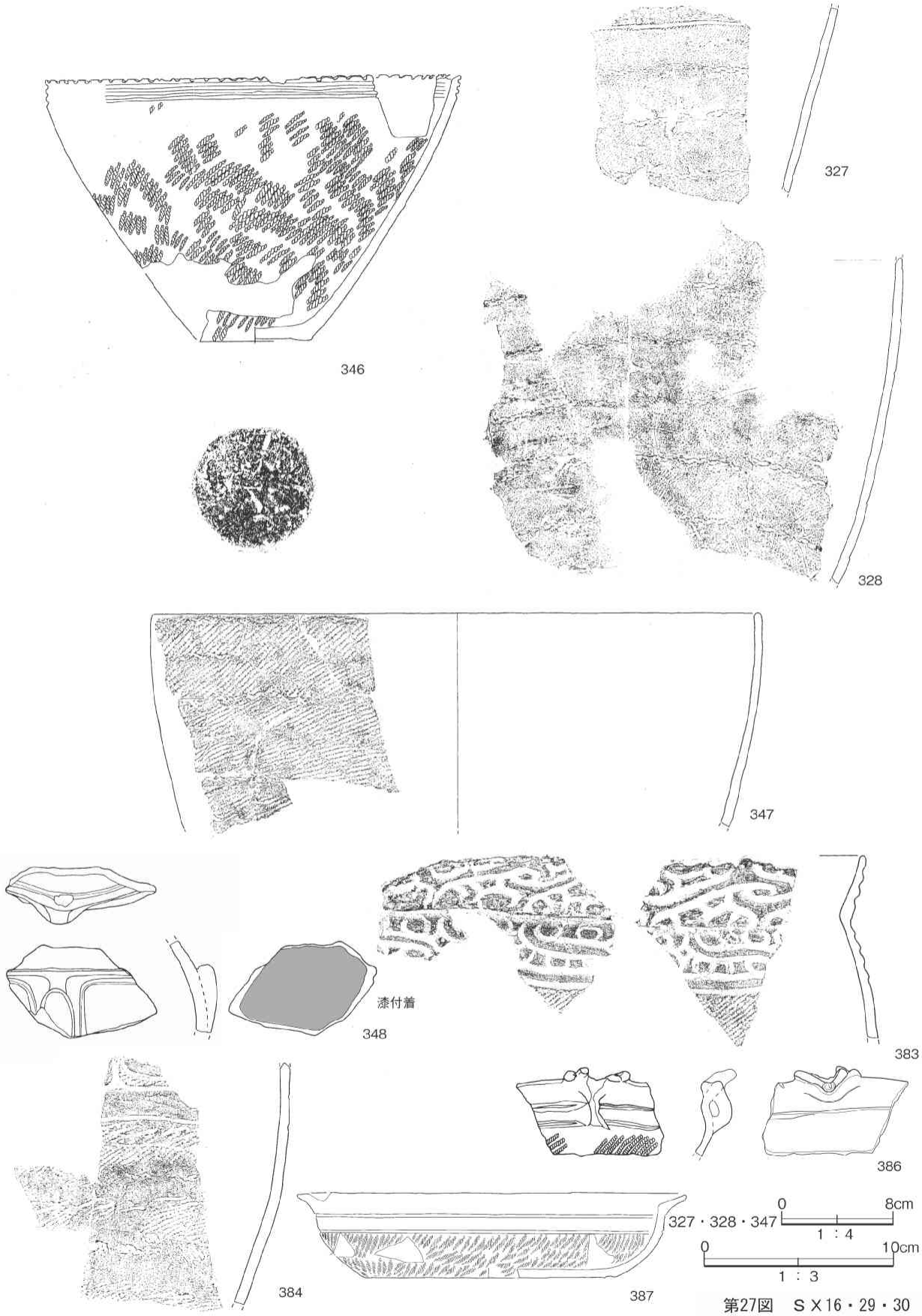
第24図　ＳＫ276・280



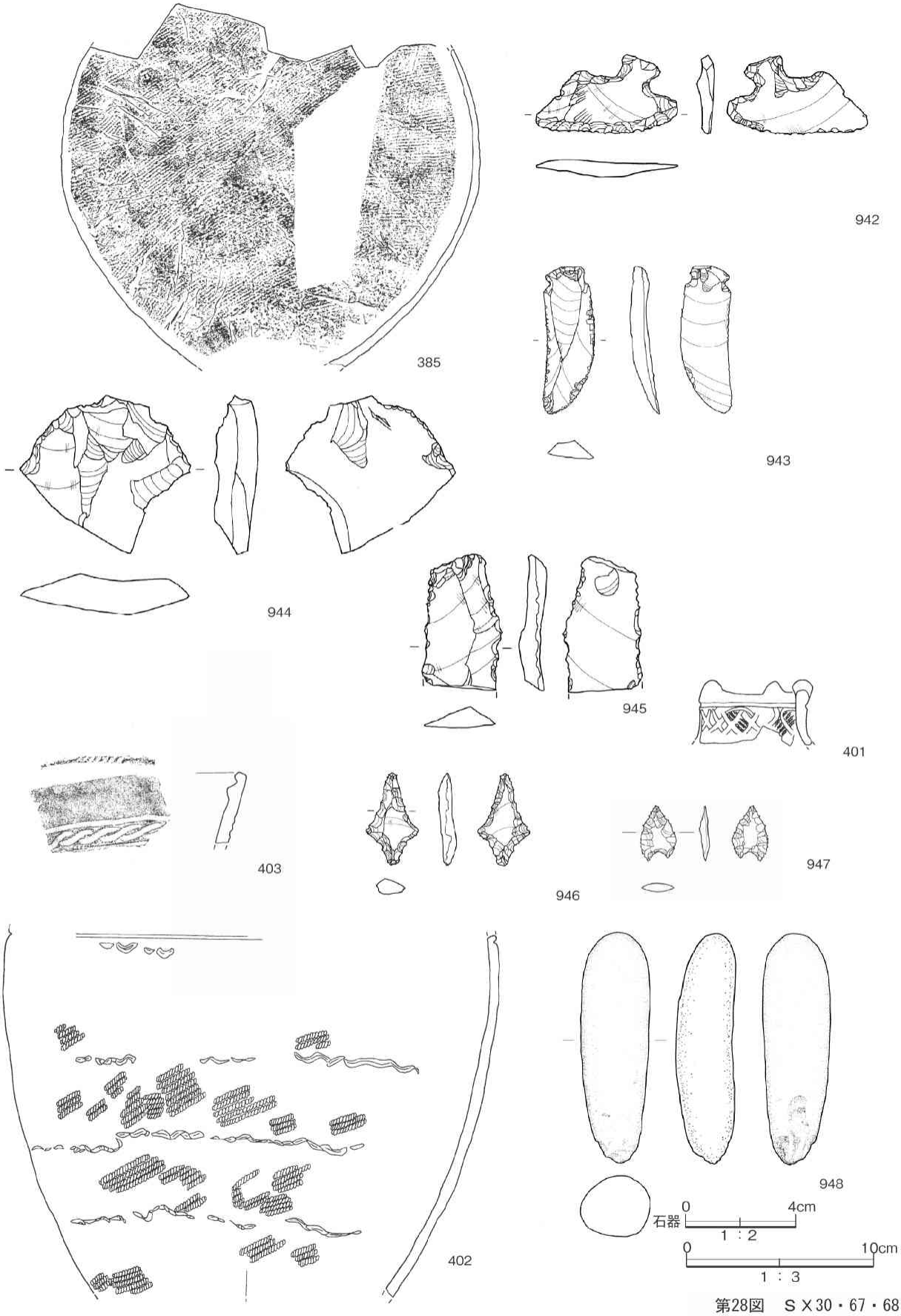
第25図　ＳＫ286・ＳＰ92・94・97・101・239・248・249



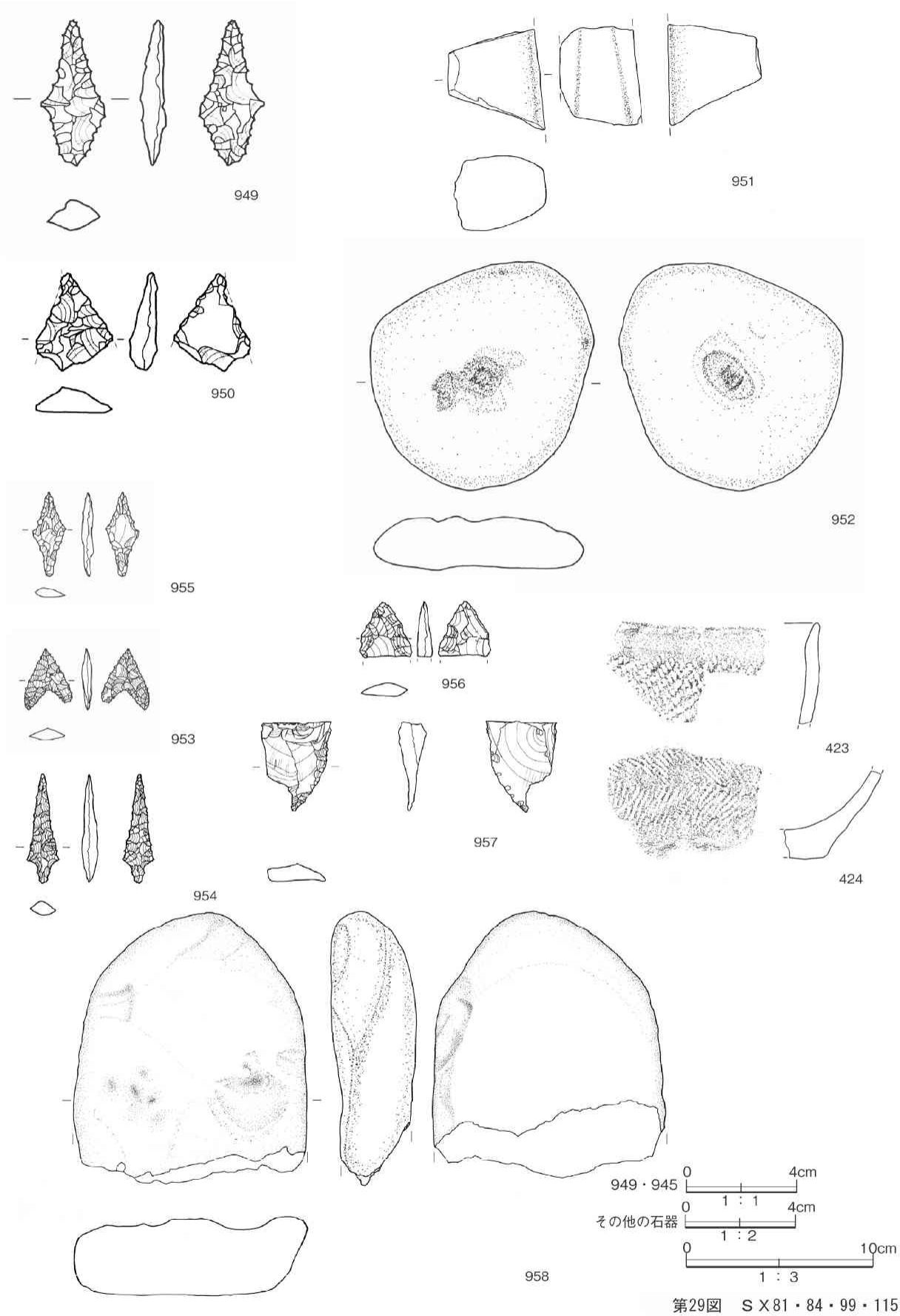
第26図　ＳＰ249・257・265・281・286・ＳＸ14



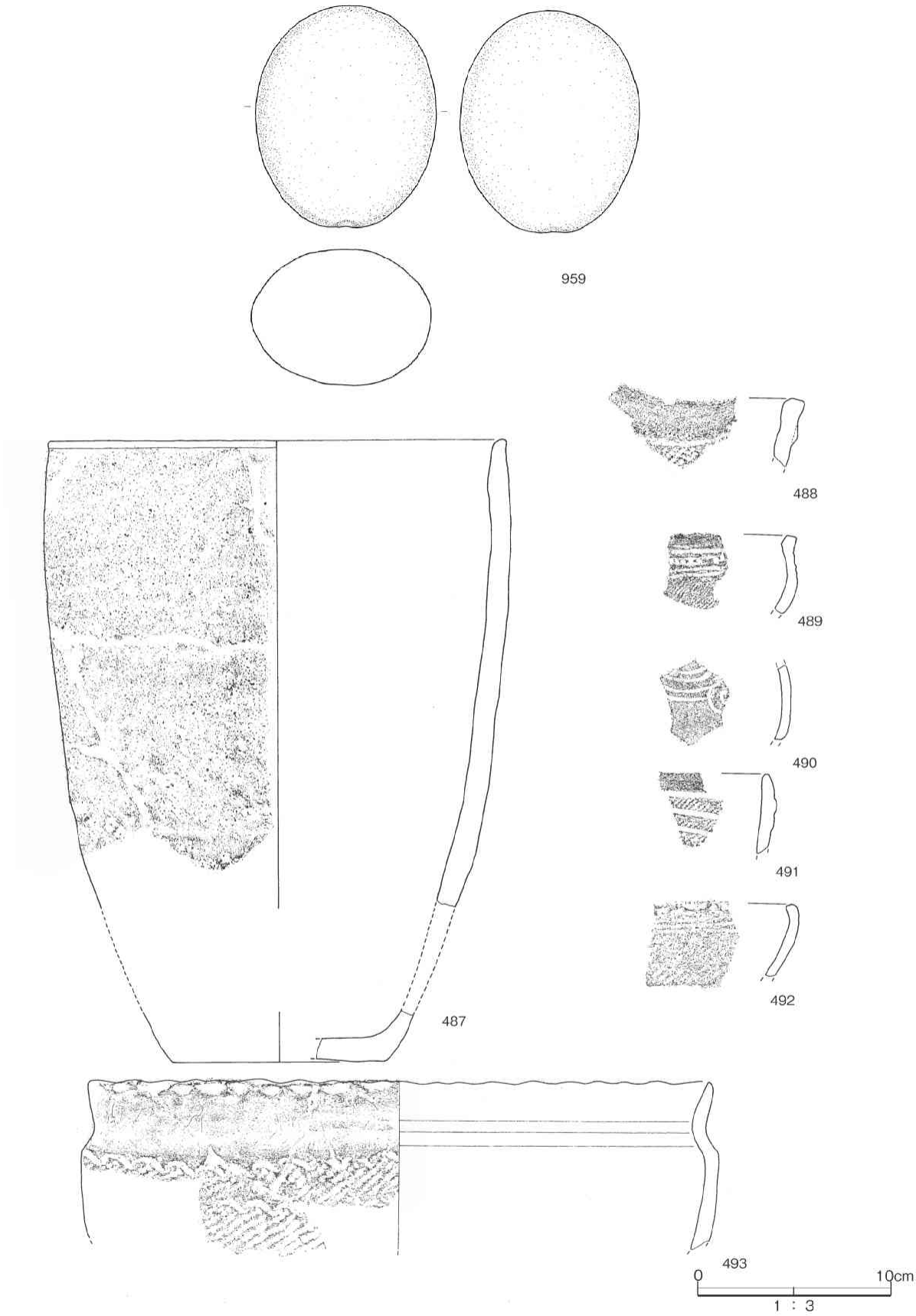
第27図　ＳＸ16・29・30



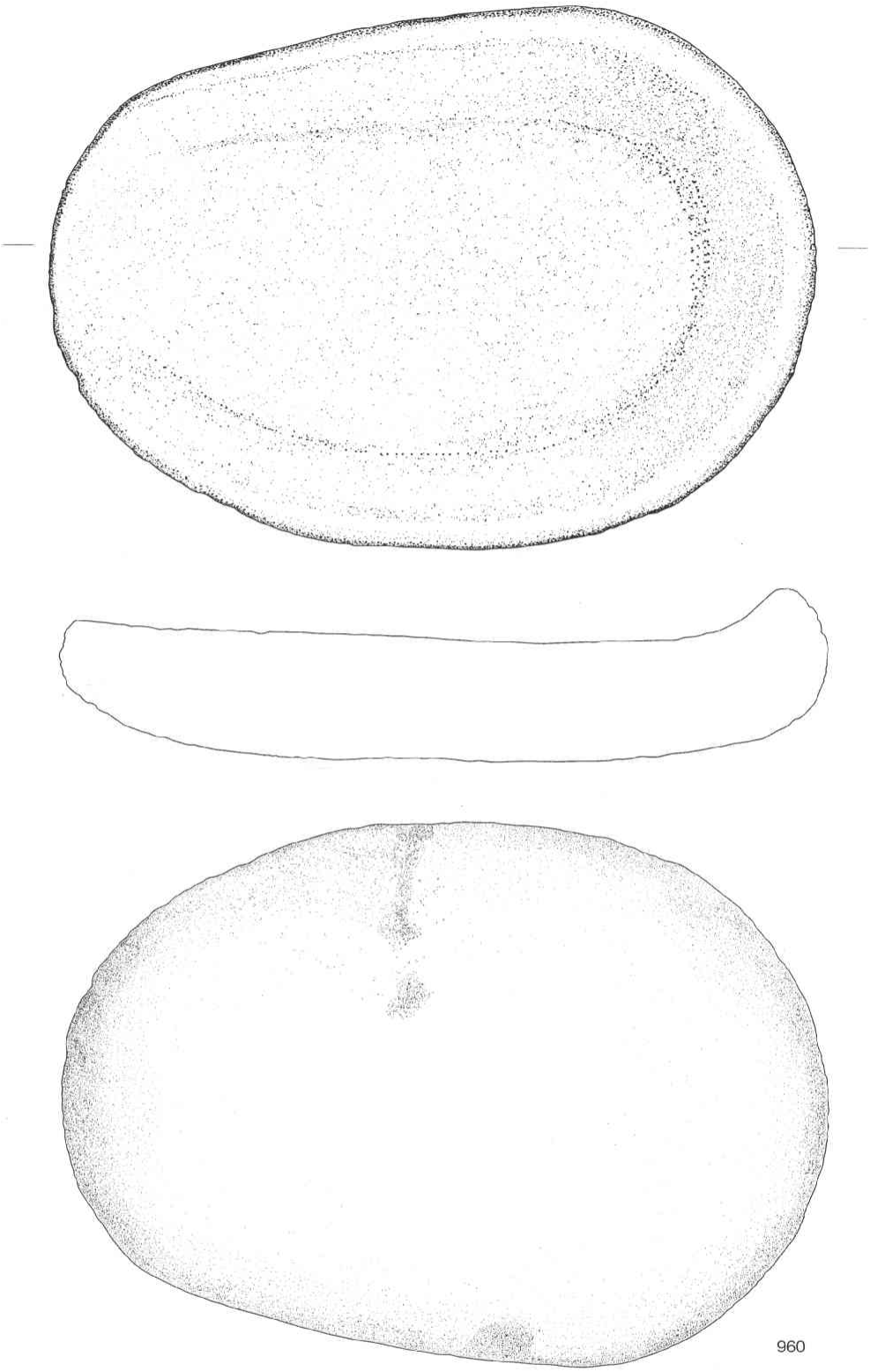
第28図　S X 30・67・68

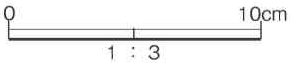


第29図　ＳＸ81・84・99・115

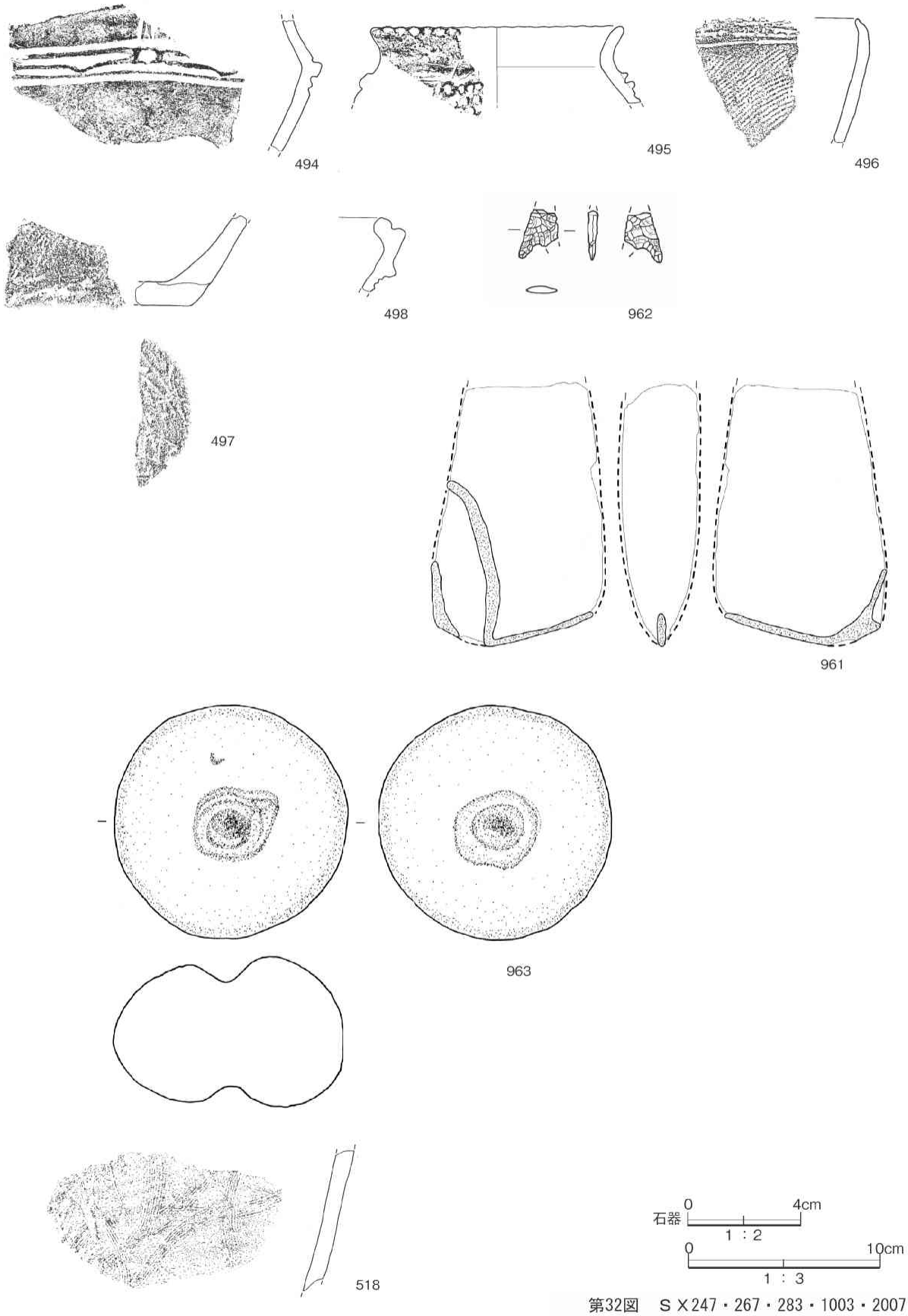


第30図　ＳＸ127・166・247

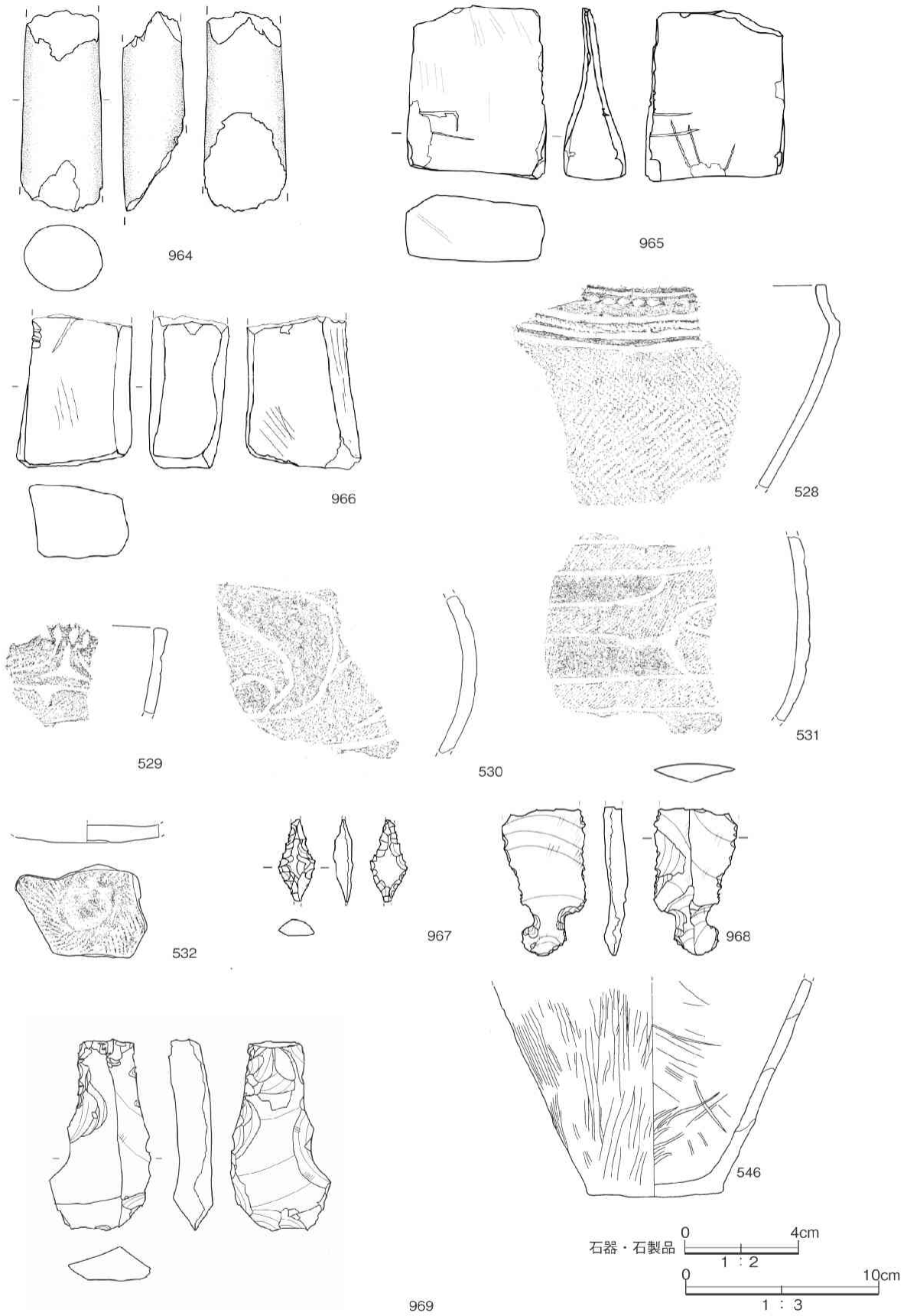




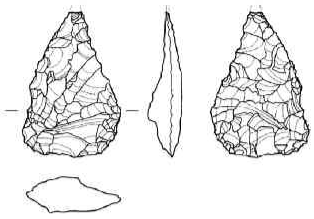
第31図　ＳＸ166



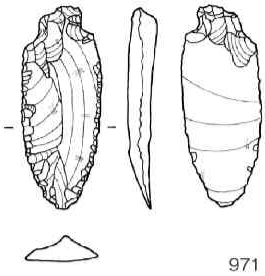
第32図　ＳＸ247・267・283・1003・2007



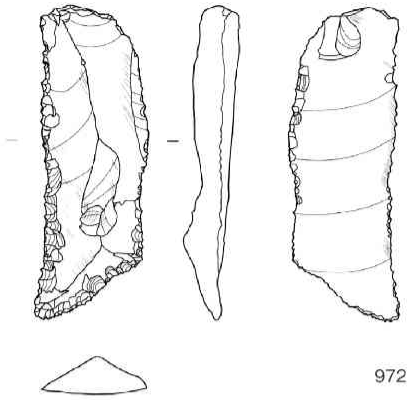
第33図　ＳＸ2007・ＳＤ30・100・ＳＤ187



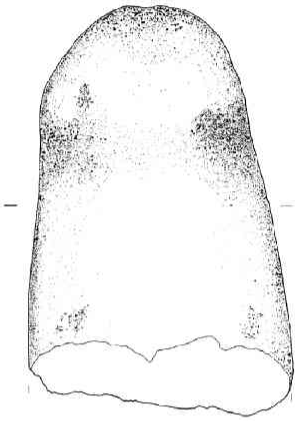
970

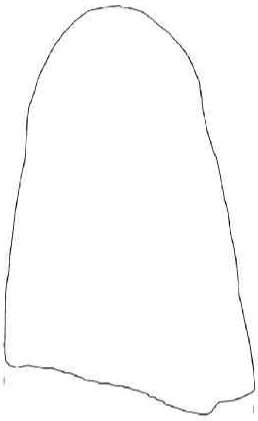


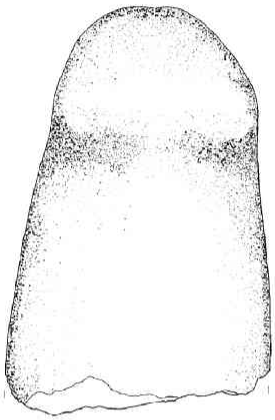
971

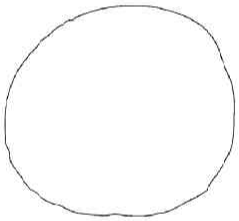


972

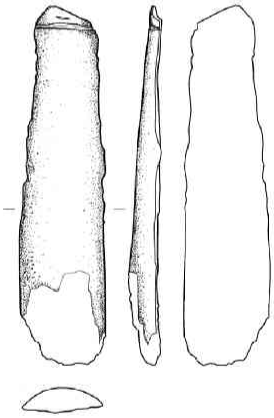




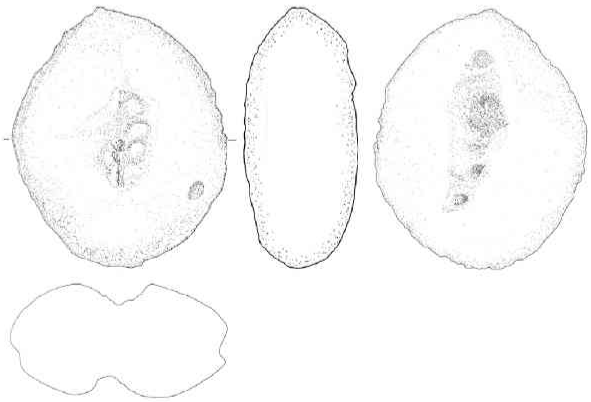




973



974

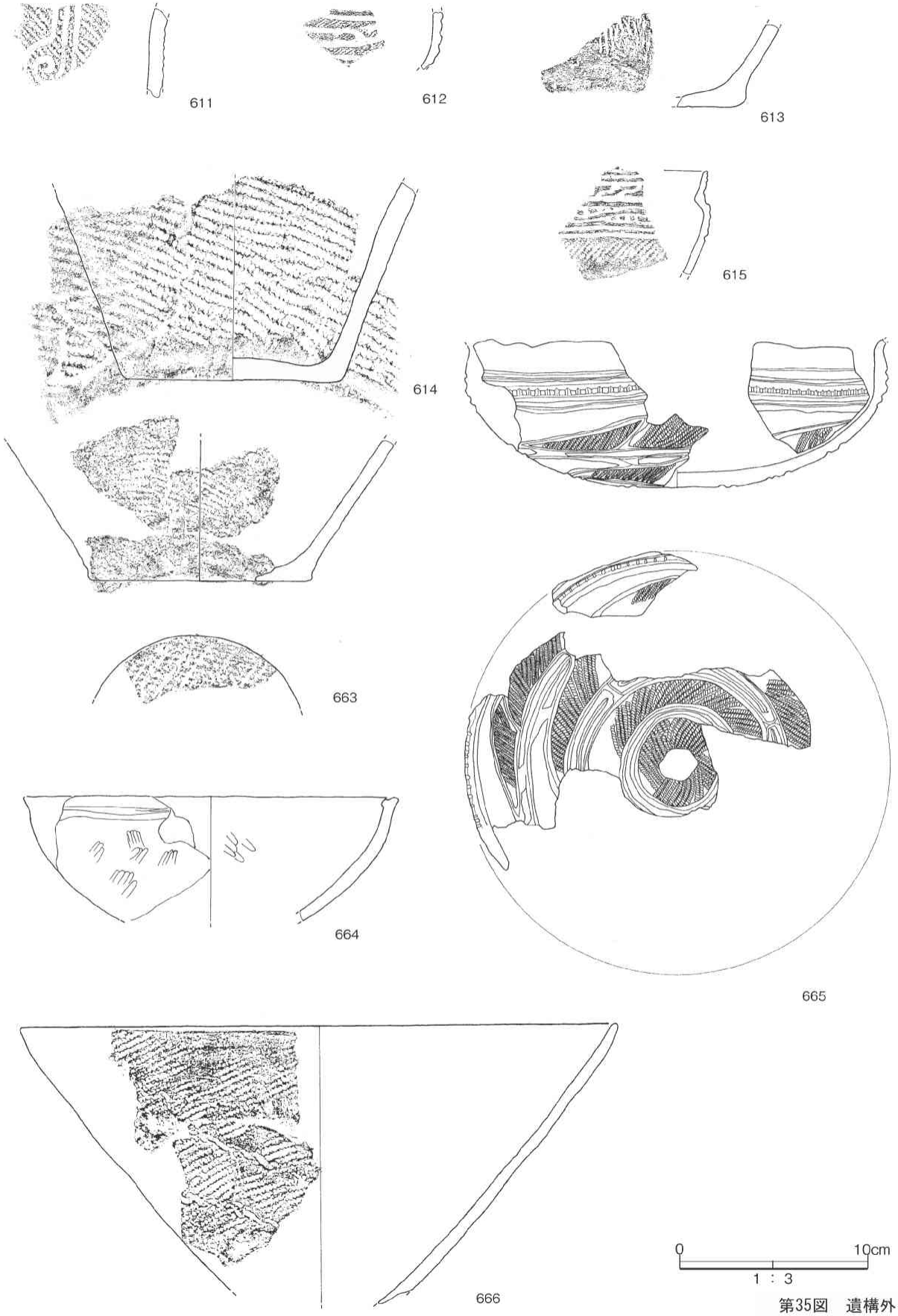


975

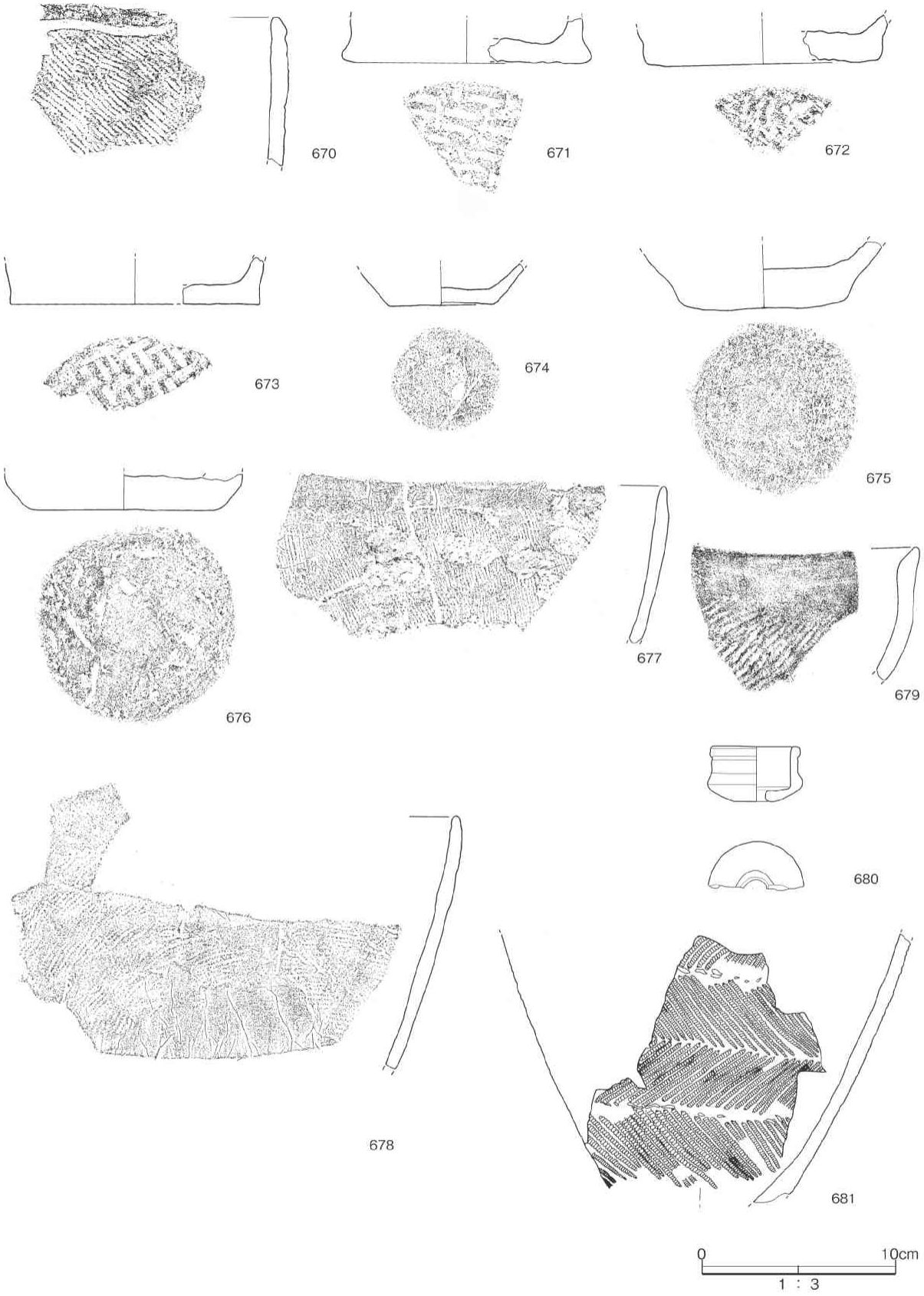
970・971・972・974 0 4cm 1：2

0 10cm 1：3

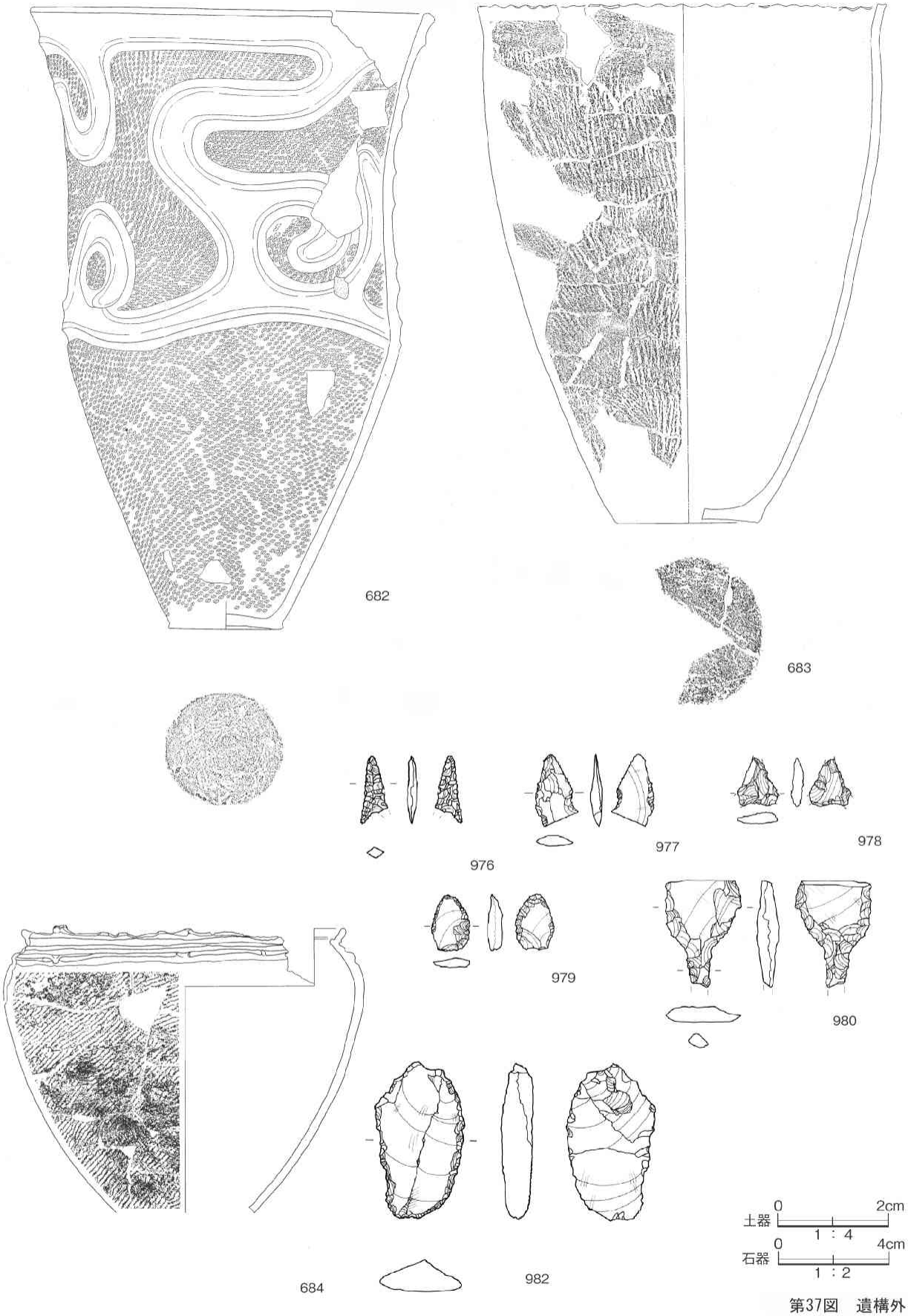
第34図　ＳＧ287



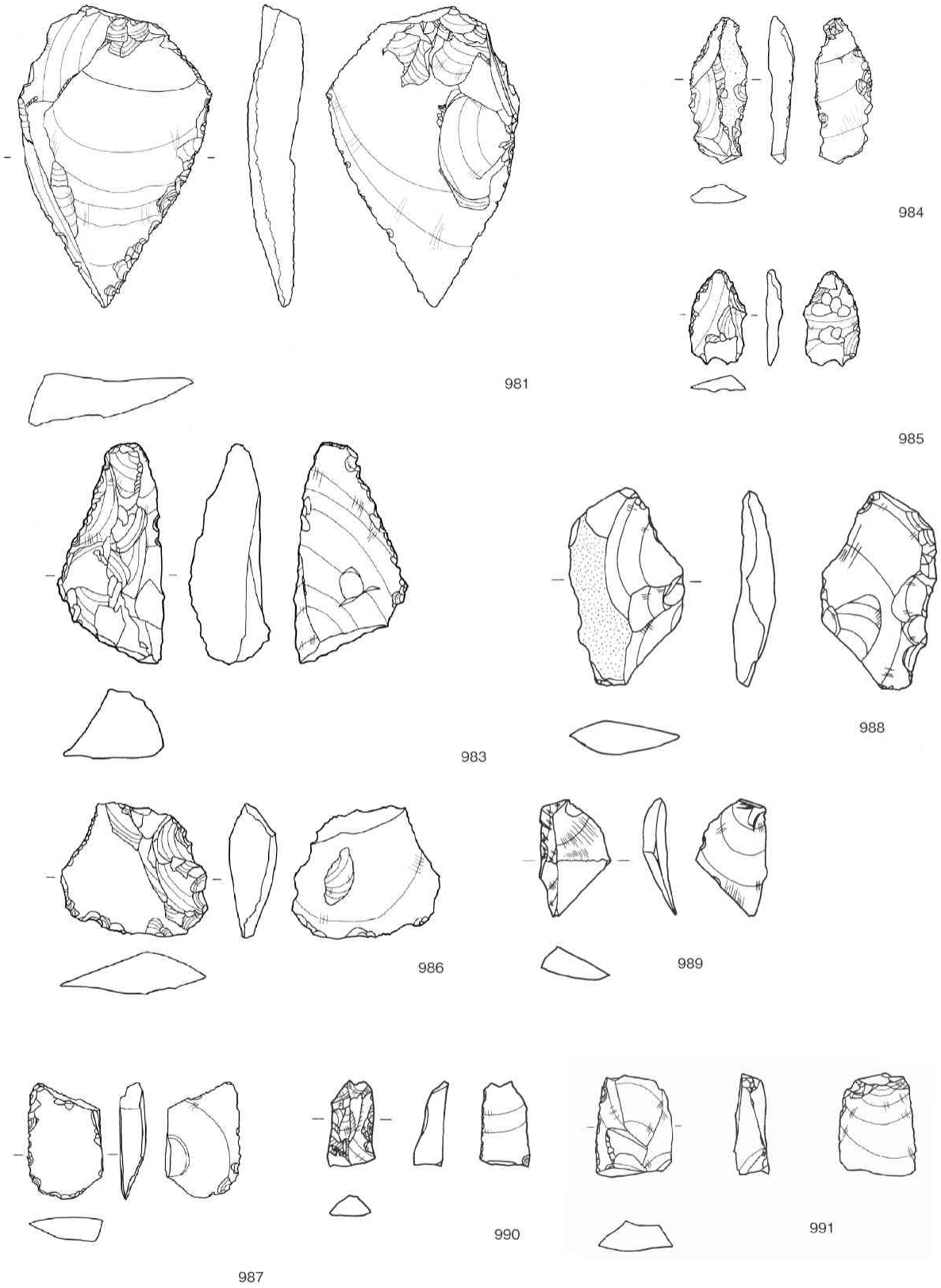
第35図　遺構外



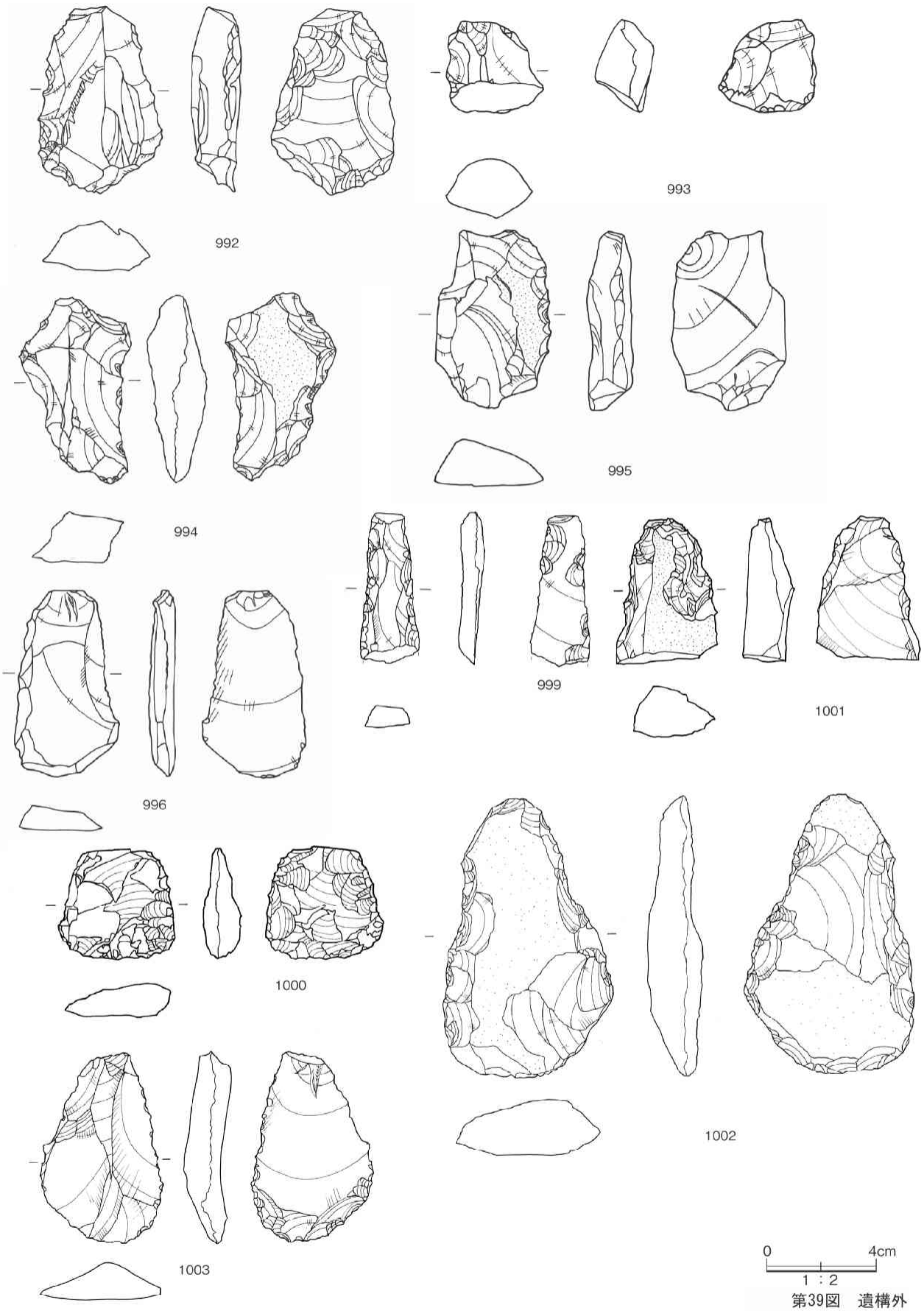
第36図　遺構外



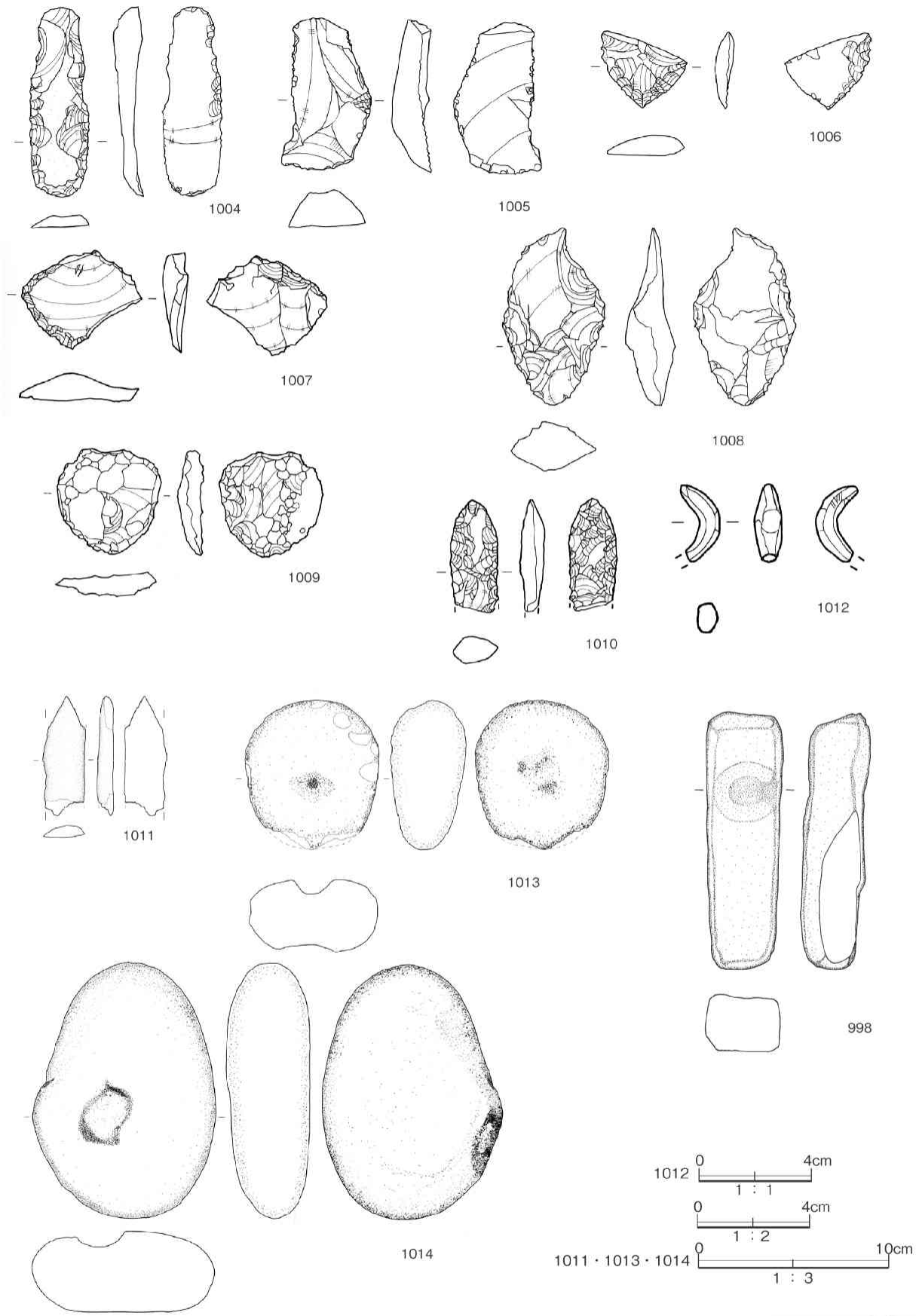
第37図　遺構外



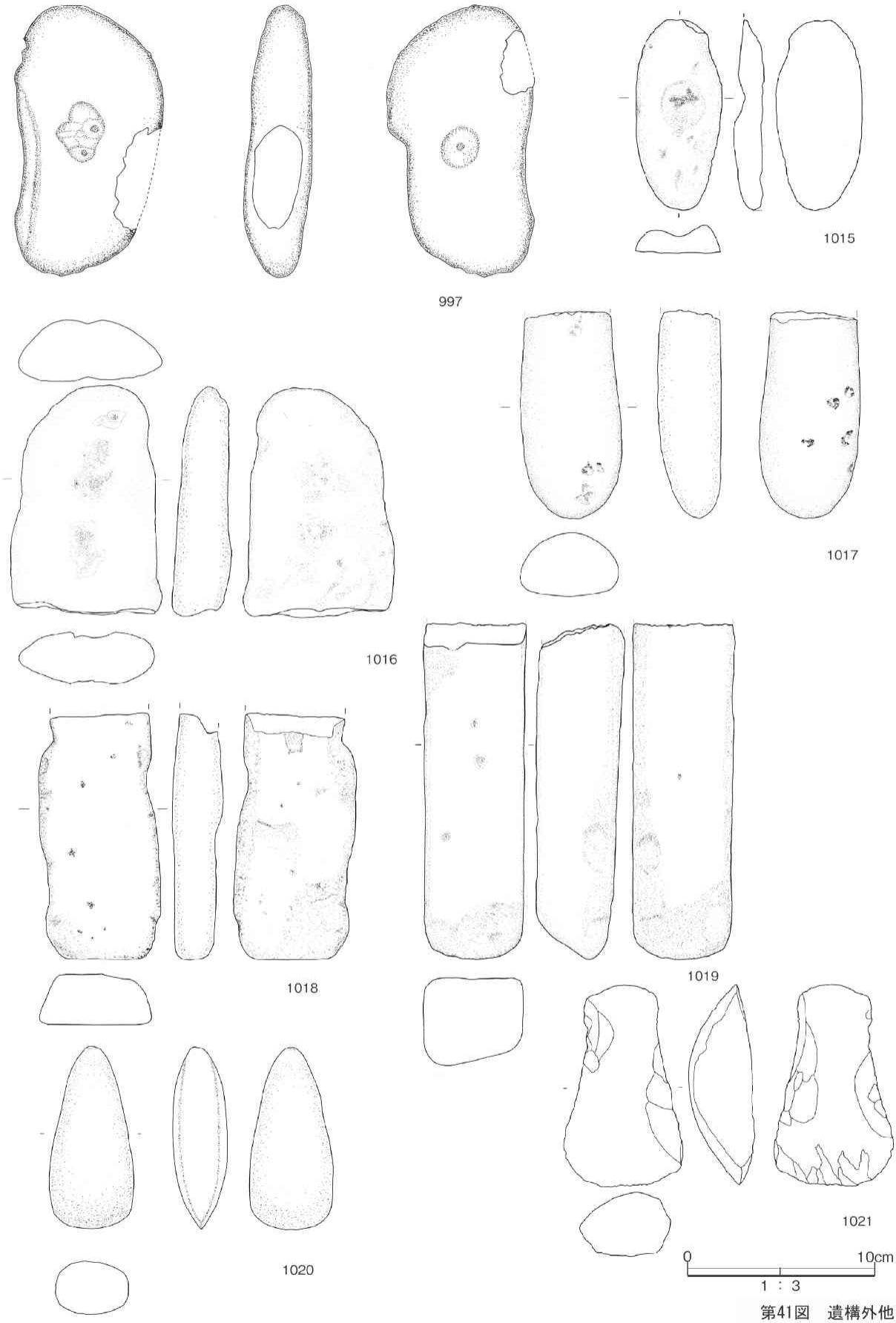
第38図　遺構外



第39図　遺構外


1004
1005
1006
1007
1008
1009
1010
1012
1011
1013
998
1014
1012 0 4cm
1 : 1
0 4cm
1 : 2
1011・1013・1014 0 10cm
1 : 3

第40図　遺構外



第41図　遺構外他

表１　縄文・弥生土器観察表

番号	図版	写真	分類	器種	出土遺構	残存部位	備考
1	20	31	Ⅱ2Aaiii	深鉢	SK８	口縁部	突起、口唇部瘤状突起＋刻目、条線、貼瘤、ＲＰ１
2	20	31	Ⅲ３ｃ？	深鉢	SK８	体部上半	雲形文？
3	20	31	Ⅲ２ａ	深鉢	SK８	体部	羊歯縄文
4	20	31	Ⅴａ４	深鉢	SK８	口縁部～体部	平口縁、結節縄文
5		31	Ⅱ２？	浅鉢？	SK８	体部	平行沈線＋突起？(摩滅)
6		31	Ⅱ２ａ	深鉢	SK８	体部	突起＋平口縁
7		31	Ⅴ	深鉢	SK８	口縁部	沈線
8		31	Ⅱ１Ａ	浅鉢？	SK８	体部	平口縁、孤状隆沈線
9		31	Ⅲ１Ｅ	鉢	SK８	口縁部	平口縁、平行沈線
10	20	31	Ⅱ１ｄ１	深鉢	SK15	体部	隆帯＋刺突、不明曲線
11	20	31	Ⅱ１Ｂ	深鉢	SK15	口縁部	山形突起＋盲孔
12	20	31	Ⅲ１ｃ？	壷	SK15	体部	入組文
13	20	32	Ⅲ３Ｂａ	浅鉢	SK17	口縁部～体部	口唇部刻目、平行沈線＋刻目
14	20	32	ⅤＡ５	浅鉢	SK17	口縁部～体部	口縁部無文
15	20	32	ⅤＡ８	深鉢	SK17	口縁部	口縁(小波状)
16	20	32	Ⅱ１ｆ４	深鉢	SK17	体部	不明曲線
17	20	32	Ⅱ２Ｂ	深鉢	SK17	口縁部	平口縁、帯状文
18	20	32	Ⅱ２Ｃ	深鉢	SK17	口縁部	平口縁、帯状文
19	20	32	Ⅱ２Ａii	深鉢	SK17	口縁部	平口縁,帯状文＋貼瘤
20	20	32	Ⅱ２Ｄ	深鉢	SK17	口縁部	平口縁、条線文
21	20	32	Ⅱ1Ad1？	深鉢？	SK17	口縁部	平口縁、隆帯＋刺突
22	20	32	ⅤＤ２	壷	SK17	口縁部～体部	波状口縁、口縁部～頸部無文、外面炭化物
23	20	32	ⅤＡ３	浅鉢	SK17	口縁部～体部	平口縁、地文縄文、内外面炭化物
24	20	33	ⅤＡ４	深鉢	SK17	体部	結節縄文
25	20	33	Ⅲ3Cb？	深鉢	SK17	口縁部～体部	平行沈線、内外面炭化物
26	21	33	Ⅱ1Ef３	深鉢	SK17	口縁部～体部	波状口縁、帯状文
27	21	33	Ⅱ２ii	壷？	SK17	体部	磨消、瘤(隆起線上)
28	21	33	Ⅱ１ａ１	深鉢？	SK17	体部	多条沈線(円状)
29	21	34	Ⅲ４Ｂａ	浅鉢	SK17	ほぼ完形	Ｂ突起、上下交互の匹字文、底部脚(４)、内底円形沈線
30		65	ⅣＣ	壷	SK17	口縁部～体部	平口縁、菱形文
31		33	Ⅰ３？	深鉢	SK36	体部	隆帯文
32		33	Ⅰ３？	深鉢	SK36	体部	隆帯文
33		33	Ⅱ１ｄ１	深鉢	SK36	体部	隆帯＋刺突
34		33	Ⅱ１ｂ１	鉢	SK36	体部	隆帯
35		33	Ⅱ１ｃ	鉢	SK36	体部	連続刺突
36		33	Ⅱ１ｆ４	小型鉢	SK36	体部	帯状文
37		33	Ⅲ２a？	浅鉢	SK36	口縁部	平口縁、羊歯状文？
38		34	Ⅰ３？	深鉢	SK38	体部	隆帯文
39		34	Ⅱ１Ｅ	深鉢？	SK38	口縁部	突起
40		34	Ⅱ2Abii	深鉢	SK38	口縁部～体部	瘤状突起、口縁部櫛描＋沈線＋貼瘤、入組文？(櫛描)
41		34	Ⅲ１Ｃ	浅鉢？	SK38	口縁部	珊瑚状突起
42		35	Ⅱ１Ａｅ	浅鉢	SK41	口縁部～体部	平口縁＋刻目、平行沈線間刺突、体部多条沈線、内面炭化物
43		35	Ⅱ1Af２	浅鉢	SK41	口縁部～体部	内面平行沈線間刺突、入組状沈線列
44		35	Ⅲ１？	鉢	SK41	口縁部	突起、孤状沈線(刻目)
45		34	Ⅰ３	深鉢	SK53･54	口縁部～体部	隆帯文
46		35	Ⅱ２ｂiii	深鉢	SK68	口縁部～体部	瘤状突起２対、横位条線
47		35	Ⅱ２ｂiii	鉢？	SK68	口縁部	突起、頭頂部瘤状刺突(突瘤)
48		35	ⅤＡ６	深鉢	SK68	口縁部～体部	波状口縁、口縁部無文
49	21	35	Ⅴ	深鉢	SK89	体部	結節縄文、内面炭化物
50	21	35	ⅤＡ７	深鉢	SK89	口縁部	口縁(小波状)、地文縄文
51	21	4	Ⅲ3Cａｃ	注口	SK89	ほぼ完形	Ｂ突起、頸部無文、体部上半(平行沈線間刻目、雲形文)注口基部菱形状加飾、体部下半無文、底部中央円形沈線、外面赤彩、ＲＰ38
52		36	Ⅱ１ｉ	鉢？	SK89	底部？	底部直上に沈線
53		36	ⅤⅠ	台付鉢	SK89	底部	底部直上に沈線
54		36	Ⅲ３Ａａ	浅鉢	SK89	口縁部～体部	平口縁、平行沈線＋刺突
55		36	ⅤＡ８	浅鉢	SK90	口縁部～体部	波状口縁、頸部無文
56		36	Ⅱ１ｈ	深鉢	SK91	体部	曲線文＋連続刺突
57		36	Ⅲ２Ｂａ	浅鉢	SK120	口縁部	Ｂ突起、平行沈線＋刻目
58	21	37	ⅤＢ１	浅鉢	SK245	口縁部～体部	平口縁、無文
59	22	37	ⅤＡ４	深鉢	SK256	口縁部～体部	平口縁、結節縄文
60		35	Ⅱ２Ｄ	深鉢	SK258	口縁部	平口縁、条線文(波状)、補修孔
61		36	Ⅲ２ａ	鉢？	SK258	体部	羊歯状文
62		36	Ⅱ１？	深鉢？	SK258	体部	平行沈線
63		36	Ⅲ３Ｅｂ	深鉢	SK258	口縁部	口唇部刻目、平行沈線
64	22	37	ⅤＥ	壷	SK260	頸部～体部	頸部・体部沈線、無文
65		37	Ⅱ１Ｂ	深鉢？	SK262	口縁部	突起、摩滅
66		37	Ⅱ１Ａ	浅鉢	SK262	口縁部	平口縁、三角状文？
67	22	37	Ⅱ１Ｄ	深鉢	SK265	口縁部	把手(渦文)
68		37	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SK265	口縁部	平口縁、隆帯文

69		37	Ⅰ３	深鉢	SK265	体部	隆帯文
70		37	Ⅰ３Ｂ	浅鉢	SK265	口縁部	平口縁、隆起線
71		37	Ⅰ３？	深鉢	SK265	体部	隆帯文(方形)
72		37	Ⅰ３	深鉢	SK265	体部	隆帯文
73		37	Ⅰ３？	深鉢	SK265	体部	隆帯文
74		38	Ⅱ１ｃ	深鉢	SK265	体部	連続刺突
75		38	Ⅱ１ｃ	深鉢	SK265	体部	連続刺突
76		38	Ⅱ1Ab1	深鉢	SK265	口縁部	平口縁、隆帯
77		38	Ⅱ２ｂⅲ	深鉢	SK265	口縁部	瘤状突起、不明曲線
78		38	Ⅲ１Ａａ	鉢	SK265	口縁部	波状口縁、菱形状切欠
79		38	Ⅲ３Ａｂ	鉢	SK265	口縁部	平行沈線
80		38	ＶＡ８？	浅鉢	SK265	体部	頸部無文
81	22	38	Ⅲ３Ｂａ	深鉢	SK266	口縁部～体部	口唇部刻目、平行沈線(刺突)
82	22	38	Ⅱ２Ｄ	深鉢	SK266	口縁部	平口縁、条線文
83	22	38	ＶＡ４	深鉢	SK266	口縁部	平口縁、羽状縄文
84	22	38	ＶＤ１	壺	SK266	口縁部～体部	平口縁,口縁部～頸部無文
85	23	38	ＶＡ１	深鉢	SK266	口縁部	平口縁、０段多条
86		38	Ⅲ３Ｅｂ	浅鉢	SK266	口縁部～体部	Ａ突起、平行沈線
87		38	Ⅲ３Ａａ	浅鉢	SK266	口縁部～体部	平口縁、平行沈線＋刺突
88		39	Ⅱ２	深鉢	SK268	体部	入組文(櫛描)
89		39	Ⅲ3Eａｃ	浅鉢	SK268	口縁部～体部	Ａ突起、平行沈線間刻目、雲形文
90	23	39	Ⅲ２Ｂａ	浅鉢	SK269	口縁部～体部	Ｂ突起、羊歯状文、平行沈線間刺突、体部(不明区画)、内面炭化物
91	23	39	Ⅰ３Ａ	深鉢	SK269	体部	波状口縁？、隆沈線線文
92	23	39	Ⅱ１ｂ	深鉢	SK270	口縁部	不明曲線
93	23	39	Ⅱ１Ｄ	深鉢？	SK271	口縁部？	橋状突起(Ｓ字状孔隆起線文)
94	23	39	Ⅱ１Ｂ	浅鉢？	SK271	口縁部	山形突起
95		39	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SK271	口縁部	平口縁、隆起線
96		39	Ⅱ１Ｂ	深鉢	SK271	口縁部	突起、縦位隆帯
97		39	Ⅱ１？	鉢	SK271	体部	入組文
98		39	Ⅱ１ｃ	浅鉢？	SK271	体部	連続刺突
99		40	Ⅰ３Ｂ？	深鉢	SK271	口縁部～体部	平口縁、口縁部無文、沈線
100	23	40	Ⅲ１Ａｂ	深鉢	SK275	底部	波状口縁、玉抱文？
101	23	40	ＶＨ	深鉢	SK275	体部～底部	底部(編物圧痕)
102	23	7	ＶＡ７	深鉢	SK276	ほぼ完形	口縁(小波状)、底部(編物圧痕)、大洞Ｂ
103	23	40	Ⅲ１Ａｃ	深鉢	SK276	口縁部～体部	波状口縁、口縁部入組状沈線
104	23	40	Ⅲ3Cｂｃ	皿	SK276	口縁部	Ｂ突起、平行沈線、入組状文
105		41	Ⅰ２	深鉢	SK276	口縁部～体部	隆帯文(Ｓ字？)
106		41	Ⅰ３	深鉢	SK276	体部	隆帯文(玉抱状)
107		41	Ⅰ３Ｂ？	深鉢	SK276	口縁部～体部	沈線区画(方形)
108		41	Ⅰ３Ａ	浅鉢	SK276	口縁部～体部	平口縁、隆起線
109		41	Ⅱ１？	深鉢	SK276	体部	隆帯
110		41	Ⅰ３	深鉢	SK276	体部	隆帯文
111		41	Ⅰ３？	深鉢	SK276	体部	隆帯文
112		41	Ⅰ３？	深鉢	SK276	底部	
113		41	Ⅰ３？	深鉢	SK276	体部	隆帯文
114		41	Ⅰ３？	浅鉢？	SK276	体部	隆帯文
115		41	Ⅰ３？	深鉢	SK276	口縁部	平口縁、隆帯文
116		41	Ⅱ１ａ１	深鉢	SK276	体部	多条沈線
117		41	Ⅱ１ａ１	深鉢	SK276	体部	多条沈線
118		41	Ⅱ１ｄ１	深鉢	SK276	体部	内面隆帯＋刺突、外面円文
119		41	Ⅱ１ａ２	深鉢	SK276	体部	鉤状沈線＋磨消
120		41	Ⅱ１ｂ１	深鉢？	SK276	体部	口縁部前面に突起
121		41	Ⅱ１	深鉢	SK276	体部	不明曲線
122		41	Ⅱ１ａ２	深鉢	SK276	体部	多条沈線(渦文？)
123		41	Ⅱ１ａ２	深鉢？	SK276	体部	多条沈線(円文？)
124		41	Ⅱ１ａ１	深鉢	SK276	体部	多条沈線
125		41	Ⅱ1ａ1？	深鉢？	SK276	体部	多条沈線
126		40	Ⅱ１ａ１	深鉢	SK276	体部	多条沈線
127		42	Ⅲ１Ｂｃ	深鉢	SK276	口縁部～体部	突起、入組文
128		42	Ⅱ２？	鉢	SK276	口縁部～体部	口唇部刻目、頸部～体部(入組文？)
129		42	Ⅲ１？	鉢	SK276	体部	入組文
130		42	Ⅱ２Ａ	深鉢	SK276	口縁部～体部	口唇部刻目、帯状文
131		42	Ⅱ１Ａｅ	深鉢	SK276	口縁部～体部	平口縁、方形区画内刺突
132		42	Ⅰ３	鉢	SK276	体部	隆起線(玉抱状)
133		42	Ⅱ１ｄ１	深鉢	SK276	口縁部～体部	平口縁、８の字状輪形隆文
134		42	Ⅱ１ｅ	鉢	SK276	口縁部	平口縁、平行沈線間刺突
135		42	Ⅱ１ｃ	鉢	SK276	体部	連続刺突、内面炭化物
136		42	Ⅱ１ｃ	鉢	SK276	体部	連続刺突
137		42	Ⅱ１ｄ１	鉢	SK276	体部	隆帯＋刺突
138		42	Ⅱ２？	深鉢	SK276	体部	沈線＋粘土貼付(瘤？)、刺突
139		42	Ⅲ１Ｂ	深鉢	SK276	口縁部～体部	突起、帯状文
140		42	Ⅲ１Ｂｂ	深鉢	SK276	口縁部	突起、三叉文？
141		42	Ⅱ１Ｂ？	深鉢	SK276	口縁部	突起、内外面無文
142		42	Ⅲ１Ｂ	深鉢	SK276	口縁部	突起
143		42	Ⅲ１Ｂ	深鉢	SK276	口縁部	突起
144		42	ＶＢ２？	不明	SK276	体部	輪状隆帯、全面磨消、孔跡有
145		42	Ⅱ２Ｂ	深鉢	SK276	口縁部	平口縁、連孤状区画？、帯状文(体部下位まで)
146		43	Ⅲ１Ｂ	深鉢	SK276	口縁部～体部	突起
147		43	Ⅲ１Ａｂ	深鉢	SK276	口縁部～体部	波状口縁、玉抱三叉文

148		43	Ⅲ２Ｂａ	浅鉢	SK276	口縁部～体部	Ｂ突起、羊歯状文
149		43	Ⅴ	深鉢	SK276	体部	沈線
150		43	Ⅴ	鉢	SK276	体部	沈線
151		43	Ⅴ	鉢	SK276	体部	結節縄文
152		43	Ⅱ１Ａｅ	浅鉢	SK276	口縁部～体部	平口縁、平行沈線内刺突、体部連孤文
153		43	Ⅱ１ｇ	深鉢	SK279	体部	沈線、磨消
154		43	Ⅱ１ｂ１	深鉢	SK279	体部	隆帯文
155		43	Ⅰ３？	深鉢	SK279	体部	沈線、磨消
156		43	Ⅰ３？	深鉢	SK279	体部	隆帯文
157		43	Ⅰ３？	深鉢	SK279	体部	沈線(楕円状？)
158		43	Ⅱ１Ｃｅ	深鉢	SK279	口縁部	環状突起、方形区画内刺突
159		43	Ⅱ１Ａ？	深鉢	SK279	口縁部	平口縁？、刻目、不明曲線
160		43	Ⅱ１？	深鉢	SK279	体部	不明曲線
161		43	Ⅱ２Ｃ	深鉢	SK279	体部	帯状文？(刻目)
162		43	Ⅱ１ｄ２	深鉢	SK279	体部	隆帯＋刻目
163		43	Ⅱ２Ｃ	壷	SK279	頸部	帯状文
164		43	Ⅱ２Ｃ	深鉢	SK279	体部	帯状文
165		43	Ⅱ２Ａiii	鉢	SK279	体部	隆帯＋沈線＋貼瘤(刻目)、連孤文
166		43	Ⅱ２ａ？	深鉢？	SK279	口縁部	突起、外面剥離
167		43	Ⅲ１ｃ	鉢	SK279	体部	入組文
168		45	Ⅱ２Ｂ	深鉢	SK279	口縁部	平口縁、帯状文
169	24	44	ⅤＡ３	深鉢	SK280	ほぼ完形	平口縁、底部木葉痕
170	24	43	Ⅲ１Ｂｃ	深鉢	SK280	口縁部～体部	突起、体部上半入組文(刺突)、体部下半無文
171	24	43	ⅤＢ２	小型鉢	SK280	ほぼ完形	平口縁、無文、台付
172	24	44	ⅤＦ	ミニチュア皿？	SK280	ほぼ完形	手捏ね、ミガキ
173	24	44	ⅤＢ１	深鉢	SK280	口縁部～体部	平口縁、無文
174	24	44	Ⅲ１Ｂｂ	浅鉢	SK280	ほぼ完形	突起、入組状沈線、玉抱三叉文、台付
175		44	Ⅰ３	深鉢	SK280	体部	隆帯文
176		44	Ⅰ３？	深鉢	SK280	口縁部	平口縁、隆帯文(方形？)
177		44	Ⅰ３	深鉢	SK280	体部	隆帯文(楕円状？)
178		44	Ⅰ３	深鉢	SK280	体部	隆帯文、内面炭化物
179		44	Ⅰ３	深鉢	SK280	口縁部	平口縁、隆帯文(楕円状)
180		44	Ⅰ３Ａ	深鉢	SK280	体部	隆起線
181		44	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SK280	口縁部	平口縁、隆帯文(方形？)
182		44	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SK280	口縁部～体部	平口縁、隆帯文(雁又文？)
183		44	Ⅰ３Ｂ	浅鉢	SK280	口縁部～体部	平口縁、隆帯文
184		44	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SK280	口縁部～体部	平口縁、隆帯文
185		44	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SK280	口縁部～体部	平口縁、隆帯文
186		44	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SK280	口縁部	平口縁、隆帯文(楕円)
187		45	Ⅱ１Ｂ	深鉢	SK280	口縁部～体部	山形突起＋連孤文
188		45	Ⅱ1Bd2？	深鉢	SK280	口縁部～体部	口縁部無文、隆帯＋刻目
189		45	Ⅱ1Ａｄ２	深鉢	SK280	口縁部～体部	平口縁、口縁部無文、頸部刺突
190		45	Ⅱ1ａ2？	深鉢	SK280	口縁部～体部	平口縁、不明曲線
191		45	Ⅱ１	深鉢	SK280	体部	不明曲線
192		45	Ⅱ１ａ１	深鉢	SK280	体部	多条沈線
193		45	Ⅱ１ａ２	深鉢	SK280	体部	不明曲線
194		45	Ⅱ１ａ２	深鉢	SK280	体部	沈線＋刺突、蕨状文
195		44	Ⅱ１Ｂ	深鉢？	SK280	口縁部	山形突起＋盲孔、内面炭化物
196		44	Ⅱ１Ｂ	浅鉢？	SK280	口縁部	山形突起
197		45	Ⅱ1Ｅｆ３	浅鉢？	SK280	口縁部	波状口縁＋平行沈線間刻目、連孤文？、磨消
198		45	Ⅱ１ａ１	深鉢？	SK280	体部	多条沈線
199		45	Ⅱ２	深鉢	SK280	口縁部	口唇部刻目、連孤文
200		45	Ⅲ１？	深鉢	SK280	口縁部～体部	平口縁、口縁部無文
201		45	Ⅱ２	深鉢	SK280	体部	沈線(菱形？)
202		45	Ⅱ１ｆ１	深鉢	SK280	体部	入組文
203		45	Ⅱ２ａ	深鉢	SK280	口縁部	突起、磨消
204		45	Ⅱ２ａ	深鉢	SK280	口縁部	突起
205		45	Ⅲ１Ｃ？	深鉢	SK280	口縁部	珊瑚状突起？
206		45	Ⅱ１ｅ	深鉢？	SK280	体部	帯状文、刺突
207		45	Ⅱ２Ａ	深鉢	SK280	口縁部	帯状文(刻目)
208		45	Ⅱ２Ｂａ	深鉢	SK280	口縁部	突起、帯状文(刻目)
209		45	Ⅱ２ii	深鉢	SK280	体部	沈線＋貼瘤
210		45	Ⅱ２Ｄ	深鉢？	SK280	体部	条線文
211		46	Ⅲ１Ｂｂ	深鉢	SK280	口縁部	突起・三叉文
212		46	Ⅲ１Ｂｃ	深鉢	SK280	口縁部	突起、入組文、内面炭化物
213		46	Ⅲ１ｂ	深鉢	SK280	口縁部	入組文？、三叉文
214		46	Ⅲ１ｃ	壷？	SK280	体部	入組文(刺突)
215		46	Ⅲ１ｃ	壷？	SK280	体部	入組文
216		46	Ⅲ１ｃ	壷？	SK280	体部	入組文
217		46	Ⅲ１Ｄｂ	深鉢？	SK280	体部	平口縁、平行沈線、三叉文、摩滅
218		46	Ⅲ１Ｂｂ	深鉢	SK280	口縁部	突起、三叉文
219		46	Ⅲ１ｃ	壷	SK280	体部	入組文
220		46	Ⅲ１Ａｂ	鉢	SK280	口縁部	波状口縁、三叉文
221		46	Ⅲ１Ａｂ	深鉢	SK280	口縁部～体部	波状口縁、玉抱三叉文、内面炭化物
222		46	Ⅲ１Ａｂ	鉢	SK280	口縁部～体部	波状口縁、玉抱三叉文
223		46	Ⅲ１？	鉢	SK280	体部	体部上半浮き彫り状文様？
224		46	Ⅴ１	台付鉢	SK280	台部	無文
225		46	Ⅲ３Ｂｃ	壷？	SK280	口縁部	口唇部刻目、平行沈線、体部連孤状文様
226		46	ⅤＤ１	壷	SK280	口縁部～体部	平口縁、平行沈線

227		46	Ⅱ1Aa1	注口浅鉢	SK280	口縁部～体部	口縁部直下注口、体部横・縦位スリット
228		46	Ⅱ２ａⅱ	深鉢	SK280	体部	横位沈線下貼瘤
229		46	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SK283	口縁部～体部	頸部隆帯文
230		46	Ⅰ３ｂ	深鉢	SK283	口縁部	隆帯文
231		46	Ⅰ２～３	深鉢	SK283	口縁部	隆帯文
232		47	Ⅱ１ａ１	深鉢	SK283	体部	多条沈線
233		47	Ⅱ１ａ１	浅鉢？	SK283	体部	渦文
234		47	Ⅱ１？	深鉢	SK283	口縁部	不明曲線
235		47	Ⅱ１ａ２	深鉢	SK283	体部	連結円文
236		47	Ⅱ１ａ１	深鉢	SK283	体部	磨消＋三角文？
237		47	Ⅱ１ｃ	深鉢？	SK283	体部	連続刺突
238		47	Ⅱ１ｃ	深鉢？	SK283	体部	隆帯、刺突
239		47	Ⅱ1ｄ1？	深鉢？	SK283	体部	刺突付隆帯
240		47	Ⅱ１ｃ	深鉢？	SK283	体部	刺突
241		47	Ⅱ１ｃ	深鉢？	SK283	体部	連続刺突
242		47	Ⅱ２	深鉢？	SK283	体部	帯状櫛描＋磨消
243		47	Ⅲ１Ｃ？	深鉢	SK283	口縁部	珊瑚状突起、帯状文（入組？）
244		45	Ⅲ１ｃ	深鉢	SK276	体部	入組文
245		47	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SK285	体部	区画沈線
246		47	Ⅰ１	浅鉢	SK285	口縁部	渦巻文・楕円区画文
247		47	Ⅰ３	深鉢	SK285	体部	区画沈線
248		47	ＶＤ１	壷	SK285	口縁部	平口縁、無文
249		47	Ⅱ１ｇ	鉢？	SK285	体部	入組文？
250		47	Ⅱ１ａ１	深鉢	SK285	体部	多条沈線
251		47	Ⅱ１？	壷	SK285	体部	帯状文
252	25	7	Ⅲ１Ａｃ	深鉢	SK286	ほぼ完形	波状口縁、入組文、体部縄文
253		48	Ⅰ３？	深鉢	SP20	口縁部	隆起線
254		35	Ⅱ1Ca1	深鉢	SP40	口縁部～体部	環状突起、口縁部～体部上半無文、下位多条沈線
255		36	Ⅲ３ｃ	浅鉢	SP46	口縁部～体部	突起？、雲形文
256		35	Ⅱ1Cb1	深鉢	SP83	口縁部	環状突起、隆帯
257	25	48	ＶＡ３	深鉢	SP92	口縁部～体部	平口縁、口縁部無文
258	25	48	ＶＡ１	深鉢	SP94	口縁部	平口縁、結節縄文
259	25	48	Ⅱ1Ef2	浅鉢	SP94	口縁部	波状口縁、帯状文＋Ｓ字状沈線
260		47	Ⅱ２	鉢？	SP94	体部	連孤文？、AⅡ形式
261		47	Ⅱ1Bb1	深鉢	SP94	口縁部	山形突起？、縦位隆帯
262		47	Ⅲ２Ｂａ	深鉢	SP94	口縁部～体部	Ｂ突起、珠状文、内面炭化物
263	25	48	ＶＡ６	深鉢	SP97	口縁部～体部	波状口縁、口縁部無文
264	25	48	ＶＧ	深鉢	SP101	体部～底部	体部下半無文、底部無文
265		49	Ⅱ1Aa1	浅鉢	SP101	口縁部～体部	平口縁？、円文？、体部三角状磨消
266		49	Ⅱ１Ｂ	深鉢？	SP101	口縁部～体部	山形突起？＋円孔、盲孔
267		49	Ⅱ1Bd1	深鉢	SP101	口縁部～体部	山形突起、逆Ｃ字状孔隆起線文
268		49	Ⅱ1Ab1	深鉢	SP101	口縁部	平口縁、孤状隆帯
269		49	Ⅱ１ａ１	深鉢	SP101	体部	多条沈線
270		49	Ⅱ１ｇ？	深鉢？	SP101	体部	不明沈線
271		49	Ⅱ１ｆ４	鉢	SP101	体部	帯状文
272		48	Ⅲ１Ａ	深鉢	SP245	口縁部～体部	波状口縁、口縁部無文
273		48	Ⅲ3Cａｃ	浅鉢？	SP245	口縁部	Ｂ突起、刻目、雲形文？
274		48	Ⅲ２Ａａ	鉢	SP245	口縁部	口唇部刻目、羊歯状文
275		48	Ⅲ１ｃ？	鉢	SP245	口縁部	入組文？
276	25	49	Ⅱ２	深鉢	SP249	体部	格子文
277	25	49	Ⅲ１Ａｃ	深鉢？	SP249	口縁部	波状口縁、入組文
278	25	49	Ⅲ１Ａｂ	深鉢	SP249	口縁部	口縁（小波状）、玉抱三叉文？、内面炭化物
279	25	49	Ⅱ２ⅱ	壷？	SP249	体部	隆起線、磨消、瘤
280	25	49	Ⅲ２Ｂａ	深鉢？	SP249	口縁部	Ｂ突起？、羊歯状文
281	25	49	Ⅲ２Ｂａ	深鉢？	SP249	口縁部	Ｂ突起、羊歯状文
282	25	50	Ⅲ２ａ？	深鉢？	SP249	体部	羊歯状文？
283	25	50	Ⅲ1？	深鉢	SP249	口縁部	突起、入組文？
284	25	50	Ⅱ２ⅱ	壷	SP249	体部	連孤状区画＋貼瘤
285	25	50	Ⅱ１ｂ２	深鉢？	SP249	体部	隆帯
286	25	50	Ⅱ１ｂ１	深鉢	SP249	口縁部	隆起線（楕円？）
287	25	50	Ⅲ１Ｃｃ	深鉢	SP249	口縁部	突起、入組文、内面炭化物
288	25	50	Ⅲ１Ａ	深鉢	SP249	口縁部	突起、口縁部無文、沈線
289	26	50	ＶＡ４	深鉢	SP249	体部	体部下位調整
290	26	49	ＶＧ	深鉢	SP249	底部	外面・底部無文
291		48	Ⅱ２	深鉢	SP249	体部	格子状条線
292		48	Ⅱ１？	深鉢	SP249	体部	帯状文
293		50	Ⅱ１ｈ	深鉢	SP255	体部	曲線文＋連続刺突
294		50	Ⅱ２ⅲ	深鉢？	SP255	体部	貼瘤＋縦位刻目
295		50	Ⅲ４ｂ	台付鉢	SP255	台部	平行沈線、斜状沈線
296		50	Ⅰ３？	深鉢	SP256	体部	区画沈線
297	26	49	ＶＡ３	深鉢	SP257	口縁部～体部	平口縁、結節縄文
298		35	Ⅱ２Ａⅱ	鉢	SP277	口縁部	平口縁、平行沈線＋貼瘤
299		36	Ⅲ２ａ	浅鉢	SP277	体部	羊歯状文
300		36	Ⅲ３Ｂｃ	浅鉢	SP277	口縁部	口唇部刻目、雲形文
301	26	50	Ⅲ３ｂ	深鉢？	SP286	体部	平行沈線
302	26	50	Ⅲ２Ｂａ	浅鉢	SP286	口縁部～体部	Ｂ突起、羊歯状文、内外面炭化物
303	26	50	Ⅲ１ｂ	深鉢	SP286	体部	三叉文
304		48	Ⅲ１ｃ	深鉢	SP288	体部	入組文
305	26	50	Ⅲ3Aa？	深鉢	SX14	口縁部～体部	平行沈線間刺突
306	26	51	ＶＡ３	浅鉢？	SX14	体部	結節縄文、内面炭化物
307	26	51	Ⅱ１Ｅ	浅鉢？	SX14	口縁部	突起、沈線

308	26	51	ⅤH	深鉢	SX14	体部～底部	底部無文　ＲＰ39
309		51	Ⅱ１ｂ１	深鉢	SX14	体部	隆帯
310		51	Ⅱ１ｂ２	深鉢	SX14	体部	隆帯
311		51	Ⅱ１ａ１	深鉢	SX14	体部	多条沈線
312		51	Ⅱ２Ａｉ	深鉢	SX14	口縁部	平口縁、棒状貼瘤＋帯状文
313		51	Ⅱ２Ａｉ	深鉢	SX14	口縁部	平口縁、棒状貼瘤＋帯状文
314		51	Ⅱ1Aa３	深鉢	SX14	口縁部	平口縁、菱形文、帯状文
315		51	Ⅱ1Af３	深鉢	SX14	口縁部	平口縁、横位平行縄文帯
316		51	Ⅱ２ii	深鉢？	SX14	体部	幾何学沈線＋貼瘤
317		51	Ⅱ２Ｃ	壷	SX14	体部	帯状文
318		51	Ⅱ２ii	壷	SX14	頸部	貼瘤＋平行隆沈線
319		52	Ⅱ１ｈ	深鉢	SX14	体部	円文＋連続刺突
320		52	Ⅲ２Ａａ	鉢	SX14	口縁部～体部	口唇部刻目、羊歯状文、内面炭化物
321		52	Ⅲ３ａ	鉢	SX14	口縁部～体部	平行沈線＋刻目、摩滅
322		52	Ⅲ２ａ	浅鉢？	SX14	体部	口唇部刻目、羊歯状文
323		52	Ⅲ３Ｂａ	鉢	SX14	口縁部～体部	口唇部刻目、平行沈線＋刻目、内面炭化物
324		52	Ⅲ３Ａａ	浅鉢？	SX14	口縁部	平口縁、平行沈線＋刻目
325		52	Ⅲ１ｂ？	深鉢	SX14	体部	三叉文？
326		52	Ⅱ１？	壷？	SX14	体部	平行沈線＋斜状刺突
327	27	51	Ⅲ１？	深鉢	SX16	体部	体部下位沈線、結節縄文
328	27	52	ⅤＣ	深鉢	SX16	体部	結節縄文、ケズリ
329		52	Ⅰ３Ｂ？	深鉢	SX16	口縁部～体部	区画沈線(長方形)
330		52	Ⅱ１ａ１	深鉢	SX16	体部	多条沈線
331		52	Ⅱ１？	深鉢	SX16	体部	横位側面圧痕
332		52	Ⅱ１ｃ	深鉢？	SX16	体部	連続刺突
333		52	Ⅱ１ｃ？	深鉢	SX16	体部	連続刺突(半裁竹管)、区画沈線
334		52	Ⅲ３ａ？	浅鉢	SX16	口縁部	平行沈線＋刻目
335		52	Ⅰ３？	深鉢	SX18	体部	区画沈線
336		52	Ⅱ１ｂ１	鉢	SX18	口縁部～体部	縦位隆帯
337		52	Ⅱ１Ａ？	深鉢	SX18	口縁部	平口縁、横位沈線
338		52	Ⅲ１Ｄ	鉢	SX18	口縁部	平口縁、平行沈線
339		52	Ⅲ１Ａ	深鉢？	SX18	口縁部	波状口縁、口縁部無文
340		52	Ⅲ１Ａ	深鉢	SX18	口縁部	波状口縁
341		52	Ⅲ３？	鉢？	SX18	体部	沈線
342		52	Ⅱ１？	深鉢	SX18	口縁部	平口縁
343		52	Ⅳ？	鉢	SX18	体部	平行沈線(胎土が弥生のものと酷似)
344		52	Ⅲ３Ａｂ	浅鉢	SX18	口縁部	平行沈線
345		52	Ⅲ４ａ	壷？	SX18	体部	上向きの四字文、体部下位無文
346	27	7	Ⅲ３Ｂｂ	鉢	SX29	ほぼ完形	口唇部刻目、平行沈線、底部無文、内外面炭化物、(Ｃ１)
347	27	53	ⅤＡ４	深鉢	SX29	口縁部～体部	平口縁、結節縄文、　ＲＰ35
348	27	53	Ⅰ3～Ⅱ1	浅鉢	SX29	体部	隆起線＋穿孔、磨消、漆付着
349		53	Ⅰ２	深鉢	SX29	口縁部	平口縁、渦文
350		53	Ⅰ３？	浅鉢	SX29	体部	隆帯文(四角)
351		53	Ⅰ３Ｂ？	深鉢	SX29	口縁部	隆帯文(四角)
352		53	１３Ｂ	深鉢	SX29	口縁部	隆帯文
353		53	Ⅰ３？	深鉢	SX29	体部	隆帯文(長方形)
354		53	Ⅰ３？	深鉢	SX29	体部	隆帯文(四角)
355		53	Ⅰ３	深鉢	SX29	体部	隆帯文
356		53	Ⅱ１？	深鉢	SX29	体部	縦位隆帯
357		53	Ⅰ３	深鉢	SX29	体部	円文＋連続刺突
358		53	Ⅱ１ｄ１	深鉢	SX29	体部	孔沈隆起線文
359		53	Ⅱ２iii	深鉢	SX29	体部	平行沈線＋貼瘤＋竹管刺突
360		53	Ⅱ１ｂ１	深鉢？	SX29	体部	円文
361		53	Ⅱ1Ab１	深鉢	SX29	口縁部	平口縁、隆帯内渦文
362		53	Ⅱ１ｂ１	浅鉢？	SX29	口縁部	不明突起
363		53	Ⅱ１ａ１	深鉢	SX29	体部	多条沈線
364		53	Ⅱ１ｄ２	浅鉢？	SX29	体部	刺突、内面炭化物
365		53	Ⅱ２	壷？	SX29	口縁部	平口縁、沈線間格子状文
366		53	Ⅱ１ｃ	深鉢？	SX29	体部	渦文、連続刺突
367		53	Ⅱ１ｉ	深鉢？	SX29	体部	羽状縄文、内面横位ナデ
368		54	Ⅱ1Bb１	深鉢	SX29	口縁部	山形突起、縦位隆帯
369		54	Ⅱ1Bb１	深鉢	SX29	口縁部	山形突起、縦位隆帯
370		54	Ⅱ１Ｂ	深鉢	SX29	口縁部	山形突起、口縁部無文
371		54	Ⅱ１Ｂ	深鉢	SX29	口縁部	山形突起、口縁部無文
372		54	Ⅱ１？	深鉢	SX29	口縁部	区画沈線(孤状)
373		54	Ⅱ１Ｅｃ	深鉢	SX29	口縁部	波状口縁、連続刺突
374		54	Ⅱ１ｂ１	深鉢	SX29	体部	区画沈線
375		54	Ⅰ３？	深鉢	SX29	体部	区画沈線
376		54	Ⅱ1Ef１	浅鉢	SX29	口縁部～体部	波状口縁、口縁部隆帯内渦文、多条沈線(入組)、内外炭化物
377		54	Ⅱ１ｂ１	浅鉢	SX29	口縁部～体部	不明隆沈線
378		54	Ⅱ１ａ１	深鉢	SX29	体部	多条沈線
379		54	Ⅱ１ａ１	深鉢	SX29	体部	多条沈線
380		54	Ⅲ２Ｂａ	浅鉢	SX29	口縁部～体部	Ｂ突起＋羊歯状文
381		54	Ⅲ２Ｂａ	深鉢？	SX29	口縁部	Ｂ突起、羊歯状文
382		54	ⅤＥ	壷	SX29	体部	無文
383	27	54	Ⅲ２Ｂａ	深鉢？	SX30	口縁部～体部	Ｂ突起、口縁部～体部上位(羊歯状文)
384	27	54	Ⅲ１ｂ	深鉢	SX30	体部	三叉文、結節縄文

385	28	55	Ⅴ	深鉢	SX30	体部	地文付加条？
386	27	55	Ⅲ２Ｂ	深鉢？	SX30	口縁部	Ｂ突起、橋状突起、平行沈線
387	27	7	Ⅲ２Ａ	皿	SX30	ほぼ完形	口縁部～体部上位(ミガキ→平行沈線)、底部円形にミガキ入る
388		55	１３？	深鉢	SX30	体部	隆帯文
389		55	Ⅰ３？	深鉢	SX30	体部	隆帯文
390		55	Ⅱ１Ｂ	深鉢？	SX30	口縁部	山形突起＋円孔＋盲孔
391		55	Ⅱ１ｄ１	深鉢？	SX30	体部	縦位隆帯＋刺突
392		55	Ⅱ１ａ１	深鉢	SX30	体部	多条沈線(楕円)
393		55	Ⅲ１ｃ	深鉢	SX30	体部	沈線間渦文
394		55	Ⅲ１ａ	浅鉢	SX30	口縁部～体部	連孤文
395		55	Ⅲ３ｃ	浅鉢？	SX30	体部	雲形文
396		55	Ⅲ１	鉢	SX30	体部	入組文？
397		55	Ⅲ1Ａｃ？	深鉢	SX30	口縁部	波状口縁、入組文？
398		55	Ⅲ４Ａｃ	深鉢	SX30	口縁部	平口縁、孤状沈線
399		55	ⅤＪ	壷	SX30	底部	円形上底風
400		55	Ⅲ２Ａ	浅鉢	SX30	口縁部～体部	口縁～頸部無文
401	28	55	Ⅱ１Ｂ？	壷	SX67	口縁部	突起、口縁部沈線間格子文
402	28	55	ⅤＡ３	深鉢	SX67	体部	頸部沈線、結節縄文
403	28	55	Ⅲ２Ａｂ	深鉢	SX67	口縁部	口唇部刻目、口縁部無文、平行沈線間入組文
404		56	Ⅱ１Ｃ	深鉢	SX67	口縁部～体部	環状突起、縦位沈線、内面炭化物
405		56	Ⅱ１Ｂ	深鉢	SX67	口縁部～体部	山形突起＋円孔＋隆帯
406		56	Ⅱ1Ｂａ１	深鉢？	SX67	口縁部	山形突起＋頭頂部盲孔、縦位沈線
407		56	Ⅱ１Ｂ	鉢？	SX67	口縁部～頸部	山形突起＋盲孔、頸部沈線
408		56	Ⅱ１Ｂ？	深鉢	SX67	口縁部	突起？
409		56	Ⅱ１ａ１	深鉢？	SX67	体部	円文
410		56	Ⅱ１ａ１	深鉢	SX67	体部	多条沈線
411		56	Ⅱ１ａ２	深鉢	SX67	体部	円文
412		56	Ⅱ１ａ２	深鉢	SX67	体部	蕨状文、円文
413		56	Ⅱ１ａ１	浅鉢	SX67	体部	体部上半多条沈線
414		56	Ⅱ１	深鉢	SX67	体部	平行沈線
415		56	Ⅲ３ａ	浅鉢	SX67	体部	平行沈線＋刺突
416		56	Ⅳ	壷(筒)	SX67	口縁部	平口縁、帯状文
417		56	Ⅱ２	鉢	SX67	体部	入組文
418		35	Ⅱ１ａ１	深鉢	SX72	体部	平行沈線＋縦位盲孔３、多条沈線
419		36	Ⅱ２Ｂａ	浅鉢	SX72	口縁部	Ｂ突起、羊歯状文
420		36	Ⅲ１ｃ	浅鉢	SX81(攪乱)	口縁部	波状口縁、入組文？
421		35	Ⅱ２ⅱ	深鉢	SX84	体部	入組文＋貼瘤、内面炭化物
422		36	Ⅲ３Ｅａ	壷	SX84	口縁部	Ａ突起、口唇部刻目、平行沈線間刻目
423	29	56	ⅤＡ５	深鉢	SX99	口縁部	平口縁、口縁部無文
424	29	56	ⅤＨ	深鉢	SX99	体部～底部	底部無文、羽状縄文
425		56	１３？	深鉢	SX99	体部	隆帯文
426		56	Ⅰ３？	深鉢	SX99	体部	隆帯文
427		56	Ⅱ１ｄ１	深鉢？	SX99	体部	刺突、不明曲線
428		56	ⅤＡ５	鉢	SX99	頸部～体部	頸部無文、沈線
429		56	Ⅱ１ｆ３	深鉢	SX99	口縁部～体部	細い帯状文
430		56	Ⅲ２Ｂａ	深鉢	SX99	口縁部～体部	Ｂ突起、羊歯状文
431		56	Ⅲ１Ａ	深鉢	SX99	口縁部～体部	波状口縁、平行沈線
432		56	Ⅲ３ａ	鉢	SX99	体部	平行沈線＋刺突
433		56	Ⅲ２Ａａ	浅鉢	SX99	口縁部	平口縁、羊歯状文
434		46	Ⅱ２Ｃ？	深鉢	SX110	体部	平行沈線間刻目
435		56	Ⅰ３Ａ	浅鉢	SX115	口縁部	区画沈線
436		56	１３Ａ	浅鉢	SX115	口縁部～体部	平口縁、隆起線(楕円形？)、ＲＰ21
437		56	Ⅰ３Ａ	浅鉢	SX115	体部	隆帯文(楕円形?)
438		56	Ⅰ２	深鉢	SX115	口縁部	平口縁、隆起線(楕円？)、ＲＰ20
439		56	Ⅰ３	深鉢	SX115	体部	隆帯文
440		56	Ⅰ３	深鉢	SX115	体部	隆帯文、ＲＰ19
441		56	Ⅰ３	深鉢	SX115	体部	平口縁、隆起線、ＲＰ17
442		56	Ⅰ３	深鉢	SX115	体部	隆帯文
443		56	Ⅱ1Ｂｂ１	深鉢	SX115	口縁部	山形突起＋縦位隆帯、頸部横位隆帯
444		56	Ⅱ１ｄ１	深鉢	SX115	体部	Ⅰ字状孔沈隆起線文
445		56	Ⅱ１ａ１	深鉢？	SX115	体部	渦文
446		56	Ⅱ１Ａｃ	浅鉢？	SX115	口縁部	平口縁、連続刺突
447		56	Ⅱ１ｃ	鉢？	SX115	体部	隆帯、連続刺突
448		56	Ⅱ１ｃ	鉢？	SX115	体部	隆帯、連続刺突
449		56	Ⅱ１ｆ２	深鉢	SX115	体部	沈線、連続刺突
450		56	Ⅱ２ｉ	深鉢	SX115	口縁部	平口縁、棒状貼瘤＋平行沈線
451		56	Ⅱ２ａⅱ	深鉢	SX115	口縁部	突起、平行沈線＋貼瘤
452		56	Ⅱ２Ａｉ	壷	SX115	頸部～体部	体部上半棒状貼瘤＋平行沈線＋刻目
453		56	Ⅱ２ｂ	深鉢	SX115	口縁部	突起＋頭頂部盲孔、三角上磨消
454		56	Ⅲ１Ｂ	深鉢	SX115	口縁部～体部	突起、無文
455		56	Ⅰ３	深鉢	SX115	体部	隆帯文
456		56	Ⅰ３	深鉢	SX115	体部	区画沈線
457		56	Ⅱ１Ｂ	深鉢	SX116	口縁部～体部	山形突起＋円孔＋盲孔、縦位隆沈線

458		56	Ⅱ1Bd1	深鉢	SX116	口縁部～体部	山形突起、外面不明曲線、８の字状輪形隆文
459		46	Ⅱ１Ｂ	浅鉢	SX116	口縁部～体部	山形突起＋円孔、口縁部刻目
460		46	Ⅱ１ｃ	鉢？	SX116	体部	連続刺突
461		46	Ⅱ１ｆ１	壷	SX116	体部	沈線間刺突
462		46	Ⅱ1Eｆ3	深鉢	SX116	口縁部	波状口縁、三角上平行沈線
463		46	Ⅱ１Ｂ	深鉢？	SX116	口縁部	突起、口縁部無文
464		46	Ⅱ１？	深鉢	SX116	体部	不明曲線
465		46	Ⅱ２Ｂ	深鉢	SX116	口縁部	平行沈線間刻目
466		46	Ⅱ２Ｃ	壷？	SX116	体部	平行沈線間刻目、体部上半不明沈線＋磨消
467		46	Ⅱ２ａ	深鉢	SX116	口縁部	突起
468		57	Ⅱ１ｆ１	深鉢	SX116	体部	沈線間斜状刺突
469		57	Ⅱ１	浅鉢？	SX116	体部	沈線(横位･円状)
470		57	Ⅱ１	深鉢	SX116	口縁部～体部	頸部入組文？
471		57	Ⅱ１Ｂ	深鉢	SX116	口縁部	突起、体部隆帯
472		57	Ⅱ２Ｄ	有孔小形鉢	SX116	１／３個体	平口縁、底部多孔
473		57	Ⅱ１	台付鉢	SX116	台部	平行沈線
474		57	ⅤＥ	壷？	SX116	口縁部	口縁部溝状
475		57	Ⅲ１ｃ	深鉢	SX116	体部	入組文
476		57	Ⅲ2Ab？	深鉢？	SX116	口縁部	平口縁,入組文？
477		57	Ⅲ２Ａａ	浅鉢	SX116	口縁部～体部	口唇部刻目、羊歯状文、内面炭化物
478		59	ⅣＣ	筒形	SX116	頸部	コの字状沈線区画
479		59	Ⅰ２	浅鉢	SX117	体部	隆帯文
480		57	Ⅱ１ｄ１	壷？	SX117	頸部	隆帯＋刺突、不明沈線
481		57	Ⅱ１ｂ１	深鉢	SX117	体部	不明隆沈線＋磨消
482		57	Ⅱ１ａ１	深鉢	SX117	体部	多条沈線
483		57	Ⅱ１ｂ１	深鉢	SX117	体部	隆帯
484		57	Ⅱ１ｈ	浅鉢	SX117	口縁部	平行沈線＋連続刺突
485		57	Ⅱ１ａ１	深鉢	SX117	体部	沈線
486		36	Ⅲ1Ec？	浅鉢？	SX117	口縁部	平口縁？、入組文？
487	30	57	ⅤＢ１	深鉢	SX166	1／3個体	無文、RP32
488	30	57	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SX247	口縁部	波状口縁、隆起線
489	30	57	Ⅲ３ａ	浅鉢	SX247	口縁部～体部	体部上位(平行沈線間刺突)
490	30	57	Ⅱ１ａ１	鉢	SX247	体部	多条沈線(円文?)
491	30	57	Ⅱ１ｆ３	深鉢	SX247	口縁部	帯状文
492	30	57	Ⅲ３Ｂｂ	浅鉢	SX247	口縁部～体部	口唇部刻目？、平行沈線
493	30	57	ⅤＡ８	深鉢	SX247	口縁部～体部	口縁(小波状)、結節縄文
494	32	57	Ⅲ４ａ	壷	SX267	体部	体部中位(平行沈線＋突起、上向き匹字文)、外面炭化物
495	32	57	Ⅱ１Ａｃ	壷	SX267	口縁部～体部	口唇部斜刻目、口縁部～頸部無文、体部連続刺突
496	32	58	Ⅲ３Ｂａ	浅鉢	SX267	口縁部～体部	口唇部刻目、平行沈線間刻目、内面炭化物
497	32	58	ⅤＨ	深鉢？	SX267	体部～底部	底部無文
498	32	58	Ⅱ１ｃ	浅鉢	SX267	口縁部	隆帯内刺突
499		58	Ⅰ３？	深鉢	SX267	体部	隆帯文
500		58	Ⅰ３？	深鉢	SX267	体部	隆帯文
501		58	Ⅰ３？	深鉢	SX267	体部	隆帯文
502		58	Ⅰ３？	深鉢？	SX267	体部	隆帯文
503		58	Ⅱ1Bb1	浅鉢	SX267	口縁部～体部	山形突起、不明沈線
504		58	Ⅱ1Aｆ4	浅鉢	SX267	口縁部～体部	平口縁、平行沈線下円文
505		58	Ⅱ1Bb1	深鉢	SX267	口縁部～体部	山形突起、幾何学文＋磨消
506		58	ⅣＣ	壷	SX267	頸部～体部	体部上半沈線
507		58	Ⅱ１ｃ	鉢？	SX267	体部	連続刺突
508		58	Ⅲ３Ａｃ	浅鉢	SX267	口縁部～体部	平口縁、雲形文
509		58	Ⅲ２ａ？	浅鉢？	SX267	体部	羊歯状文？、体部下位無文
510		58	Ⅲ２Ａａ	浅鉢	SX267	口縁部	口唇部刻目、羊歯状文
511		58	Ⅳ？	浅鉢	SX267	口縁部	口唇部縄文、平行沈線
512		58	Ⅲ３Ｃ	浅鉢	SX267	口縁部	Ｂ突起
513		58	Ⅲ3Bbc	浅鉢	SX267	口縁部～体部	突起､平行沈線、雲形文
514		58	Ⅲ４？	壷	SX267	口縁部	平行沈線
515		58	Ⅲ３？	深鉢？	SX267	口縁部	平行沈線
516		58	Ⅲ４Ａａ	鉢	SX267	口縁部	平口縁、上向きの匹字文
517		58	Ⅲ４Ａａ	浅鉢	SX267	口縁部	平口縁、下向きの匹字文
518	32	58	Ⅱ２Ｄ	深鉢	SX2007	体部	条線文
519		58	Ⅰ３？	深鉢	SX2007	体部	隆帯文
520		58	Ⅱ1Bd1	深鉢	SX2007	口縁部～体部	Ⅰ字状孔沈線文
521		58	Ⅱ１ｂ１	深鉢？	SX2007	体部	隆帯
522		58	Ⅱ１ｈ	浅鉢？	SX2007	口縁部～体部	曲線文＋連続刺突
523		58	Ⅱ１ｆ３	壷？	SX2007	体部	帯状文
524		58	Ⅱ２ii	鉢？	SX2007	体部	入組文？＋貼瘤
525		58	Ⅱ２ii	鉢	SX2007	体部	入組文＋貼瘤
526		58	Ⅲ３ａ	鉢	SX2007	体部	平行沈線＋刻目
527		58	Ⅲ３Ｂｂ	鉢	SX2007	口縁部	口唇部刻目、平行沈線
528	33	58	Ⅲ３Ｂａ	深鉢	SD31	口縁部～体部	口唇部刻目、平行沈線間刺突、内面炭化物
529	33	58	Ⅲ１Ｂｂ	深鉢	SD31	口縁部	突起、三叉文
530	33	58	Ⅲ１ｃ	深鉢	SD31	体部	入組文
531	33	58	Ⅲ１ｂ	深鉢	SD31	体部	三叉文
532	33	59	ⅤＪ	鉢	SD31	底部	円形切欠
533		59	Ⅱ1Ab1	深鉢	SD31	口縁部	口唇部斜刻目、内面横位沈線、方形沈線区画
534		59	Ⅱ1Bb1	深鉢	SD31	口縁部	山形突起、コの字状隆沈線、区画内刺突＋磨消
535		59	Ⅲ３ａ	浅鉢	SD31	口縁部	沈線間刺突

536		59	Ⅱ１ｂ１	深鉢	SD31	体部	隆帯＋屈曲部沈線
537		59	Ⅲ２ａ？	浅鉢	SD31	口縁部	羊歯状文？
538		59	Ⅲ２Ｂａ	浅鉢	SD31	口縁部	Ｂ突起、羊歯状文
539		59	Ⅲ３Ｂ	浅鉢	SD31	口縁部	口唇部刻目
540		59	Ⅲ３Ｂｂ	浅鉢	SD31	口縁部	口唇部刻目、平行沈線
541		59	Ⅲ３ｂ？	浅鉢	SD31	口縁部	突起、口唇部刻目、平行沈線
542		59	Ⅲ２Ｂ	浅鉢？	SD31	口縁部	Ｂ突起、沈線
543		59	Ⅲ１ｃ	浅鉢	SD31	体部	波状口縁、入組文
544		59	ⅣＡ	壷？	SD31	体部	変形匹字文
545		59	Ⅱ1Aa３	深鉢？	SD31	口縁部	平口縁、口唇部縄文、菱形文
546	33	61	ⅤＣ	深鉢	SD187	体部～底部	外面調整(ハケ)、内面調整（ケズリ）、底部無文、RP28
547		57	Ⅱ1Af３	鉢	SD187	口縁部	平口縁、帯状文
548		36	ⅤＡ７	深鉢	SD187	口縁部	波状口縁、口縁部無文、直下沈線
549		36	ⅤＡ８	深鉢	SD187	口縁部	波状口縁、口縁部無文
550		59	Ⅲ４Ａ	浅鉢	SD187	口縁部～体部	平口縁＋平行沈線＋貼付、口唇部溝状
551		59	Ⅲ４Ａ	浅鉢？	SD187	口縁部	口縁部内面沈線、外面平行沈線
552		59	Ⅲ４Ａ	浅鉢	SD187	口縁部	平口縁＋平行沈線、ＲＰ31
553		59	Ⅲ４ａ	深鉢？	SD187	体部	上下対向の匹字文（大洞Ａ２）
554		59	Ⅲ４Ａａ	浅鉢	SD187	口縁部	匹字文？（大洞Ａ２）、ＲＰ31
555		59	ⅤＥ	壷	SD187	頸部～体部	外面無文
556		59	Ⅲ４ａ	深鉢	SD235	口縁部	平行沈線（匹字文？）
557		36	ⅤＡ１	深鉢	SD236	体部	平口縁、縄文
558		59	Ⅱ１ｂ２	深鉢	SD241	体部	隆帯
559		59	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SG287	口縁部～体部	隆帯文
560		59	Ⅰ３Ｂ	深鉢	SG287	口縁部～体部	平口縁、隆帯文
561		59	Ⅱ１ｂ２	深鉢	SG287	体部	隆帯
562		59	Ⅱ1Aa１	浅鉢？	SG287	口縁部	平口縁＋刻目、多条沈線(連孤状)
563		59	Ⅱ１ａ２	深鉢	SG287	体部	蕨状文
564		59	Ⅱ１ｃ	深鉢？	SG287	体部	刺突文
565		59	Ⅱ1Af２	浅鉢	SG287	口縁部	平口縁、連続刺突、沈線＋刻目
566		59	Ⅱ1Af２	深鉢	SG287	口縁部	入組状平行沈線
567		59	Ⅱ２	鉢	SG287	体部	入組文
568		59	Ⅱ２ii	壷？	SG287	体部	連孤状２条沈線＋貼瘤
569		59	Ⅲ1Ab？	深鉢	SG287	口縁部	波状口縁？、沈線
570		59	Ⅲ1Ab？	深鉢	SG287	口縁部	波状口縁？、三叉文
571		59	Ⅱ1Bb１	浅鉢	SG287	口縁部～体部	山形突起、渦文、楕円曲線
572		59	Ⅱ１ｃ	深鉢	SG287	体部	刺突、磨消、内面炭化物
573		59	Ⅱ１ｆ１	深鉢	SG287	体部	円文
574		59	Ⅱ２Ｄ	深鉢	SG287	体部	条線文
575		59	Ⅱ２ａ	深鉢	SG287	口縁部	突起、口縁部刻目、三角沈線磨消
576		59	Ⅱ２ａiii	深鉢	SG287	口縁部～体部	突起、口縁部貼瘤、条線状模様
577		60	Ⅲ１Ｄｂ	深鉢	SG287	口縁部	平口縁
578		60	Ⅲ１Ａｂ	深鉢	SG287	口縁部	波状口縁？、玉抱三叉文
579		60	Ⅱ１ａ１	深鉢	SG287	口縁部	多条沈線？
580		60	Ⅲ１Ｄｂ	浅鉢	SG287	口縁部	平口縁、玉抱三叉文
581		60	Ⅲ３Ｂｂ	浅鉢	SG287	口縁部～体部	口唇部刻目、平行沈線
582		57	ⅤＣ	深鉢	８－23G	体部	縄文→縦位ヘラナデ
583		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯文
584		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯文
585		60	Ⅱ１？	深鉢	17－10G	体部	大隆帯
586		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	
587		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯文（楕円状）
588		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯文（楕円状）
589		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯
590		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯文
591		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯文
592		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯文
593		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯文
594		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯文
595		60	Ⅰ３	深鉢	17－10G	体部	隆帯文
596		60	Ⅱ２Ｄ	深鉢	17－10G	体部	条線文
597		60	Ⅱ２Ｄ	深鉢	17－10G	体部	条線文、内面炭化物
598		60	Ⅱ1Bb１	深鉢	17－10G	口縁部	山形突起、楕円状隆沈線
599		60	Ⅱ１ｃ	鉢	17－10G	体部	連続刺突
600		60	Ⅱ１ｃ	深鉢	17－10G	体部	連続刺突
601		60	Ⅱ１ｃ？	深鉢	17－10G	体部	斜状刺突、楕円区画沈線
602		60	Ⅱ１ａ２	深鉢	17－10G	体部	円文＋剣菱文？
603		60	Ⅱ２	深鉢	17－10G	体部	格子文
604		60	Ⅲ１Ｂ	深鉢	17－10G	口縁部	突起、縦位条線
605		60	Ⅱ２ａii	深鉢	17－９～11G	口縁部	突起＋貼瘤
606		60	Ⅱ２ii	鉢	17－10G	体部	入組文＋貼瘤
607		60	Ⅱ１ｆ１	浅鉢	17－10G	体部	渦文、連孤文
608		60	Ⅲ１Ｂｂ	浅鉢？	17－10G	口縁部	突起、玉抱三叉文
609		60	Ⅲ１ｂ	深鉢	17－10G	体部	三叉文
610		60	Ⅲ１？	鉢	17－10G	口縁部	平口縁、横位沈線
611	35	60	Ⅰ１	深鉢	20－４G	体部	沈線（渦文）
612	35	60	Ⅲ２ａ	浅鉢	20－４G	体部	羊歯状文？
613	35	60	ⅤＨ	深鉢	20－４G	体部～底部	底部無文
614	35	60	ⅤＧ	深鉢	17－11G	体部～底部	底部無文
615	35	60	Ⅲ２ａｂ	浅鉢？	20－５G	口縁部～体部	口縁部（入組文）、体部上位（羊歯状文）

616	60	Ⅱ１ｄ１	深鉢	A区北	口縁部～体部	山形突起＋Ｃ字状孔隆起線文
617	60	Ⅱ1ａ1？	深鉢	A区北	体部	多条沈線
618	60	Ⅱ１ｂ２	深鉢	A区北	体部	隆帯
619	60	Ⅱ２ii	鉢？	A区北	体部	貼瘤
620	60	Ⅱ２ii	深鉢	A区北	口縁部	平口縁、沈線＋貼瘤
621	60	Ⅱ２Ａii	深鉢	A区北	体部	帯状文または平行沈線＋貼瘤
622	60	Ⅱ２iii	深鉢？	A区北	体部	平行沈線＋貼瘤(縦位刻目)
623	60	Ⅴ	深鉢	A区北	口縁部	粗い撚糸
624	60	ⅣＡ	鉢？	A区北	口縁部	平口縁、匹字文
625	60	Ⅲ3Cb？	浅鉢	A区北	口縁部	Ｂ突起？、沈線
626	60	ⅤＢ１	浅鉢	A区北	口縁部	横位沈線、無文
627	60	Ⅲ３ｂ？	鉢？	A区北	口縁部	平行沈線
628	60	Ⅲ３Ｂｂ	浅鉢	A区北	口縁部	口唇部刻目、平行沈線
629	60	Ⅲ３Ｂｂ	浅鉢	A区北	口縁部	口唇部刻目、平行沈線、外面炭化物
630	60	Ⅲ３Ａｂ	深鉢	A区北	口縁部～体部	平口縁、平行沈線、外面炭化物
631	61	ⅣＢ	深鉢	A区北	体部	波状文？
632	61	Ⅱ１ｂ１	深鉢	A区北	体部	沈線区画
633	61	Ⅳ？	鉢	A区北	体部	平行沈線
634	61	Ⅳ？	深鉢	A区北	体部	平行沈線
635	61	Ⅲ４Ａａ	壷？	A区北	口縁部	平口縁、匹字文
636	61	Ⅲ４Ｂａ	浅鉢	A区北	口縁部	突起、下向きの匹字文
637	61	Ⅲ４Ａ	浅鉢？	A区北	口縁部	平口縁、平行沈線
638	61	Ⅰ１	浅鉢？	A区北	口縁部？	渦文状突起
639	61	Ⅰ３	深鉢	A区北	体部	隆起線
640	61	Ⅰ３	深鉢	A区北	体部	隆起線
641	61	Ⅱ１Ｂ	深鉢	A区北	口縁部	山形突起、円孔２、不明曲線
642	60	Ⅱ1Bb1	深鉢	A区北	口縁部	山形突起？、幾何学沈線
643	61	Ⅱ１ｂ１	深鉢	A区北	体部	Ｔ字状隆帯
644	61	Ⅱ１？	深鉢	A区北	体部	隆帯
645	61	Ⅱ1Ad２	深鉢	A区北	口縁部	平口縁、口縁部無文､頸部隆帯＋刺突
646	61	Ⅱ２Ｃ	深鉢	A区北	体部	帯状文、内面炭化物
647	61	ⅤＡ１	深鉢	A区北	口縁部	平口縁、内外面炭化物
648	61	Ⅴ	深鉢	A区北	頸部～体部	頸部平行沈線
649	61	Ⅲ２ａ	浅鉢	A区北	体部	羊歯状文
650	61	Ⅲ３ｂ	浅鉢	A区北	口縁部	平行沈線
651	61	ⅤＨ	深鉢	A区北	体部～底部	底部無文
652	61	Ⅰ３	深鉢	A区北	口縁部～体部	隆帯文
653	61	Ⅲ３Ｃａ	浅鉢？	A区北	口縁部	Ｂ突起？、平行沈線＋刻目
654	61	Ⅲ３Ａｂ	深鉢	A区北	口縁部	平口縁、平行沈線
655	61	ⅤＡ７	深鉢	A区北	口縁部	波状口縁、羽状縄文
656	61	ⅤＡ５	鉢	A区北	口縁部	平口縁、口縁部無文
657	61	Ⅱ１ｇ	鉢？	A区北	体部	不明曲線内縄文、磨消
658	61	Ⅲ４ｄ	浅鉢	A区北	底部	底部無文､(大洞Ａ２)
659	61	ⅣＢ	壷？	A区北	体部	波状文？
660	61	ⅣＣ	壷？	A区北	体部	楕円形区画
661	61	ⅣＣ	壷？	A区北	体部	楕円形区画
662	66	Ⅲ３ｂ？	浅鉢	A区北	口縁部	突起？、平行沈線
663	35	60	ⅤＧ	深鉢	A区東壁	体部～底部	底部(編物圧痕)、内外面炭化物
664	35	61	ⅤＢ１	浅鉢	A区東壁	口縁部～体部	無文、626と同一？
665	35	61	ⅣＡ	丸底鉢	A区東壁	体部～底部	体部上位無文、体部中位平行沈線間刻目、下位三角形文様帯･変形匹字文
666	35	61	ⅤＡ４	深鉢	A区西壁	口縁部～体部	平口縁、結節縄文
667		61	Ⅱ１ｂ２	深鉢	A区東壁	体部	平行沈線･隆帯
668		58	Ⅰ３	深鉢	A区南	体部	隆帯文
669		44	Ⅰ２	深鉢	XO	口縁部	渦文？(剥離)
670	36	58	ⅤＡ１	深鉢	XO	口縁部～体部	平口縁、沈線、口縁部無文
671	36	62	ⅤＧ	深鉢	XO	底部	底部(木葉痕)
672	36	62	ⅤＨ	深鉢	XO	底部	底部(編物圧痕)
673	36	62	ⅤＧ	深鉢	XO	底部	底部(編物圧痕)
674	36	62	ⅤＫ	深鉢	XO	底部	底部(編物圧痕)
675	36	62	ⅤＨ	深鉢	XO	底部	底部無文
676	36	62	ⅤＨ	深鉢	XO	底部	底部無文
677	36	62	ⅤＡ２	深鉢	XO	口縁部～体部	平口縁、口縁部無文
678	36	62	ⅤＡ３	深鉢	XO	口縁部～体部	結節縄文
679	36	62	ⅤＡ２	鉢	XO	口縁部～体部	平口縁､口縁部～頸部無文
680	36	62	Ⅲ４ｄ	有孔底小型鉢	XO	1／2個体	丸底中央に単孔
681	36	62	Ⅱ１ｉ	深鉢	XO	体部	羽状縄文
682	37	5	Ⅰ３Ｂ	深鉢	17－11G	ほぼ完形	平口縁、隆起線(波濤文)底部無文
683	37	62	ⅤＡ８	深鉢	XO	ほぼ完形	口縁(小波状)、縦位撚糸、底部無文
684	37	7	Ⅲ３Ｅｂ	深鉢	XO	ほぼ完形	A突起､平行沈線
685		63	Ⅰ３？	浅鉢	XO	口縁部～体部	平口縁、隆帯文
686		63	Ⅰ３Ｂ	深鉢	XO	口縁部	平口縁、隆帯文
687		63	Ⅰ３Ｂ	深鉢	XO	口縁部～体部	波状口縁？、隆起線(楕円状？)
688		63	Ⅰ２？	深鉢	XO	体部	縦位の渦文
689		63	Ⅰ２？	深鉢	XO	体部	沈線文
690		63	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯文
691		63	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯文
692		63	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯文
693		63	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯文
694		63	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯文
695		63	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯文
696		63	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯

697	63	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯文
698	63	Ⅰ３？	深鉢	XO	口縁部	平口縁、隆帯文
699	63	Ⅰ３？	深鉢	XO	口縁部	隆起線
700	63	Ⅰ２	深鉢	XO	口縁部～体部	平口縁,楕円文、Ｓ字文？
701	63	Ⅰ２	深鉢	XO	体部	縦位の渦文
702	63	Ⅰ２	深鉢	XO	口縁部	口縁部渦文
703	63	Ⅰ３Ｂ	深鉢	XO	口縁部～体部	平口縁、隆帯文
704	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文、ＲＰ16
705	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	
706	63	Ⅰ２	深鉢	XO	体部	楕円文？
707	63	Ⅰ３	深鉢	XO	口縁部	平口縁、隆帯文
708	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文
709	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文
710	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文
711	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文
712	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文
713	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文
714	63	Ⅱ1Bd１	深鉢？	XO	口縁部	山形突起？、円孔？、Ｃ字状
715	63	Ⅱ１ｄ１	深鉢	XO	体部	刺突、隆帯
716	63	Ⅱ1Bd１	深鉢	XO	口縁部	山形突起？、並立盲孔
717	63	Ⅱ１Ｃ	浅鉢	XO	口縁部	環状突起＋盲孔
718	63	Ⅲ１Ｃｂ	深鉢？	XO	口縁部	突起、三叉文
719	63	Ⅲ１ｂ	壷	XO	体部	三角状縄文、三叉文、磨消
720	63	Ⅱ２Ｄ	深鉢	XO	体部	条線文
721	63	Ⅱ２Ｄ	深鉢	XO	体部	条線文(楕円状)
722	63	Ⅱ１ｂ１	深鉢	XO	口縁部	平口縁＋隆帯
723	62	Ⅱ１Ｅｈ	深鉢	XO	口縁部	波頂部に突起、内面に盲孔、内面炭化物
724	62	Ⅱ１Ｅｈ	深鉢	XO	口縁部	波頂部に珠状突起(４円孔)、孔状沈線内連続刺突
725	63	Ⅰ３？	深鉢	XO	口縁部	隆起線
726	63	Ⅰ３？	深鉢	XO	口縁部	隆起線
727	63	Ⅱ１Ｂ	深鉢？	XO	口縁部	山形突起
728	63	Ⅱ1Ab１	深鉢	XO	口縁部	平行線、方形隆帯、磨消
729	63	Ⅱ１ｆ２	深鉢	XO	体部	平行沈線＋直下Ｓ字文
730	63	Ⅱ1Ｆｆ４	壷？	XO	体部	方形沈線
731	63	Ⅱ２Ｃ	深鉢	XO	口縁部	帯状文
732	63	Ⅱ２Ｃ？	深鉢	XO	体部	帯状文(櫛描)
733	63	Ⅱ２Ｃ？	深鉢？	XO	体部	帯状文(櫛描)
734	63	Ⅱ２ii	深鉢	XO	体部	入組文(櫛描)＋貼瘤
735	63	Ⅱ２ａii	深鉢	XO	口縁部	突起,平行沈線＋貼瘤
736	63	Ⅱ１ｃ？	鉢	XO	口縁部	隆帯＋刺突
737	63	Ⅱ２Ａｉ	壷？	XO	体部	平行沈線＋棒状貼瘤
738	63	Ⅱ２Ｂii	深鉢	XO	口縁部	平口縁、貼瘤、頸部磨消
739	63	Ⅱ２ａii	深鉢	XO	口縁部	突起、貼瘤、沈線
740	63	Ⅱ２ii	深鉢	XO	体部	平行沈線＋貼瘤
741	63	Ⅱ２ii	深鉢	XO	体部	帯状文(櫛描)、貼瘤(大)
742	63	Ⅱ２ii	壷？	XO	体部	貼瘤(大)
743	63	Ⅱ２ｂ	深鉢	XO	口縁部	貼瘤、平口縁、粗い撚糸、下位磨消
744	63	Ⅱ２ii	深鉢	XO	体部	入組文＋貼瘤
745	63	Ⅲ3？	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、平行沈線、Ｃ字状
746	63	Ⅲ１Ｂｃ	深鉢	XO	口縁部	突起、入組文
747	63	Ⅲ１Ａｃ	深鉢	XO	口縁部	波状口縁？、入組文
748	63	Ⅲ３Ｃｃ	鉢	XO	口縁部	Ｂ突起、雲形文
749	63	Ⅲ２Ｂａ	浅鉢	XO	口縁部	Ｂ突起、羊歯状文
750	63	Ⅲ２Ｂａ	浅鉢	XO	口縁部	Ｂ突起、珠状文
751	63	Ⅲ３Ｃｂ	鉢	XO	口縁部～体部	Ｂ突起、平行沈線
752	63	Ⅲ３Ｄａ	浅鉢	XO	口縁部～体部	波状口縁、平行沈線＋刻目、内外炭化物
753	63	Ⅲ３Ｃａ	浅鉢	XO	口縁部～体部	Ｂ突起、平行沈線＋刻目
754	63	Ⅲ３Ａｂ	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、口唇部溝状
755	63	ⅣＣ	浅鉢？	XO	体部	三角形区画内縄文、磨消
756	63	Ⅲ４ａ	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、匹字文(重層的)
757	63	ⅤＡ５？	壷	XO	頸部～体部	頸部無文、内面炭化物
758	63	ⅤＡ４	深鉢	XO	口縁部～体部	平口縁、結節縄文、外面炭化物
759	63	Ⅰ２	深鉢	XO	口縁部	渦文
760	63	Ⅰ３？	深鉢	XO	口縁部	平口縁、区画沈線(楕円？)
761	63	Ⅰ３Ｂ	深鉢	XO	口縁部	平口縁、区画沈線
762	63	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯文(方形？)
763	63	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯文
764	63	Ⅰ３Ｂ	浅鉢	XO	体部	平口縁、隆帯文
765	63	Ⅱ１？	深鉢	XO	体部	隆帯文
766	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文
767	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文
768	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文
769	63	Ⅱ１？	深鉢	XO	体部	隆帯文
770	63	Ⅰ３	深鉢	XO	体部	隆帯文
771	64	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯、口縁部無文
772	64	Ⅰ３？	深鉢	XO	体部	隆帯文
773	64	Ⅱ1Bd１	深鉢	XO	口縁部	山形突起＋円孔？、８の字状輪形隆文？
774	64	Ⅱ１ｄ１	深鉢	XO	口縁部	孔沈隆起線文
775	64	Ⅱ1Bb１	深鉢	XO	口縁部	山形突起、孤状隆帯
776	64	Ⅱ１ｂ１	深鉢	XO	口縁部	口縁部前面に三角状突起
777	64	Ⅱ１ｂ２	深鉢	XO	体部	隆帯、体部下半鋸歯文？
778	64	Ⅱ１ａ１	深鉢	XO	体部	多条沈線
779	64	Ⅱ1Aa１	深鉢	XO	口縁部	平口縁、方形区画外縦位スリット

780	64	Ⅱ１ａ１	深鉢	XO	体部	多条沈線、楕円状磨消
781	64	Ⅱ１ｆ４	壷	XO	頸部～体部	体部上半に方形区画、頸部直下平行沈線
782	64	Ⅱ１？	深鉢	XO	体部	沈線内撚糸
783	64	Ⅱ1Bb1	浅鉢	XO	口縁部	突起？、不明曲線
784	64	Ⅱ２Ａ？	深鉢	XO	口縁部	肥厚した口縁部に横位沈線→縦位櫛描
785	64	Ⅱ1Ｆｆ4	壷	XO	口縁部～頸部	口唇部内面に突起、方形区画沈線
786	64	Ⅱ１ａ１	深鉢	XO	体部	多条沈線(楕円沈線)
787	64	Ⅱ１ｉ？	深鉢	XO	体部	沈線内磨消
788	64	Ⅴ	深鉢	XO	体部	横位の粗い沈線
789	64	Ⅱ１ｆ１	深鉢	XO	体部	連孤状２条沈線
790	64	Ⅱ２Ｂ	深鉢	XO	体部	帯状文
791	64	Ⅱ１ｇ	深鉢	XO	体部	磨消区画
792	64	Ⅴ	深鉢	XO	体部	磨消、沈線
793	64	Ⅱ２Ｄ	深鉢	XO	体部	条線状不明曲線
794	64	Ⅱ2Aａii	深鉢	XO	口縁部	突起､平行沈線＋貼瘤
795	64	Ⅲ１Ｂ	深鉢？	XO	口縁部	突起、摩滅
796	64	Ⅱ２ａ	深鉢	XO	口縁部	突起、条線文
797	64	Ⅱ２ａ	深鉢	XO	口縁部	突起＋縦位沈線、条線文
798	64	Ⅲ１Ｂｂ	深鉢	XO	口縁部	突起、三叉文
799	64	Ⅱ２Ｃii	壷？	XO	口縁部	平口縁､帯状文＋貼瘤
800	64	Ⅱ２ii	壷？	XO	体部	沈線、磨消、貼瘤
801	64	Ⅱ２Ａii	深鉢	XO	体部	平行沈線＋貼瘤
802	64	Ⅱ２ii	深鉢	XO	体部	刻目、沈線、入組帯状文＋貼瘤
803	64	Ⅲ1Ａｃ？	深鉢	XO	口縁部	波状口縁？、入組文？、内面炭化物
804	64	Ⅲ１ｃ？	深鉢？	XO	口縁部	入組文？
805	64	Ⅲ１ｂ	深鉢	XO	体部	三叉文
806	64	Ⅲ１ｂ	深鉢	XO	口縁部	三叉文
807	64	Ⅲ１Ｂ	深鉢	XO	口縁部	突起
808	64	ⅣＢ	鉢	XO	体部	波状沈線
809	64	ⅣＢ	鉢	XO	口縁部	平行沈線、波状沈線
810	64	ⅣＢ	鉢	XO	口縁部	平行沈線、波状沈線
811	64	Ⅳ？	鉢	XO	口縁部	平行沈線(多条)
812	64	ⅣＢ	鉢	XO	口縁部	平口縁､波状文？
813	64	ⅤＥ	壷？	XO	頸部	斜状沈線
814	64	ⅣＡ	鉢	XO	体部	匹字文
815	64	ⅣＢ	鉢	XO	体部	波状沈線
816	64	ⅣＢ	鉢	XO	口縁部	平口縁、連孤状沈線
817	64	ⅣＣ	壷	XO	頸部	頸部平行沈線、方形沈線
818	64	Ⅱ１Ｂ	浅鉢	XO	口縁部	山形突起＋円孔、内外盲孔
819	64	Ⅱ1Bd1	深鉢	XO	口縁部	山形突起？、方形区画内斜沈線
820	64	Ⅱ１ｂ１	深鉢	XO	口縁部	口縁部縦位隆帯
821	64	Ⅱ１ｂ２	深鉢	XO	体部	隆帯
822	64	Ⅱ１ａ１	鉢	XO	体部	刺突＋放射状沈線
823	64	Ⅲ１ａ	鉢	XO	口縁部	菱形状磨消
824	64	Ⅱ１ａ１	深鉢	XO	体部	多条沈線(円文？)
825	64	Ⅱ１ａ２	深鉢	XO	体部	多条沈線(円文＋懸垂文)
826	64	Ⅱ１ｃ	深鉢	XO	体部	縦位連続刺突
827	64	Ⅱ１ａ１	深鉢	XO	体部	多条沈線
828	64	Ⅱ１ｃ	鉢	XO	体部	連続刺突
829	64	Ⅱ１ｃ	鉢	XO	体部	隆帯＋刺突
830	64	Ⅱ１ｃ	深鉢	XO	体部	連続刺突
831	64	Ⅱ１Ａｃ	深鉢	XO	口縁部～体部	口唇部斜刻目、連続刺突
832	64	Ⅱ１ｃ	深鉢	XO	体部	連続刺突
833	64	Ⅱ１Ａｃ	深鉢	XO	体部	縦位連続刺突
834	64	Ⅱ１ｈ	深鉢	XO	体部	沈線内連続刺突
835	64	Ⅱ１ｈ	深鉢	XO	体部	円形沈線、刺突
836	64	Ⅱ１ｇ？	深鉢	XO	体部	円形区画磨消
837	64	Ⅱ１？	深鉢	XO	体部	三角状沈線、磨消
838	64	Ⅱ１ｇ	深鉢	XO	体部	沈線間磨消
839	64	Ⅱ１Ｅｆ２	浅鉢？	XO	口縁部	波状口縁、帯状文＋Ｓ字条沈線
840	64	Ⅱ２ａii	深鉢	XO	口縁部	突起、沈線＋貼瘤
841	64	Ⅱ２ａ	深鉢	XO	口縁部	突起、条線文？
842	64	Ⅱ２	鉢？	XO	体部	連孤状沈線
843	64	Ⅱ２ii	鉢	XO	口縁部～体部	入組文＋貼瘤(大)、縦位条線
844	64	Ⅱ２	深鉢	XO	体部	条線文(楕円状)
845	64	Ⅲ３Ｃｂ	浅鉢	XO	口縁部	Ｂ突起、平行沈線
846	64	Ⅱ１ｆ２	浅鉢	XO	口縁部	平行沈線＋刺突
847	65	Ⅰ２	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、隆帯文
848	65	Ⅰ２	深鉢？	XO	体部	隆帯文
849	65	Ⅱ１ａ１	深鉢	XO	体部	多条沈線
850	65	Ⅱ１ａ１	深鉢	XO	体部	多条沈線(渦文)
851	65	Ⅱ１ａ１	深鉢	XO	体部	多条沈線(円状)
852	65	Ⅱ１Ａ	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、横位沈線、沈線区画
853	65	Ⅱ1ｂ1？	深鉢	XO	体部	円形･懸垂状隆帯
854	65	Ⅱ１ｅ	鉢	XO	体部	隆沈線内刻目
855	65	Ⅱ１Ｄ	鉢？	XO	口縁部	橋状突起、刺突
856	65	Ⅲ１ｂ？	深鉢	XO	口縁部	突起、玉抱文？
857	65	Ⅲ１Ｂ	深鉢	XO	口縁部	突起(大)
858	65	１３	深鉢	XO	口縁部～体部	沈線内刺突充填
859	65	Ⅱ２ａ	深鉢	XO	口縁部	突起
860	65	Ⅱ2Baii	深鉢	XO	口縁部	突起､平行沈線＋刻目＋貼瘤
861	65	Ⅱ１ｉ	深鉢	XO	体部	底部直上沈線、内面炭化物
862	65	ⅣＡ	浅鉢？	XO	口縁部	平口縁、変形匹字文？
863	65	Ⅲ２ａ	浅鉢？	XO	口縁部	波状口縁、珠状文
864	65	Ⅲ2Bａｂ	浅鉢	XO	口縁部	Ｂ突起、口縁部入組文、体部羊歯状文

865	65	Ⅲ2Ｂａ？	浅鉢	XO	口縁部	Ｂ突起、羊歯状文？
866	65	Ⅲ３Ｃｂ	浅鉢	XO	口縁部	Ｂ突起、平行沈線
867	65	Ⅲ３Ｂａ	浅鉢	XO	口縁部～体部	口唇部刻目、平行沈線＋刻目、炭化物
868	65	Ⅲ２ａ？	壷？	XO	頸部	平行沈線、珠状文？
869	65	Ⅲ１ｃ	壷？	XO	体部	入組文、磨消
870	65	Ⅲ４Ａ？	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、平行沈線、匹字文？
871	65	Ⅲ４Ｂａ	浅鉢	XO	口縁部	突起、下向きの匹字文
872	65	Ⅲ４Ｂａ	浅鉢	XO	口縁部	突起、下向きの匹字文
873	65	Ⅲ４Ｂ	浅鉢	XO	口縁部	突起､横位隆帯＋沈線
874	65	Ⅲ３Ｂｂ	鉢？	XO	口縁部	口唇部刻目、平行沈線
875	65	Ⅲ３Ｂａ	鉢？	XO	口縁部～体部	口唇部刻目、平行沈線＋刺突
876	65	Ⅲ３Ｃａ	浅鉢	XO	口縁部	Ｂ突起、平行沈線＋刻目
877	65	Ⅲ３Ｂａ	浅鉢	XO	口縁部	口唇部刻目、平行沈線＋刻目
878	65	Ⅲ3ａｃ？	浅鉢	XO	体部	体部上半刺突、下半雲形文？
879	65	ⅤＡ８	浅鉢	XO	口縁部	波状口縁？
880	65	Ⅲ３Ｂｃ	浅鉢	XO	口縁部～体部	口唇部刻目、雲形文
881	65	Ⅲ１Ｂｃ	浅鉢	XO	口縁部	突起、不明曲線
882	65	Ⅲ１？	浅鉢	XO	体部	
883	65	Ⅲ３Ｆｂ	浅鉢	XO	口縁部～体部	波状口縁、平行沈線
884	65	Ⅲ２？	鉢？	XO	口縁部	平口縁、平行沈線
885	65	Ⅲ２？	鉢	XO	口縁部	口唇部刻目、口縁部無文
886	65	Ⅲ２？	浅鉢	XO	口縁部	口唇部刻目、口縁部無文
887	65	Ⅲ２？	浅鉢	XO	口縁部	Ｂ突起、外面剥離
888	65	ⅤＡ５	深鉢	XO	口縁部～体部	平口縁、口縁部無文
889	65	ⅤＡ５	鉢	XO	口縁部～体部	平口縁、口縁部無文
890	65	Ⅱ１？	壷？	XO	口縁部～頸部	山形突起＋刻目、平行沈線、三角形磨消、赤彩？
891	65	Ⅳ？	浅鉢	XO	口縁部	平行沈線
892	65	ⅣＡ	壷？	XO	頸部	頸部変形匹字文
893	65	ⅣＢ	蓋	XO	口縁部	波状文？
894	65	Ⅳ？	浅鉢？	XO	体部	匹字文？
895	66	Ⅲ１Ａｃ	深鉢	XO	口縁部～体部	波状口縁、入組文
896	66	Ⅲ１Ａｂ	深鉢	XO	口縁部～体部	波状口縁、三叉文
897	66	Ⅲ１ｃ	深鉢	XO	体部	入組文
898	66	Ⅲ１Ａｂ	深鉢	XO	口縁部～体部	波状口縁？、三叉文
899	66	Ⅲ１Ａｃ	深鉢	XO	口縁部	波状口縁、入組文
900	66	Ⅲ１Ａｂ	浅鉢	XO	口縁部～体部	波状口縁、玉抱三叉文、体部下位無文
901	66	Ⅲ１Ｄａ	浅鉢	XO	口縁部～体部	平口縁、浮彫装飾
902	66	Ⅲ１ｂ	壷？	XO	頸部～体部	三叉文
903	66	Ⅲ１	浅鉢	XO	口縁部～体部	
904	66	Ⅲ３ｃ？	浅鉢	XO	体部	雲形文？
905	66	Ⅲ３ｃ？	浅鉢	XO	体部	雲形文？
906	66	Ⅲ２Ｂａ	浅鉢	XO	口縁部～体部	Ｂ突起＋口唇部刻目、羊歯状文
907	66	Ⅲ２Ａａ	浅鉢？	XO	口縁部	平口縁、羊歯状文？
908	66	Ⅲ２Ｂａ	浅鉢	XO	口縁部～体部	Ｂ突起＋口唇部刻目､羊歯状文、平行沈線、内外面炭化物
909	66	Ⅲ2Ａａｂ	注口？	XO	口縁部	平口縁､入組文、羊歯状文？
910	66	Ⅲ２Ａａ	注口？	XO	口縁部	平口縁、羊歯状文？
911	66	Ⅲ３Ａａ	浅鉢	XO	口縁部	平口縁、平行沈線＋刺突、雲形文
912	66	Ⅲ３Ｆｃ	浅鉢	XO	口縁部	小波状(退化)、雲形文､補修孔、(Ｃ２)
913	66	Ⅲ３Ｅｂ	深鉢	XO	口縁部	A突起＋小突起、平行沈線､(Ｃ２)
914	66	Ⅲ３ｂ	深鉢	XO	口縁部	平行沈線､(Ｃ２)
915	66	Ⅲ４ｄ	高坏か鉢	XO	口縁部～体部	(大洞Ａ')､鋸歯文、生石より砂沢に近い
916	66	Ⅲ４Ａａ	浅鉢	XO	口縁部～体部	平口縁、下向きの匹字文
917	66	Ⅲ４Ｂ	深鉢	XO	口縁部～体部	突起、上向きの匹字文
918	66	Ⅲ4Ｂａ？	深鉢	XO	口縁部～体部	突起？、下向きの匹字文

表２　土製品観察表

※長さ、幅、厚さの単位はmm。

番号	図版	写真	器種	出土遺構	長さ	幅	厚さ	備考
919	23	40	円盤状	SK274	48	47	8	編物圧痕
920		45	円盤状	SK280	48	48	9	地文縄文
921		45	円盤状	SK280	37	39	9	地文縄文
922		45	円盤状	SK280	34	32	11	地文縄文
923		45	円盤状	SX115	40	38	9	沈線、地文縄文
924		45	円盤状	SX116	38	35	8	摩滅

表３　石器・石製品観察表

※長さ、幅、厚さの単位はmm。〔　〕は残存値を指す。

番号	図版	写真	器種	出土遺構	長さ	幅	厚さ	石材	分類	備考
925	21	67	石匙	SK17	39	47	7	頁岩		横形、ＲＱ40
926	21	69	打製石斧	SK36	91	50	23	安山岩		片縁抉り、側縁部に抉り
927	21	68	石刀	SK91	〔95〕	20	17	粘板岩		片側刃部、溝状加工痕
928	26	69	磨石	ＳＰ249	71	79	57	安山岩		欠損
929	22	67	石鏃	SK260	30	15	3	頁岩	Ｂ２	有茎鏃
930	22	68	石棒	SK265	〔145〕	25	18	粘板岩		両端欠損
931	22	70	砥石	SK265	〔37〕	33	13	流紋岩		欠損
932	22		凹石	SK265	93	76	〔33〕	流紋岩		欠損
933	23	70	二次加工	SK266	29	26	7	頁岩		
934	23	70	二次加工	SK266	27	28	8	頁岩		
935	23	68	掻器	SK276	〔20〕	36	4	頁岩		基部欠損、縁辺連続加工
936	24	69	凹石	SK276	77	82	47	安山岩		両面凹
937	24	67	石錐	SK280	28	12	6	頁岩		短めの尖頭部
938	25	68	掻器	SK286	33	27	8	頁岩		全縁辺の加工
939	25	69	砥石	SP239	〔90〕	42	31	凝灰岩		欠損
940	26	67	石匙	SP281	53	27	8			縦形
941	25		二次加工	SP248	38	22	9	頁岩		先端加工
942	28	67	石匙	SX30	31	54	6	頁岩		横形
943	28	67	石匙	SX30	61	20	7	頁岩		縦形
944	28	70	削器	SX30	52	60	14	メノウ		刃部欠損、片側縁辺部連続加工
945	28	67	削器	SX30	48	26	7	頁岩		短冊形、両側縁連続加工
946	28	67	石鏃	SX67	33	19	5	頁岩	Ｂ２	有茎鏃
947	28	67	石鏃	SX67	17	13	3	頁岩	Ｂ１	抉り有り
948	28	69	敲石	SX68	83	24	20	安山岩		先端部一辺に使用痕
949	29	67	石鏃	SX81(攪乱)	27	12	4	黒色頁岩	Ｃ	未成品
950	29	67	石鏃	SX81(攪乱)	16	14	5	鉄石英	Ｆ	RQ６、基部欠損、抉り有り
951	29	69	磨製石斧	SX81(攪乱)	〔42〕	〔37〕	32	安山岩		一側縁残存、定角式
952	29	69	凹石	SX81(攪乱)	85	72	22	安山岩		両面凹
953	29	67	石鏃	SX84	15	12	4	鉄石英	Ｅ２	基部抉り有り、RQ12
954	29	67	石鏃	SX84	40	12	6	玉髄	Ｄ１	有茎鏃、RQ４
955	29	67	石鏃	SX84	31	12	4	鉄石英	Ｂ２	有茎鏃、RQ10
956	29	67	石鏃	SX84	20	18	5	頁岩	Ｆ	平基鏃、RQ11
957	29	67	削器	SX84	32	22	10	チャート		片側側縁加工
958	29	69	凹石	SX115	〔92〕	83	27	安山岩		片面凹
959	30	69	敲石	SX127	115	91	70	砂岩？		使用痕
960	31	70	石皿	SX166	345	242	56	安山岩		片側縁なし
961	32	69	磨製石斧	SX267	〔90〕	60	27	安山岩		表面剥離、刃部に使用痕、定角式
962	32		石鏃	SX267	〔18〕	12	3	鉄石英	Ｅ１	先端・基部欠損、抉り有り
963	32	69	凹石	SX283	81	81	54	凝灰岩		両面凹
964	33	68	石棒	SX2007	〔60〕	30	23	粘板岩		両端欠損
965	33	69	砥石	SX2007	57	48	21	凝灰岩		
966	33	69	砥石	SX2007	〔54〕	38	26	凝灰岩		欠損
967	33	67	石鏃	SD100	28	13	7	玉髄	Ｃ	有茎鏃、RQ９
968	33	67	石匙	SD100	〔50〕	28	7	桂質頁岩		ＲＱ13
969	33	68	掻器	SD100	65	33	9	頁岩		撥形、粗い加工、RQ15
970	34	67	石鏃	SG287	〔36〕	22	7	頁岩	Ａ	先端部欠損、平基鏃
971	34	67	石匙	SG287	54	22	7	頁岩		縦形
972	34	67	削器	SG287	86	28	12	頁岩		全側縁加工
973	34	68	石棒	SG287	〔145〕	100	95	安山岩		基部欠損
974	34	68	石棒	SG287	〔95〕	〔23〕	〔7〕	粘板岩		横位沈線
975	34	69	凹石	SG287	101	82	42	安山岩		両面凹
976	37	67	石鏃	XO	18	7	3	玉髄	Ｄ２	基部欠損
977	37	67	石鏃	A区東壁	46	29	9	頁岩	Ｆ	基部に抉り有り
978	37	67	石鏃	５－31G	18	13	5	頁岩	Ｆ	
979	37	67	石鏃	XO	31	24	9	頁岩	Ｆ	平基鏃
980	37	67	石錘	XO	〔40〕	28	8	頁岩		尖頭部欠損
981	38	67	削器	３－28G	100	64	17	頁岩		２側縁連続加工
982	37	67	削器	XO	62	35	12	頁岩		全縁の連続加工
983	38	67	削器	A区北	73	35	24	頁岩		２側縁連続加工
984	38	67	削器	XO	51	20	9	頁岩		両側縁加工
985	38	67	削器	XO	34	21	7	頁岩		片面に石ハネ、両側縁加工
986	38	67	削器	A区北	46	50	16	頁岩		全縁辺の加工
987	38	67	削器	A区東壁	37	25	7	頁岩		２側縁連続加工
988	38		二次加工	XO	66	37	12	頁岩		
989	38		二次加工	XO	38	23	8	頁岩		
990	38		削器	XO	29	16	9	頁岩		
991	38		二次加工	XO	34	25	11	頁岩		
992	39		削器	XO	66	43	17	頁岩		
993	39		二次加工	XO	33	33	20	頁岩		
994	39		二次加工	XO	62	37	20	頁岩		
995	39		二次加工	XO	62	40	16	頁岩		
996	39		二次加工	XO	66	37	9	頁岩		
997	41		凹石	XO	143	73	35	凝灰岩		欠損
998	40		凹石	XO	135	40	31	安山岩		
999	39	67	石箆	XO	55	22	7	頁岩		先端部欠損
1000	39	70	石箆	XO	34	35	12	メノウ		３側縁連続加工
1001	39	67	石箆	XO	〔50〕	36	18	黒色頁岩		刃部欠損
1002	39	67	石箆	XO	101	61	18	頁岩		撥形、素材面を大きく残す
1003	39	68	掻器	XO	69	48	13	頁岩		急角度の調整加工
1004	40	68	掻器	XO	68	21	10	頁岩		棒状
1005	40	68	掻器	XO	54	28	13	凝灰岩		急角度の調整加工
1006	40	68	掻器	XO	〔21〕	31	7	鉄石英		連続加工
1007	40	68	掻器	XO	34	43	9	頁岩		急角度の調整加工

1008	40	68	掻器	XO	61	36	15	流紋岩	未成品
1009	40	68	掻器	XO	47	40	9	黒色頁岩	表裏にハネ、角度のある加工
1010	40	68	石槍	XO	〔39〕	17	8	頁岩	基部欠損、中央部までの加工
1011	40	68	石棒	A区北	〔68〕	〔24〕	〔10〕	粘板岩	
1012	40	68	石製装飾品	XO	〔15〕	4	4	泥岩？	C字状
1013	40	69	凹石	13−13G	87	79	44	安山岩	片面凹、RQ8
1014	40	69	凹石	XO	139	97	45	砂岩？	片面凹
1015	41	69	凹石	XO	〔108〕	〔45〕	〔15〕	安山岩	片面のみ残存
1016	41	69	凹石	XO	120	82	28	安山岩	複数凹
1017	41	69	磨石	A区	〔75〕	55	35	閃緑岩	基部欠損、棒状の礫から
1018	41	69	磨石	20−5G	130	62	26	安山岩	棒状
1019	41	69	磨石	20−5G	〔176〕	54	47	安山岩	基部欠損、棒状の礫から
1020	41	68	磨製石斧	上浦氏所蔵品	101	46	30	安山岩	定角式
1021	41	68	打製石斧	上浦氏所蔵品	108	64	35	安山岩	撥形、素材面大きく残す

表４　須恵器・土師器・陶磁器観察表

番号	写真	所属時期	種別	器種	出土遺構	残存部位	備考
1022	70	平安	須恵器	甕	Ｂ区	体部	内面アテ痕、外面タタキ、雲母・石英混
1023	70	平安	土師器	鉢	ＳＫ233	口縁部～体部	ロクロ成形、口縁部に突帯、胎土緻密
1024	70	中世	陶器	皿	ＸＯ	口縁部	内面突帯、口縁部灰釉、古瀬戸後期
1025	70	近世	陶器	皿	ＸＯ	口縁部～体部	内外灰釉、折縁形、唐津
1026	70	近世	陶器	碗	ＸＯ	体部	内外面灰釉、肥前呉器手？
1027	70	近世	陶器	鉢	ＳＥ132	口縁部	内外面鉄釉
1028	70	近世	陶器	擂鉢	ＳＥ132	口縁部	内外面鉄釉
1029	71	近世	陶器	擂鉢	ＳＫ234	１／２	内外鉄釉、口縁部のみ飴釉、会津本郷
1030	71	近世	陶器	擂鉢	ＸＯ	底部	内外飴釉、底部墨書「テロ…」
1031	70	近世	磁器	碗	ＸＯ	口縁部	二重網目文、肥前
1032	70	近世	磁器	碗	ＳＥ132	口縁部・底部	矢板・氷裂文、肥前系
1033	71	近世	磁器	碗	ＸＯ	底部	雪輪草花文、くらわんか手、肥前
1034	71	近世	磁器	小杯	ＳＫ158	底部	雪輪草花文、砂底、肥前
1035	71	近世	磁器	皿	Ａ区北	底部	見込（網目・果実・花）、底部「大明成…長口」、砂底、肥前

表５　銭貨計測表

番号	写真	所属時期	種別	銭種	出土遺構	備考
1036	71	近世	銭貨	寛永通宝	Ｂ区	幅23.5mm・厚さ1.1mm、新寛永（1668年～）
1037	71	近世	銭貨	寛永通宝	ＳＫ233	幅23.5mm・厚さ1.1mm、欠損あり、新寛永（1668年～）
1038	71	近世	銭貨	文久永宝	ＳＫ234	幅26mm・厚さ1.2mm、初鋳年：（1863年）

写真図版

調査風景

調査区全景（空中撮影）

Ａ区検出状況（南から）

ＳＸ115出土状況（南から）

Ａ区北完掘状況（南から）

ＲＰ39出土状況（西から）

ＲＰ38出土状況（南から）

ＲＰ38（大洞Ｃ1）

大木10式期深鉢

Ｂ区完掘全景（空中撮影）

ＳＸ116出土状況（東から）

縄文晩期前葉～中葉の土器

重機稼働状況（南から）

面整理（北東から）

遺構精査状況（南から）

記録作業（北東から）

調査説明会（西から）

調査説明会（南から）

遺構実測委託（北から）

空撮風景（北から）

Ａ区北完掘状況（南から）

Ａ区中央完掘状況（南から）

Ａ区北の遺構検出（西から）

Ａ区北遺構検出（北から）

Ａ区北ＳＰ94完掘（南から）

Ａ区北西壁層序（東から）

Ａ区北の南半完掘状況（西から）

Ａ区北ＳＫ17出土の石匙（ＲＱ40）（西から）

Ａ区北ＳＫ８出土の土器片（ＲＰ１）（東から）

Ａ区北ＳＫ90断面（南から）

Ａ区北ＳＫ256完掘（南から）

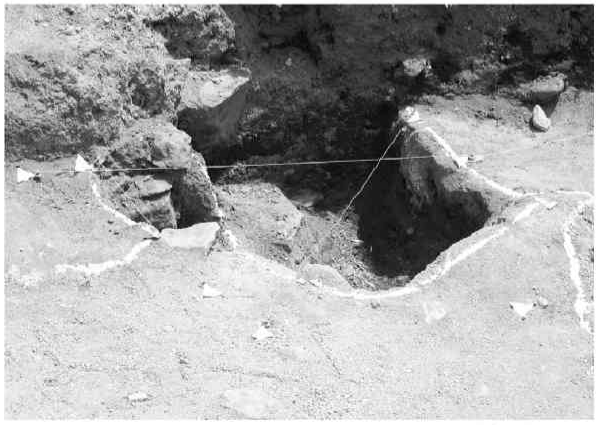
Ａ区北ＳＫ89断面（南から）

Ａ区北ＳＸ14・ＳＫ266完掘（西から）

Ａ区北ＳＫ17断面（東から）

Ａ区北ＳＫ17断面（東から）

Ａ区北ＳＫ17出土土器片（ＲＰ２）（西から）



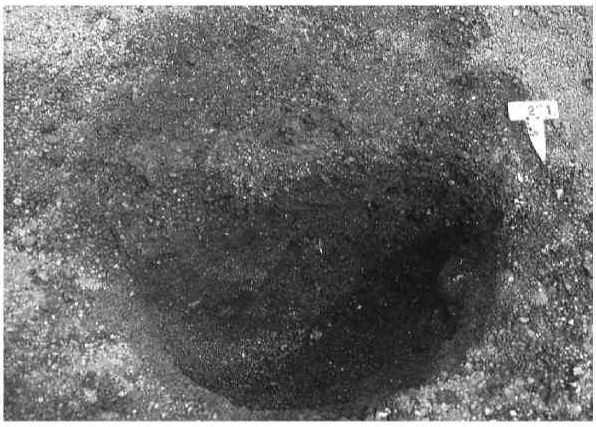
Ａ区北ＳＫ17・ＳＰ255完掘（東から）

Ａ区北ＳＰ249断面（西から）

Ａ区北ＳＰ249完掘（西から）

Ａ区北ＳＫ11断面（南から）

Ａ区北ＳＫ11完掘（南から）



Ａ区北ＳＰ281断面（南から）

Ａ区北ＳＰ257断面（東から）

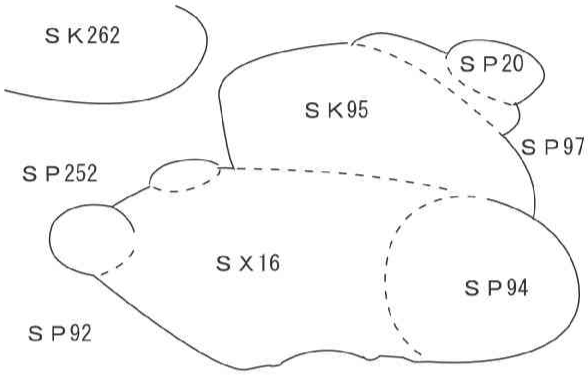
Ａ区北ＳＰ92断面（南から）

Ａ区北ＳＰ252断面（南から）

Ａ区北ＳＰ94断面（南から）

Ａ区北ＳＰ94・ＳＰ97・ＳＸ16完掘（西から）

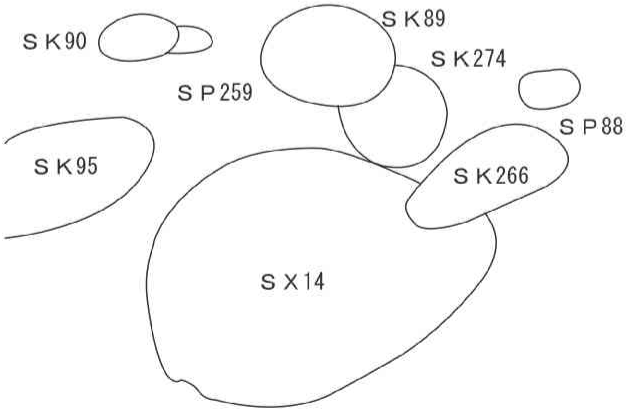
Ａ区北ＳＰ97断面（南から）



Ａ区北ＳＫ266・ＳＸ14断面（南から）

Ａ区北ＳＫ266・ＳＸ14完掘（西から）

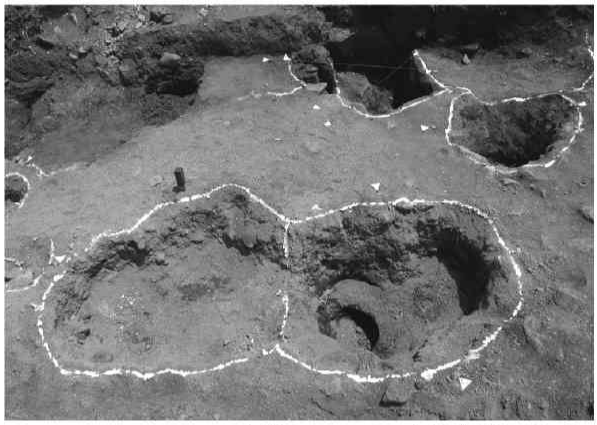
Ａ区北ＳＫ266出土土器（ＲＰ34）（南から）



Ａ区北ＳＸ14断面（南から）

Ａ区北ＳＸ14完掘（北西から）

Ａ区北ＳＫ８断面（東から）



Ａ区北ＳＫ８・ＳＸ11完掘（北西から）

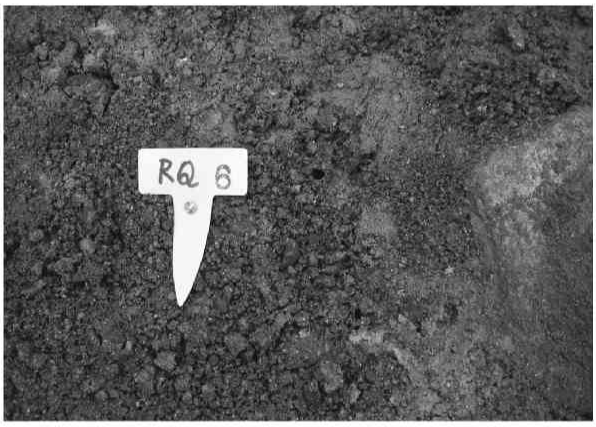
Ａ区北北端部完掘（北から）

Ａ区中央ＳＸ81断面（南から）

Ａ区中央表土除去作業（南から）

ＳＸ81出土石器（ＲＱ５）（南から）

Ａ区中央表土除去作業（南から）



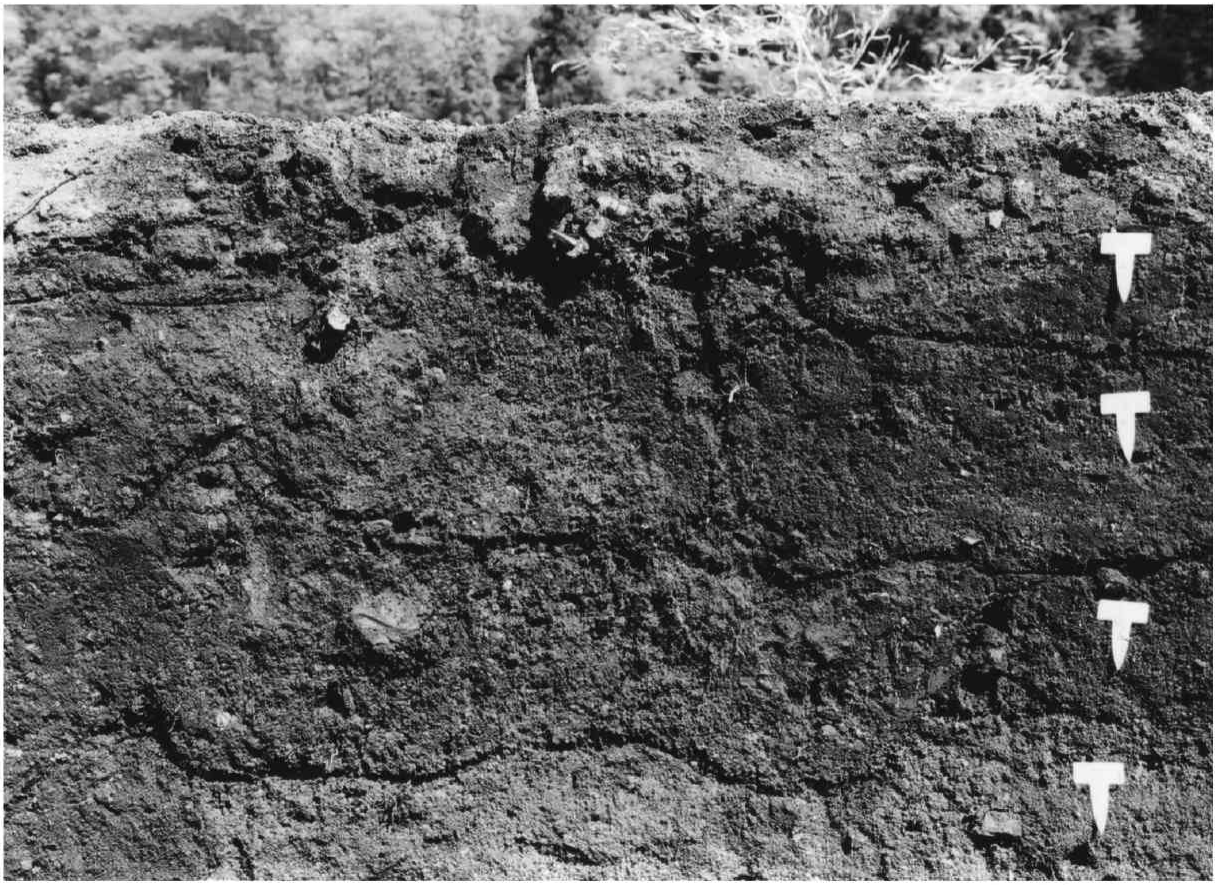
ＳＸ81出土石器（ＲＱ６）（南から）

Ａ区検出状況（北から）

Ａ区中央の北端部遺構検出（西から）

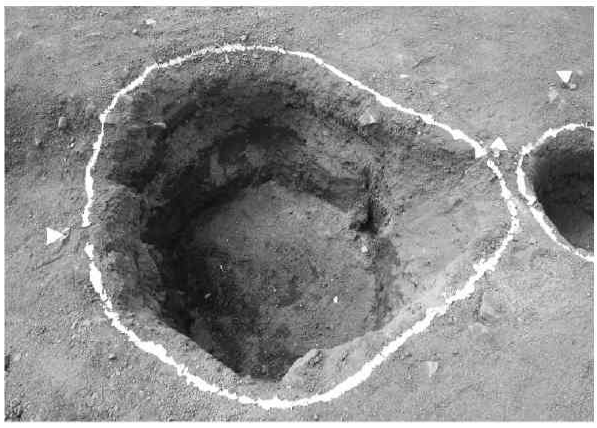
Ａ区南部の撹乱状況（東から）

Ａ区中央北東壁層序（西から）



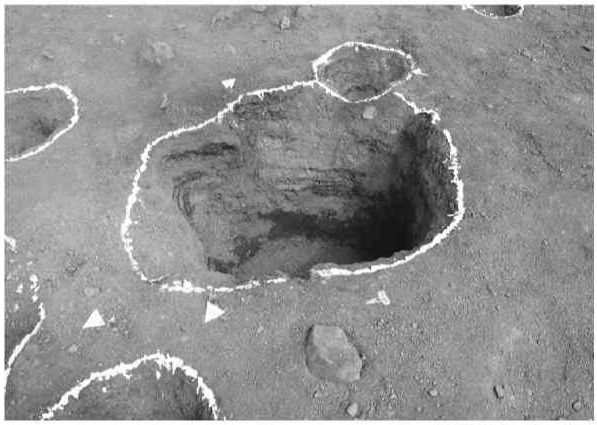
Ａ区中央南東壁層序（西から）

Ａ区中央ＳＫ38断面（西から）



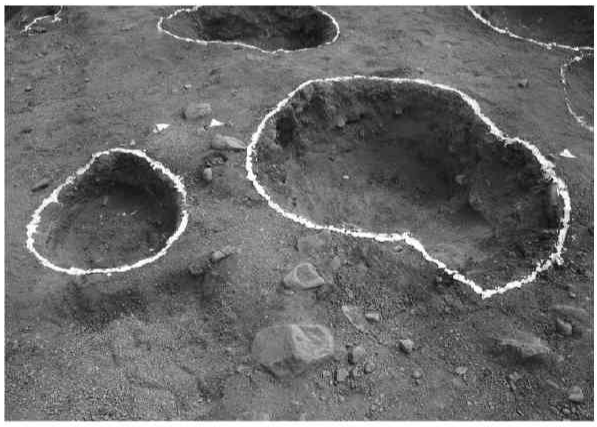
ＳＫ38完掘（東から）

Ａ区中央ＳＫ41断面（南から）

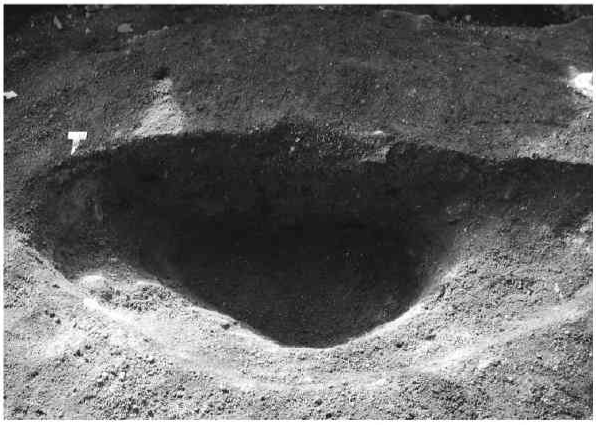


ＳＫ41完掘（西から）

Ａ区中央ＳＫ49断面（南から）



ＳＫ49・ＳＫ51完掘（東から）



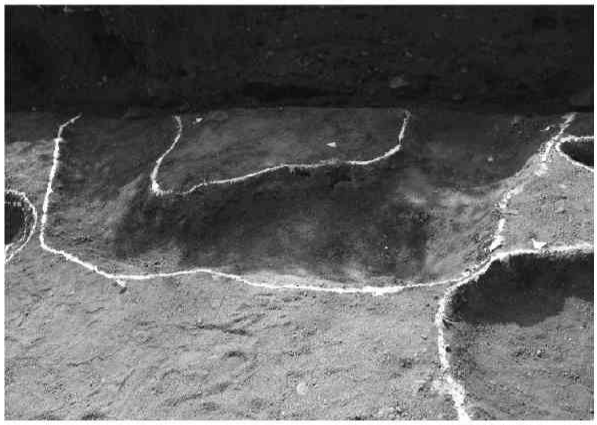
Ａ区中央ＳＫ53断面（東から）

ＳＫ53・ＳＫ273・ＳＫ49完掘（北東から）

Ａ区中央ＳＤ100出土石器（ＲＱ13）

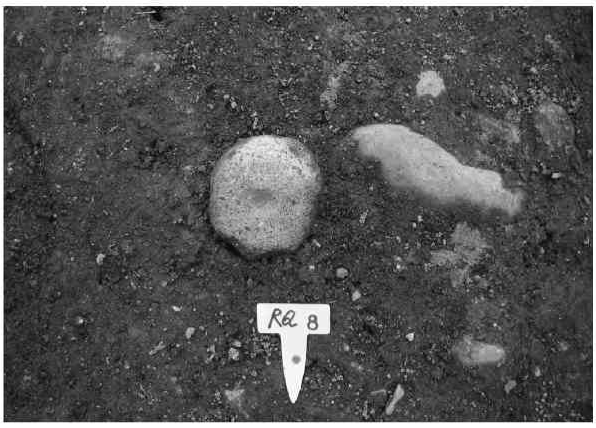
ＳＤ100調査風景（東から）

ＳＤ100出土石器（ＲＱ９）



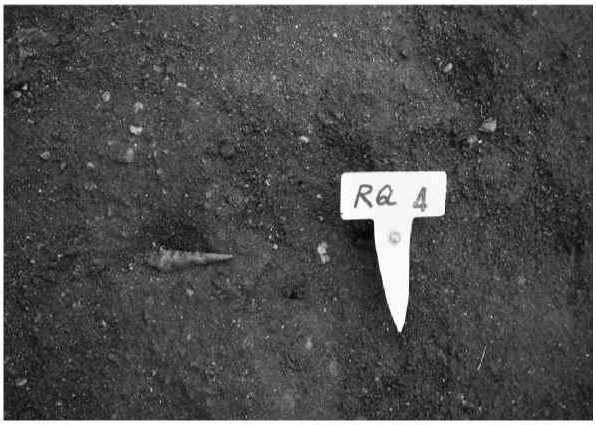
ＳＤ100・ＳＫ85完掘（東から）

ＳＤ100周辺の完掘状況（東から）

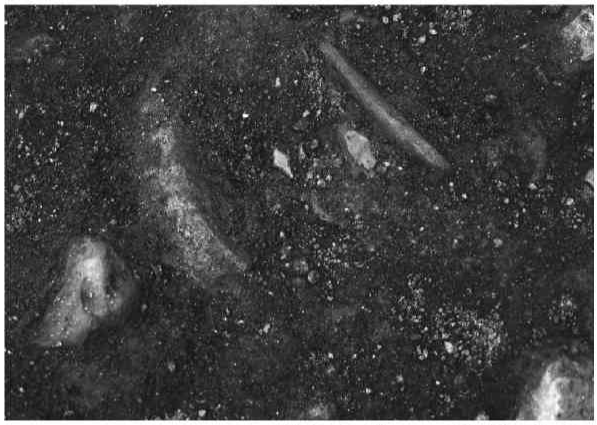


Ａ区中央13―13Ｇ出土石器（ＲＱ８）（北から）

Ａ区中央ＳＸ84出土石器（ＲＱ12）（北から）

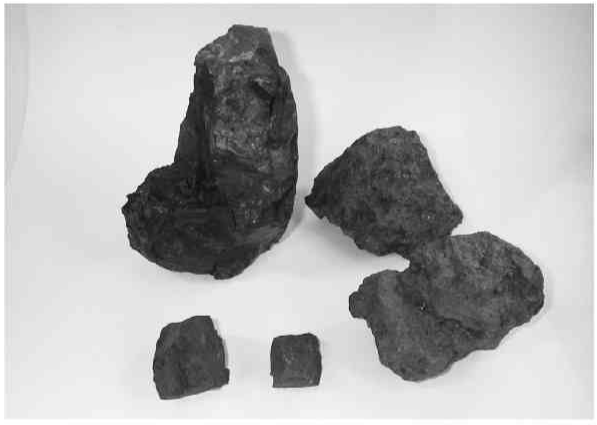


ＳＸ84出土土器（ＲＱ４）（南から）



ＳＸ84出土石器（ＲＱ10）（南西から）

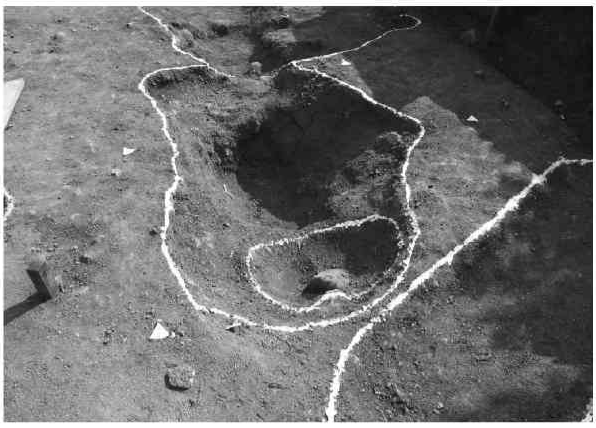
ＳＸ84出土石器（ＲＱ10）（南から）



鉄石英

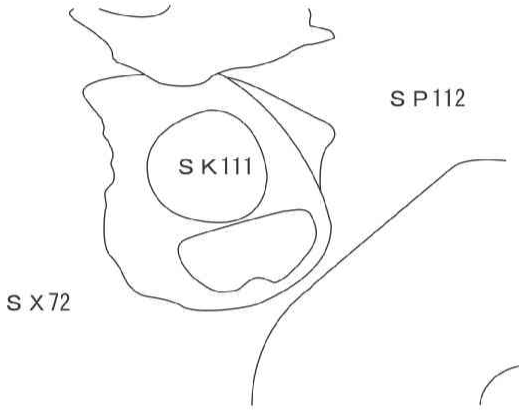
ＳＸ84出土石器（ＲＱ11）（南から）

ＳＸ84・ＳＫ114完掘（東から）



Ａ区中央ＳＸ72・ＳＰ112・ＳＫ111完掘（北東から）

ＳＸ72出土土器（ＲＰ３）（西から）

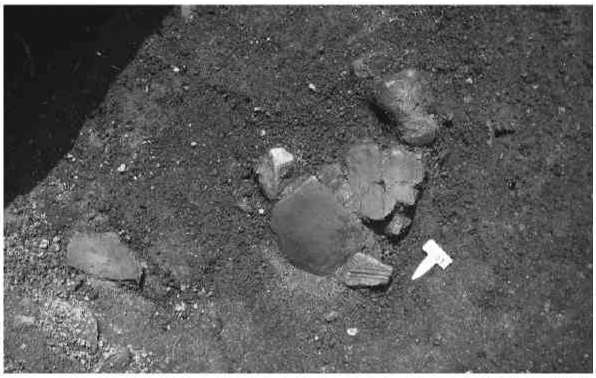


Ａ区中央ＳＧ287完掘（南から）

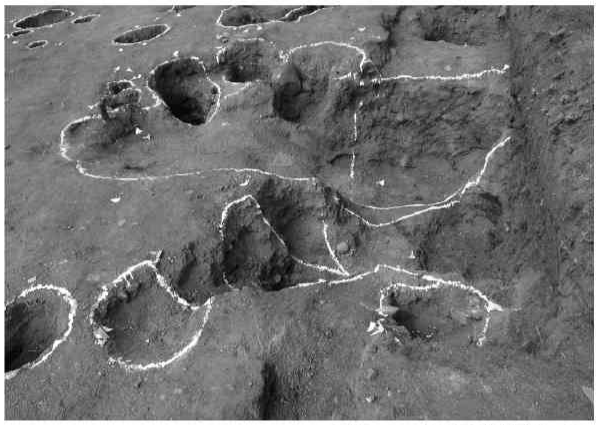
ＳＧ287断面（南西から）

Ａ区中央ＳＸ115・ＳＫ280（西から）

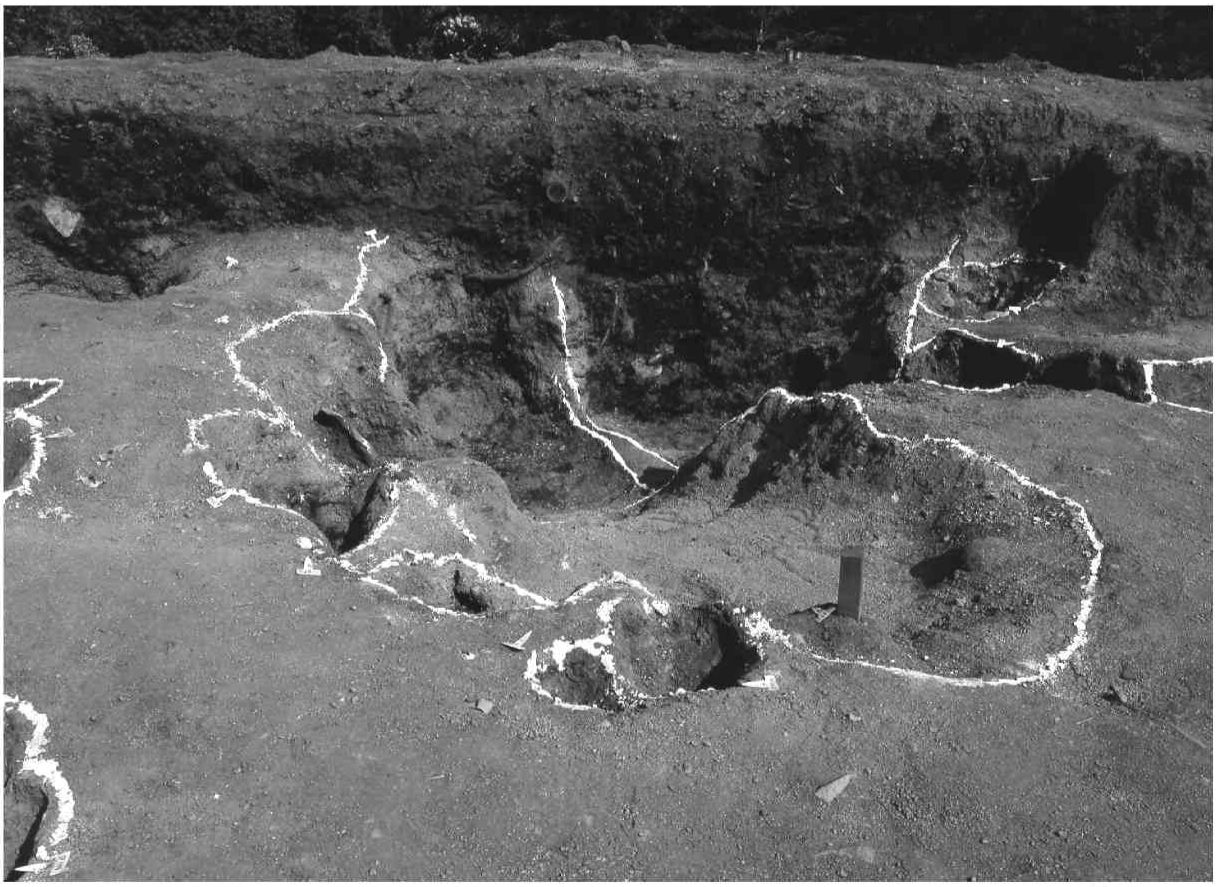
ＳＸ115出土土器（ＲＰ17～21）（南から）



Ａ区中央ＳＫ285出土土器

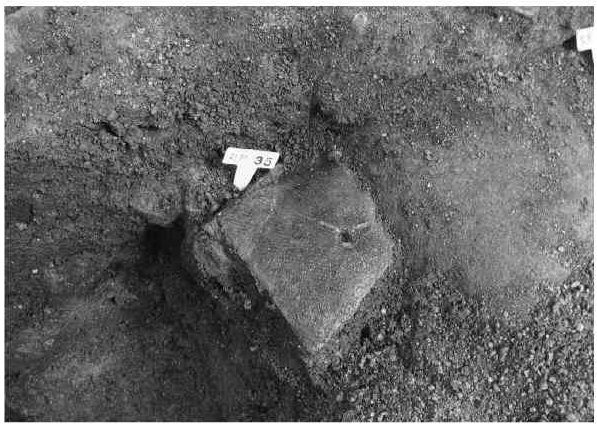


ＳＫ115・ＳＫ280完掘（南から）



ＳＸ115・ＳＫ280完掘（西から）

Ａ区中央ＳＸ29断面（西から）



ＳＸ29出土土器（ＲＰ35）（西から）

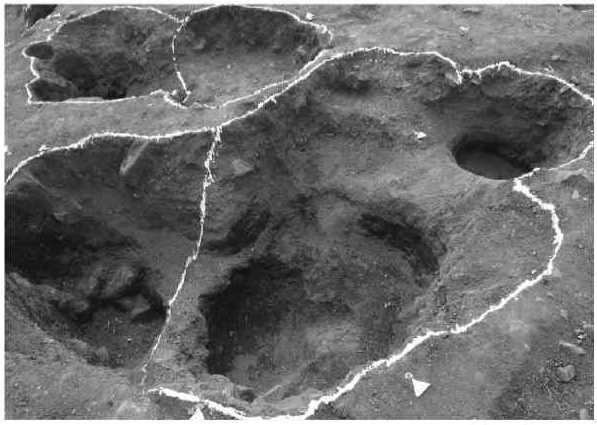
Ａ区中央ＳＸ30・ＳＫ260断面（北西から）

Ａ区中央ＳＸ29・ＳＰ28完掘（南東から）

Ａ区中央ＳＸ30・ＳＫ260完掘（北から）

Ａ区中央ＳＸ279完掘（北東から）

Ａ区中央ＳＸ116断面（西から）



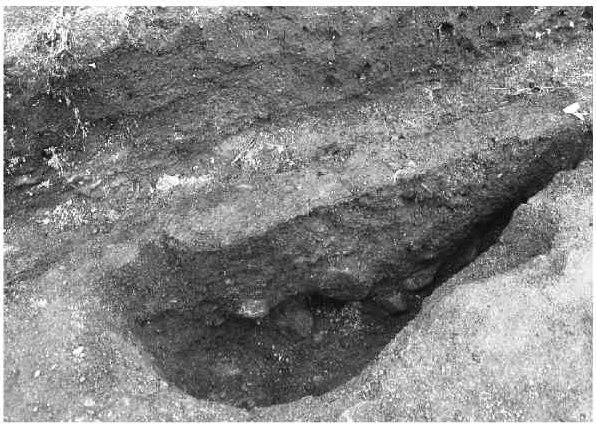
ＳＸ116完掘（南から）

Ａ区中央ＳＫ265断面（北東から）

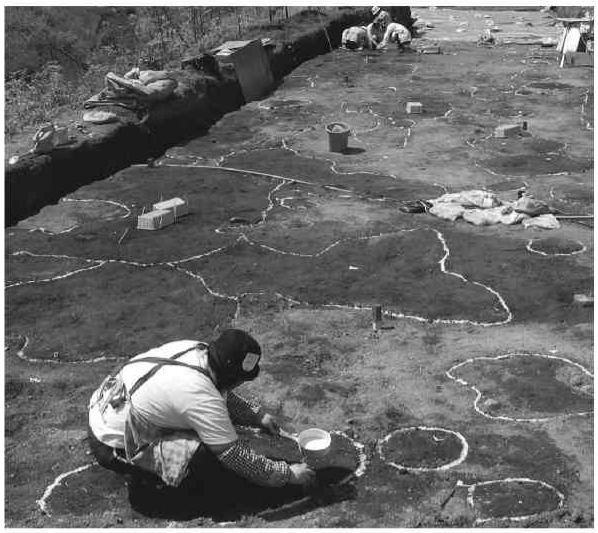
ＳＫ265出土石製品（ＲＱ37）（北東から）

Ａ区中央東17－11グリッド出土土器（東から）

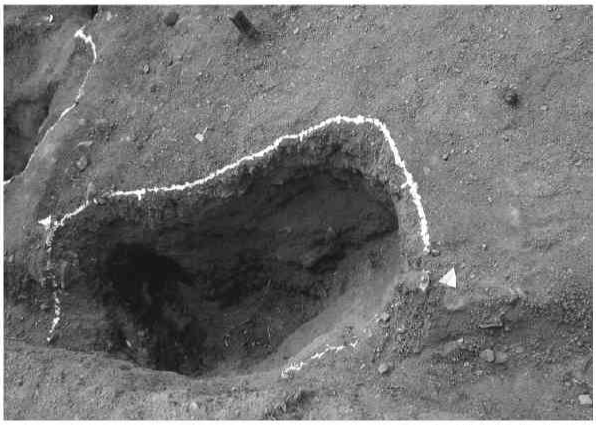
Ａ区中央東17－11グリッド直下出土土器（西から）



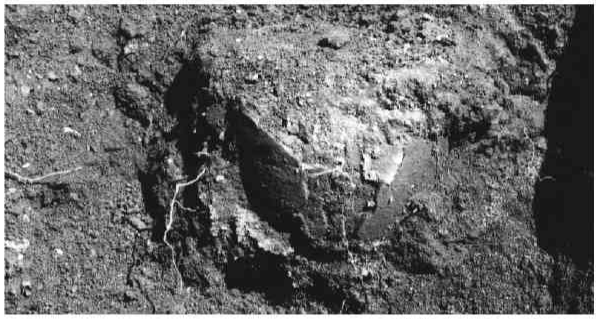
Ａ区中央ＳＸ67断面（西から）



Ａ区中央作業風景（北から）

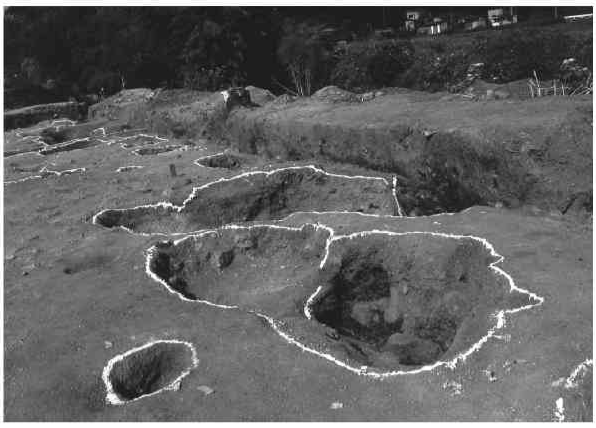


ＳＸ67完掘（東から）



ＳＸ67出土土器（西から）

Ａ区中央ＳＸ68・ＳＫ283断面（西から）



ＳＸ68・ＳＫ283完掘（西から）

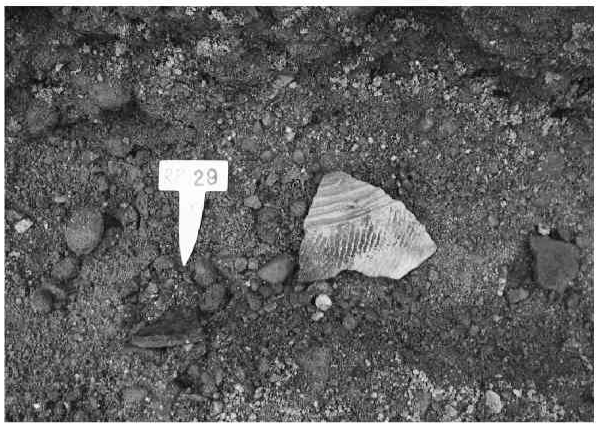
Ａ区中央ＳＤ31断面（東から）

Ａ区中央ＳＫ268断面（南から）

ＳＤ31・ＳＫ270完掘（東から）

Ａ区中央北完掘（北から）

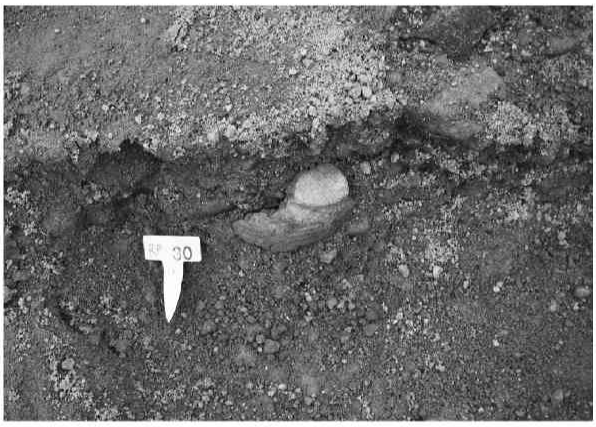
Ｂ区排水桝掘り下げ状況（北から）



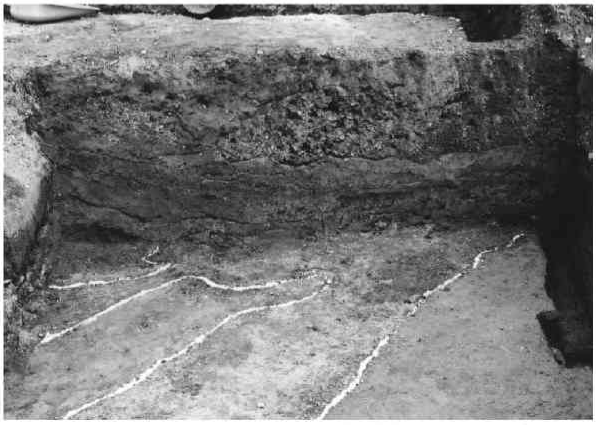
ＲＰ29出土状況

ＳＤ187検出状況（南西から）

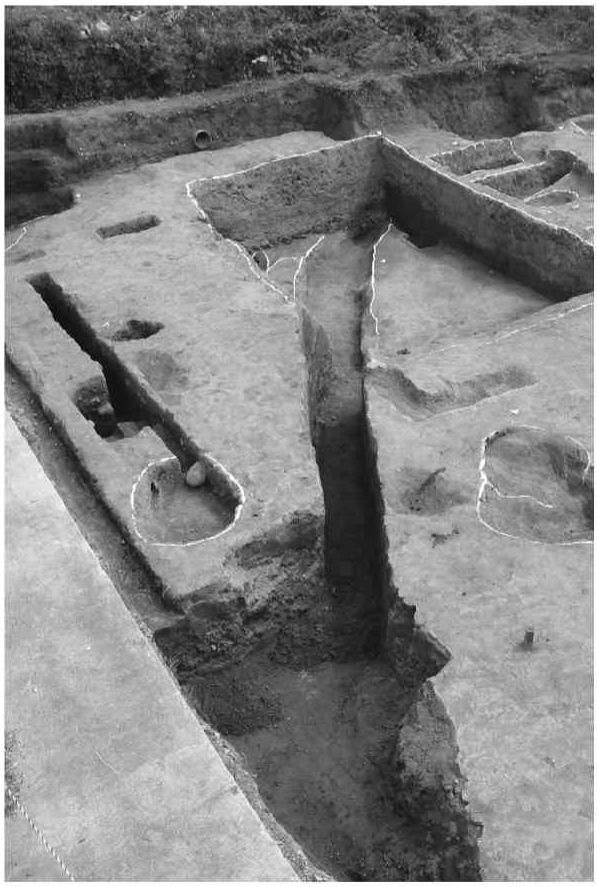
ＳＤ187完掘状況（南西から）



ＲＰ30出土状況（東から）



排水桝北側断面（南から）



ＳＤ187上流部検出（南西から）

Ｂ区ＳＫ245掘り下げ（東から）

ＳＥ132完掘（西から）

Ｂ区ＳＥ132検出（北から）

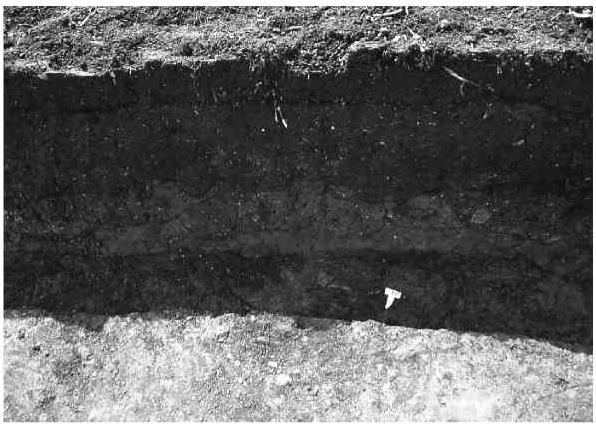
ＳＥ132石積み状況

Ｂ区ＳＥ132掘り下げ（北から）

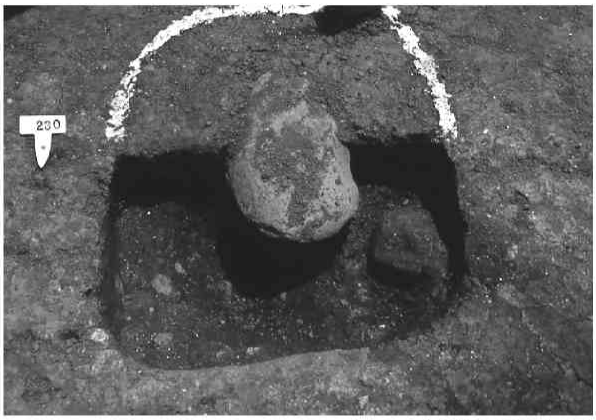
ＳＥ132井戸底

ＳＥ132断面（西から）

Ｂ区調査時の訪問者

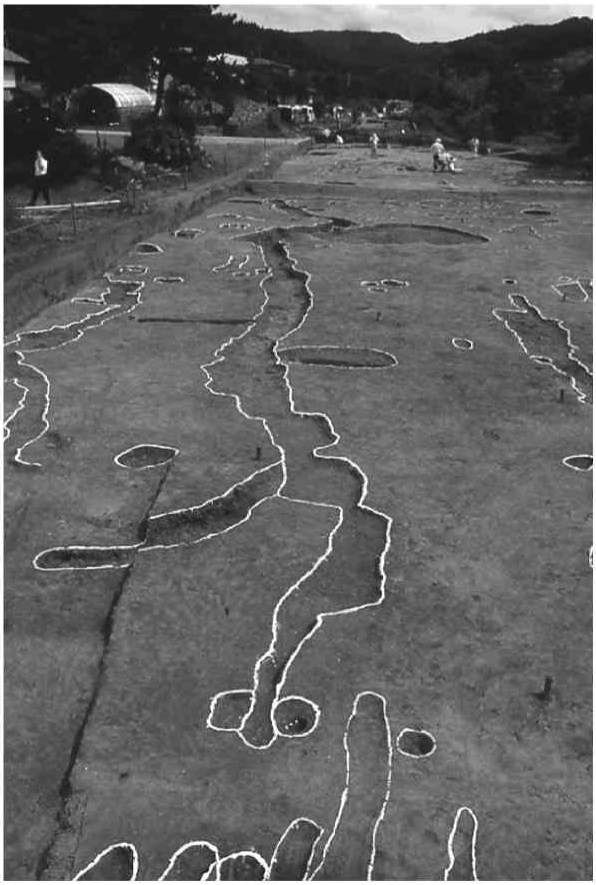


Ｂ区ＳＫ245検出と西壁層序（東から）

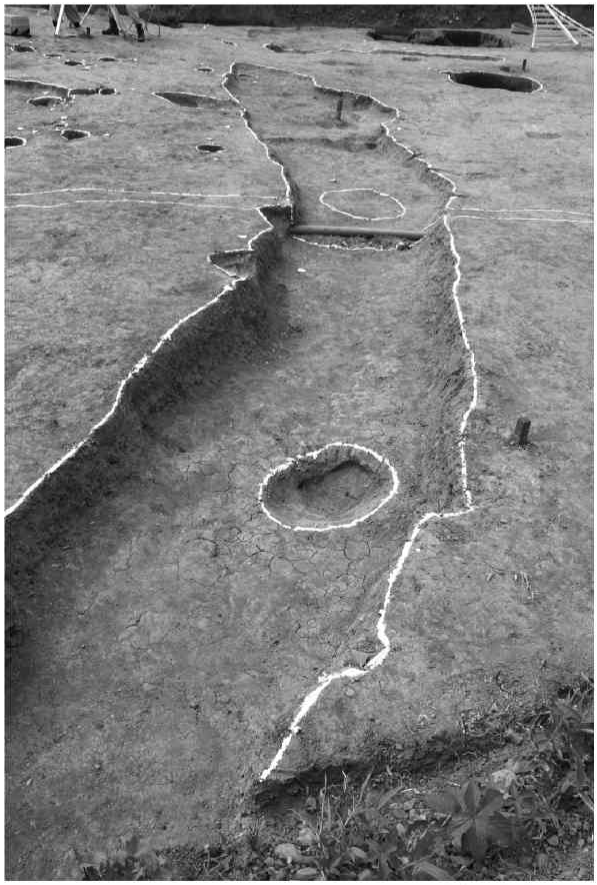


Ｂ区ＳＰ230断面（西から）

Ｂ区ＳＤ173完掘（北西から）



Ｂ区ＳＤ235完掘



Ｂ区ＳＤ173完掘（南東から）

Ｂ区ＳＸ166拡張（東から）

ＳＸ166遺物検出状況（東から）

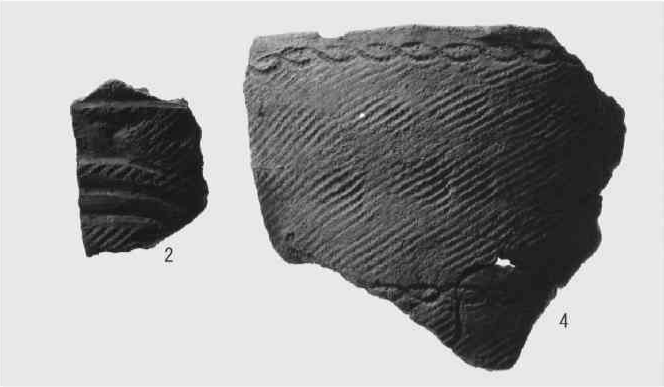
ＳＸ117一部精査とＳＸ166拡張（南から）

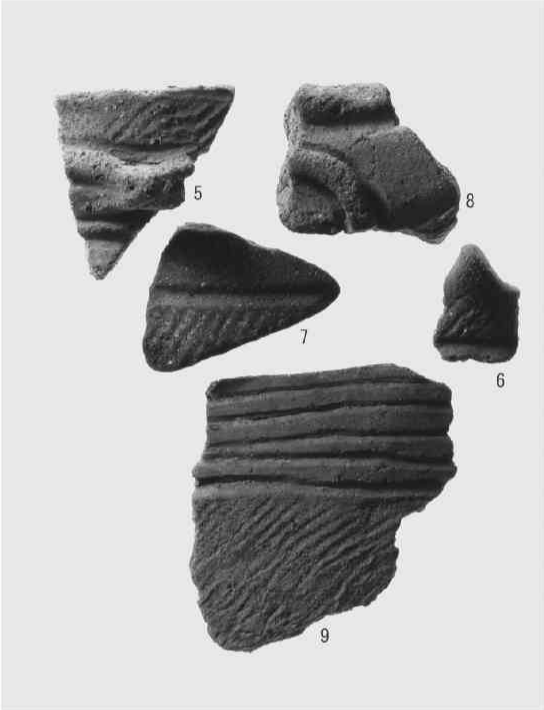
ＳＸ166東西断面一部（南から）

ＳＸ166遺物出土状況（南から）

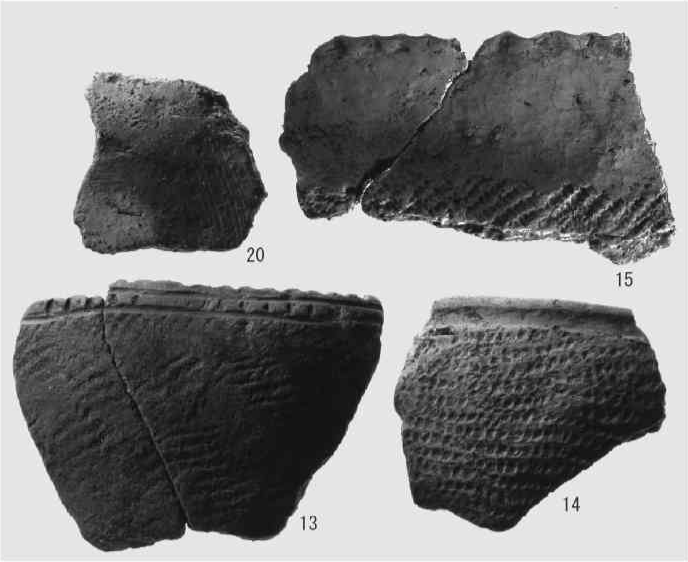
ＳＸ166完掘（南から）

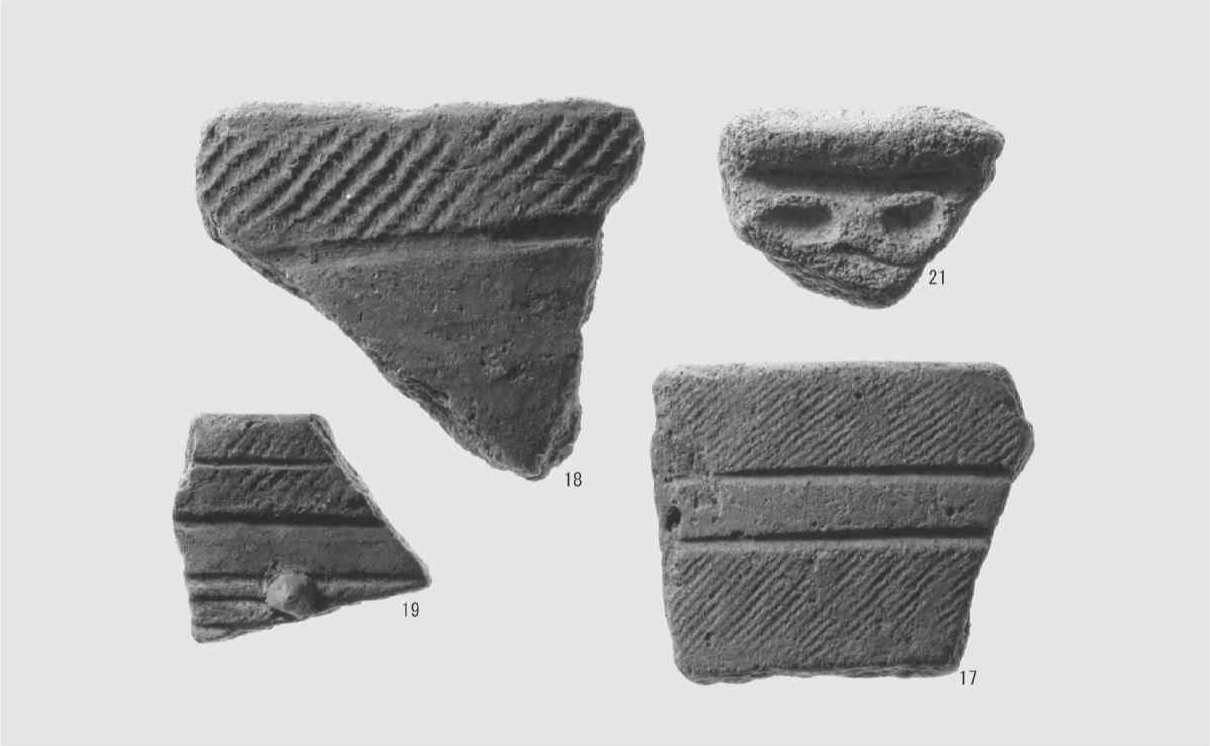
ＳＸ166完掘（東から）





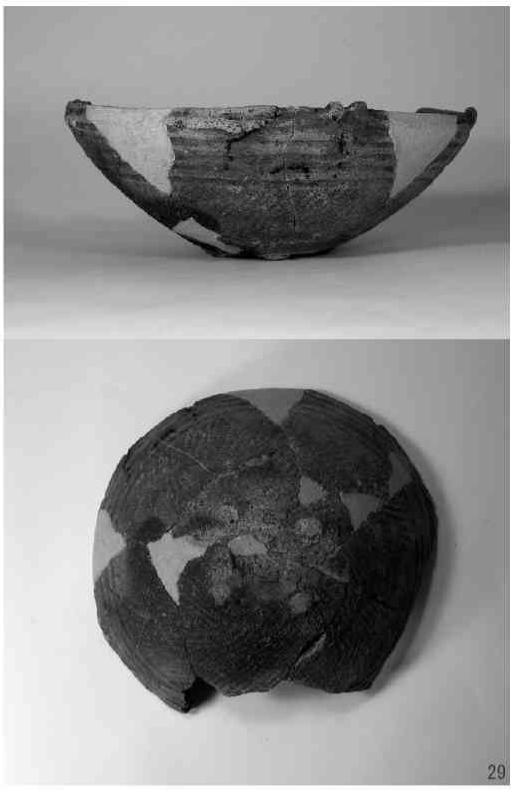
出土遺物（１）

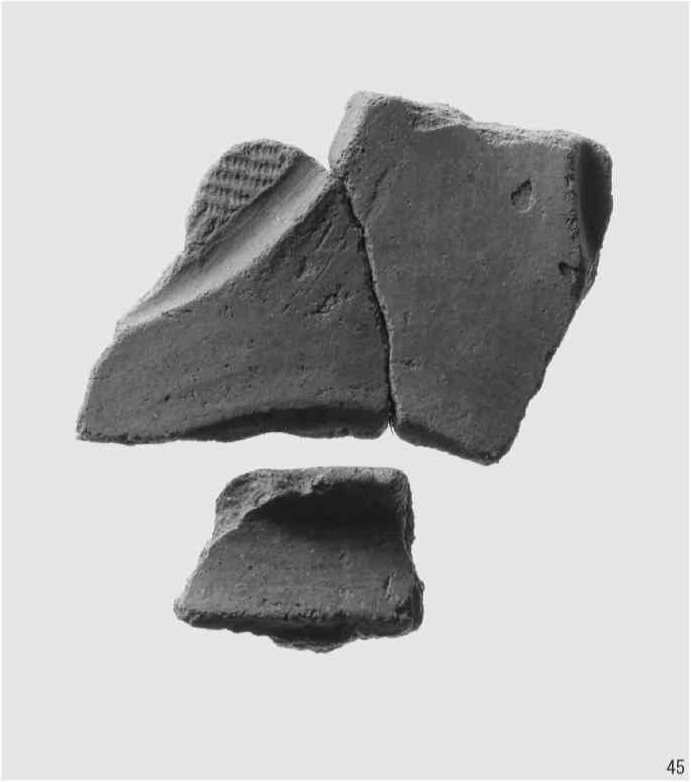


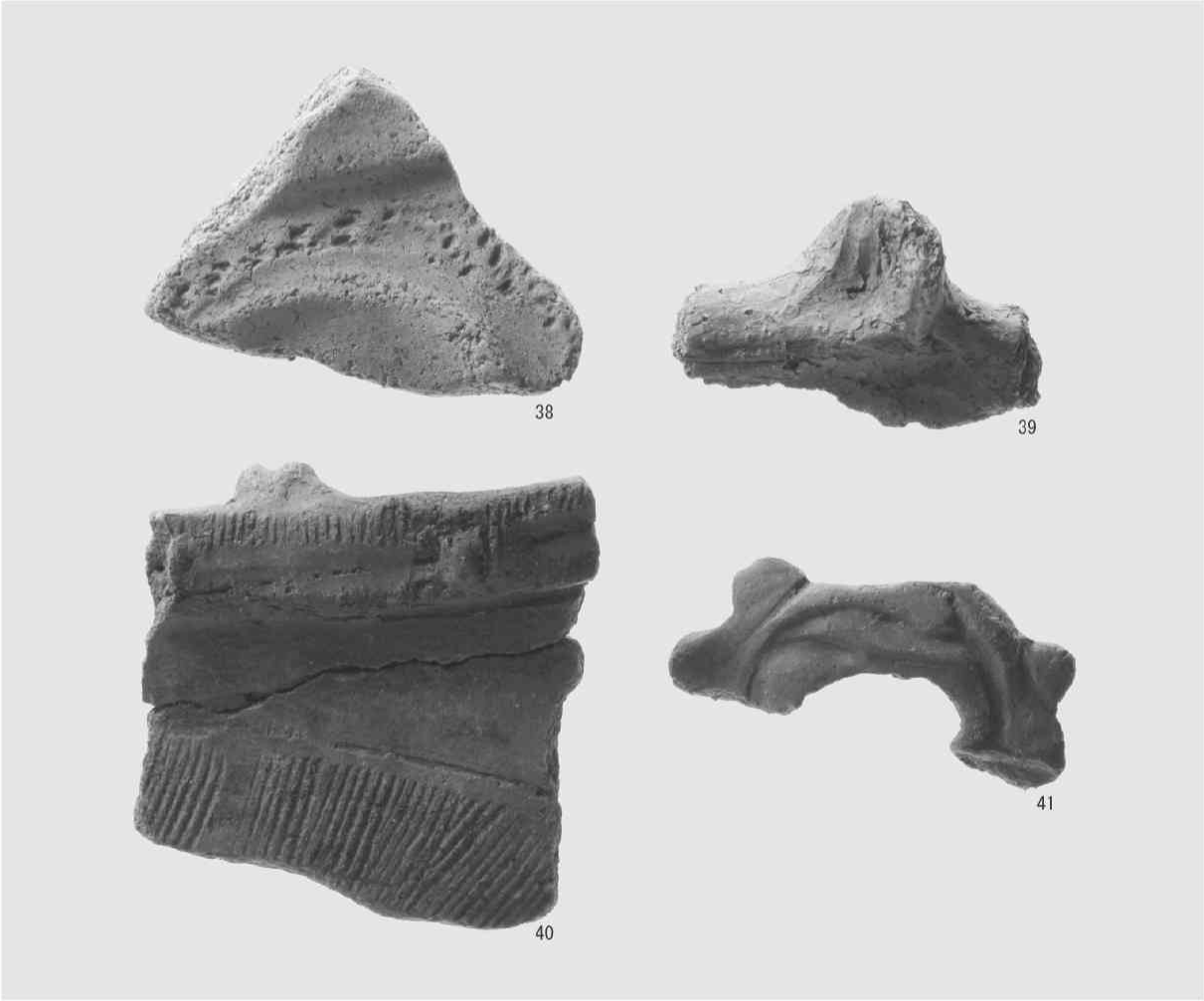


出土遺物（２）

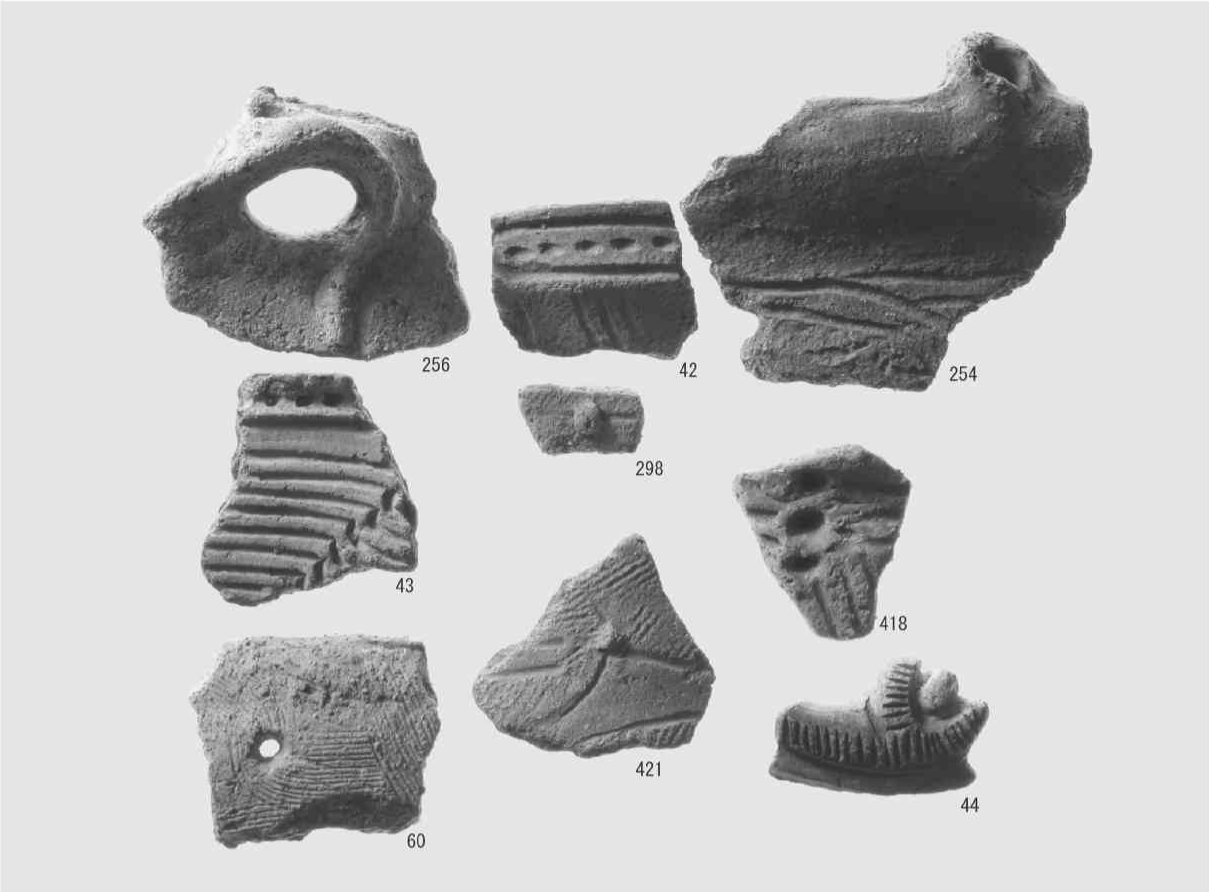
出土遺物（３）

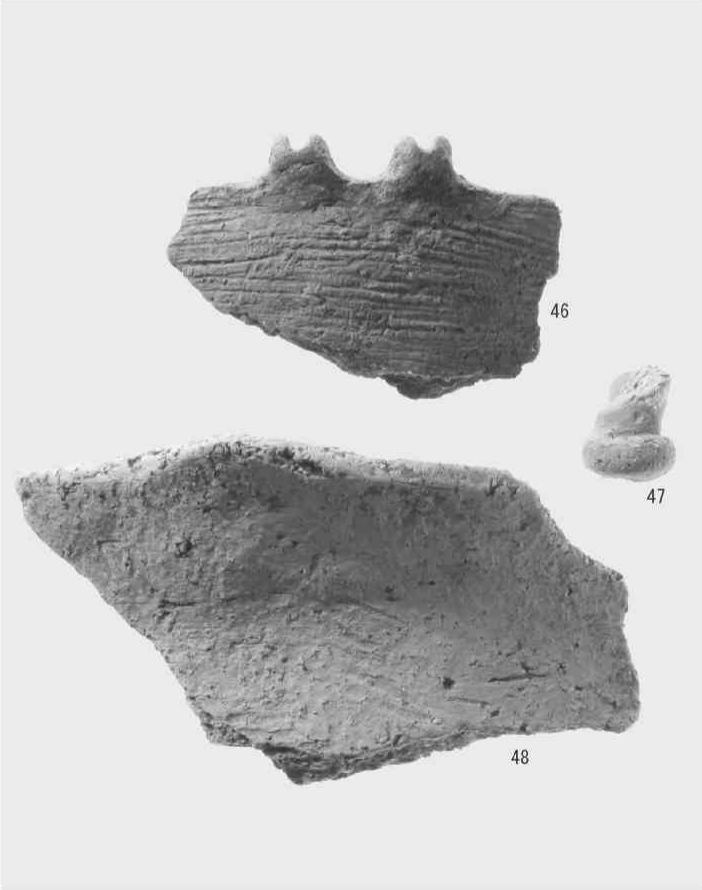


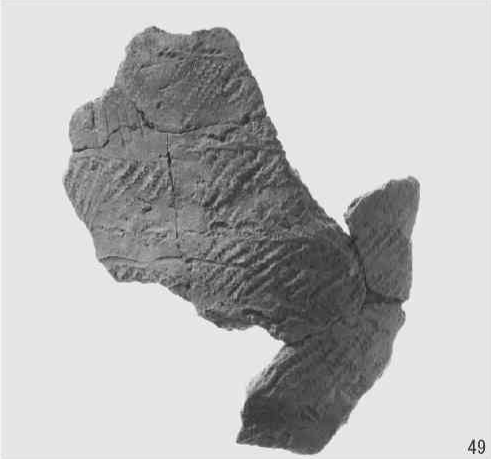




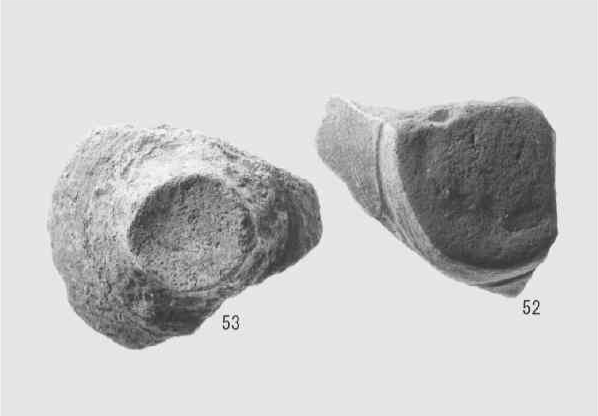
出土遺物（４）

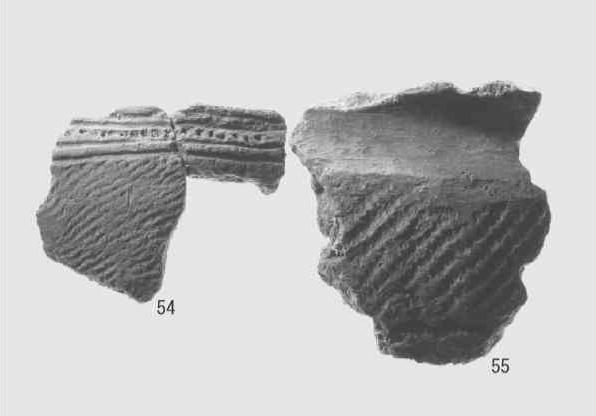


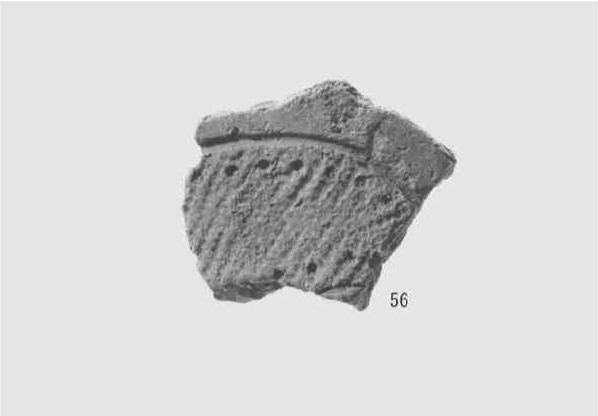


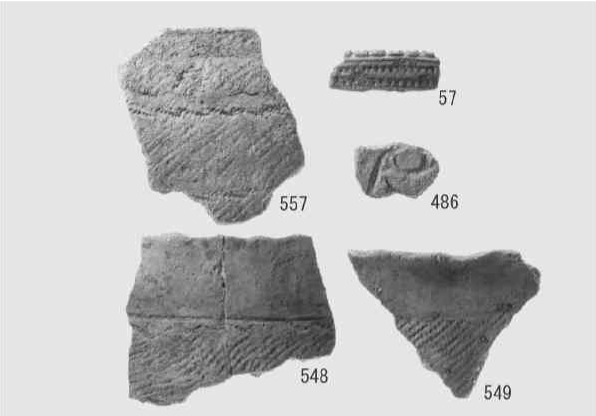


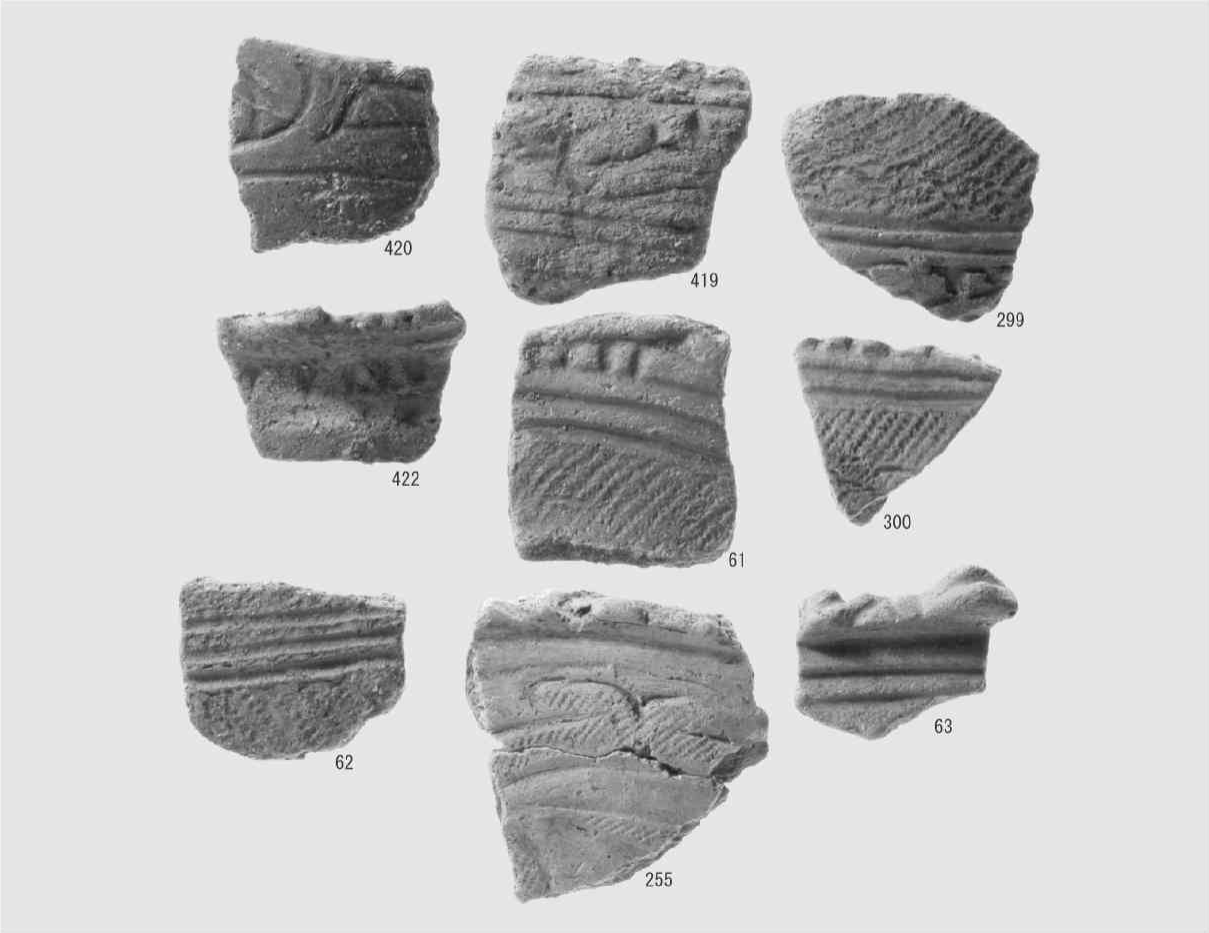
出土遺物（５）



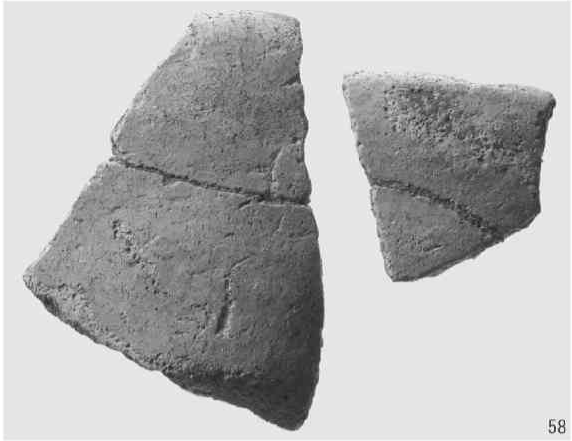


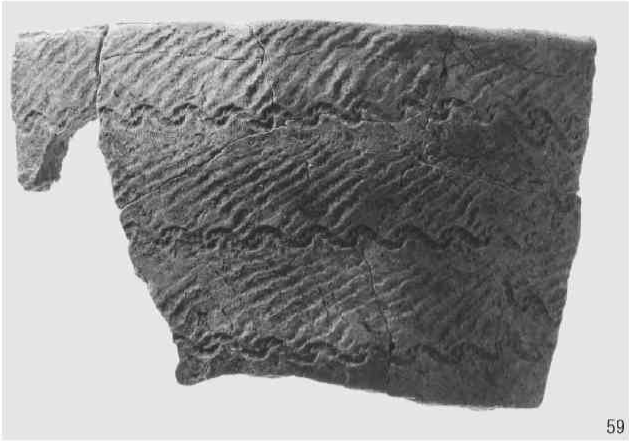


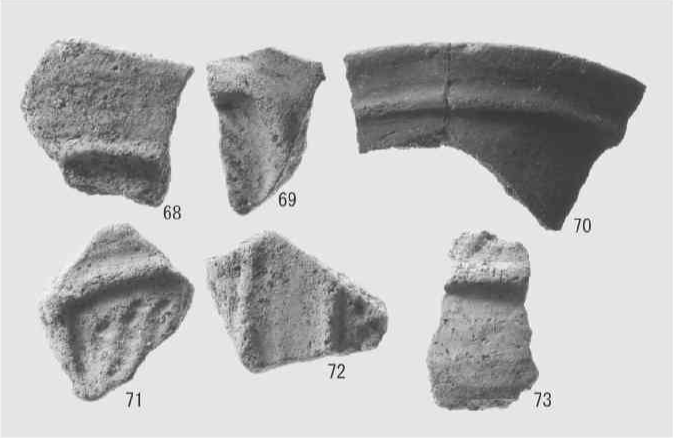




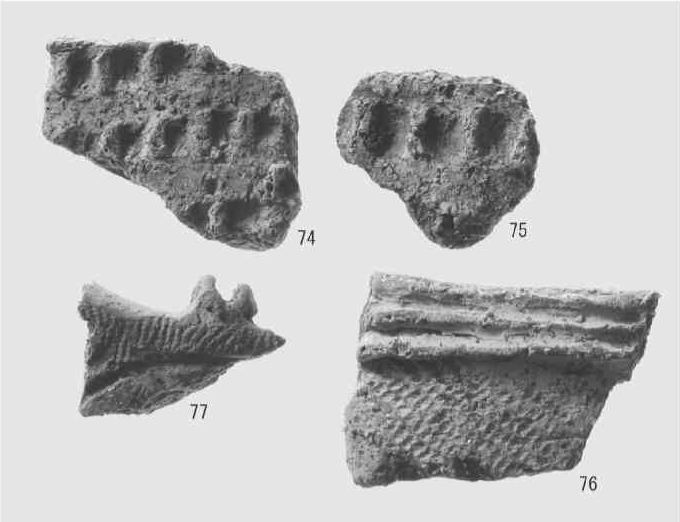
出土遺物（６）

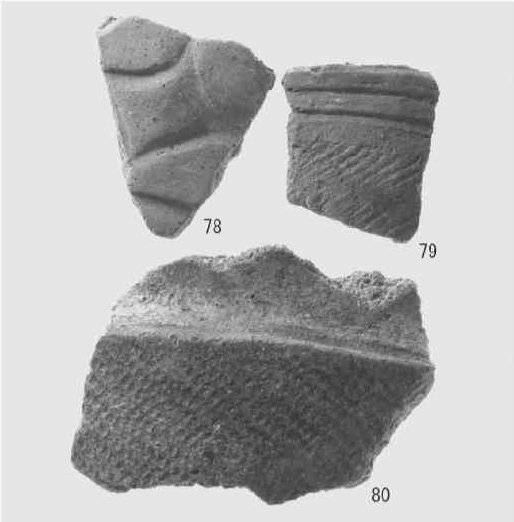


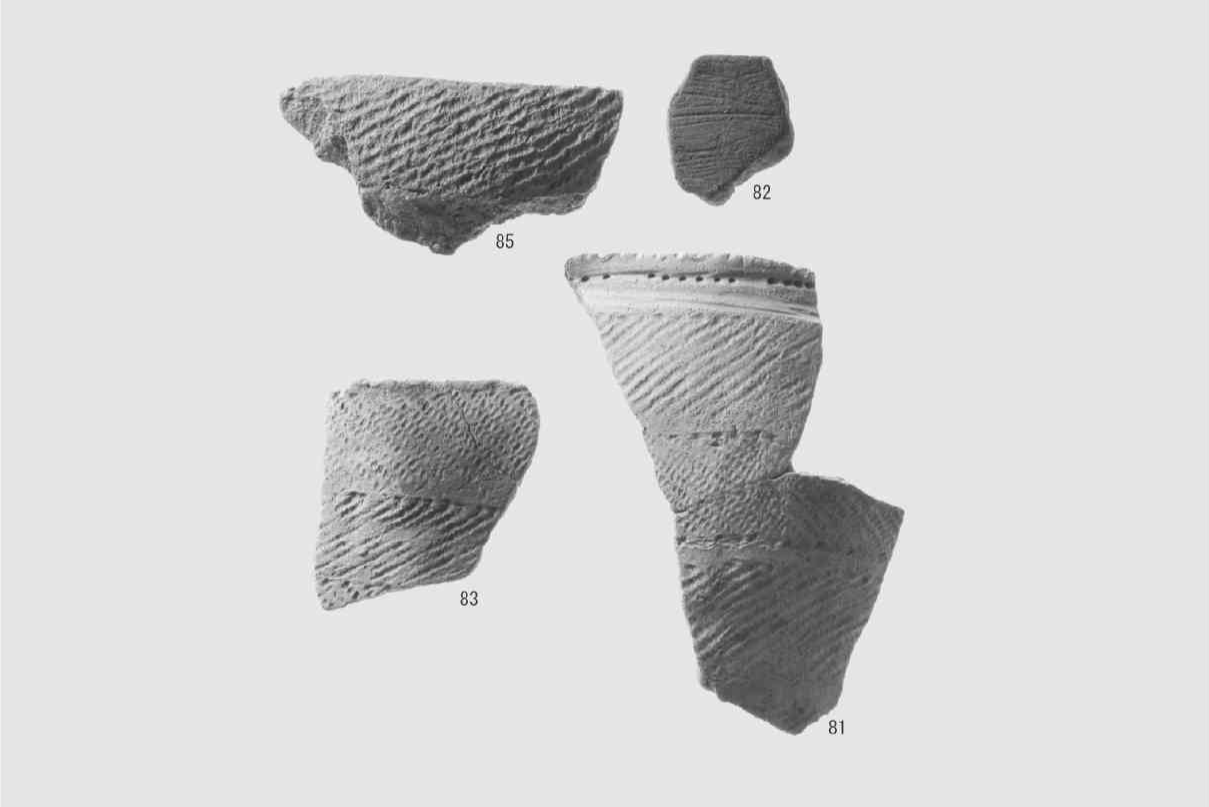


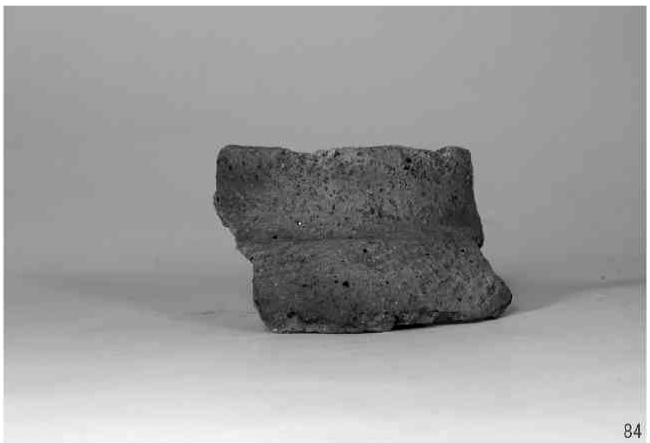


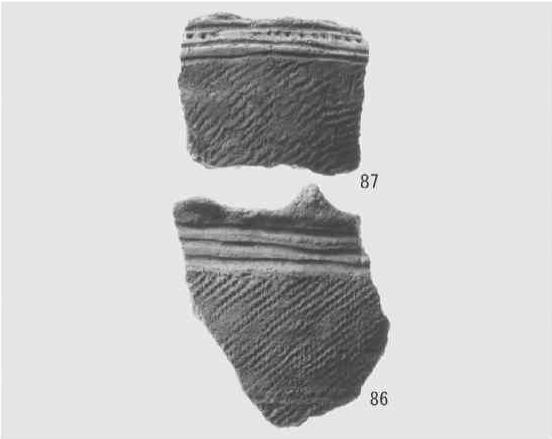
出土遺物（７）



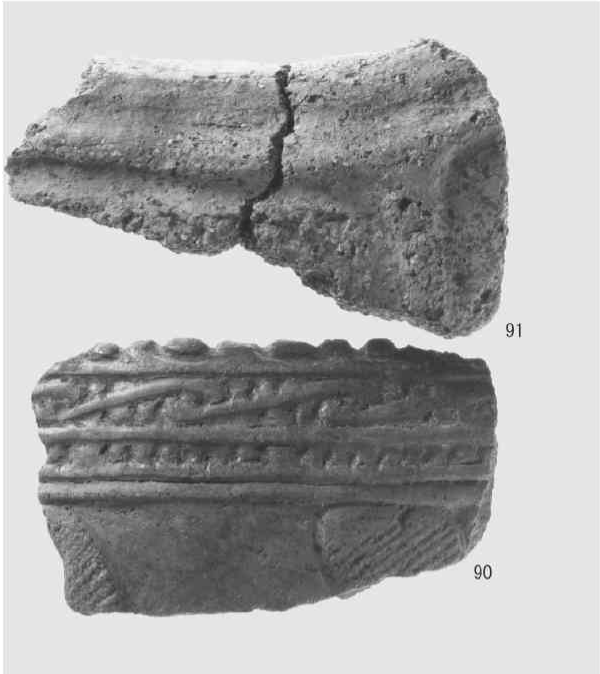


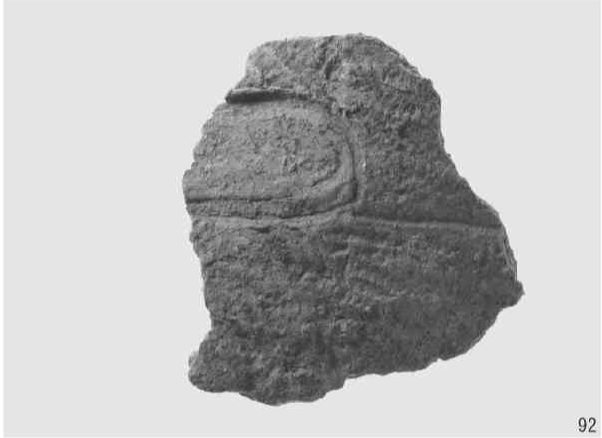


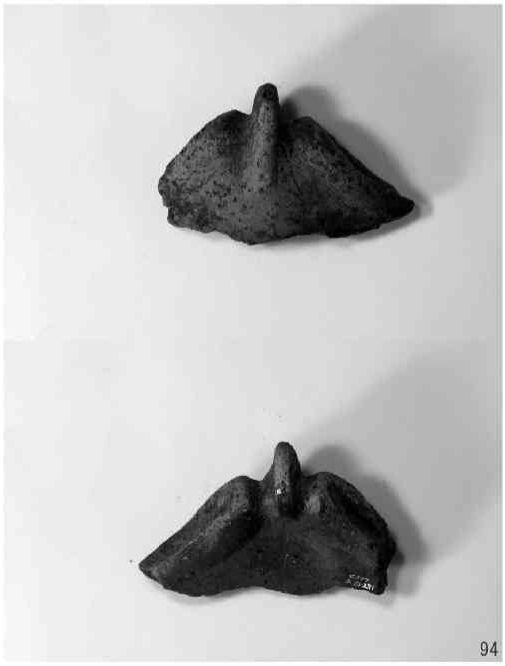


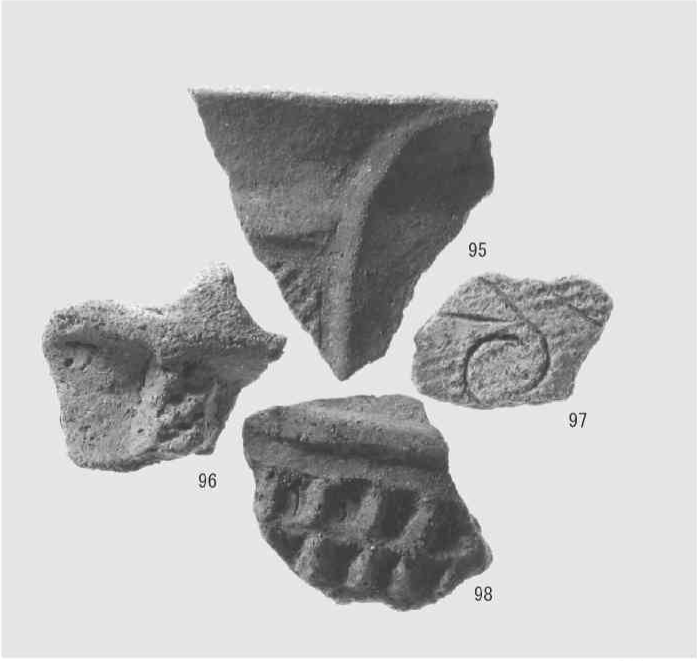


出土遺物（８）









出土遺物（９）

99

919

100

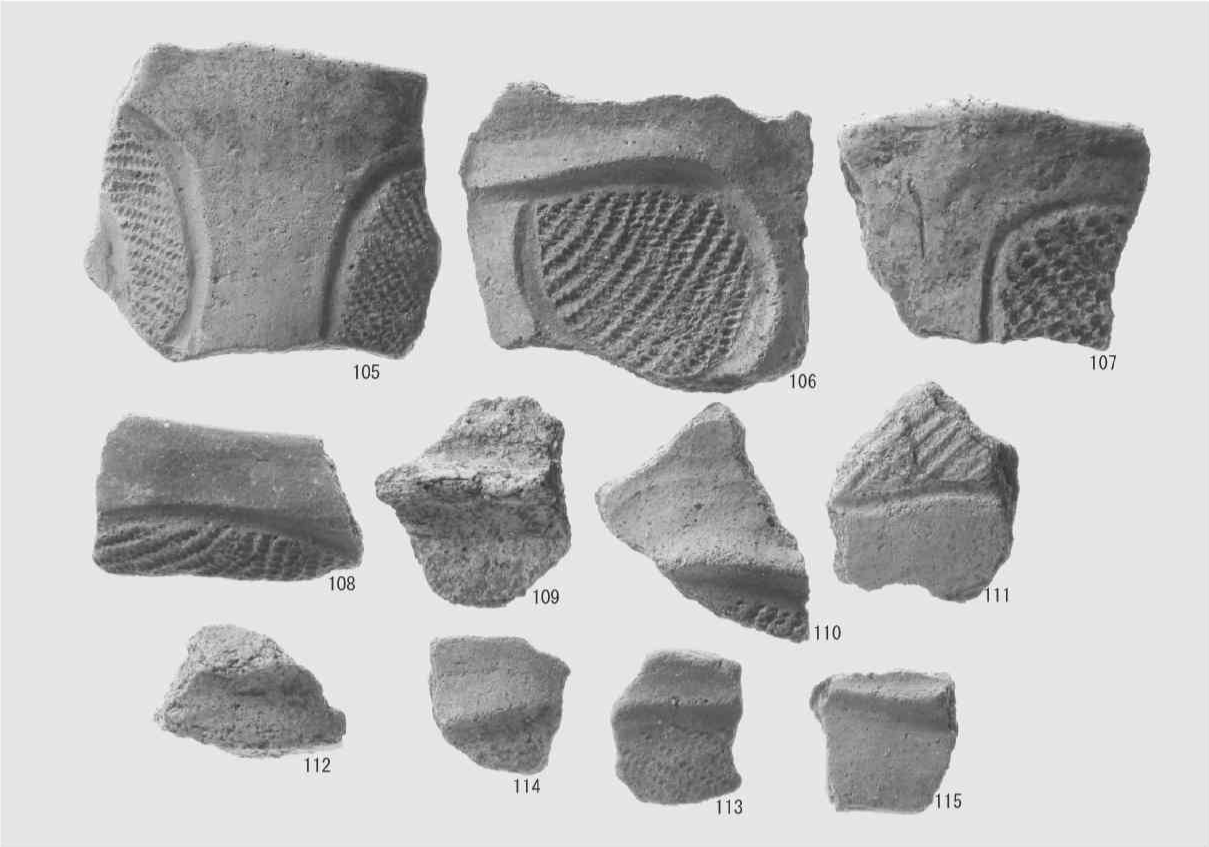
101

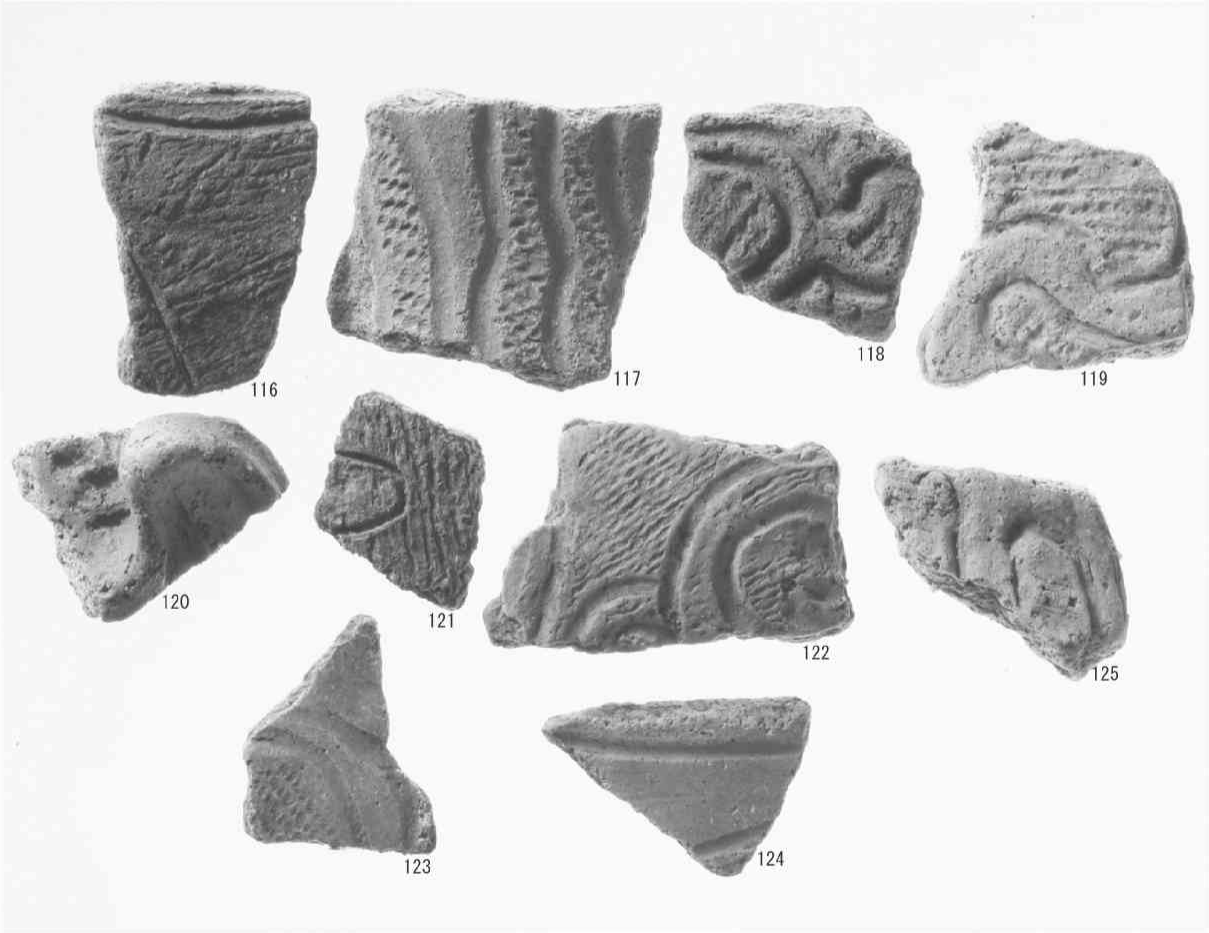
103

126

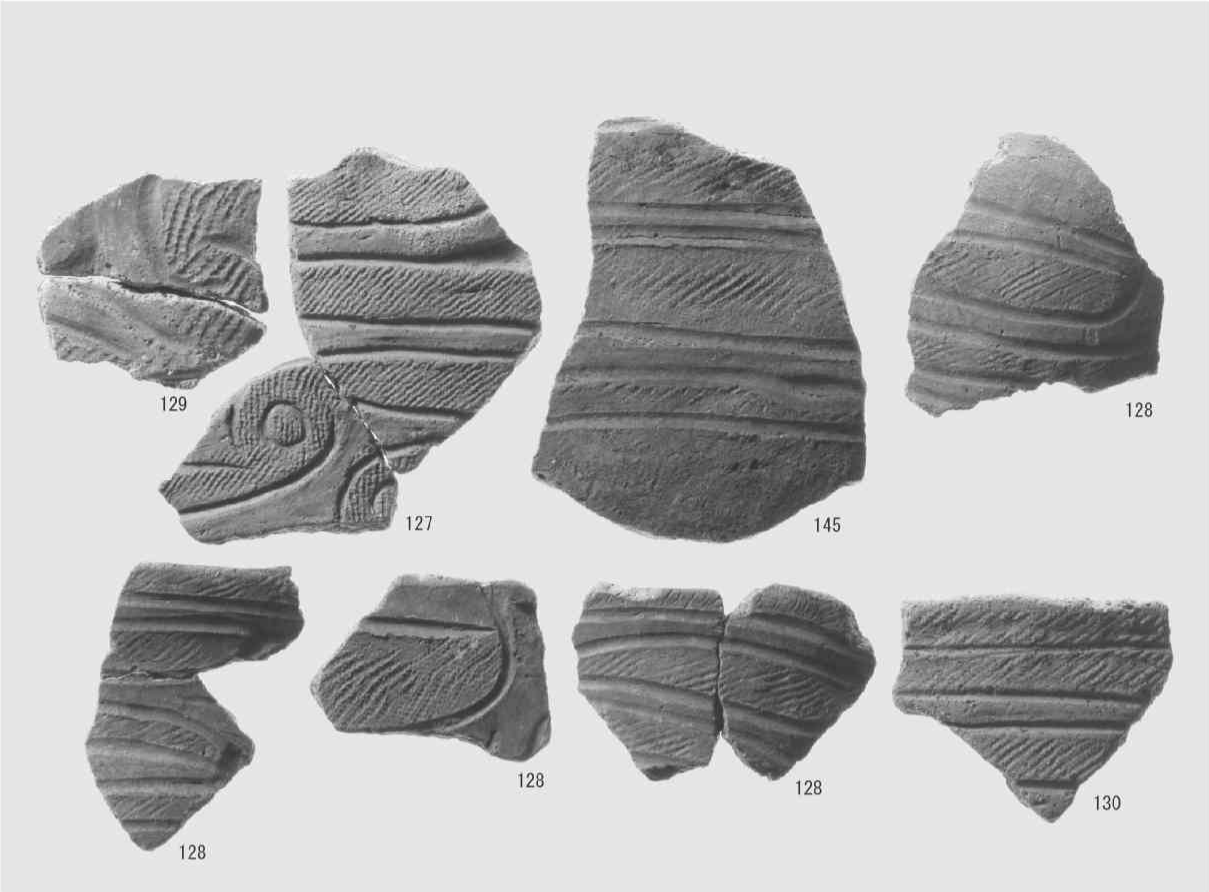
104

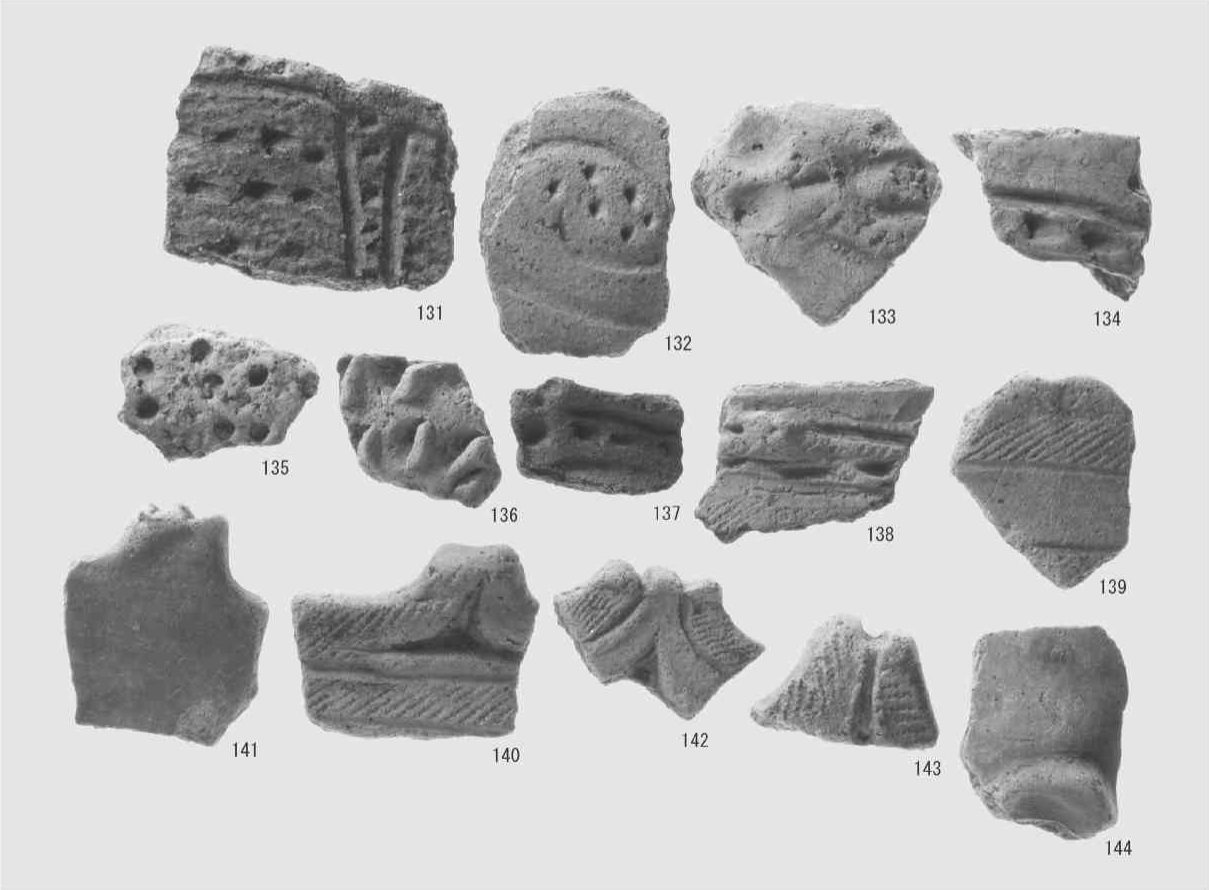
出土遺物(10)


105
106
107
108
109
110
111
112
114
113
115

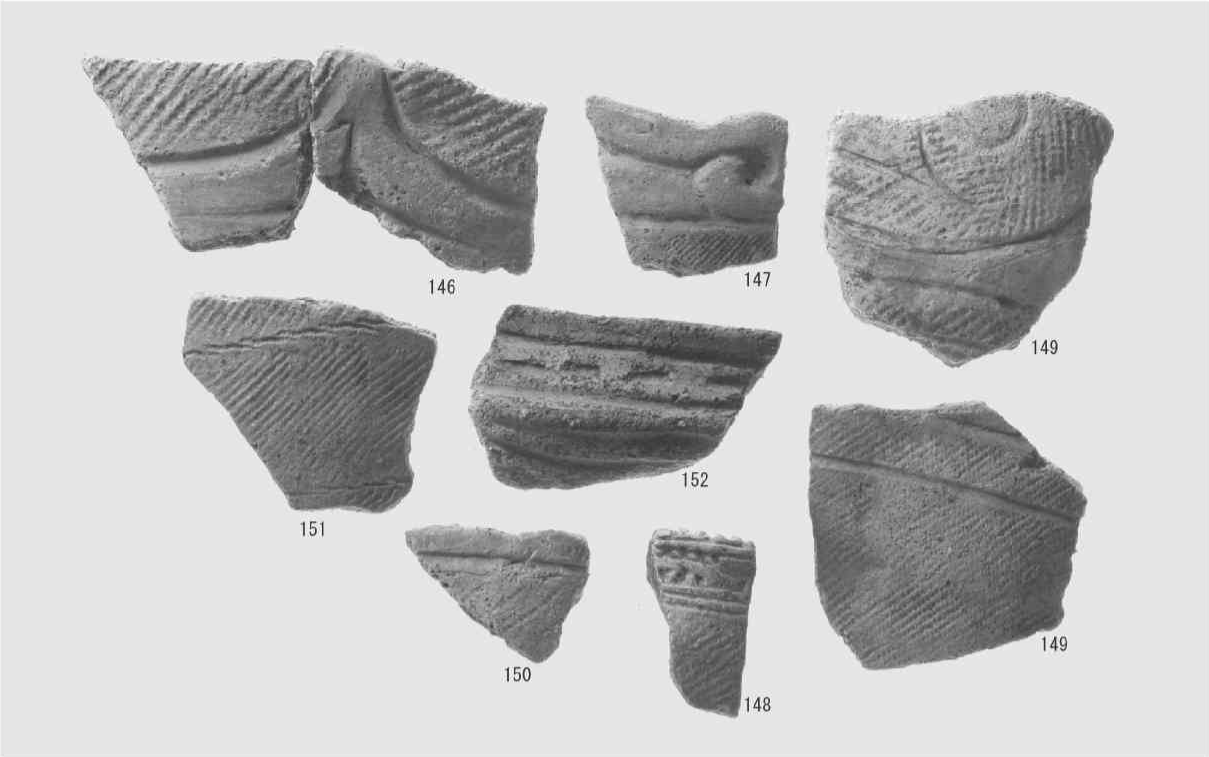

116
117
118
119
120
121
122
125
123
124

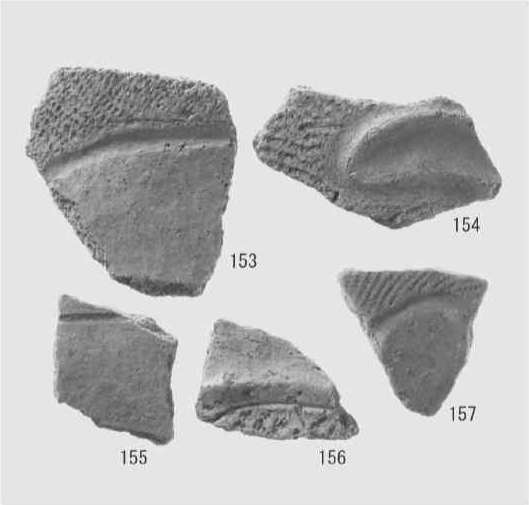
出土遺物(11)

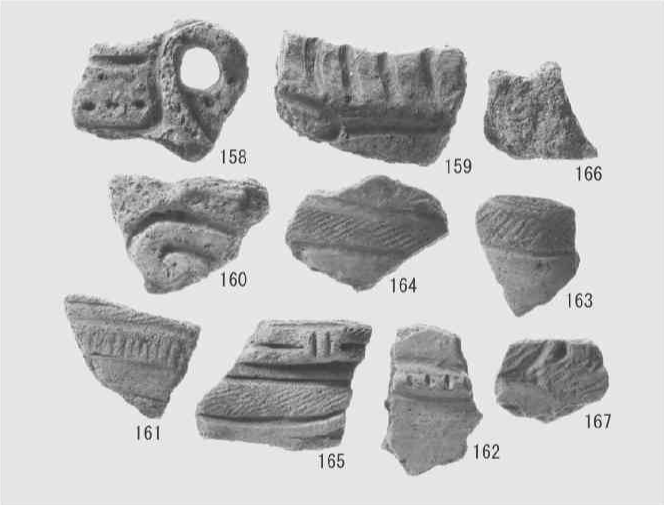

129
127
145
128
128
128
128
130


131
132
133
134
135
136
137
138
139
141
140
142
143
144

出土遺物(12)


146
147
149
151
152
149
150
148


153
154
155
156
157


158
159
166
160
164
163
161
165
162
167

170

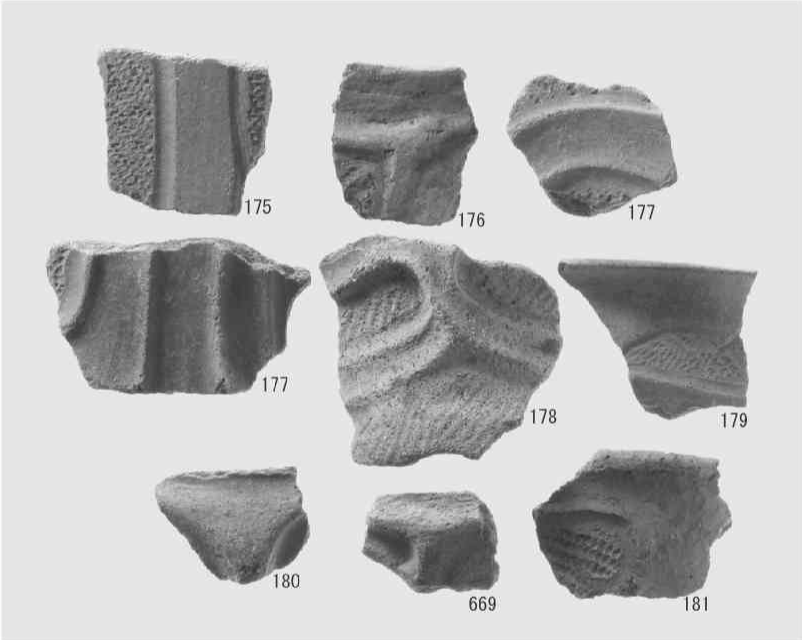
171

出土遺物(13)

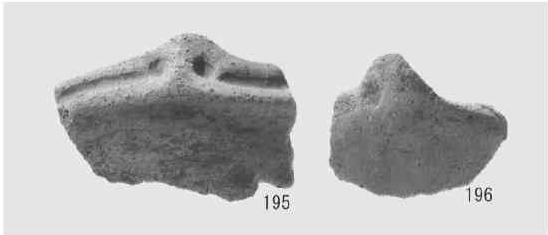
169

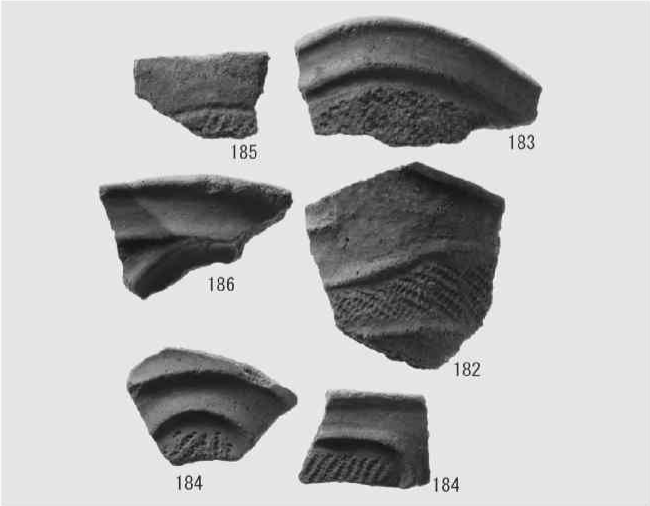
173

172

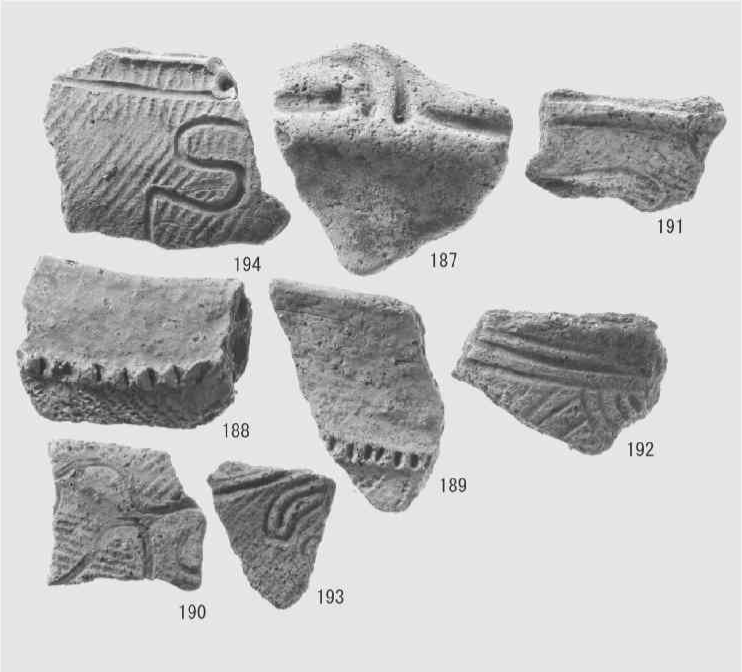

175
176
177
177
178
179
180
669
181

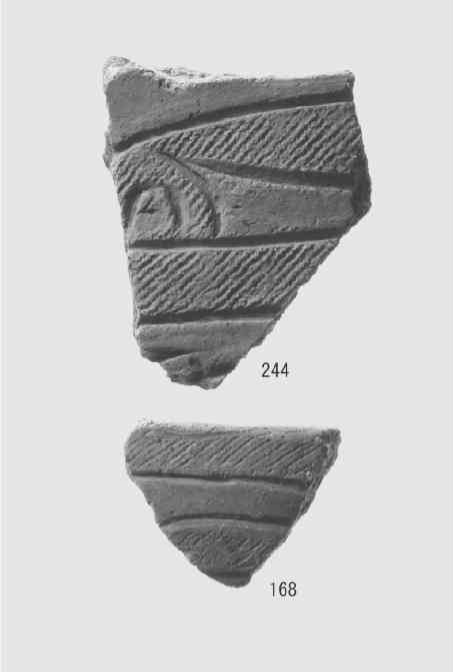
174

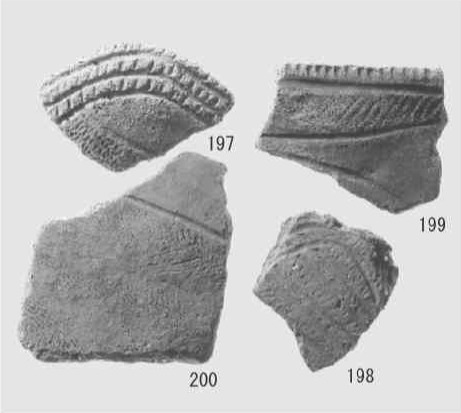

195
196

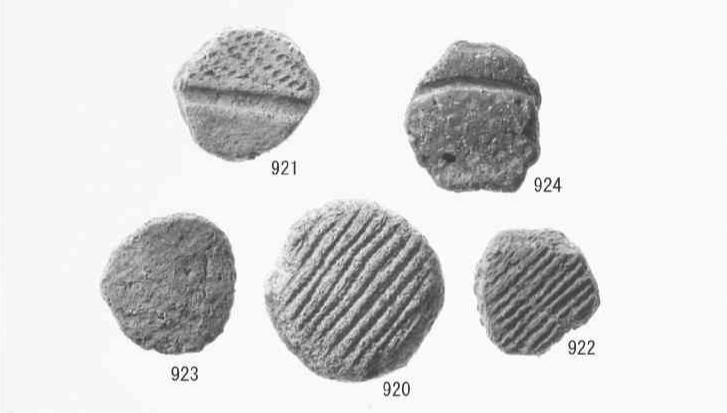

185
183
186
182
184
184

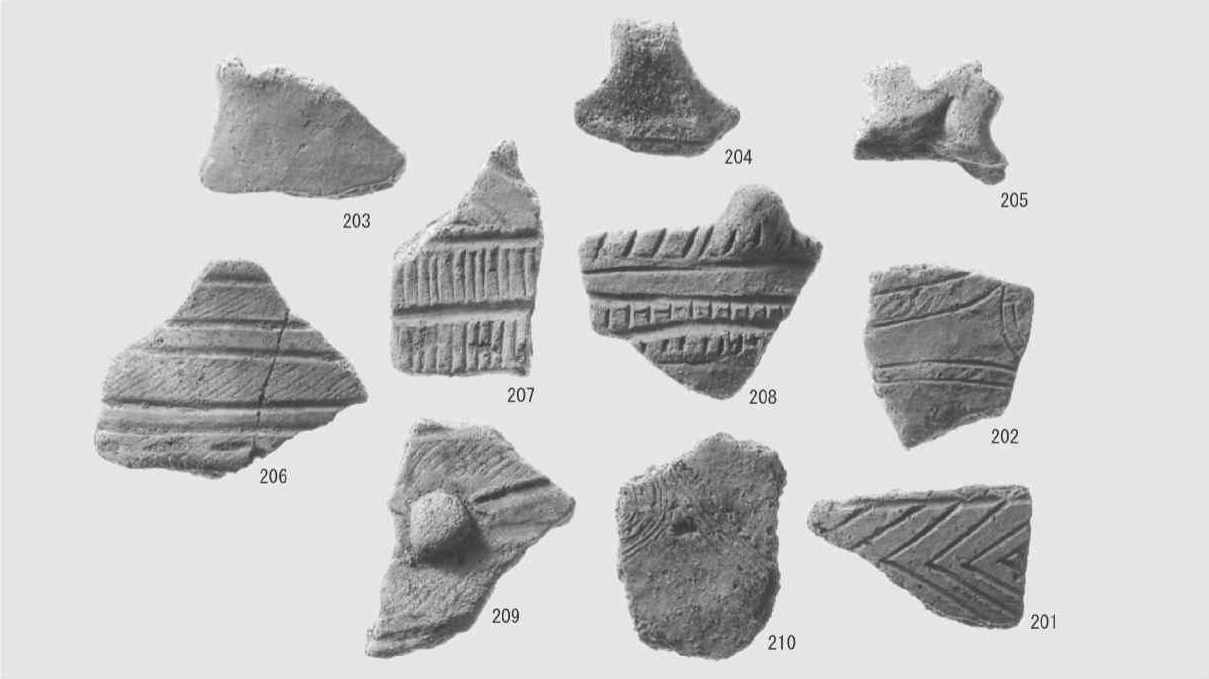
出土遺物(14)


194
187
191
188
189
192
190
193

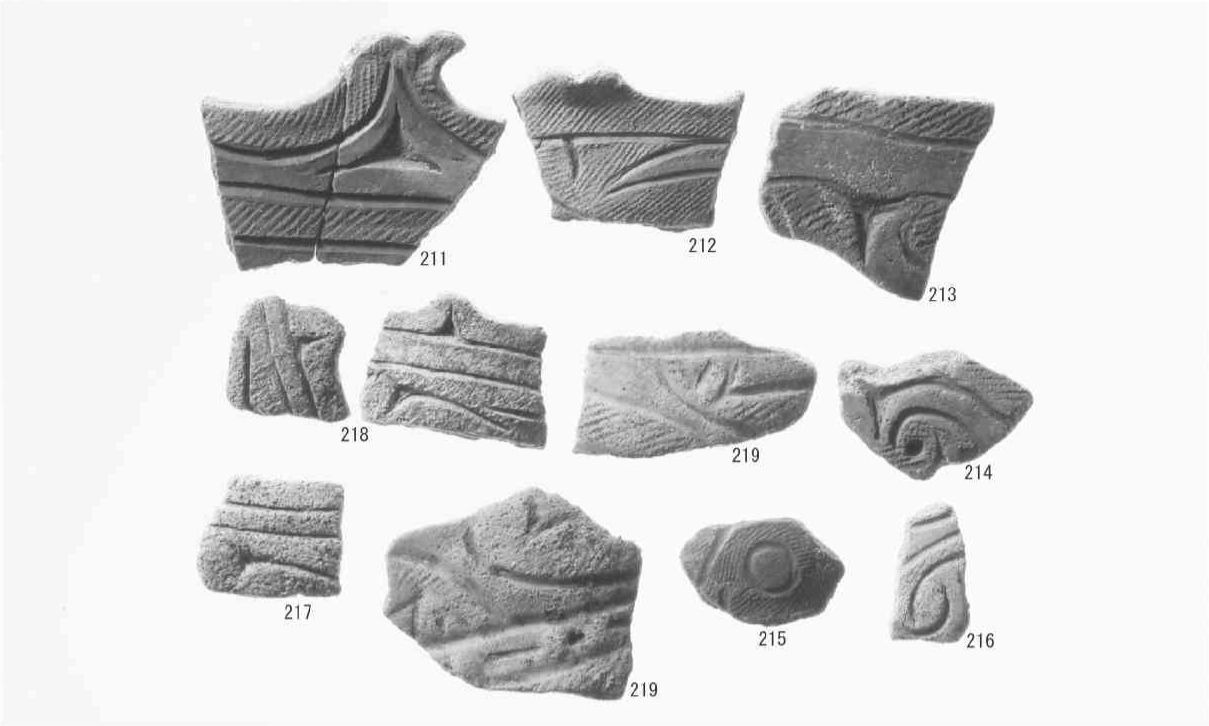

244
168

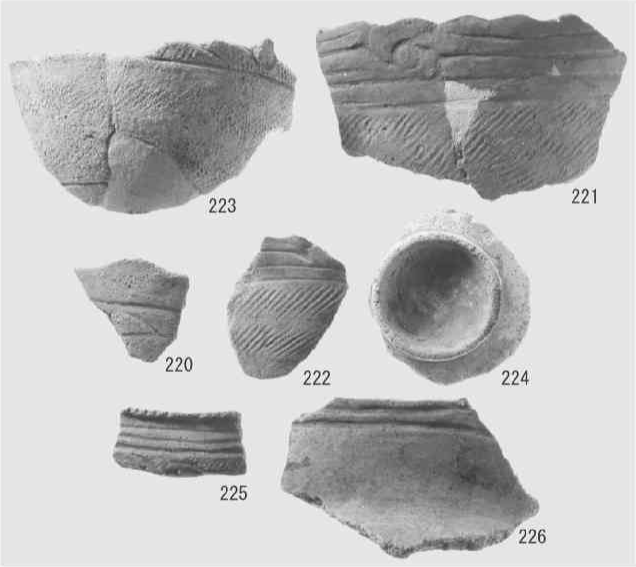

197
199
200
198

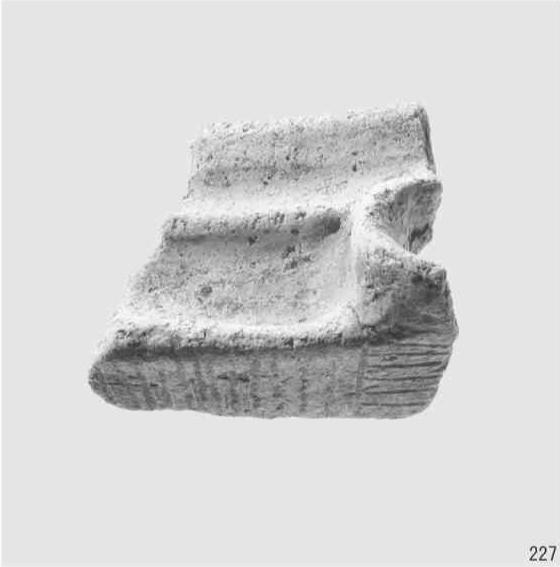

921
924
923
920
922

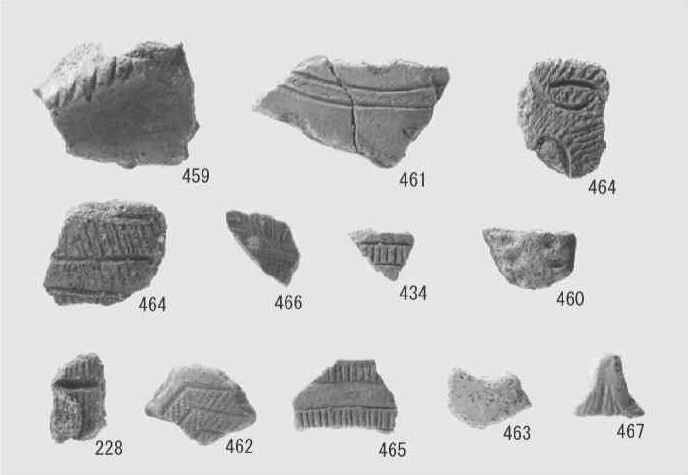

203
204
205
207
208
202
206
209
210
201

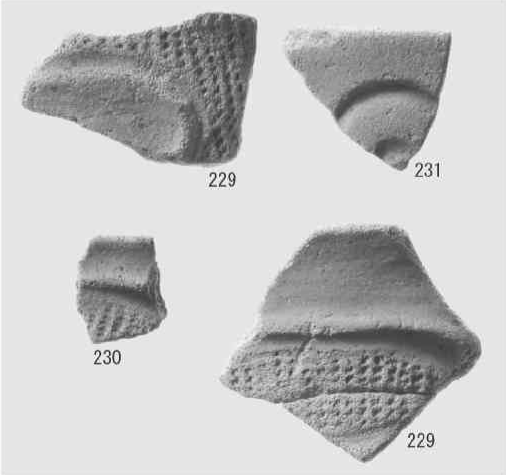
出土遺物(15)


211
212
213
218
219
214
217
219
215
216

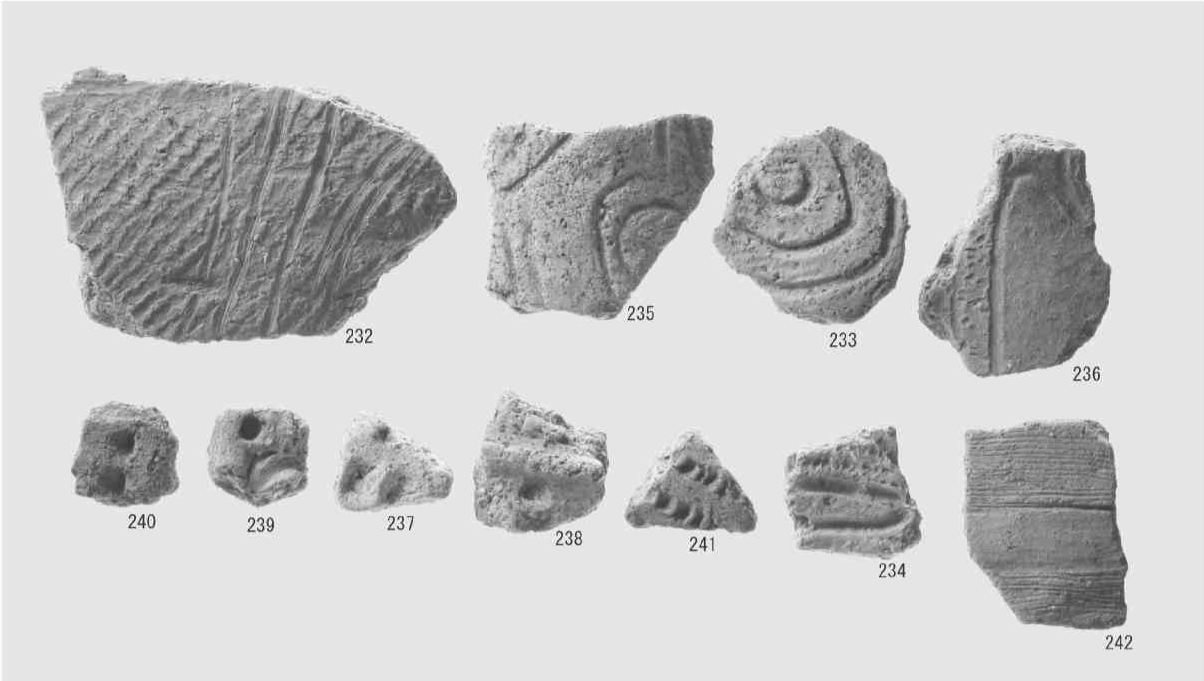

223
221
220
222
224
225
226

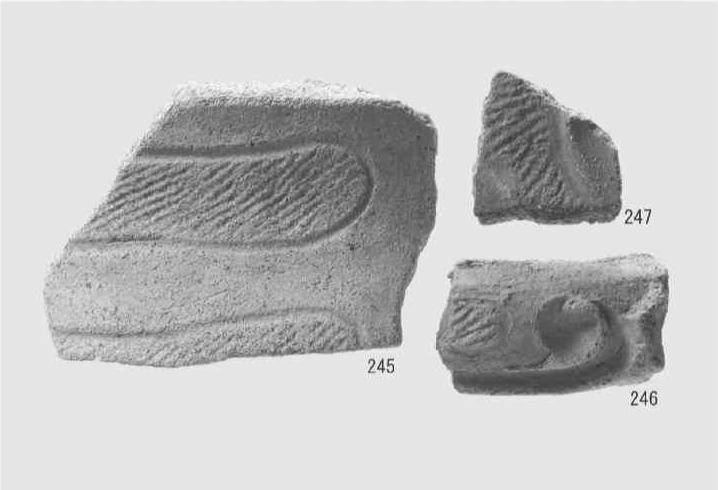

227


459
461
464
464
466
434
460
228
462
465
463
467

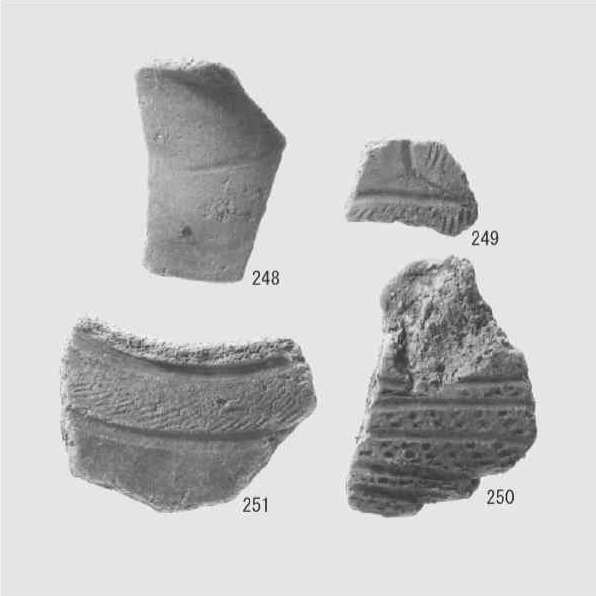

229
231
230
229

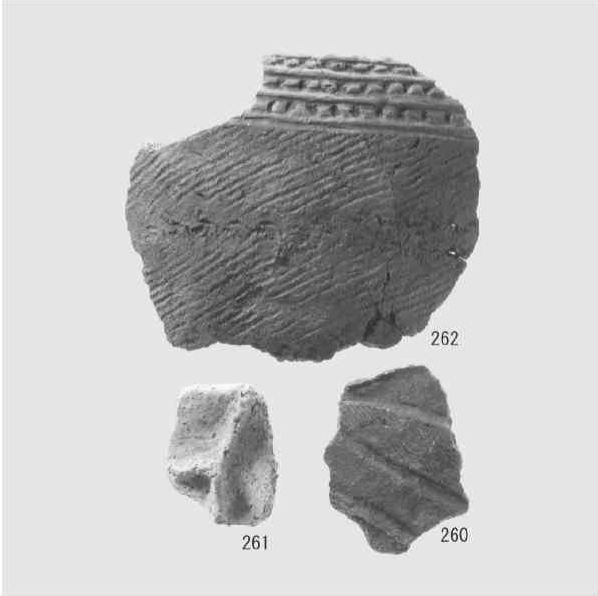
出土遺物(16)


232
235
233
236
240
239
237
238
241
234
242

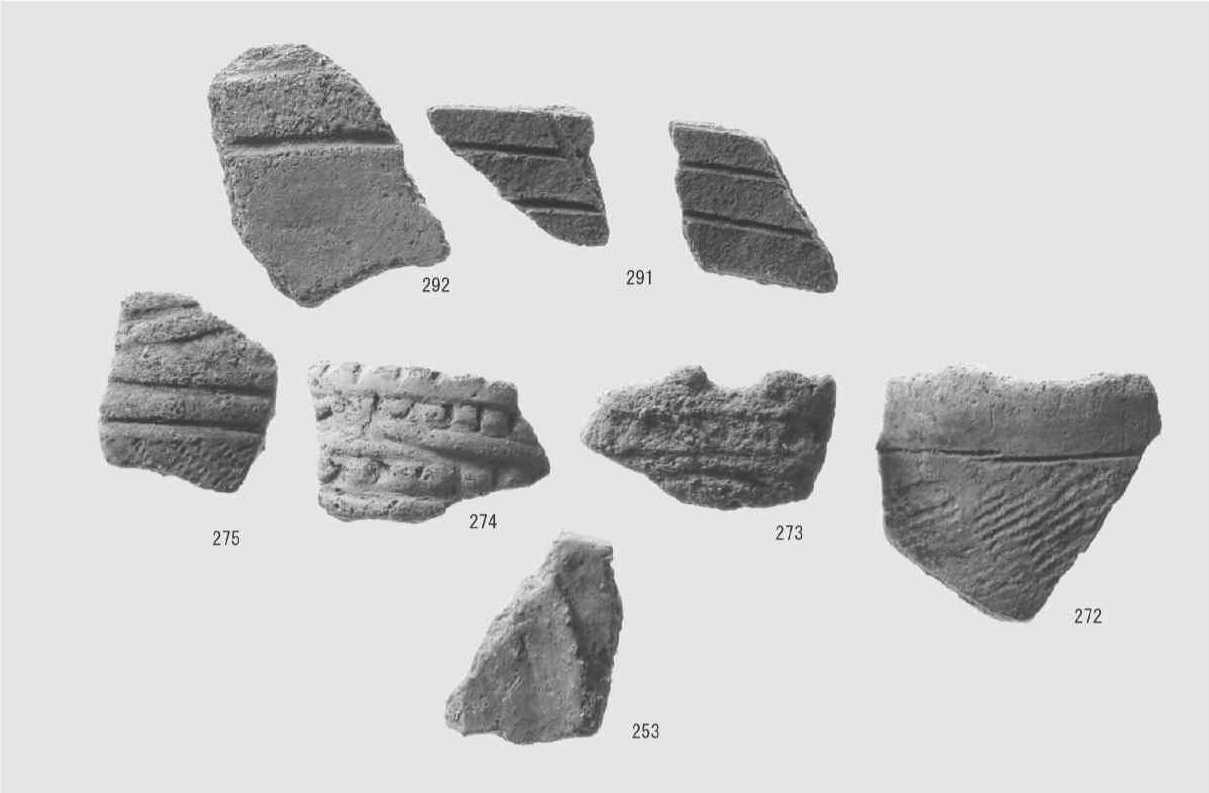

247
245
246

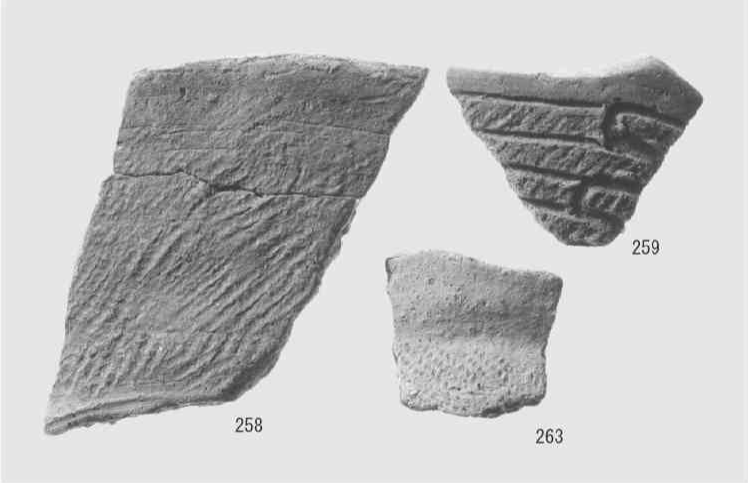
243


248
249
251
250

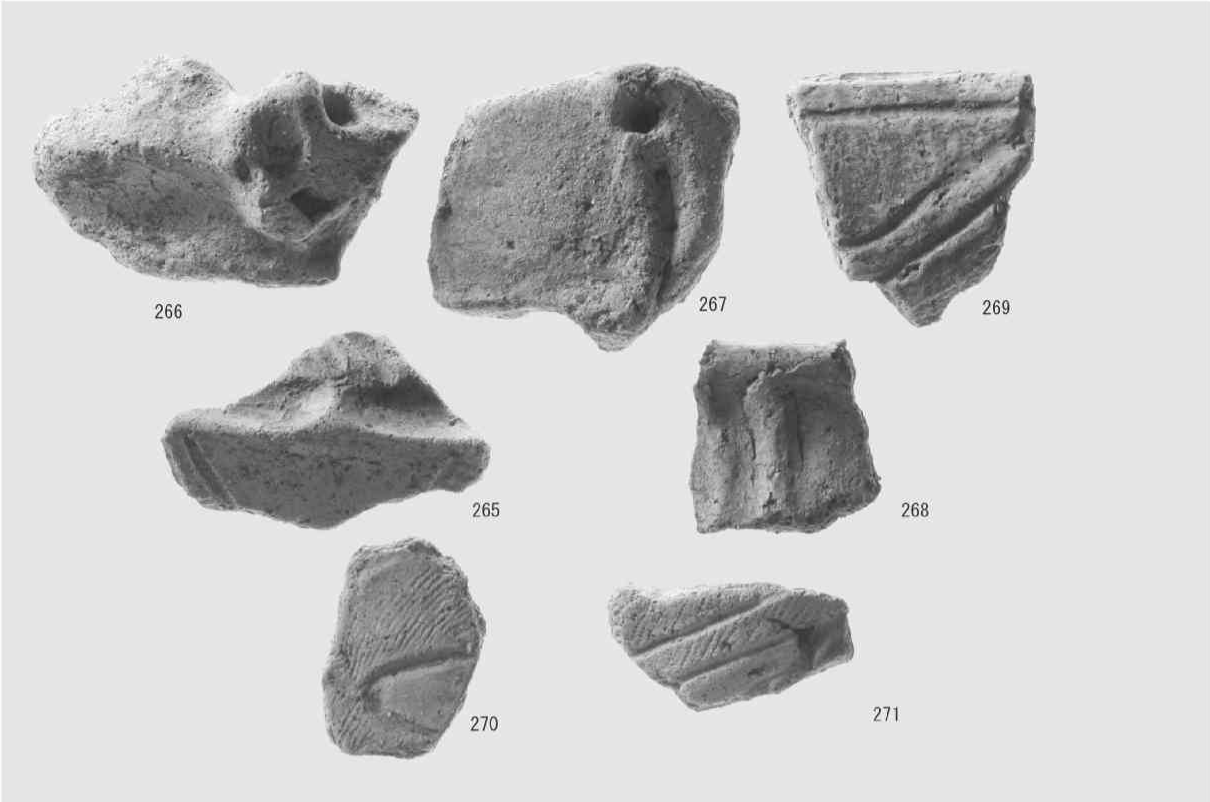

262
261
260

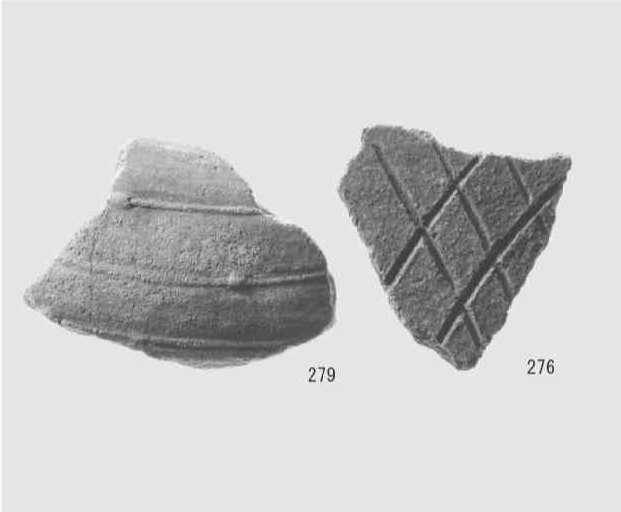
出土遺物(17)

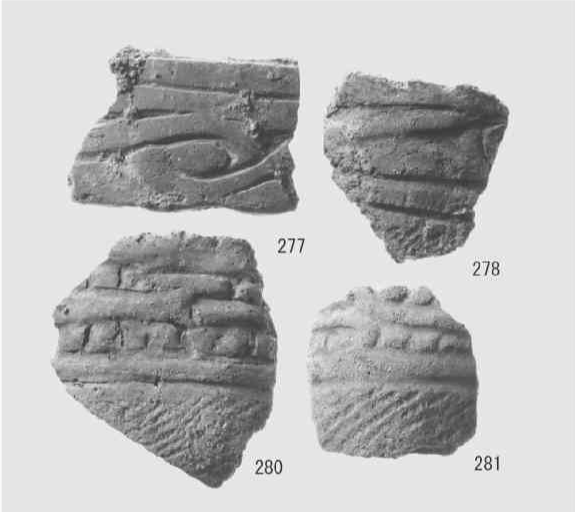




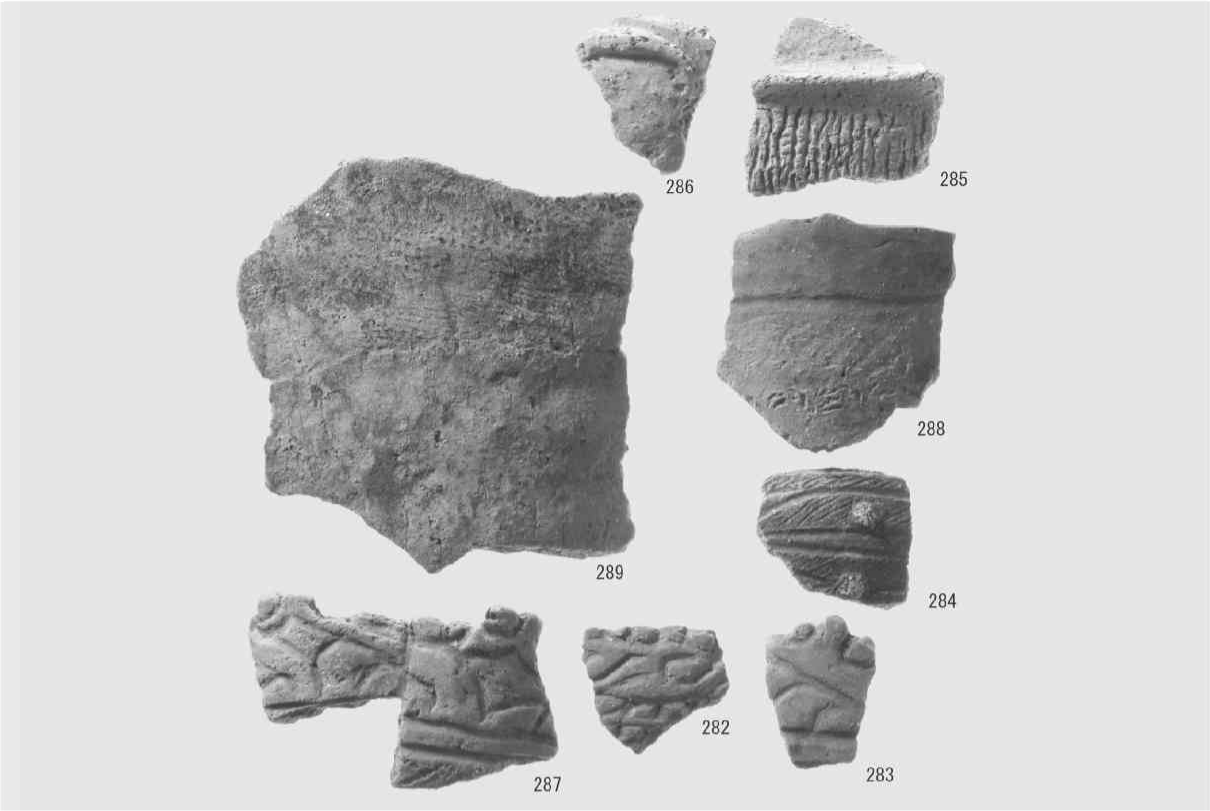
出土遺物(18)

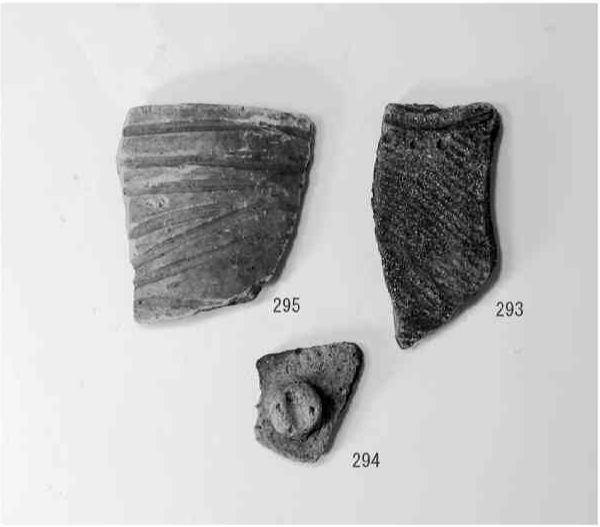


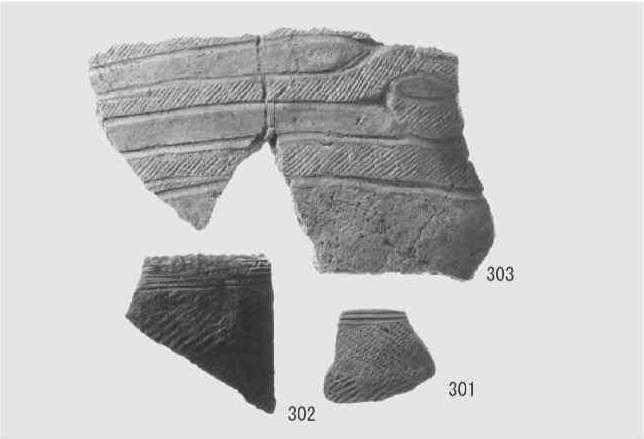


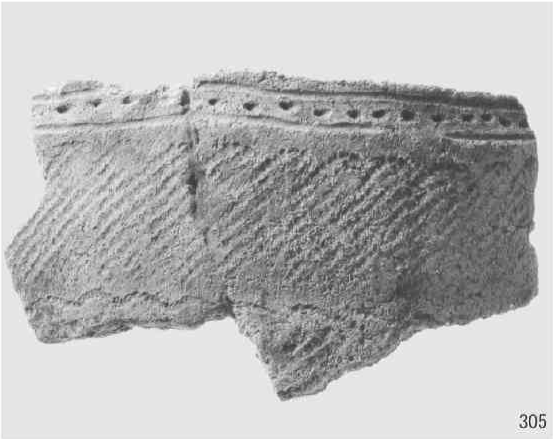


出土遺物(19)

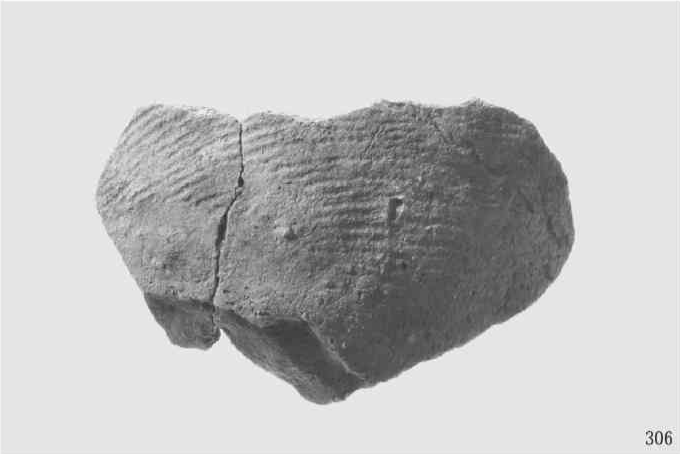


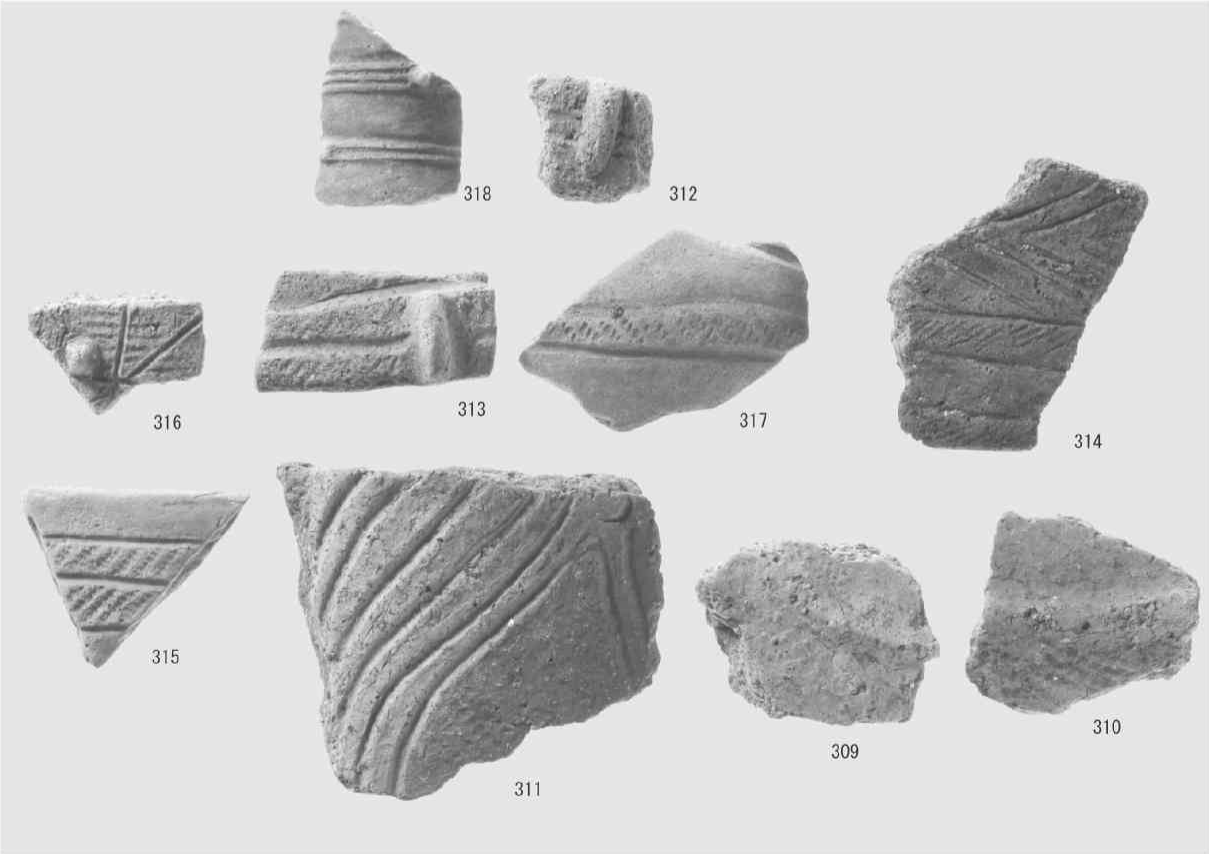




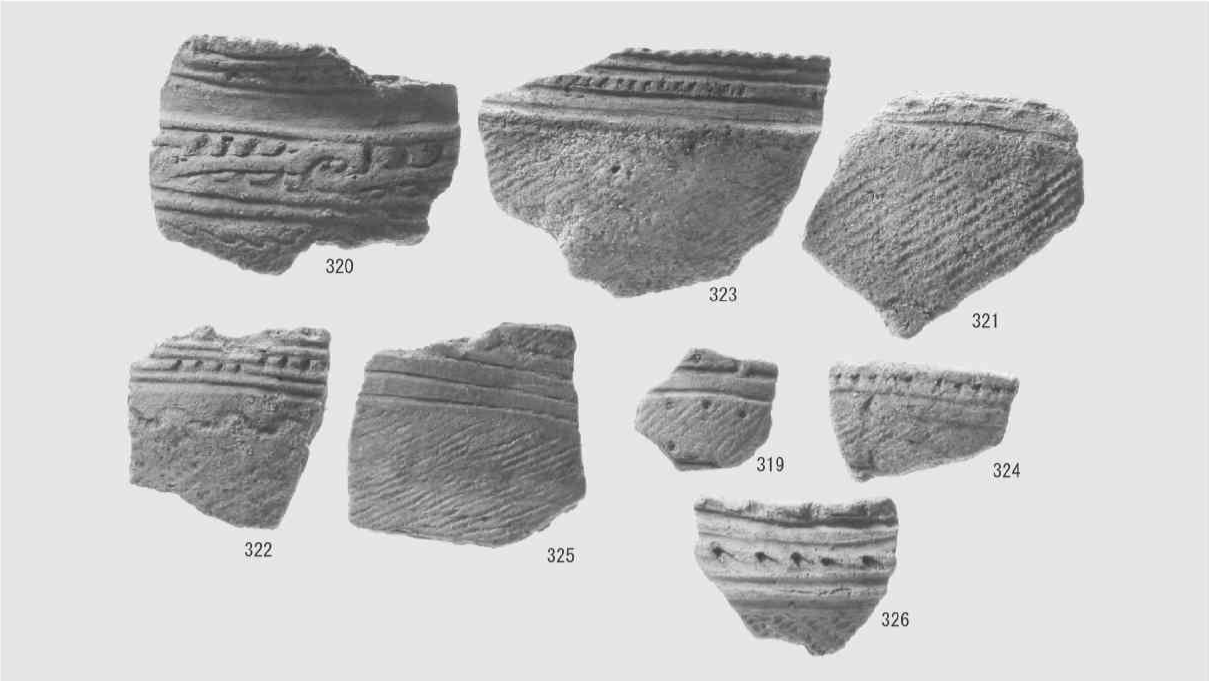


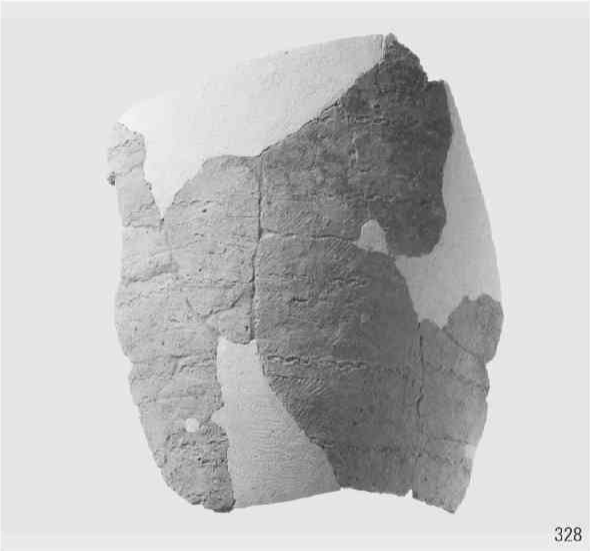
出土遺物(20)

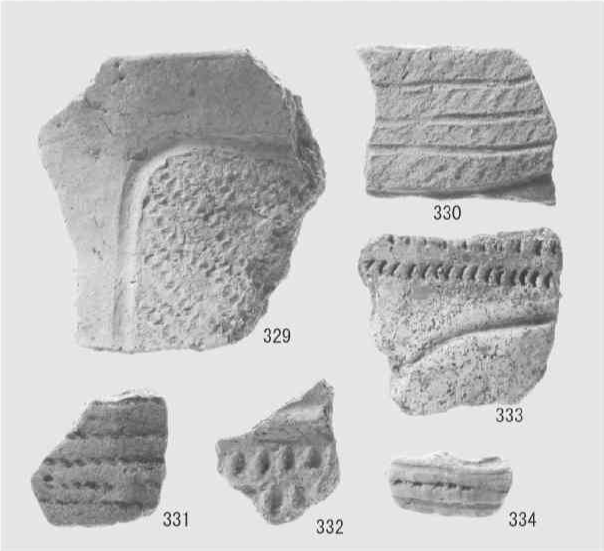


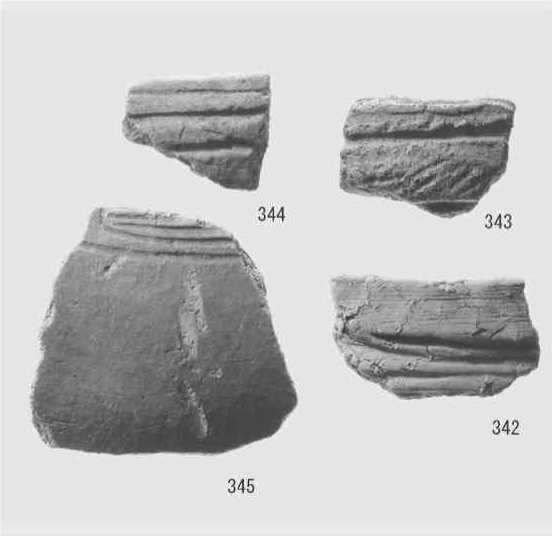


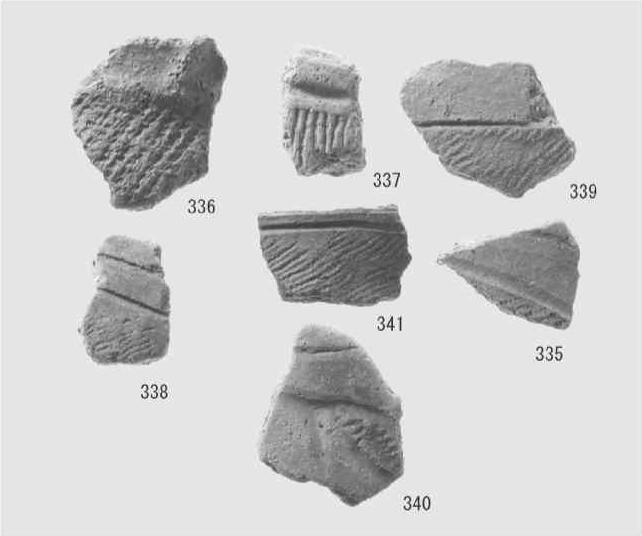
出土遺物(21)


320
323
321
322
325
319
324
326

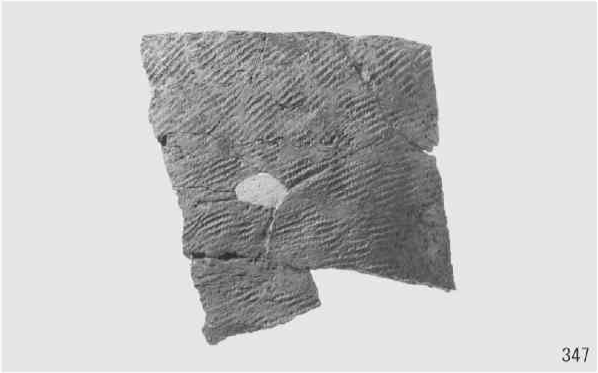

328


330
329
333
331
332
334

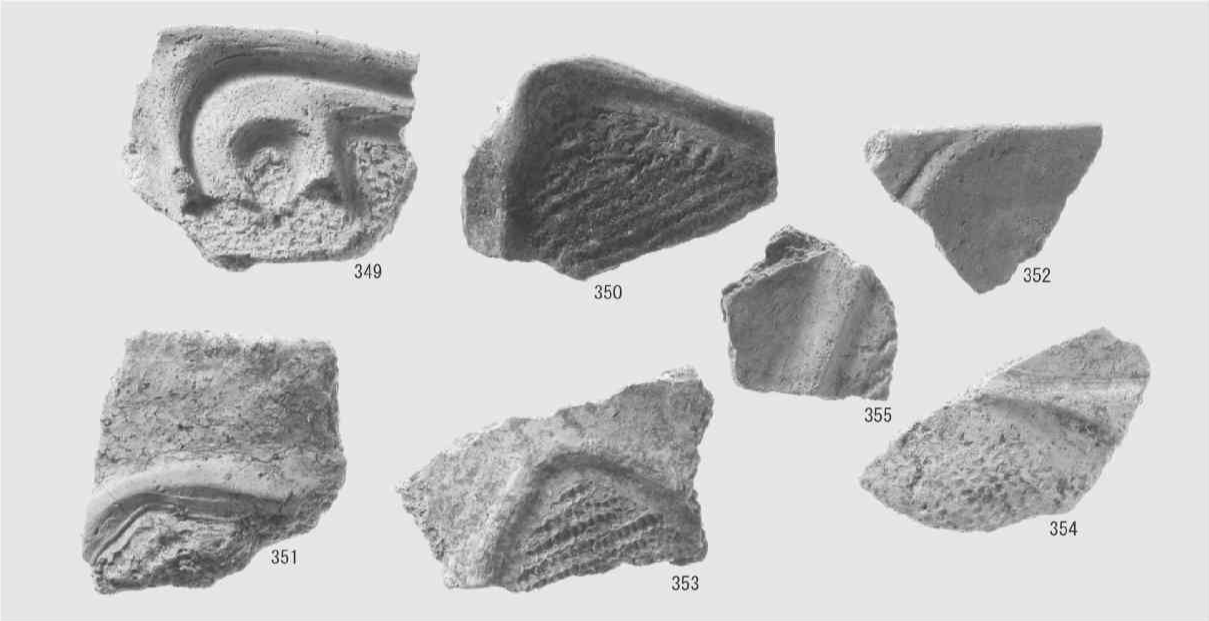

344
343
342
345

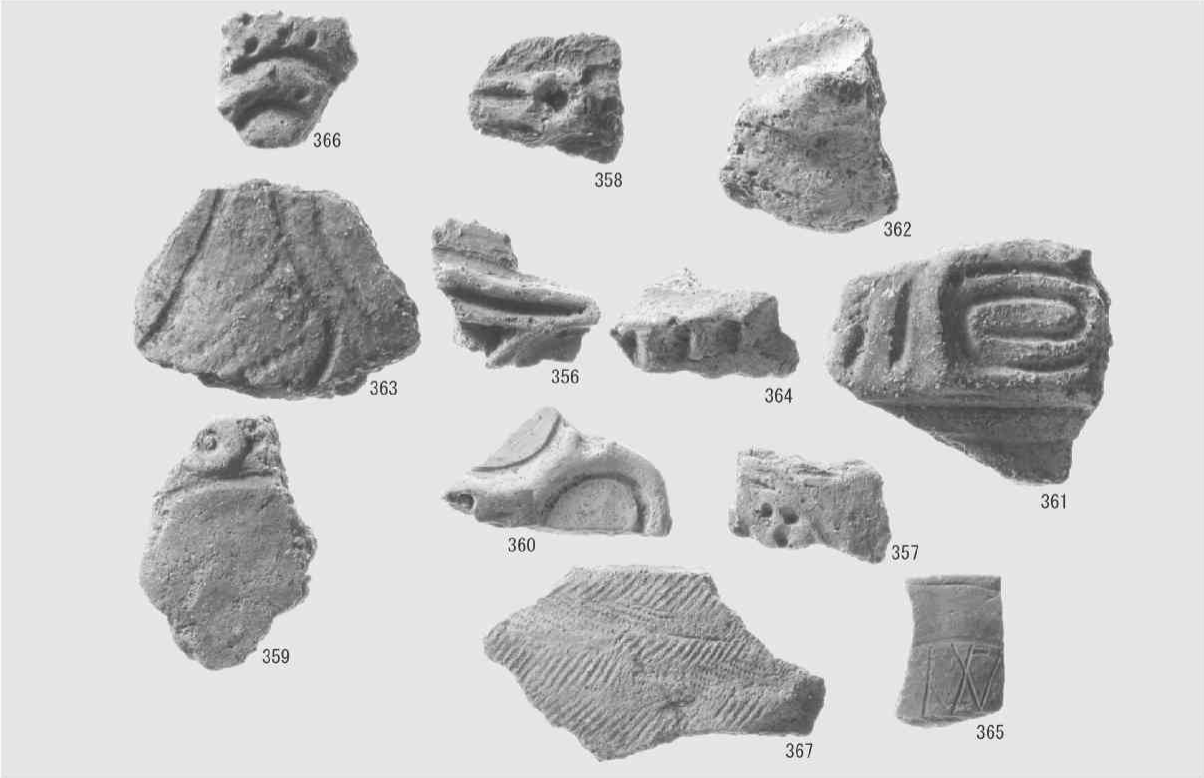

336
337
339
341
335
338
340

出土遺物(22)

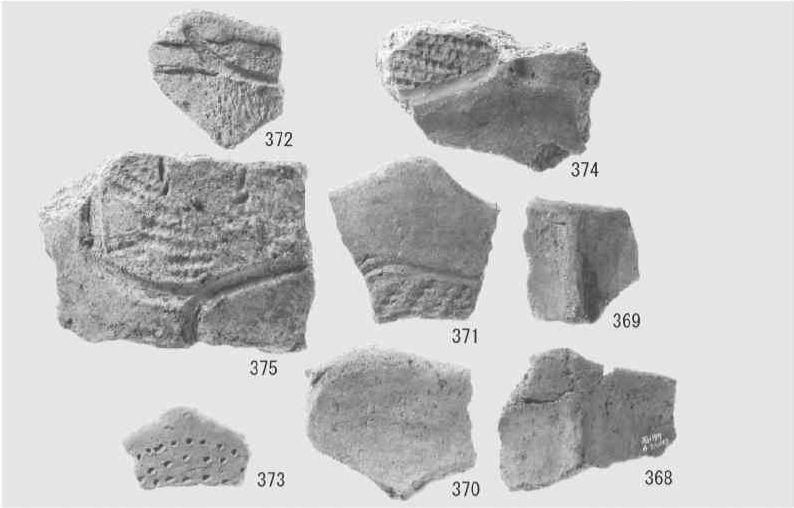

347

348

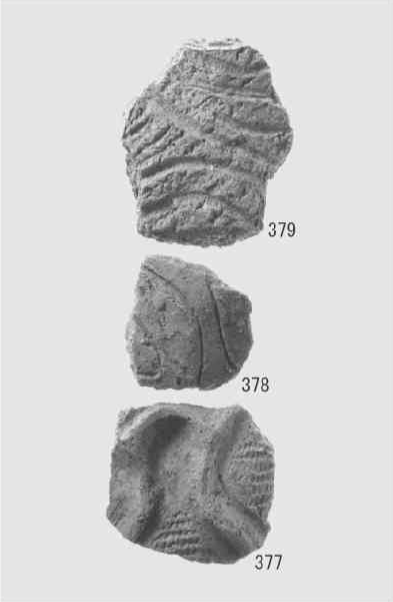

349
350
352
355
351
353
354

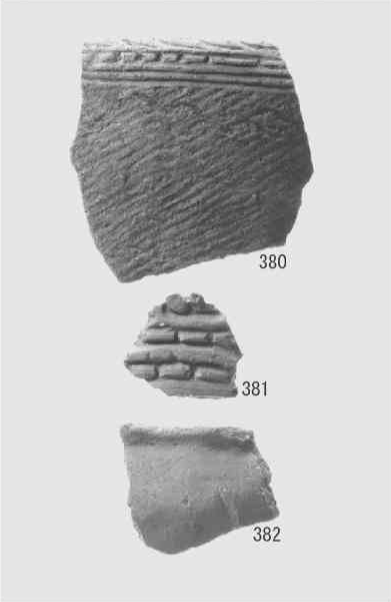

366
358
362
363
356
364
361
360
357
359
367
365

出土遺物(23)


372
374
375
371
369
373
370
368

376


379
378
377


380
381
382

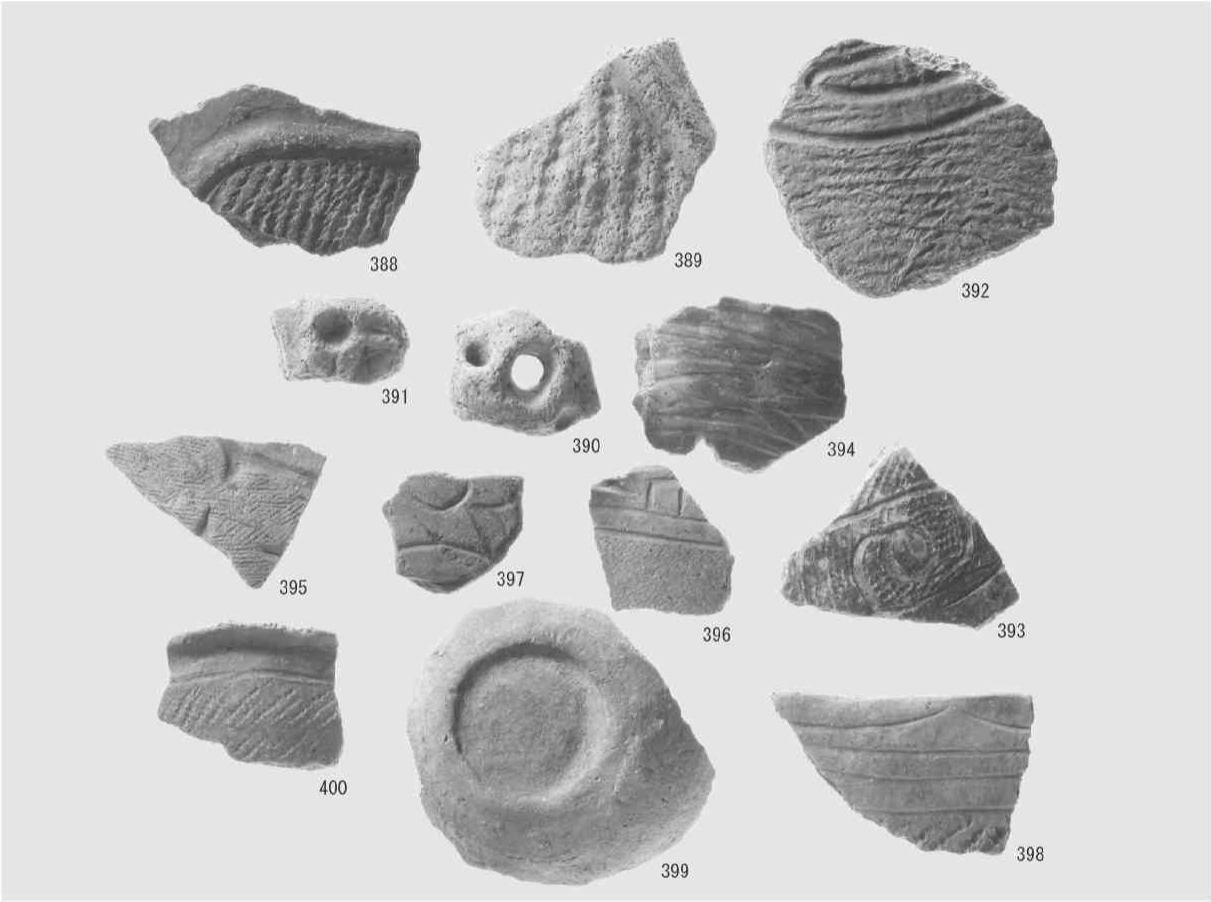
384

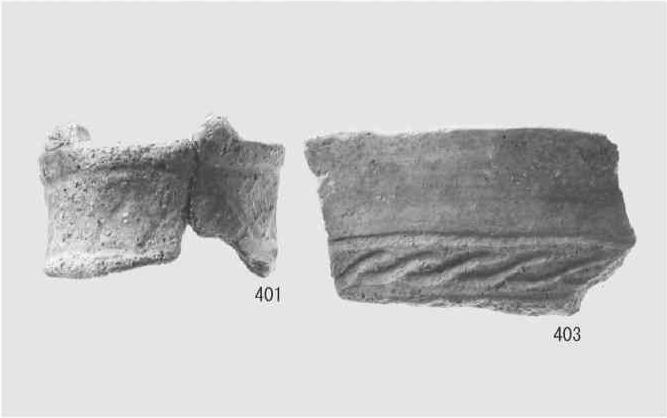
383

出土遺物(24)

385

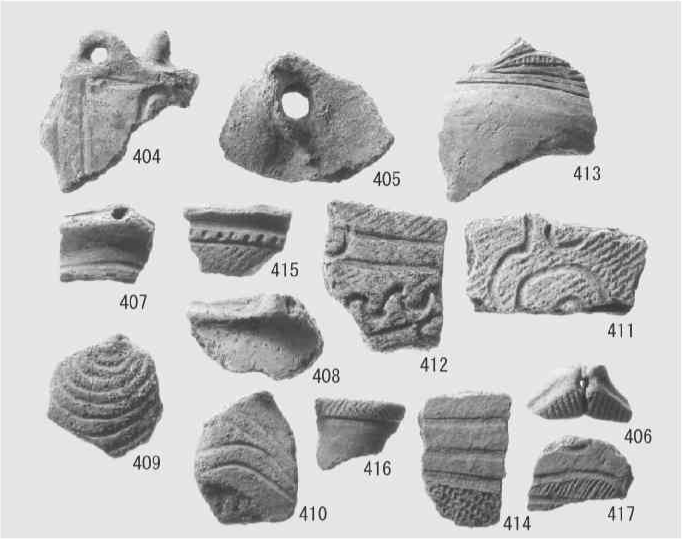
386

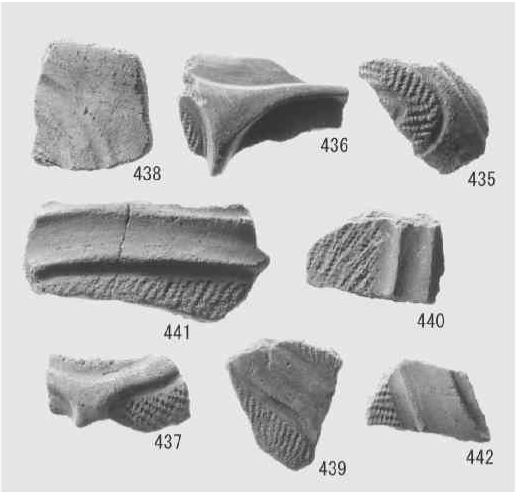

388
389
392
391
390
394
395
397
396
393
400
399
398

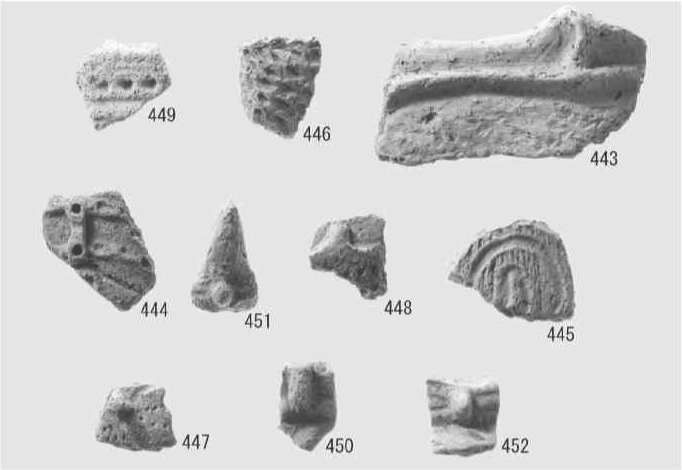

401
403

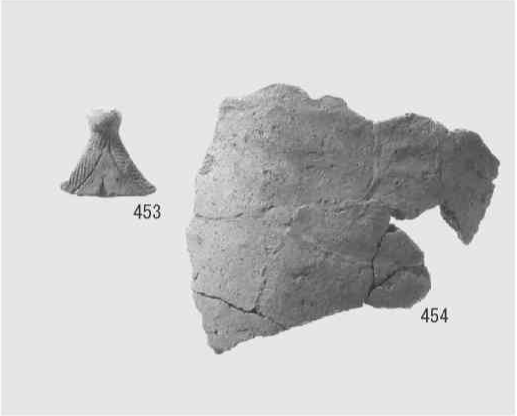
402

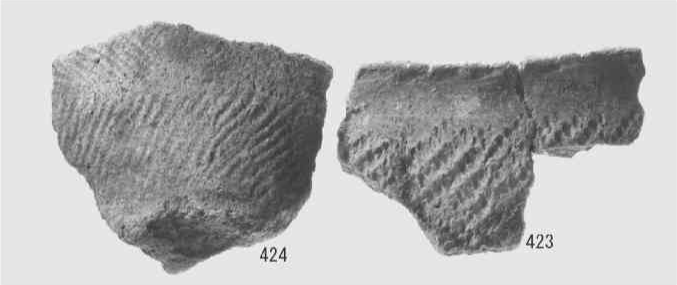
出土遺物(25)

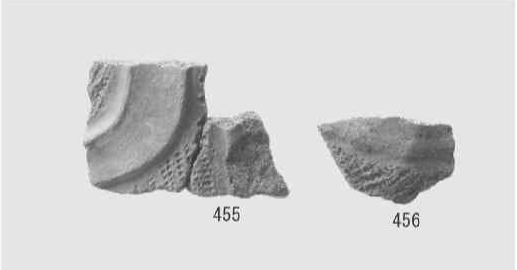

404
405
413
407
415
411
408
412
409
406
416
410
414
417

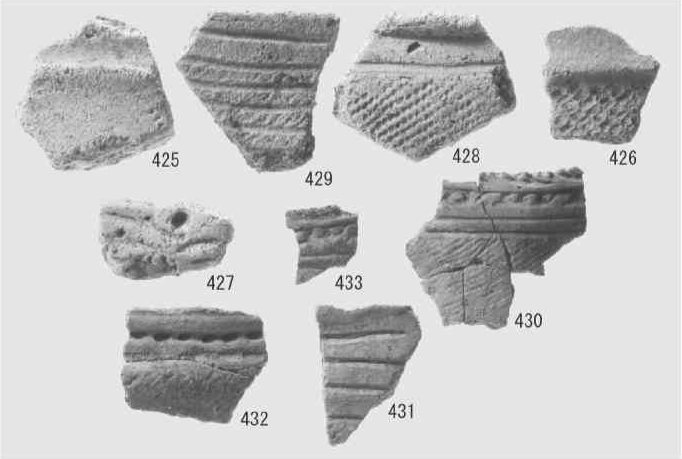

438
436
435
441
440
437
439
442


449
446
443
444
451
448
445
447
450
452

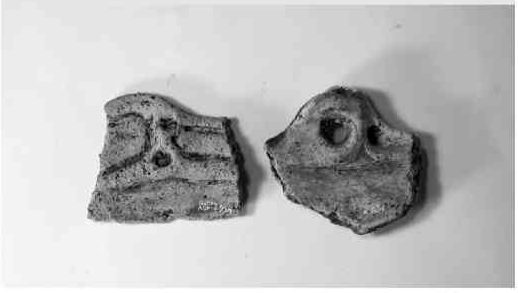

453
454


424
423

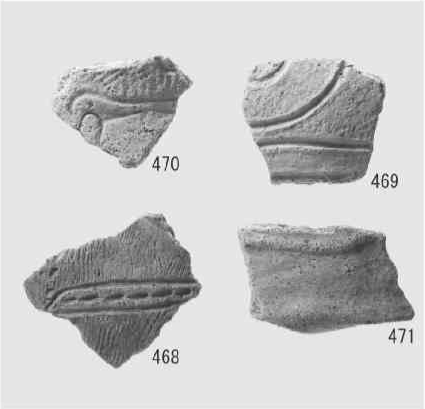

455
456


425
429
428
426
427
433
430
432
431

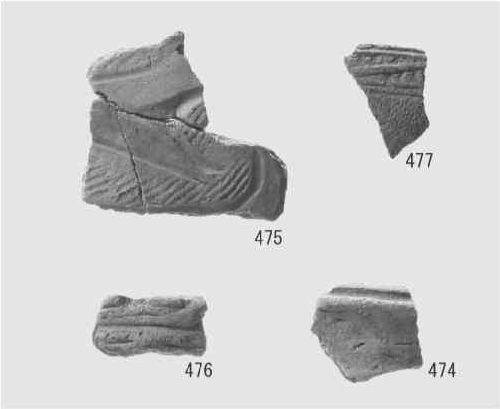
458
457



出土遺物(26)

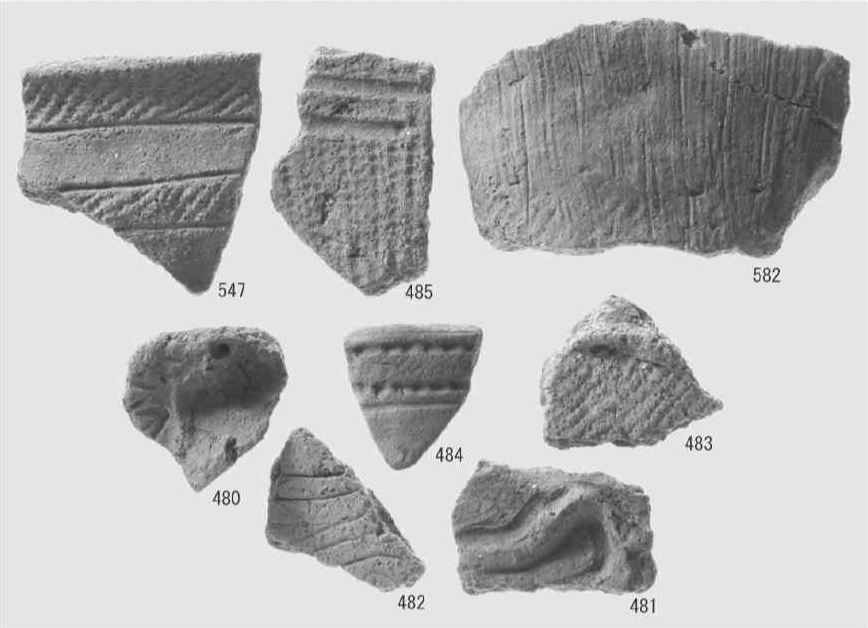

470
469
468
471

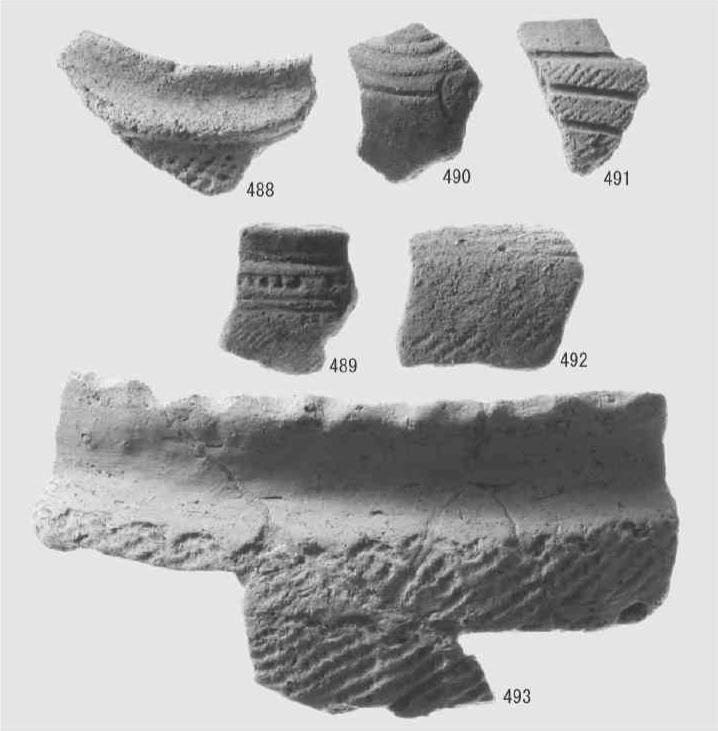
472


477
475
476
474

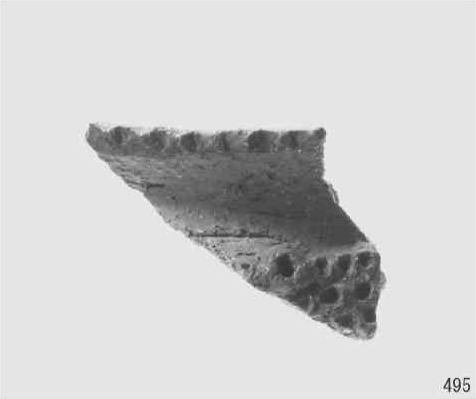
473

487


547
485
582
480
484
483
482
481


488
490
491
489
492
493

494

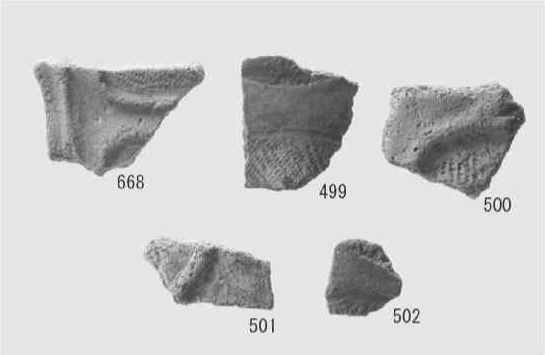

495

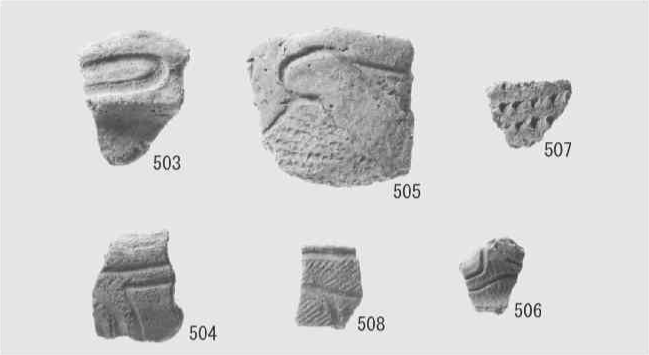
出土遺物(27)

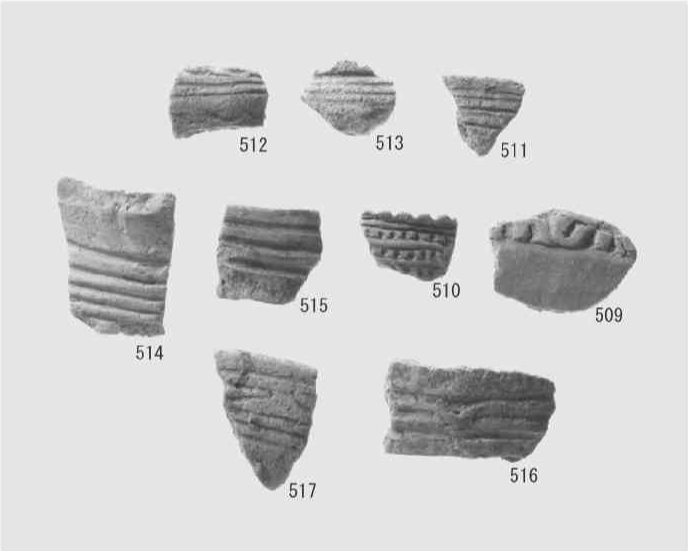
496

497

498

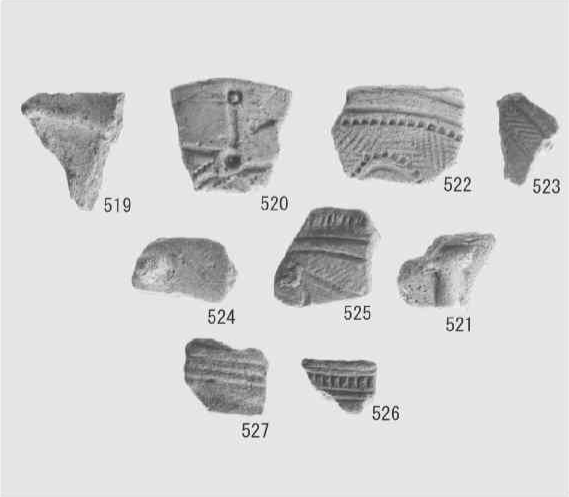

668
499
500
501
502


503
505
507
504
508
506

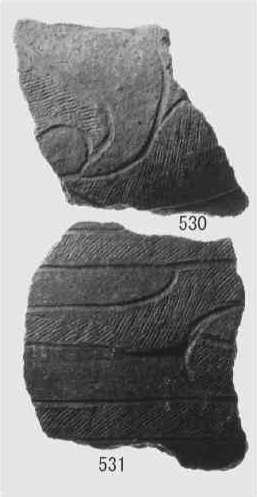

512
513
511
514
515
510
509
517
516

670

518

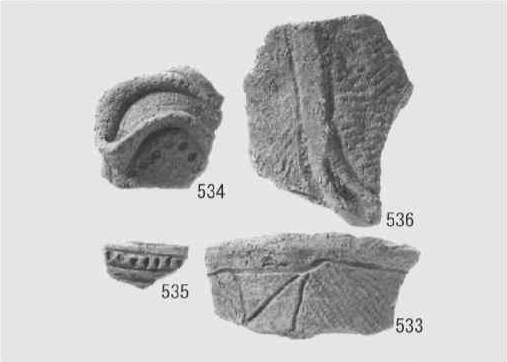

519
520
522
523
524
525
521
527
526

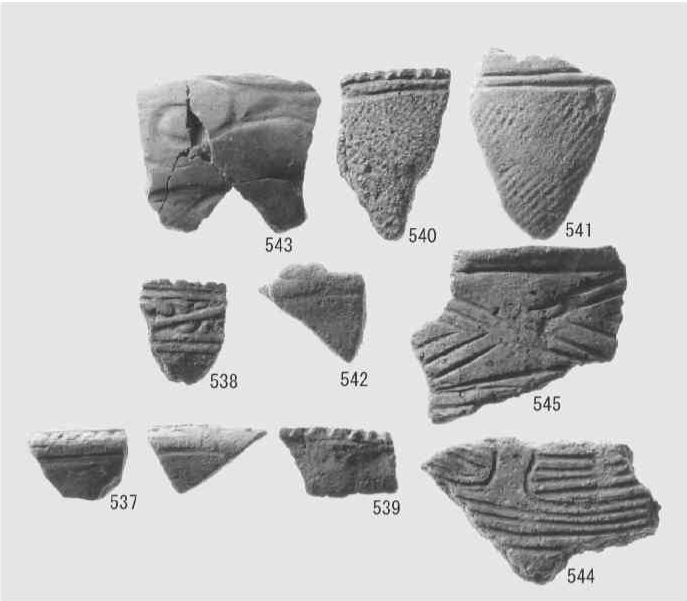
529
528

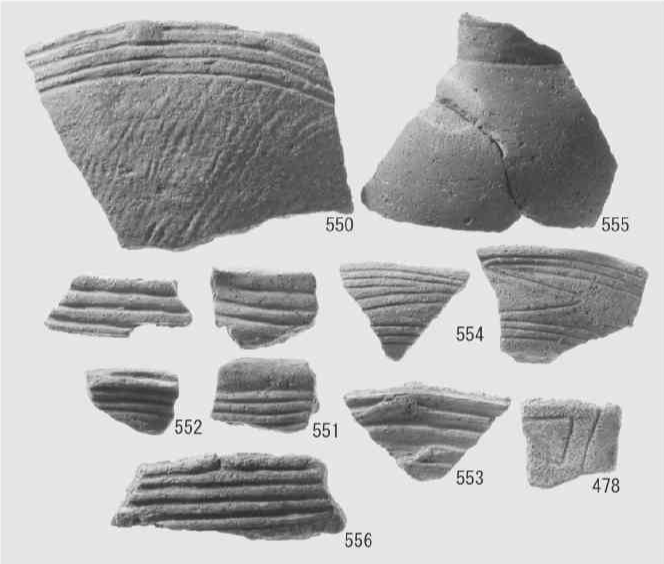

530
531

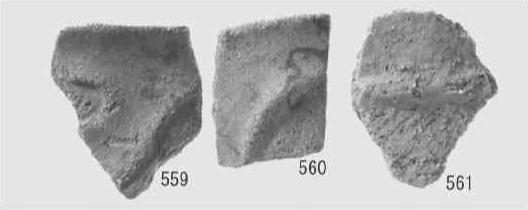
出土遺物(28)

532

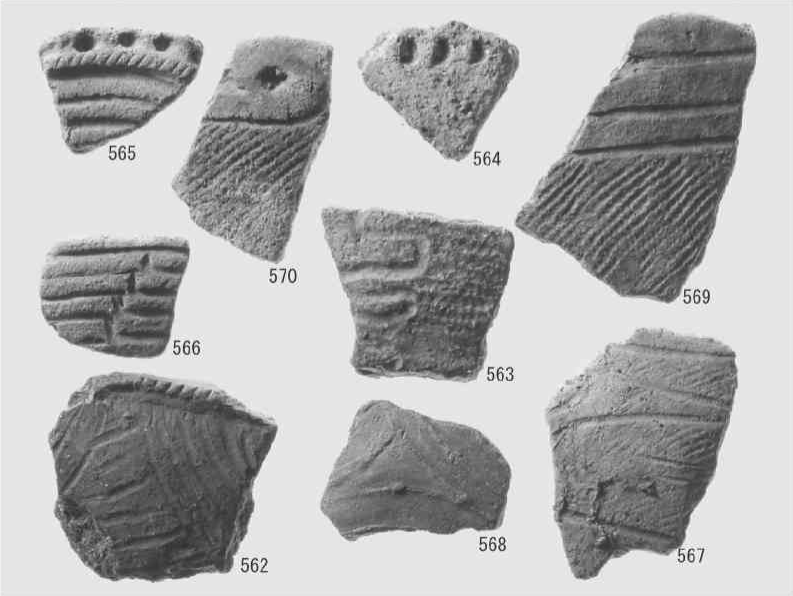

534
536
535
533

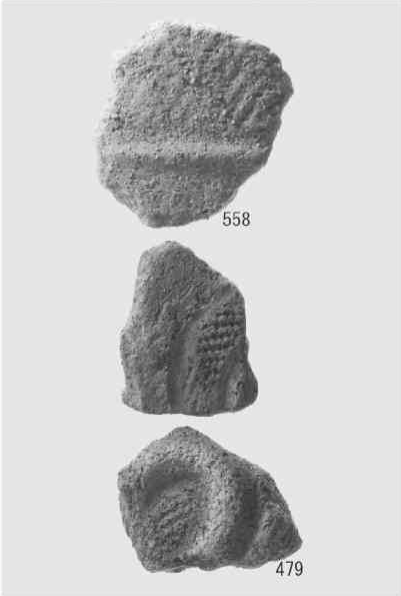

543
540
541
538
542
545
537
539
544


550
555
554
552
551
553
478
556

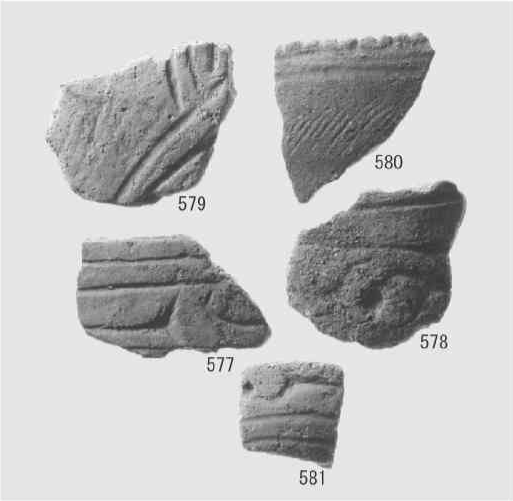

559
560
561

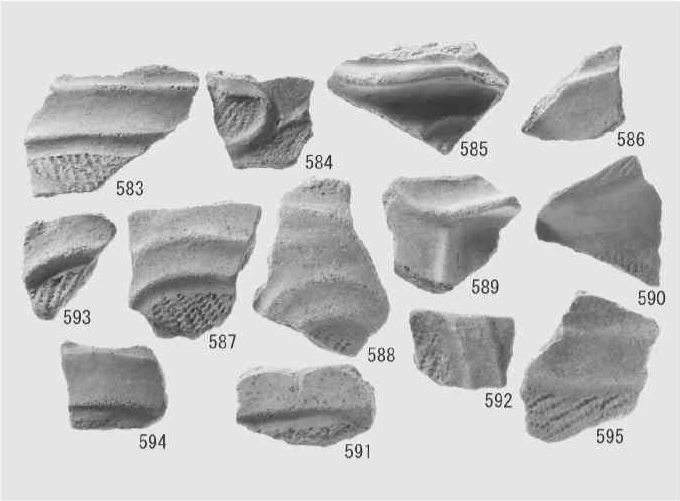
575
576
572
573
571
574

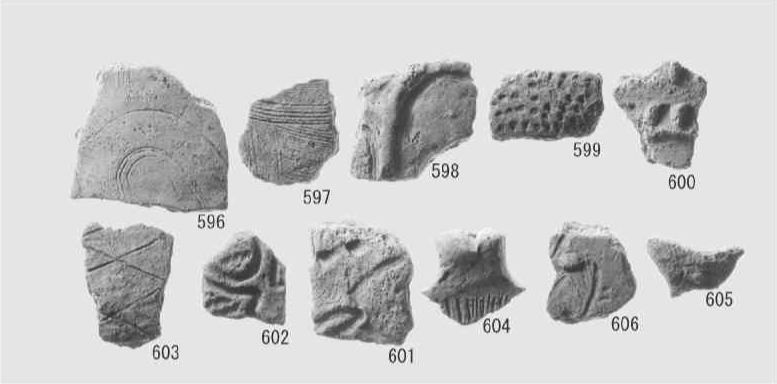

565
564
570
569
566
563
562
568
567

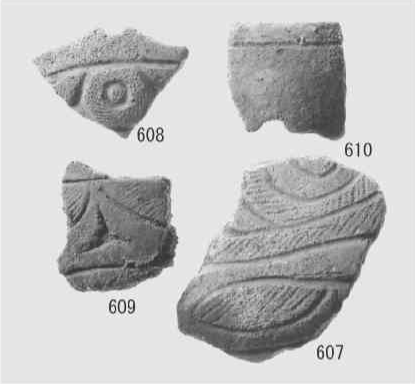

558
479

出土遺物(29)


579
580
577
578
581


583
584
585
586
593
587
588
589
590
594
591
592
595

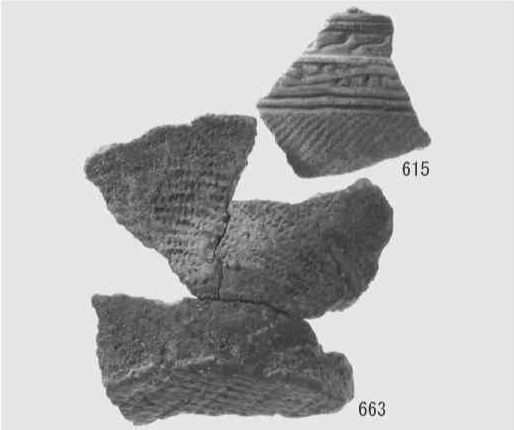

596
597
598
599
600
603
602
601
604
606
605

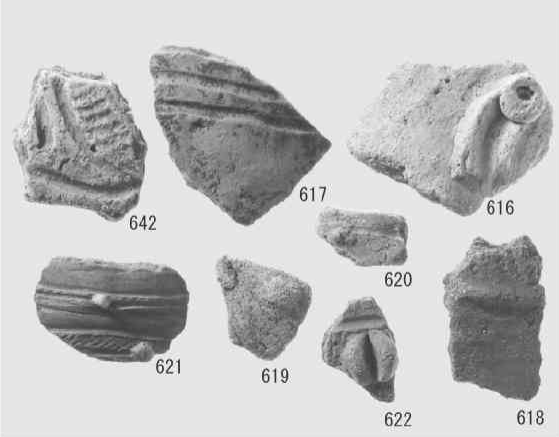

608
610
609
607

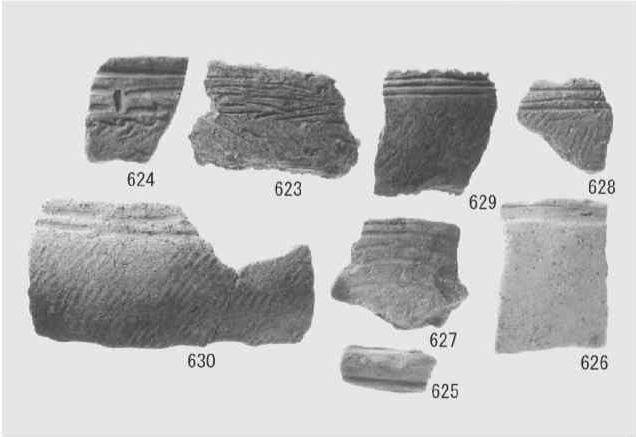
611
612

614

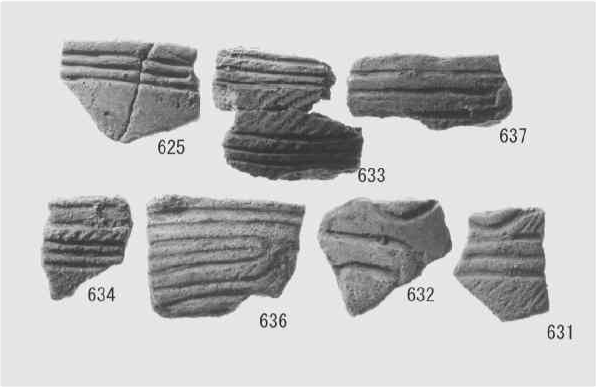
613

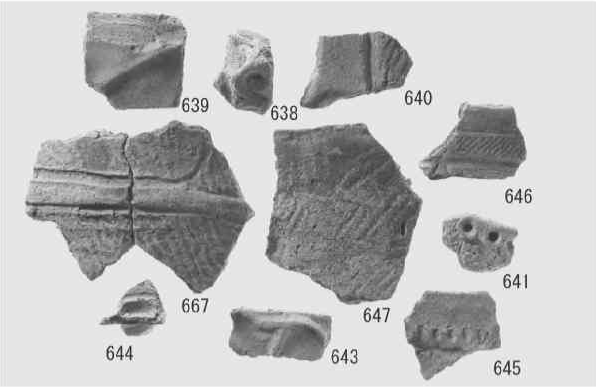

615
663

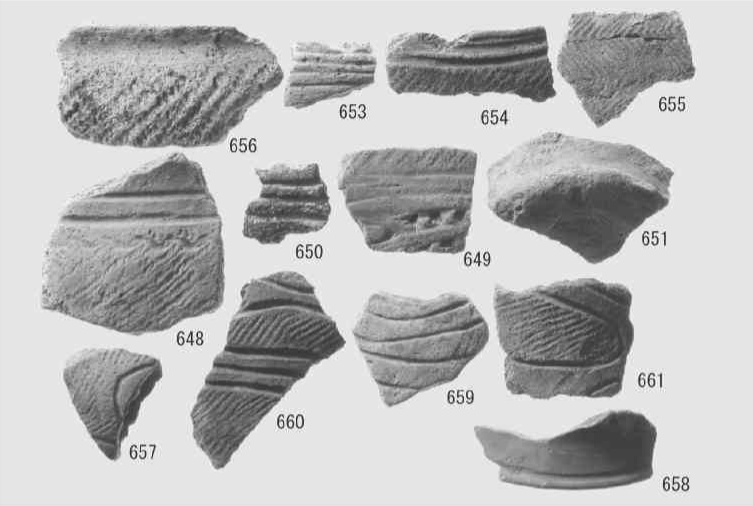

642
617
616
620
621
619
622
618


624
623
629
628
630
627
626
625

出土遺物(30)


625
633
637
634
636
632
631

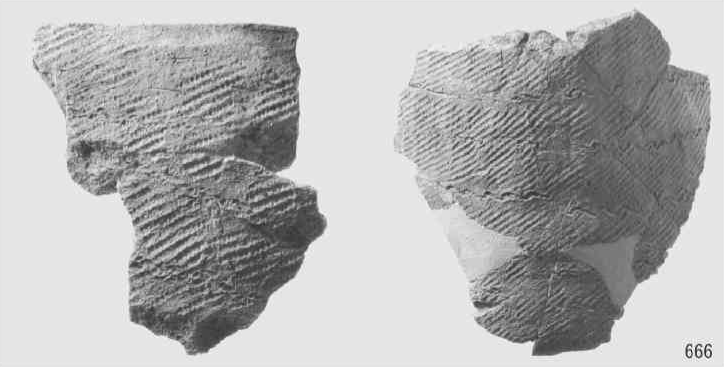

639
638
640
646
641
667
647
644
643
645


656
653
654
655
650
649
651
648
661
659
660
657
658

664

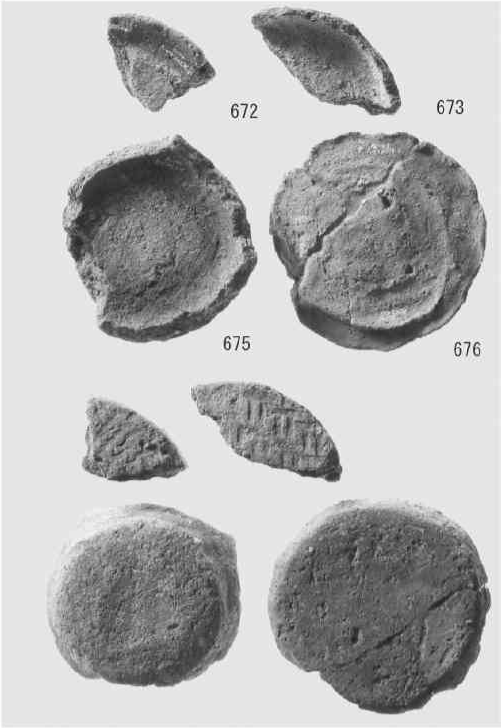
652

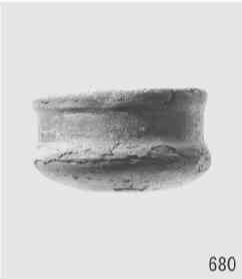
665


666

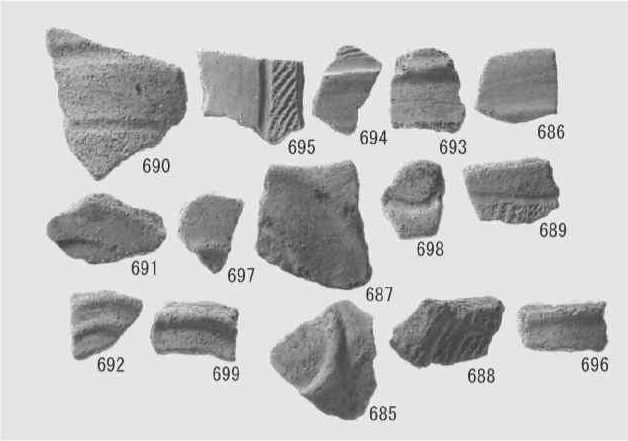
546

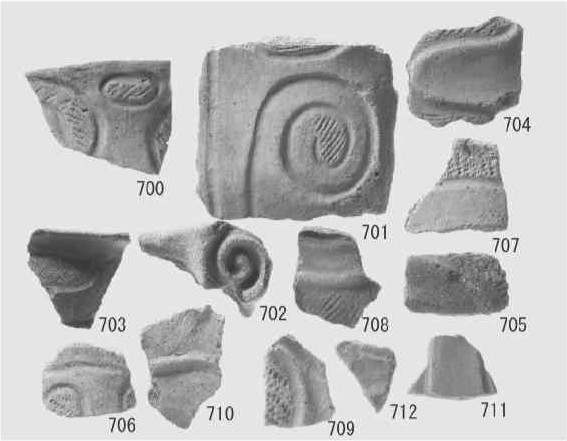
出土遺物(31)

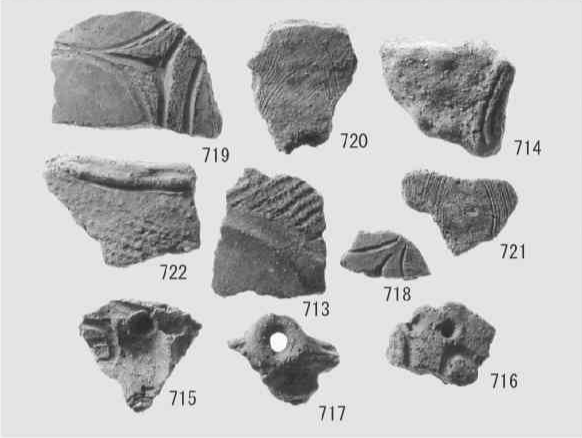


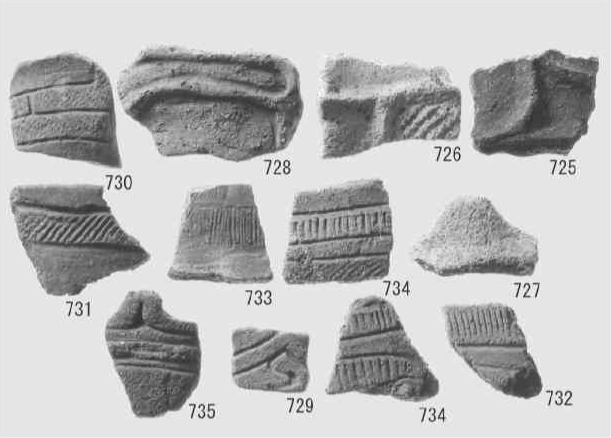


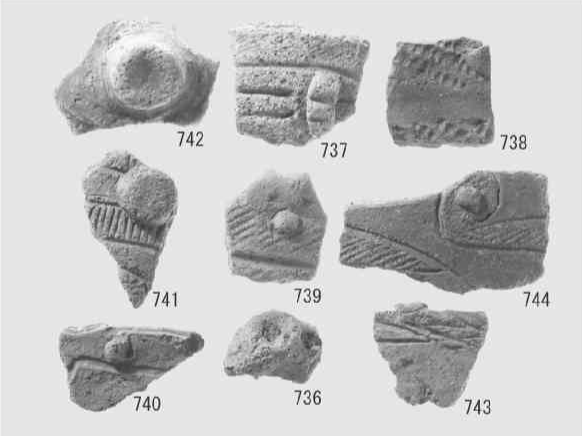
出土遺物(32)


690
695
694
693
686
691
697
687
698
689
692
699
688
696
685

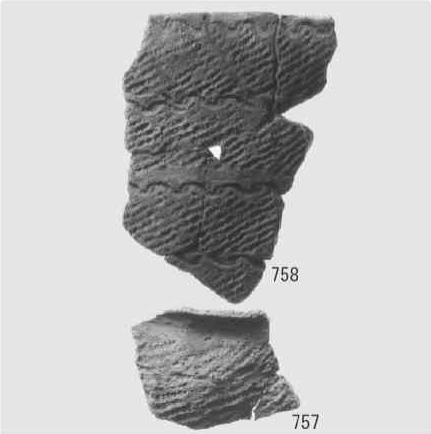

704
700
701
707
703
702
708
705
706
710
709
712
711

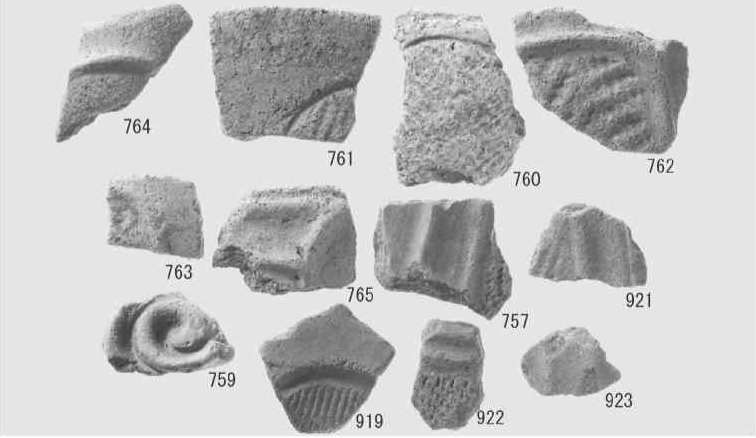

719
720
714
722
721
713
718
715
717
716


730
728
726
725
731
733
734
727
735
729
734
732

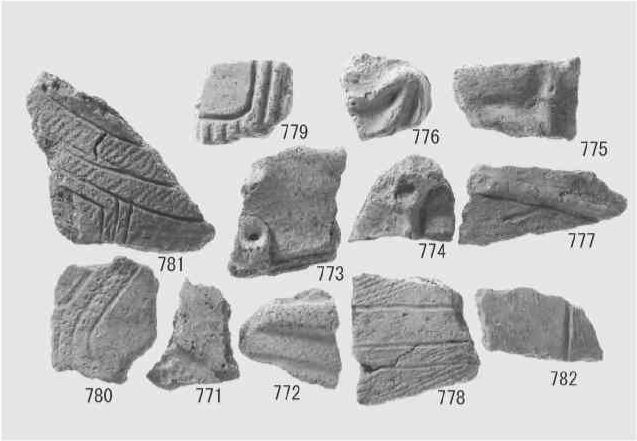

742
737
738
741
739
744
740
736
743

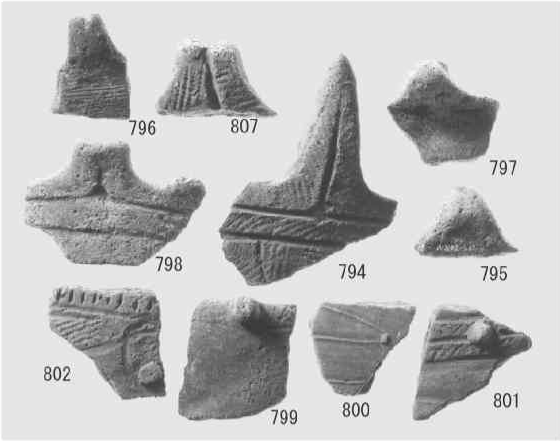
746
750
747
749
751
753
752
754
755
745
756
748

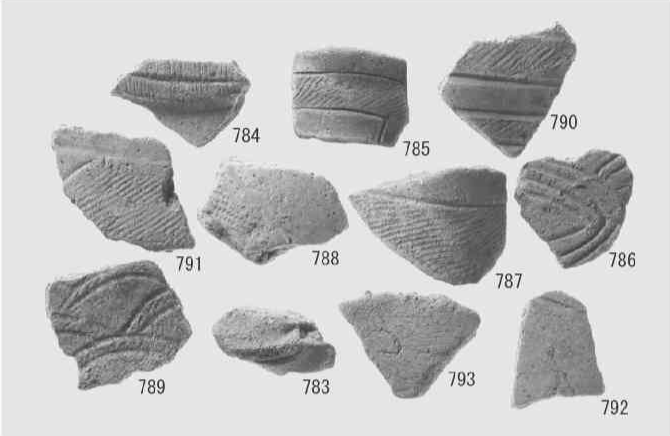

758
757

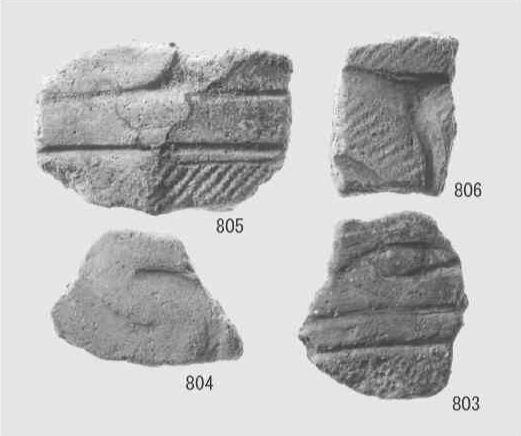

764
761
760
762
763
765
757
921
759
919
922
923

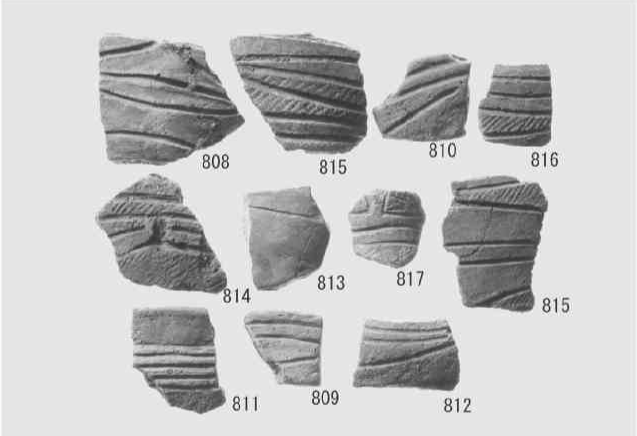
出土遺物(33)

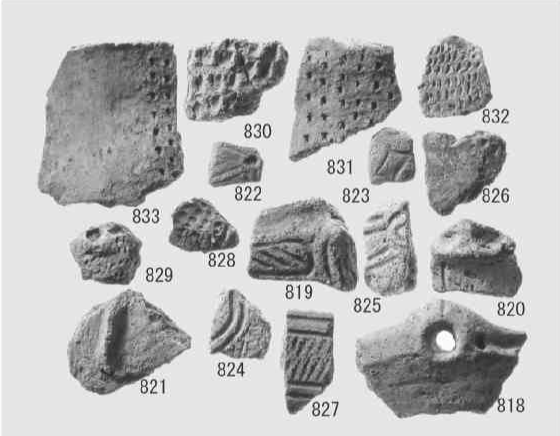

779
776
775
781
773
774
777
780
771
772
778
782

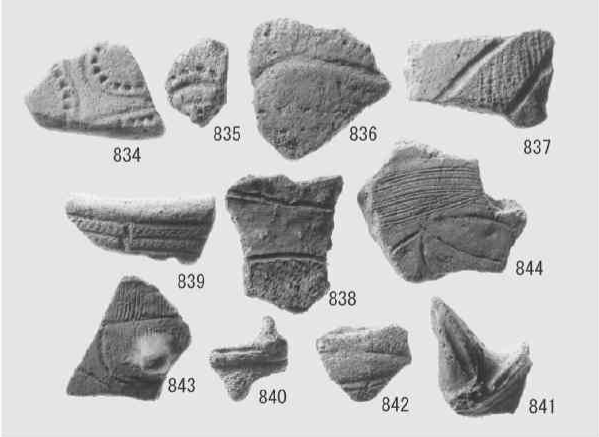

796
807
797
798
794
795
802
799
800
801

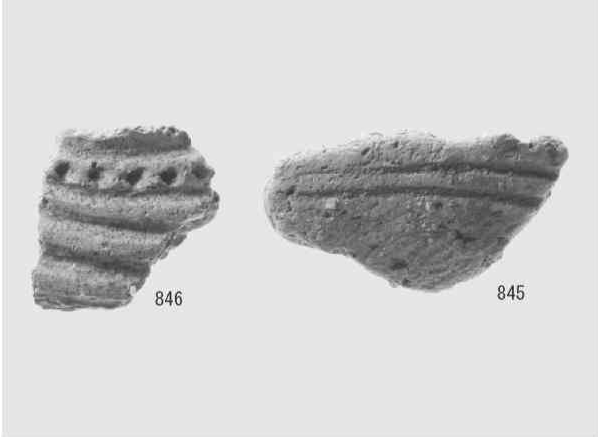

784
785
790
791
788
787
786
789
783
793
792


806
805
804
803

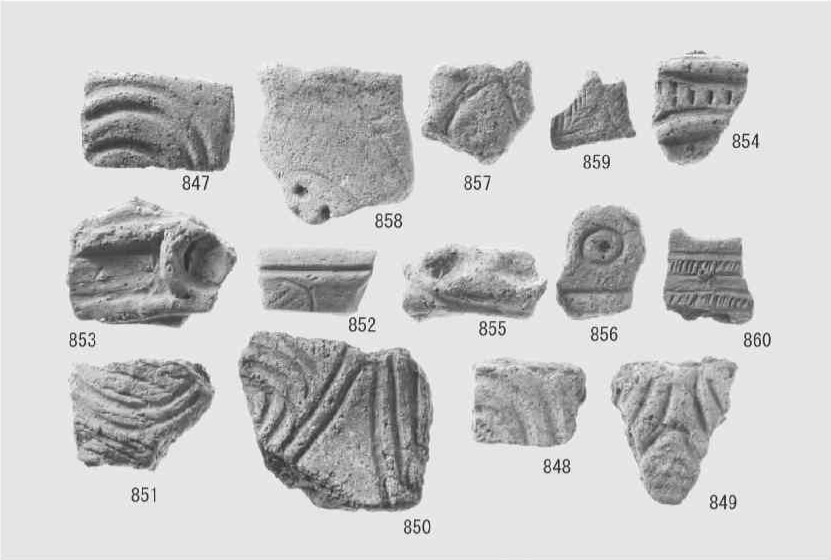

808
815
810
816
814
813
817
815
811
809
812


832
830
831
822
823
826
833
828
829
819
825
820
821
824
827
818


834
835
836
837
839
838
844
843
840
842
841

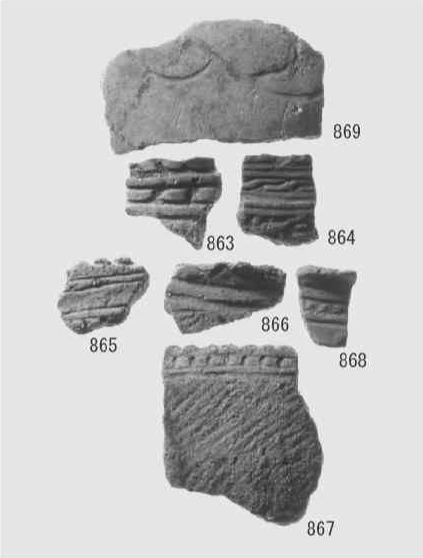

846
845

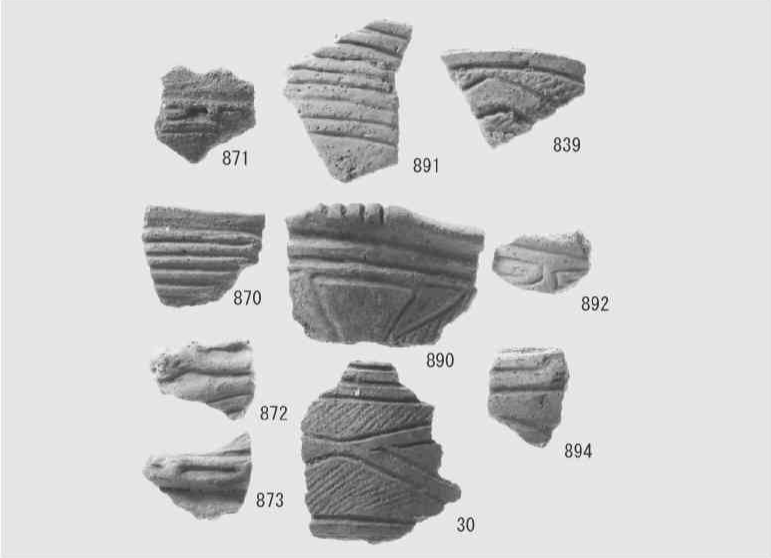
出土遺物(34)


847
858
857
859
854
853
852
855
856
860
851
850
848
849

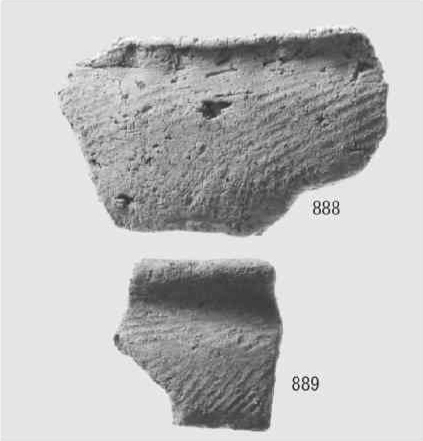
861

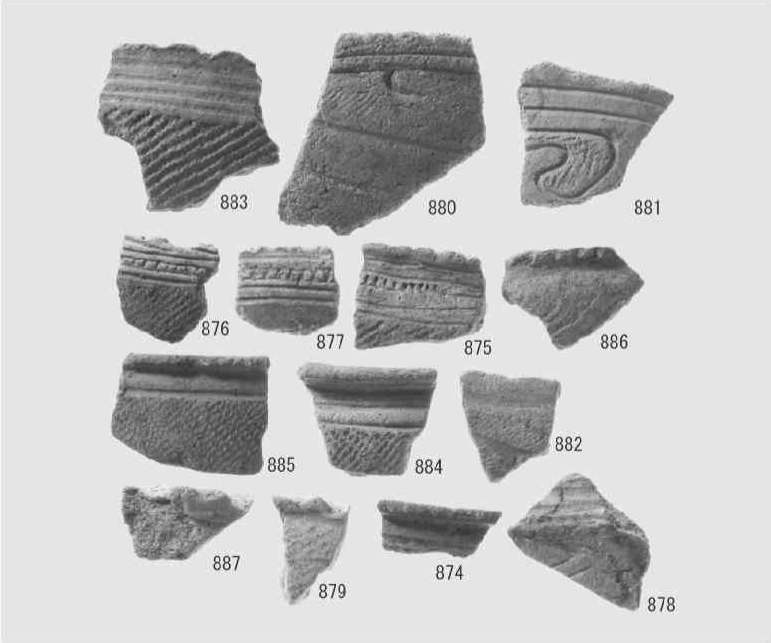
862


869
863
864
865
866
868
867

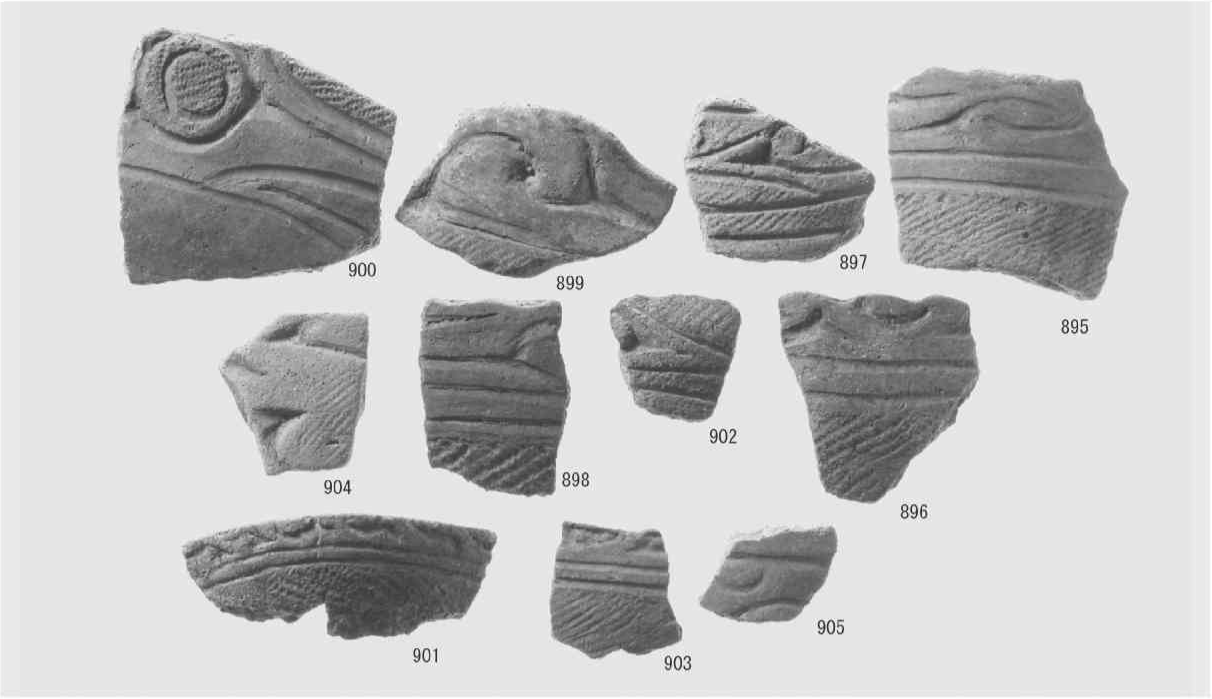

871
891
839
870
892
890
872
894
873
30

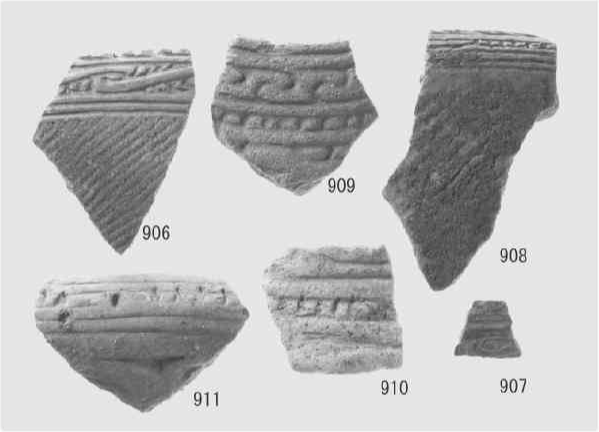
872

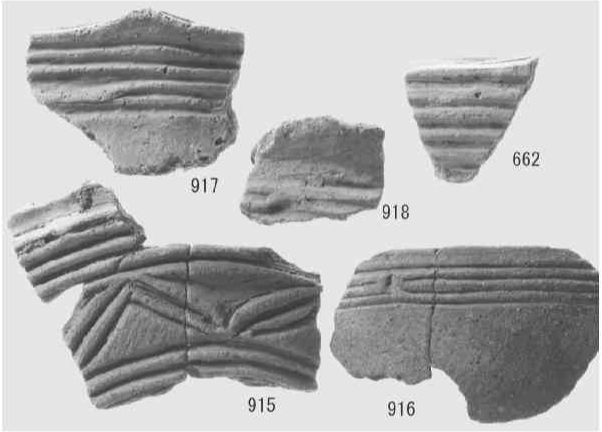

888
889

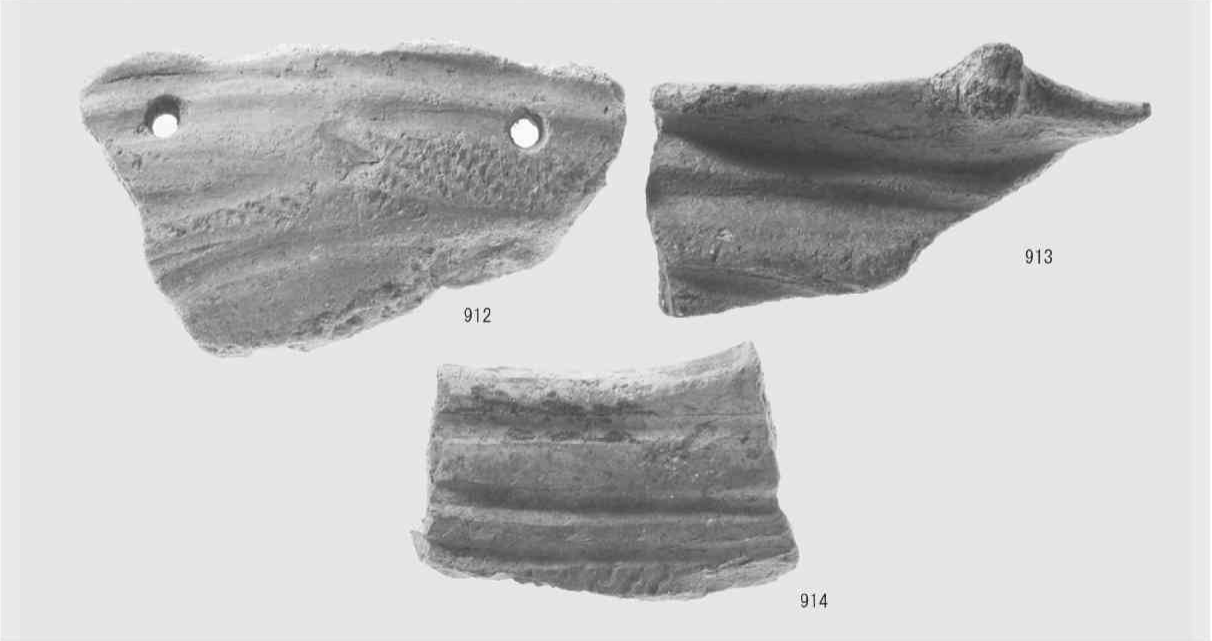

883
880
881
876
877
875
886
885
884
882
887
879
874
878

出土遺物(35)

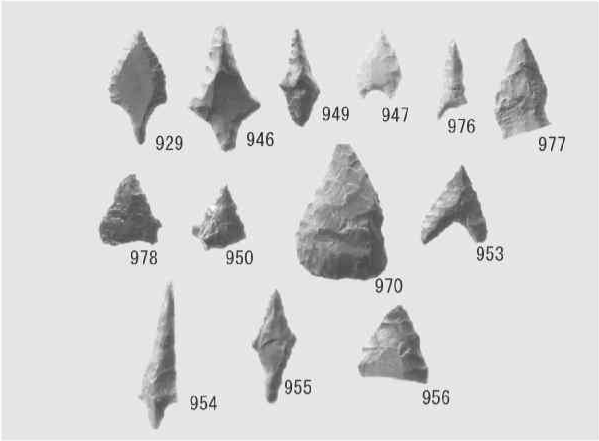

900
899
897
895
904
898
902
896
901
903
905


906
909
908
911
910
907


917
662
918
915
916

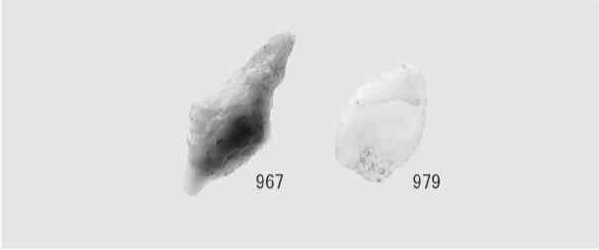

912
913
914

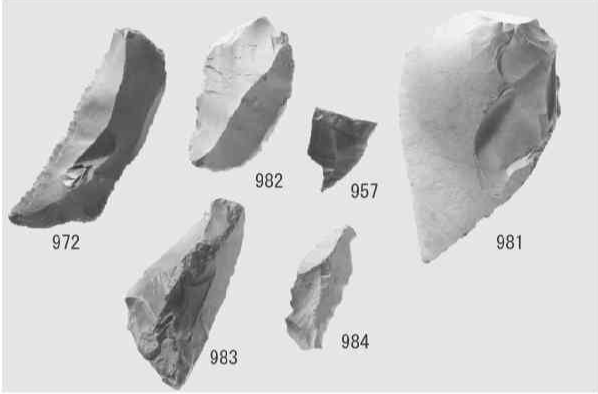
出土遺物(36)

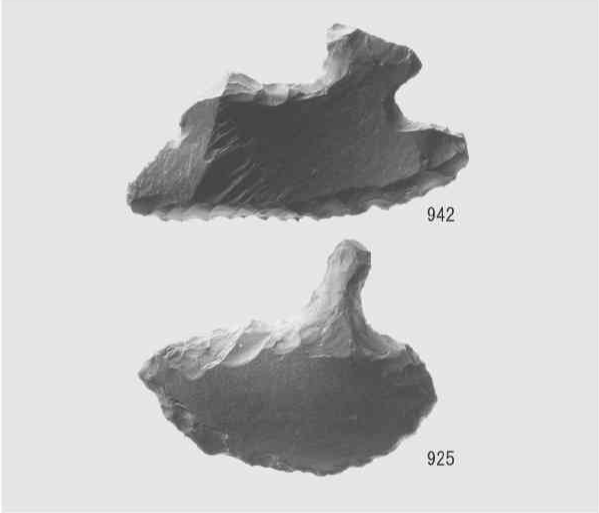

929
946
949
947
976
977
978
950
970
953
954
955
956

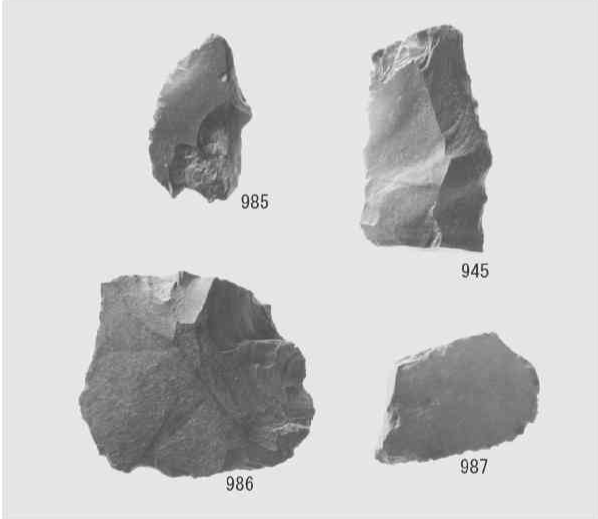
980

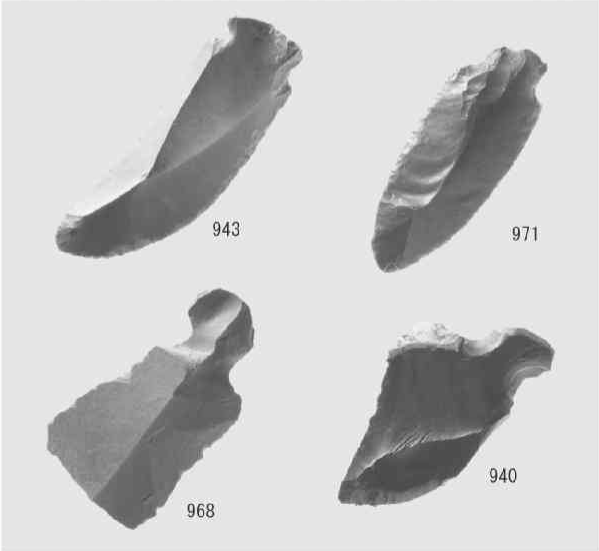
937

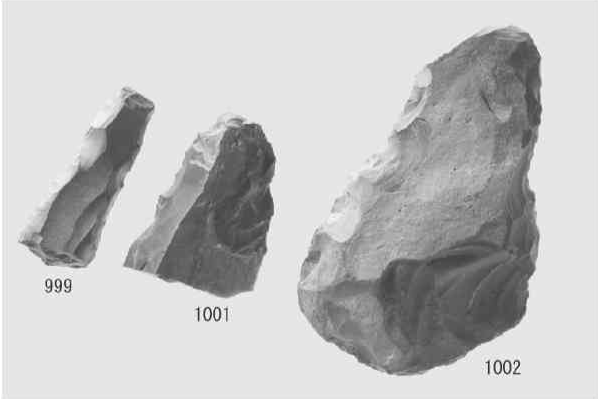

967
979


972
982
957
981
983
984

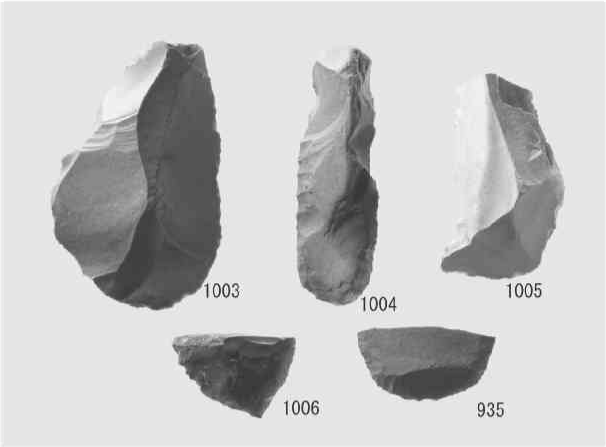

942
925

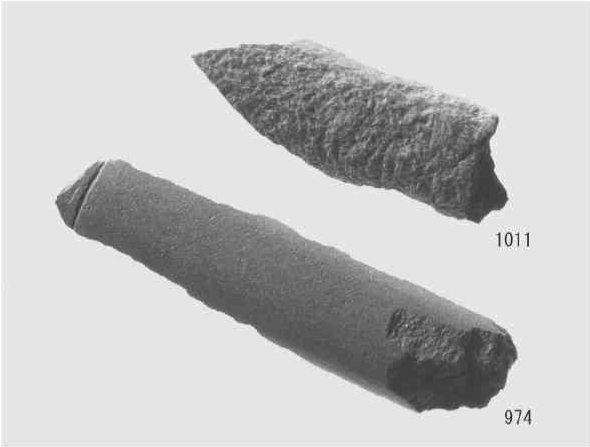

985
945
986
987

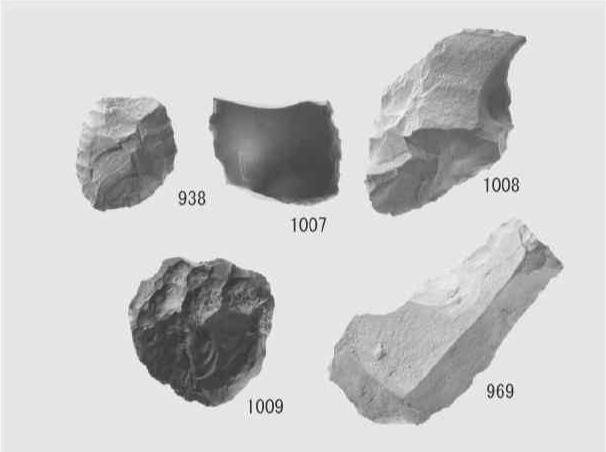

943
971
968
940


999
1001
1002

出土遺物(37)


1003
1004
1005
1006
935


1011
974


938
1007
1008
1009
969

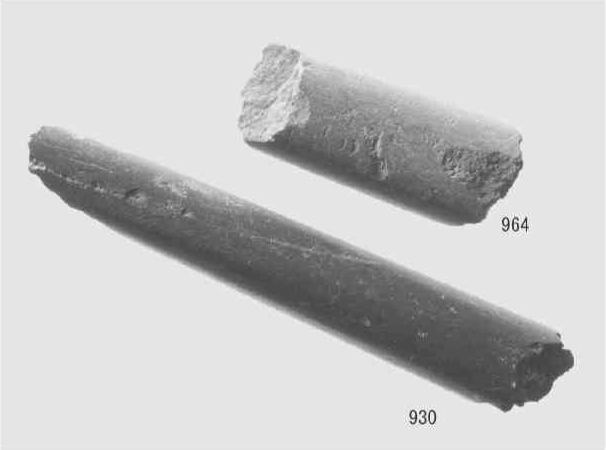
927

1010

973

1012

1020


964
930

1021

出土遺物(38)

951

961

928

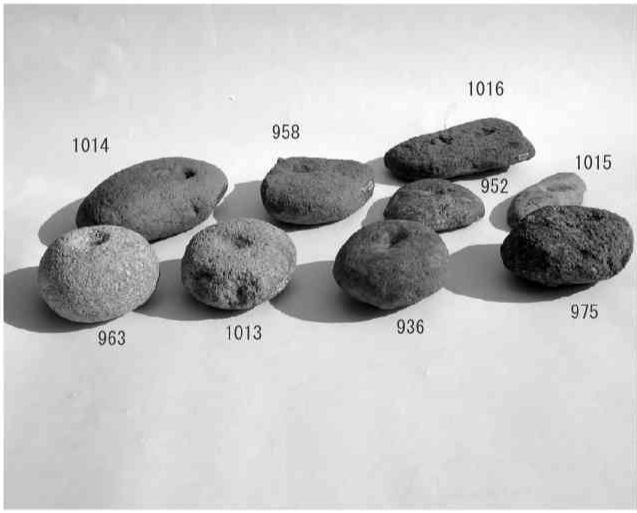
1017

926

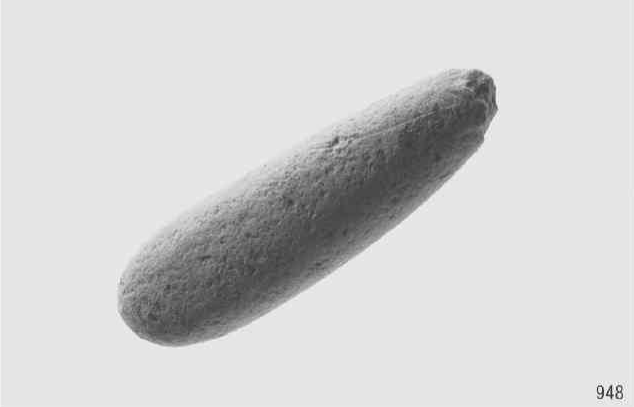
959

1018

939


1016
1014
958
1015
952
963
1013
936
975

1019

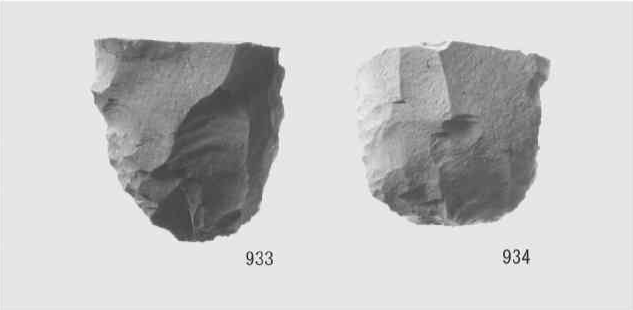

948

965

966

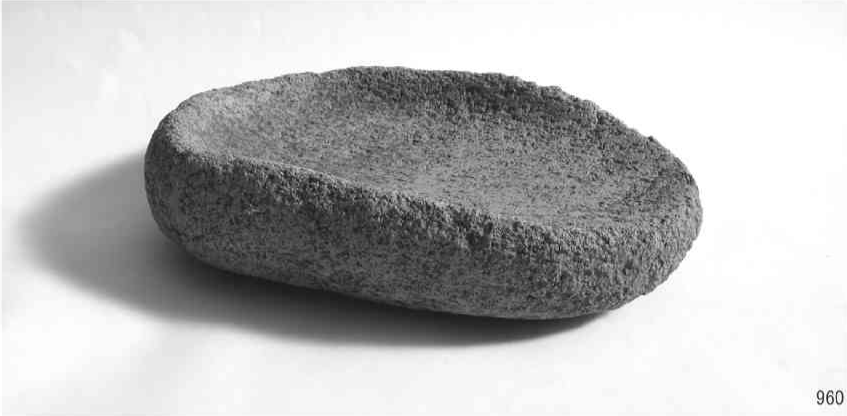
出土遺物(39)

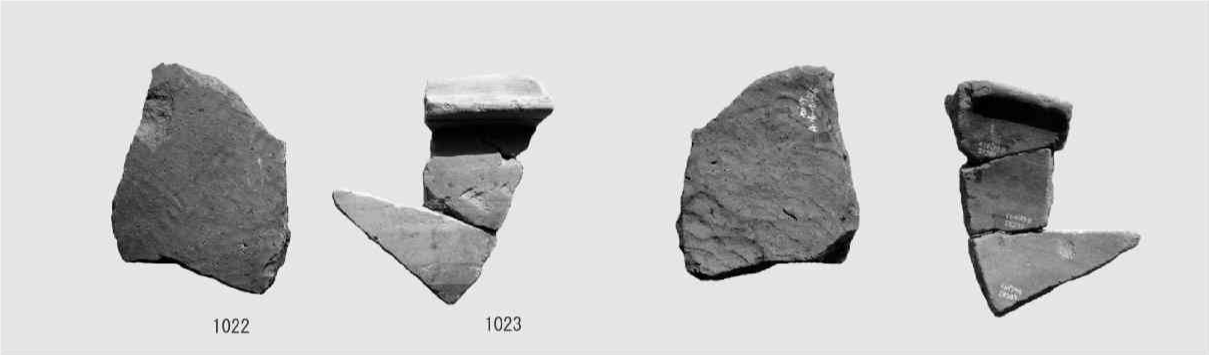
931

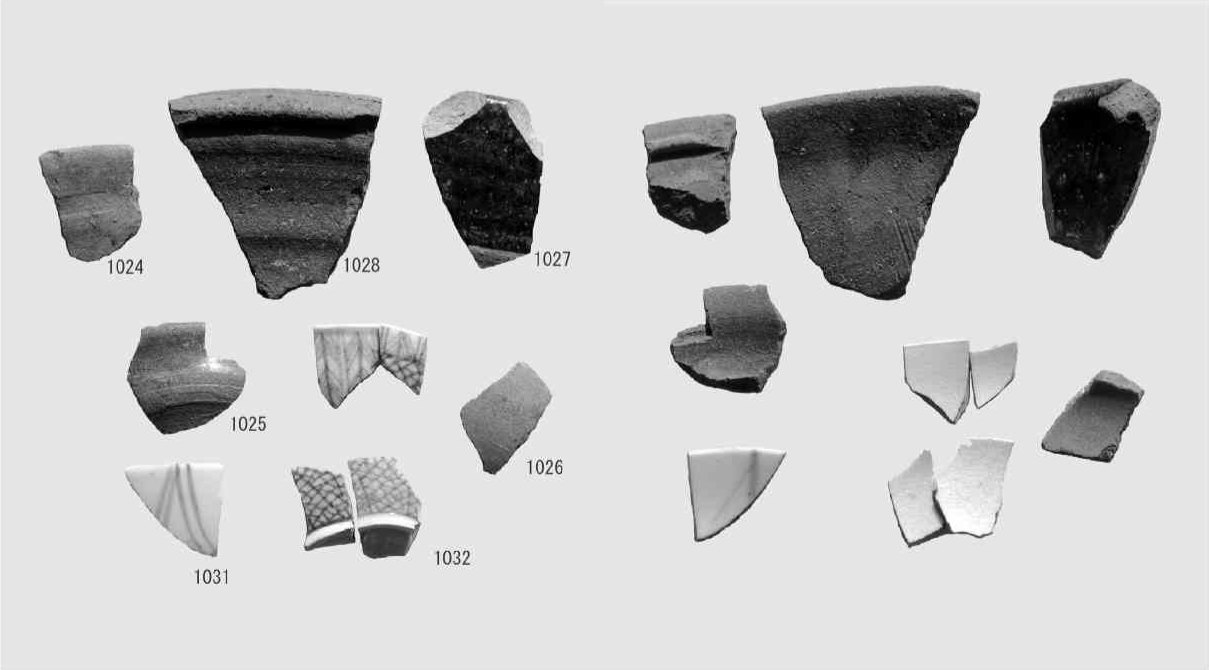

933
934

944

1000

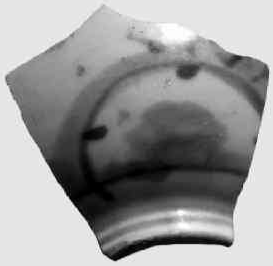

960


1022
1023


1024
1028
1027
1025
1026
1031
1032

出土遺物(40)

1029

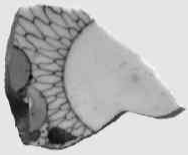


1033

1034

1035

1030



1036

1037

1038

貝の化石

出土遺物(41)

報告書抄録

ふりがな	いしばたけいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	石畑遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第164集
編著者名	渡辺　淳一・押切　智紀
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL　023-672-5301
発行年月日	平成19年３月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
いしばたけいせき 石畑遺跡	やまがたけん 山形県 なんようし 南陽市 かねやまかわにし 金山川西 あざいしばたけ 字石畑	6213	南陽市 M－１	38度 10分 76秒	140度 15分 90秒	20060515 ～ 20060810	2,000	主要地方道 山形南陽線 改良工事

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	縄文時代	土抗 柱穴 溝跡 河川跡　1	縄文土器 石器・石製品	縄文時代中期末～晩期までの土抗などが検出された。縄文土器や石器などが、主に調査区北側から出土した。また、弥生時代の土器も少量出土した。近世の井戸跡が検出され、陶磁器も出土している。 （文化財認定数：60箱）
	弥生時代		弥生土器	
	近世	井戸跡　1	陶磁器・銭貨	

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第164集

石畑遺跡発掘調査報告書

2007年３月28日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番１号
電話　023-672-5301
印刷　山形印刷株式会社
〒990-2327　山形県山形市桜田東３丁目７番31号
電話　023-622-6291